

【男女共同参画に関する市民意識調査票】

(1) 男女の人権尊重について

問1. あなたは、次の①～⑦の分野について、男女の地位は平等になっていると思いますか。(〇印①～⑦の項目ごとに1つずつ)

(1) 令和2年度調査

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性優遇”の割合が、②職場で63.3%、⑥しきたりや習慣で62.1%、⑦政治の場、政策決定の場で64.5%と高くなっています。

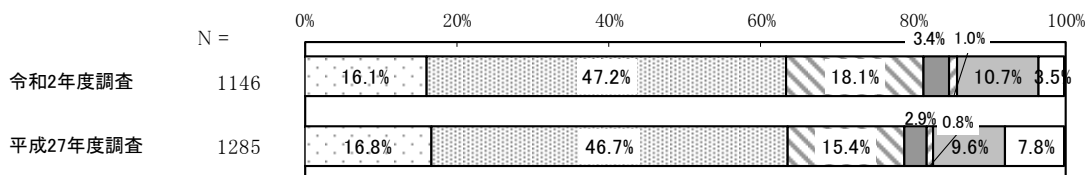
平成27年度と比較すると、大きな差異はありません。

- ☐ 男性の方が非常に優遇されている
- ☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ☐ 平等である
- ☐ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ☐ 女性の方が非常に優遇されている
- ☐ わからない
- ☐ 無回答

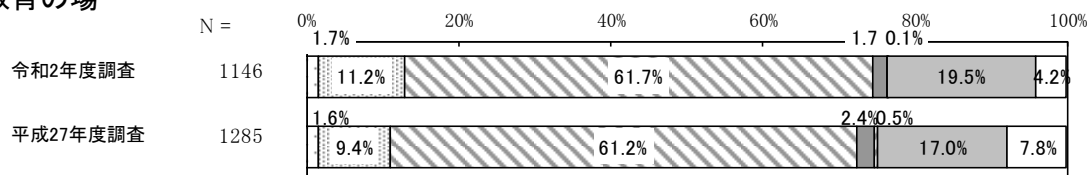
①家庭生活



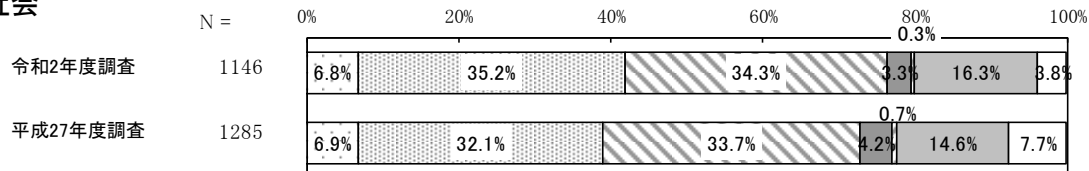
②職場



③学校教育の場

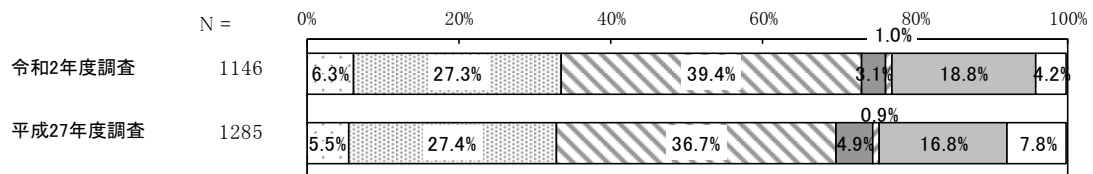


④地域社会

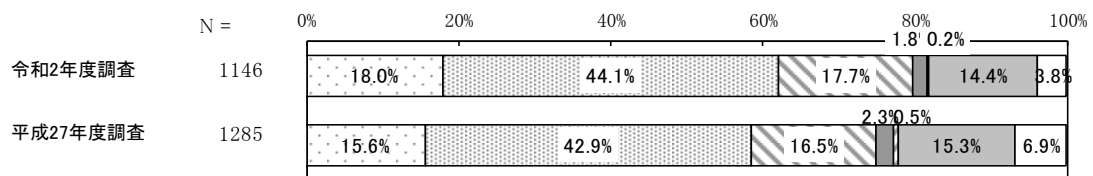


- ☐ 男性の方が非常に優遇されている
- ☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ☐ 平等である
- ☐ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ☐ 女性の方が非常に優遇されている
- ☐ わからない
- ☐ 無回答

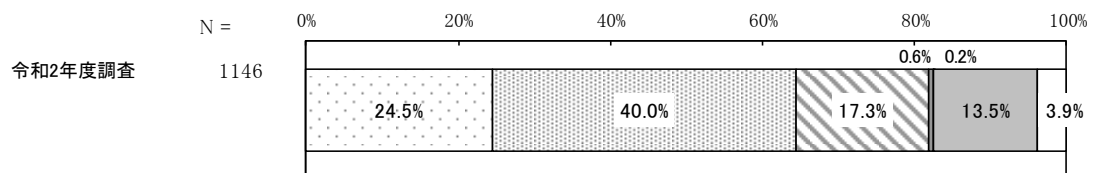
⑤法律や制度



⑥しきたりや習慣



⑦政治の場、政策決定の場



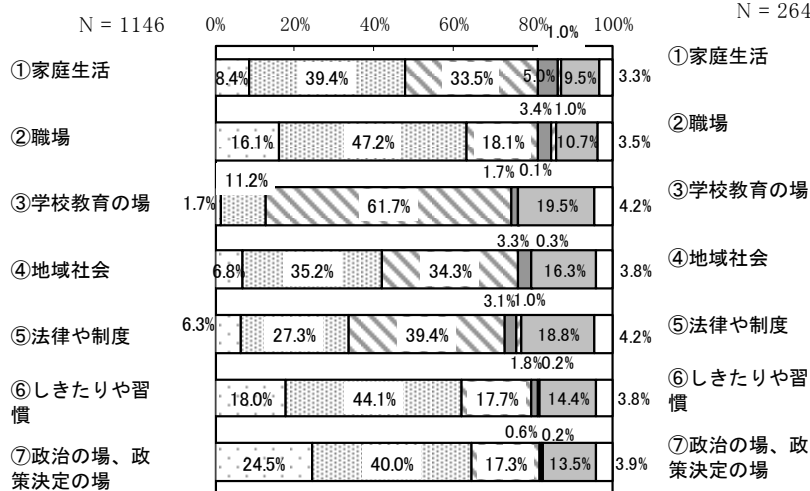
【参考／内閣府・愛知県との比較】

内閣府調査との比較でみると、③学校教育の場、⑤法律や制度、⑥しきたりや習慣、⑦政治の場、政策決定の場で“男性優遇”の割合が低くなっています。

愛知県調査との比較でみると、すべての項目で「平等」の割合が高くなっています。

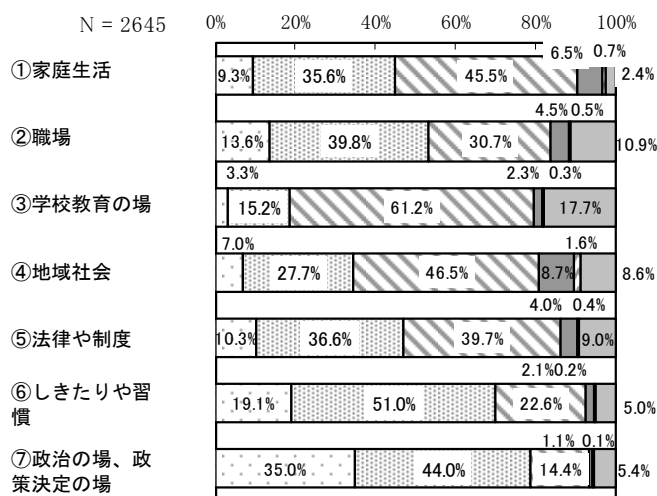
あま市

- ☐ 男性の方が非常に優遇されている
- ☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ☐ 平等である
- ☐ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ☐ 女性の方が非常に優遇されている
- ☐ わからない
- ☐ 無回答



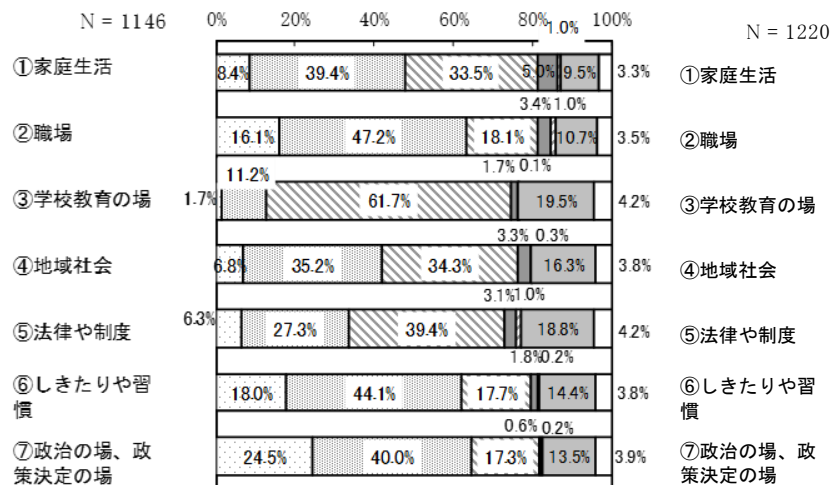
内閣府（令和元年度調査）

- ☐ 男性の方が非常に優遇されている
- ☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ☐ 平等である
- ☐ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ☐ 女性の方が非常に優遇されている
- ☐ わからない



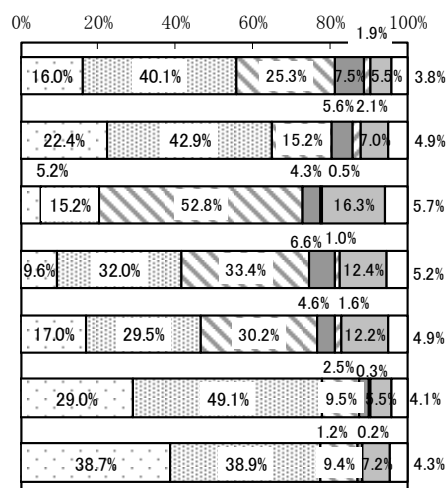
あま市

- ☐ 男性の方が非常に優遇されている
- ☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ☐ 平等である
- ☐ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ☐ 女性の方が非常に優遇されている
- ☐ わからない
- ☐ 無回答



愛知県（令和元年度調査）

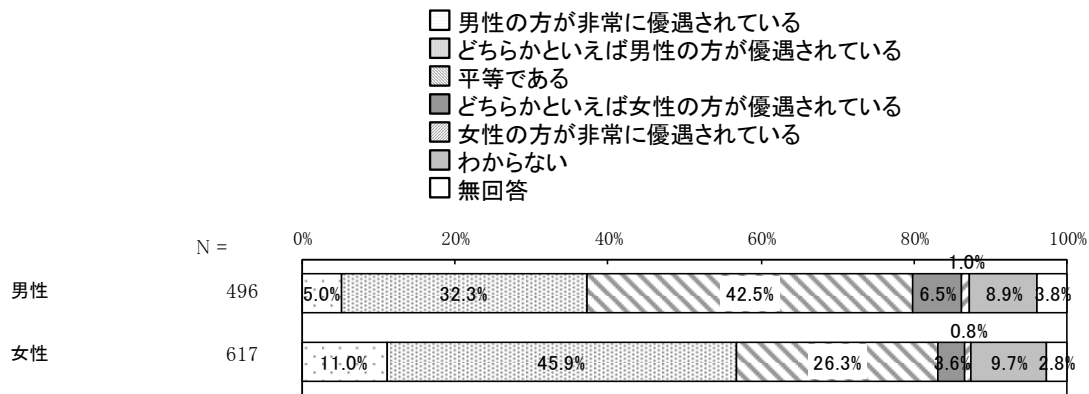
- ☐ 男性の方が非常に優遇されている
- ☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ☐ 平等である
- ☐ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ☐ 女性の方が非常に優遇されている
- ☐ わからない・無回答



① 家庭生活

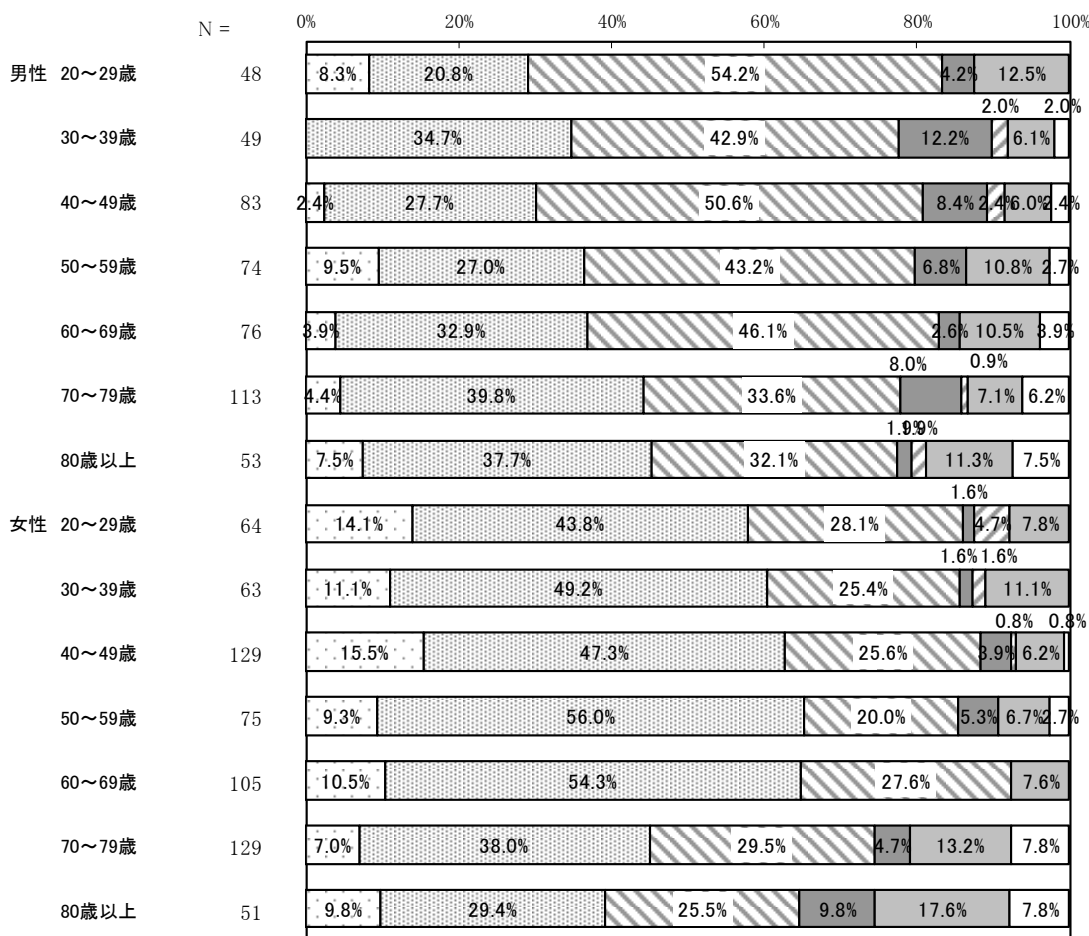
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

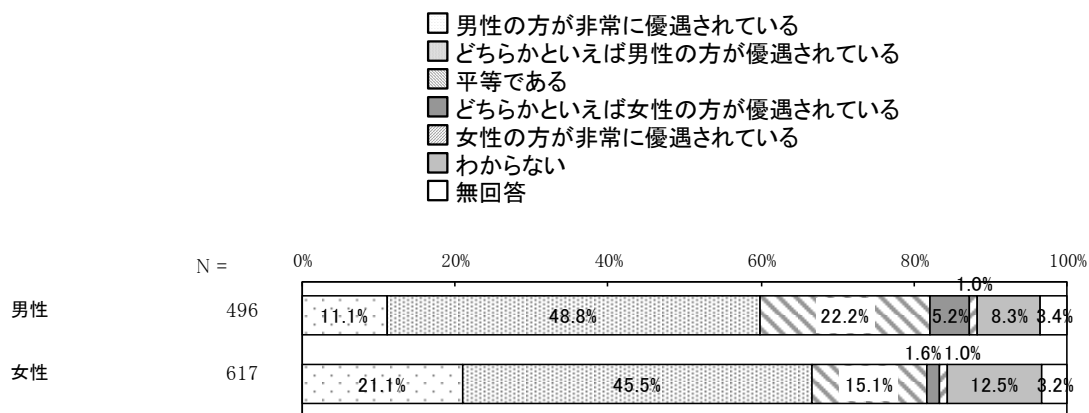
性・年齢別でみると、女性の20～69歳で“男性優遇”の割合が高くなっています。



② 職場

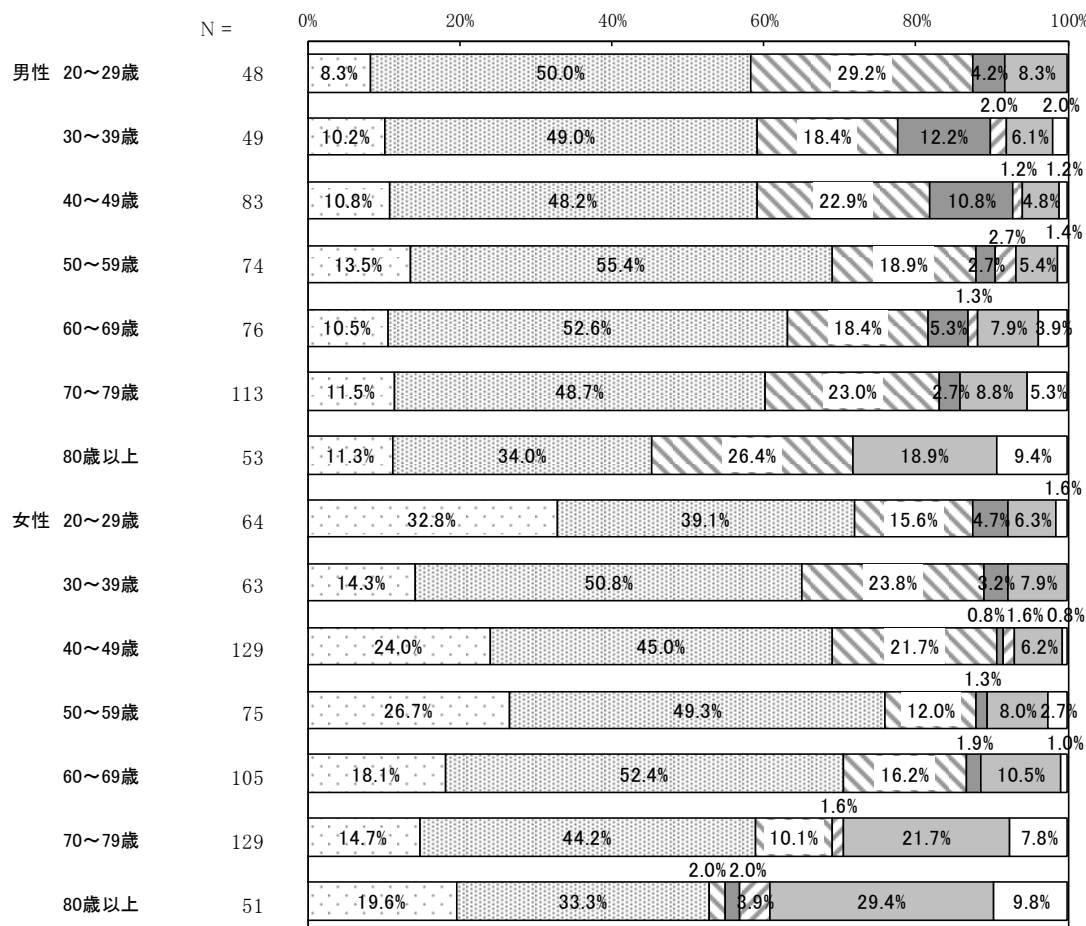
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

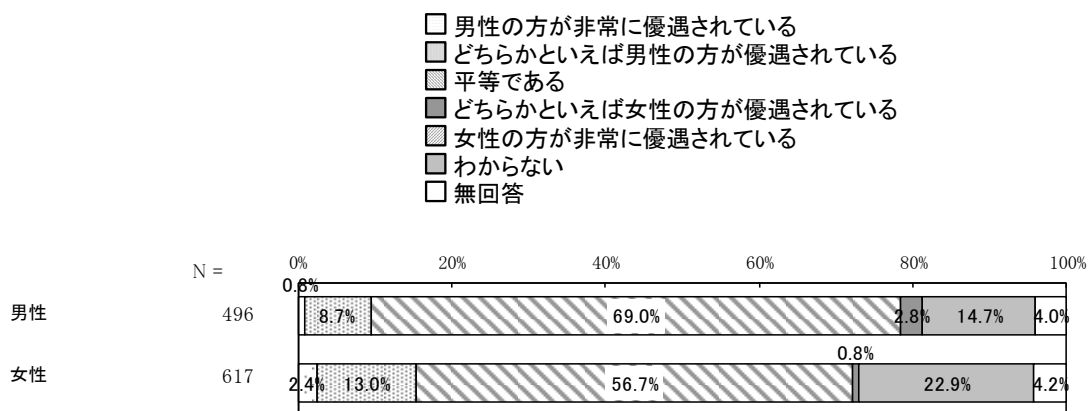
性・年齢別でみると、男女ともに80歳以上で“男性優遇”の割合が低くなっています。



③ 学校教育の場

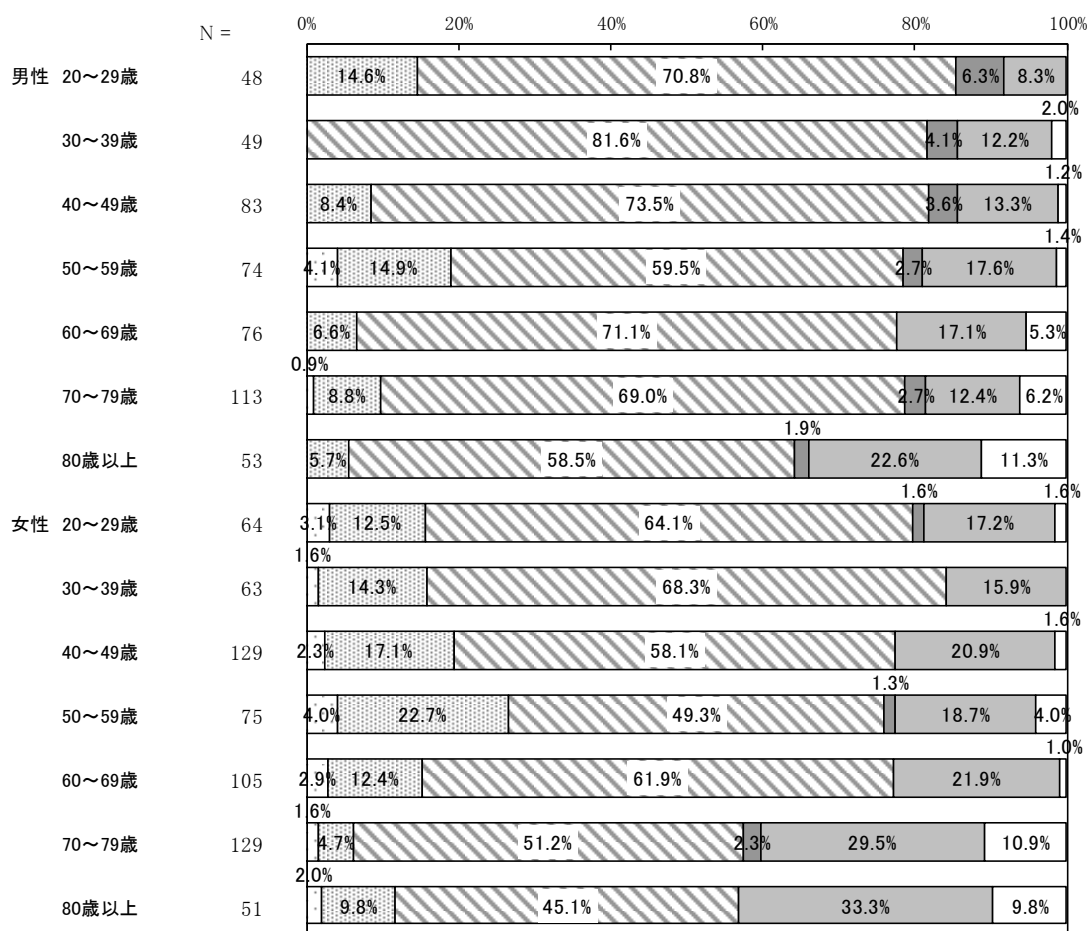
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

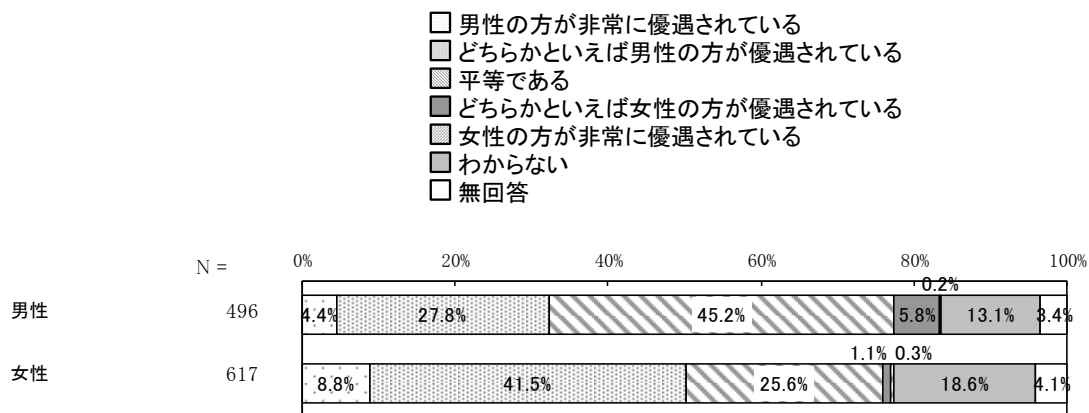
性・年齢別でみると、女性の50～59歳で“男性優遇”の割合が高くなっています。男性の30～39歳で「平等」の割合が高くなっています。



④ 地域社会

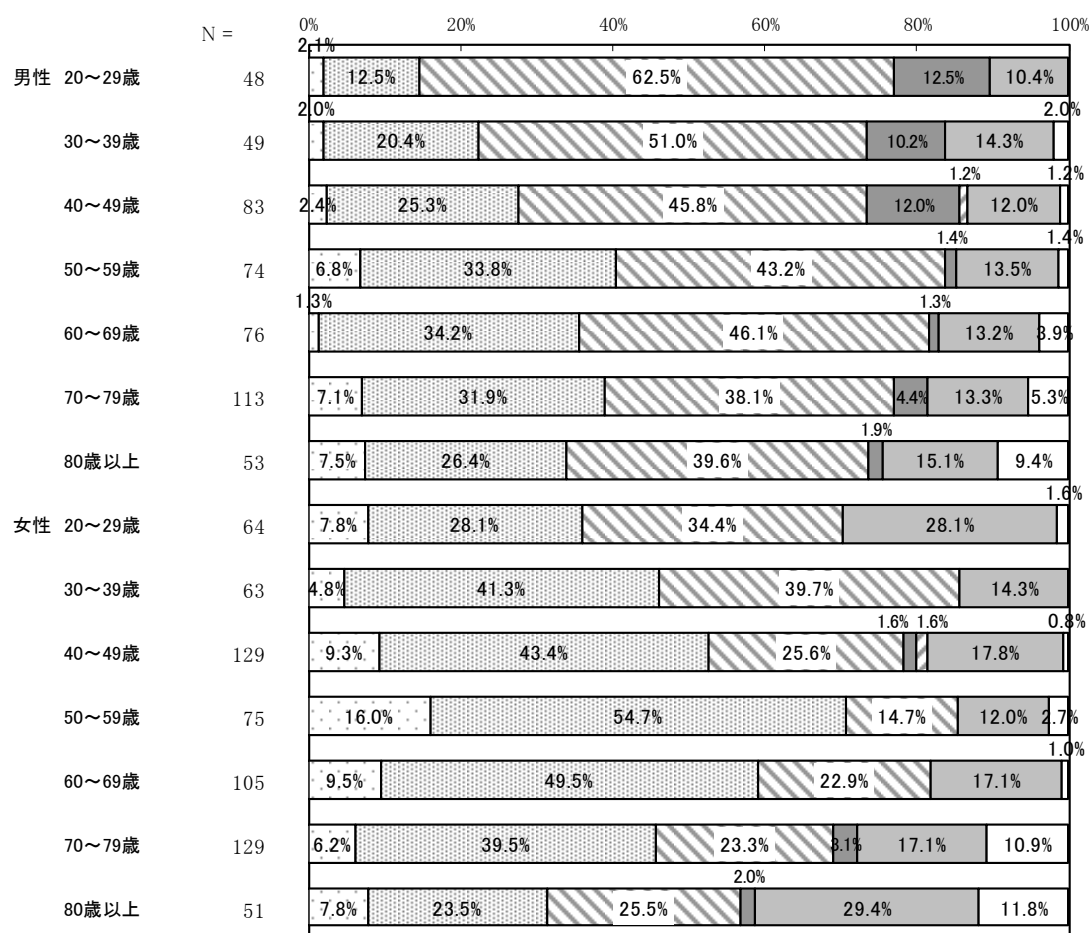
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

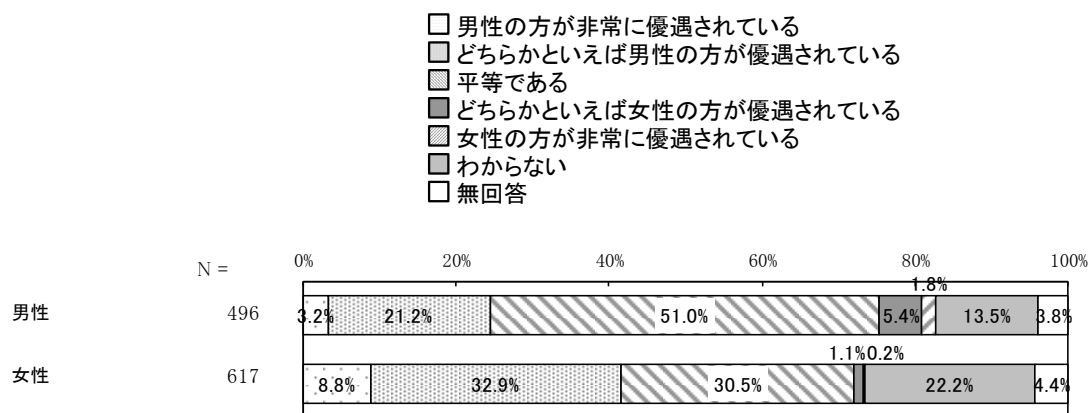
性・年齢別でみると、女性の50～59歳で“男性優遇”の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「平等」の割合が高くなっています。



⑤ 法律や制度

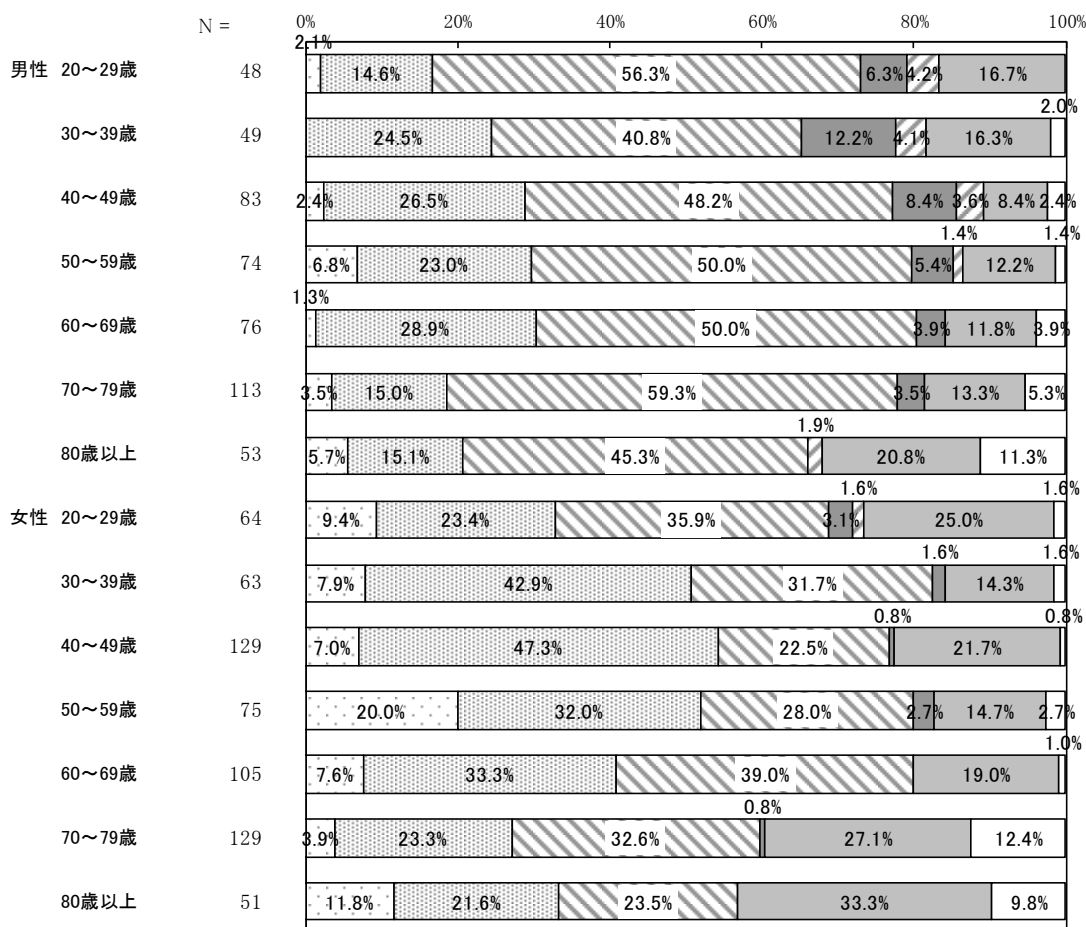
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

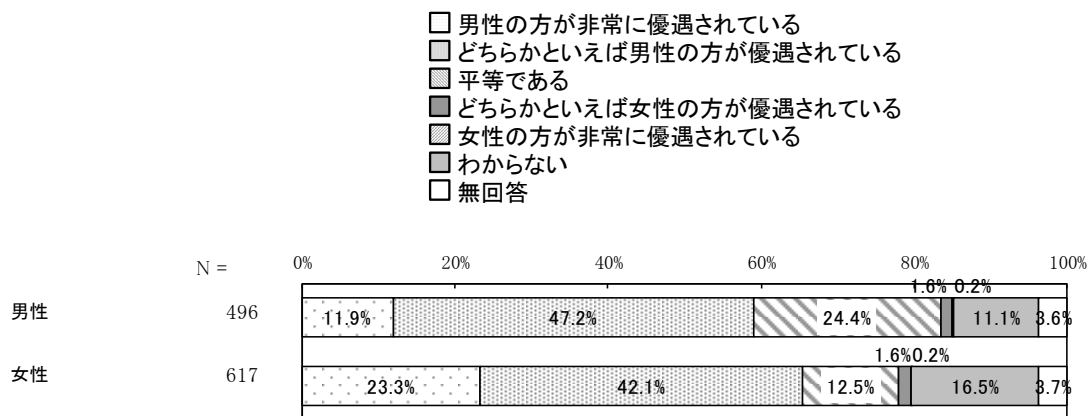
性・年齢別でみると、女性の30～59歳で“男性優遇”の割合が高くなっています。男性の20～29歳、70～79歳で「平等」の割合が高くなっています。



⑥ しきたりや習慣

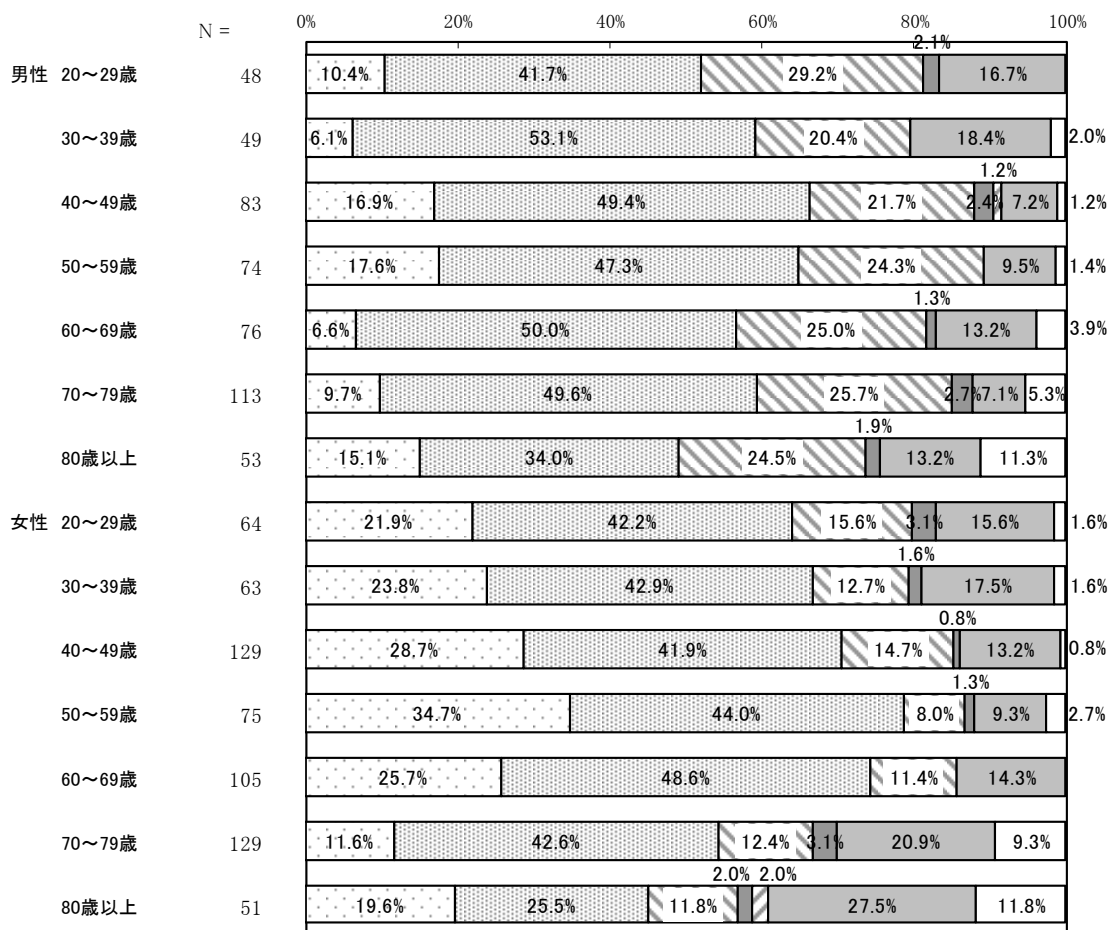
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

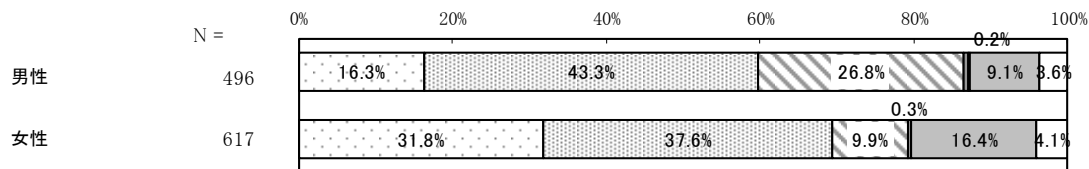
性・年齢別でみると、男女ともに80歳以上で“男性優遇”の割合が低くなっています。



⑦ 政治の場、政策決定の場

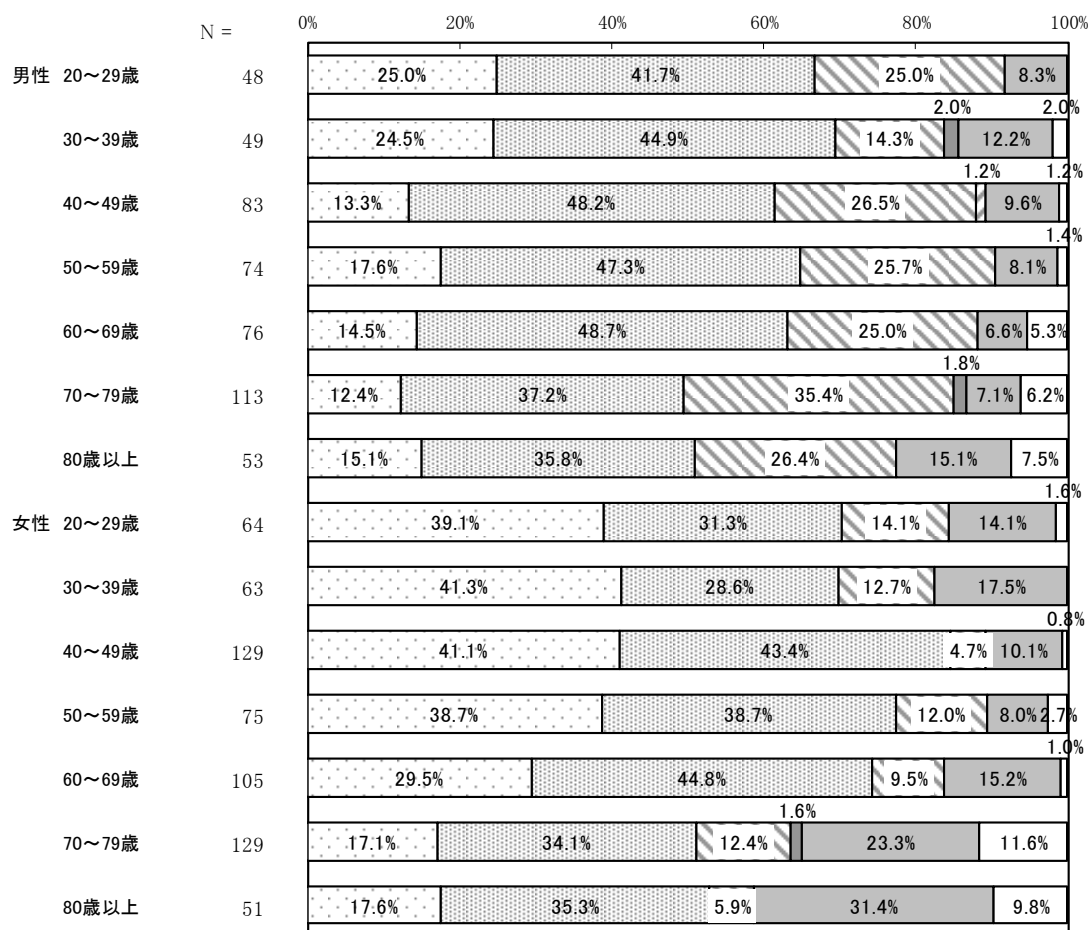
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

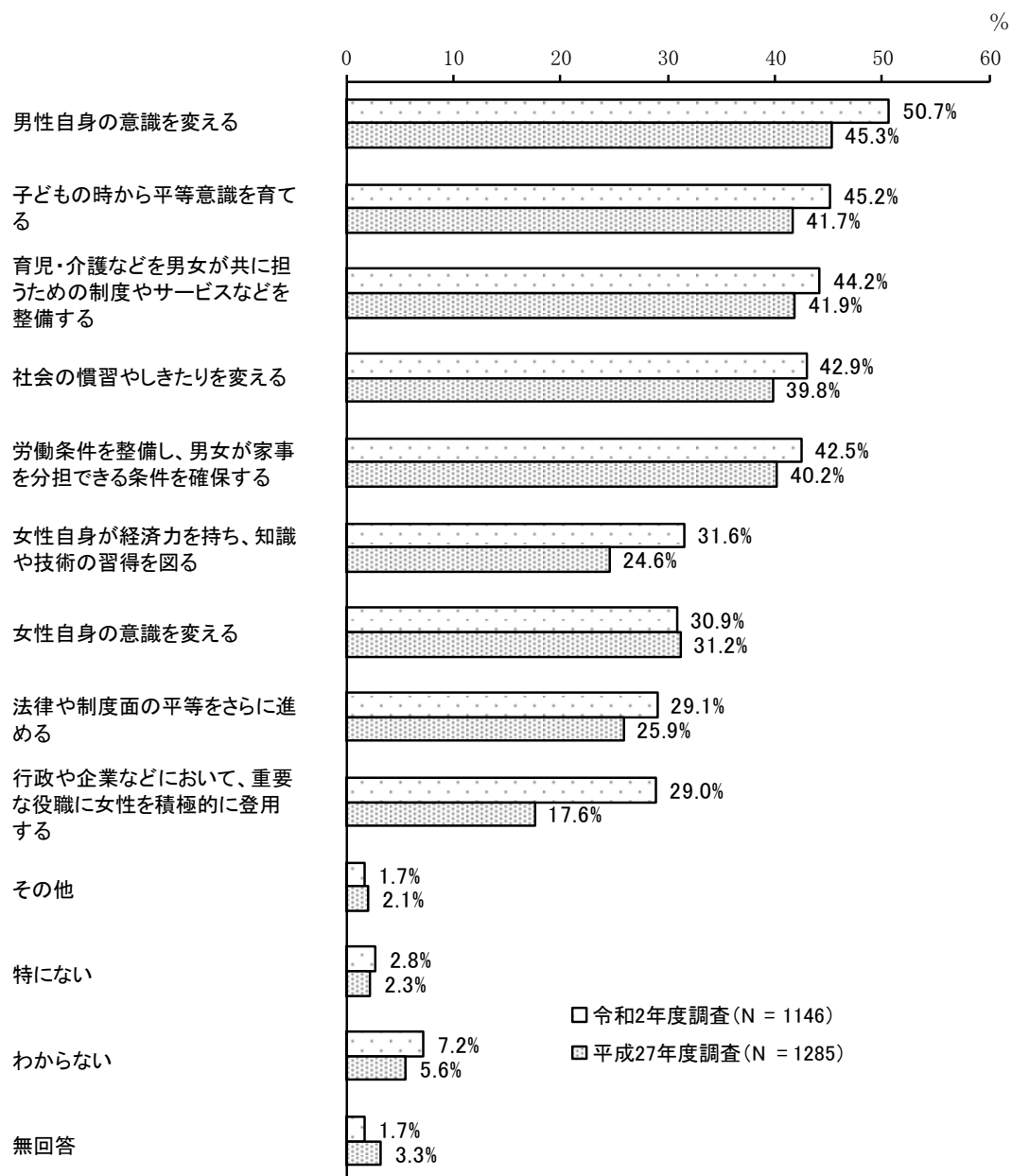
性・年齢別でみると、女性の40～49歳で“男性優遇”の割合が高くなっています。男性の70～79歳で「平等」の割合が高くなっています。



問2. あなたは、男女が平等な立場で協力し合っていくためには、どんなことが大切だと思いますか。(〇印いくつでも)

「男性自身の意識を変える」の割合が50.7%と最も高く、次いで「子どもの時から平等意識を育てる」の割合が45.2%、「育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する」の割合が44.2%となっています。

平成27年度調査と比較すると、「男性自身の意識を変える」が5.4ポイント、「女性自身が経済力を持ち、知識や技術の習得を図る」の割合が7.0ポイント、「行政や企業などにおいて、重要な役職に女性を積極的に登用する」の割合が11.4ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「女性自身が経済力を持ち、知識や技術の習得を図る」「女性自身の意識を変える」「子どもの時から平等意識を育てる」「労働条件を整備し、男女が家事を分担できる条件を確保する」「育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	女性自身が経済力を持ち、知識や技術の習得を図る	女性自身の意識を変える	男性自身の意識を変える	社会の慣習やしきたりを変える	法律や制度面の平等をさらに進める	子どもの時から平等意識を育てる	労働条件を整備し、男女が家事を分担できる条件を確保する	育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する	行政や企業などにおいて、重要な役職に女性を積極的に登用する	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
男性	496	23.8%	27.4%	48.6%	43.8%	28.8%	42.1%	38.3%	36.5%	28.0%	1.2%	3.8%	6.7%	1.4%
女性	617	37.9%	33.4%	52.5%	42.6%	29.2%	48.1%	47.0%	50.9%	30.3%	1.6%	2.1%	7.3%	1.8%

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の 30～39 歳で「女性自身が経済力を持ち、知識や技術の習得を図る」の割合が高くなっています。また、女性の 30～39 歳で「子どもの時から平等意識を育てる」「労働条件を整備し、男女が家事を分担できる条件を確保する」「育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する」の割合が高くなっています。男性の 80 歳以上、女性の 30～39 歳で「行政や企業などにおいて、重要な役職に女性を積極的に登用する」の割合が高くなっています。

単位：％

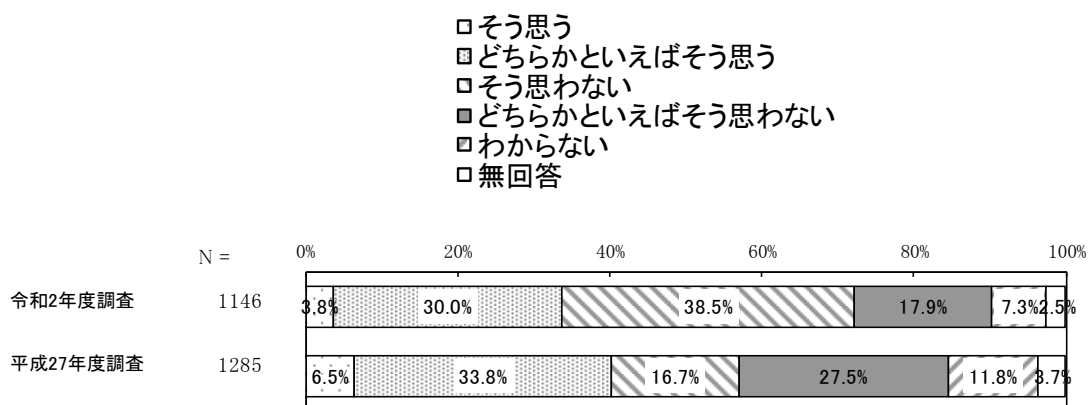
区分	有効回答数（件）	女性自身が経済力を持ち、知識や技術の習得を図る	女性自身の意識を変える	男性自身の意識を変える	社会の慣習やしきたりを変える	法律や制度面の平等をさらに進める	子どもの時から平等意識を育てる	労働条件を整備し、男女が家事を分担できる条件を確保する	育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する	行政や企業などにおいて、重要な役職に女性を積極的に登用する	その他	特 に ない	わからない	無回答
男性 20～29歳	48	22.9%	18.8%	45.8%	47.9%	27.1%	33.3%	45.8%	41.7%	18.8%	4.2%	2.1%	4.2%	－
30～39歳	49	14.3%	14.3%	40.8%	44.9%	30.6%	26.5%	51.0%	36.7%	24.5%	2.0%	2.0%	12.2%	2.0%
40～49歳	83	27.7%	26.5%	51.8%	43.4%	24.1%	47.0%	36.1%	41.0%	18.1%	1.2%	2.4%	7.2%	－
50～59歳	74	25.7%	25.7%	44.6%	50.0%	35.1%	48.6%	39.2%	44.6%	31.1%	2.7%	5.4%	4.1%	1.4%
60～69歳	76	23.7%	34.2%	56.6%	48.7%	34.2%	43.4%	34.2%	34.2%	30.3%	－	3.9%	6.6%	1.3%
70～79歳	113	23.9%	29.2%	46.0%	38.9%	24.8%	45.1%	31.9%	29.2%	31.0%	－	5.3%	5.3%	2.7%
80歳以上	53	24.5%	37.7%	52.8%	34.0%	28.3%	39.6%	41.5%	32.1%	41.5%	－	3.8%	9.4%	1.9%
女性 20～29歳	64	28.1%	29.7%	67.2%	50.0%	31.3%	46.9%	51.6%	53.1%	34.4%	－	－	4.7%	－
30～39歳	63	50.8%	44.4%	58.7%	46.0%	42.9%	63.5%	71.4%	63.5%	46.0%	－	－	3.2%	－
40～49歳	129	45.7%	37.2%	63.6%	46.5%	37.2%	54.3%	55.0%	58.1%	28.7%	4.7%	－	2.3%	1.6%
50～59歳	75	29.3%	34.7%	58.7%	48.0%	33.3%	41.3%	45.3%	45.3%	32.0%	2.7%	－	5.3%	1.3%
60～69歳	105	42.9%	39.0%	58.1%	45.7%	22.9%	56.2%	55.2%	58.1%	33.3%	1.0%	1.9%	6.7%	1.0%
70～79歳	129	32.6%	21.7%	30.2%	31.8%	17.8%	34.1%	27.9%	41.9%	20.9%	0.8%	7.0%	12.4%	4.7%
80歳以上	51	29.4%	29.4%	33.3%	31.4%	23.5%	43.1%	23.5%	29.4%	25.5%	－	3.9%	19.6%	2.0%

(2) 家庭生活について

問3. あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。
(○印1つ)

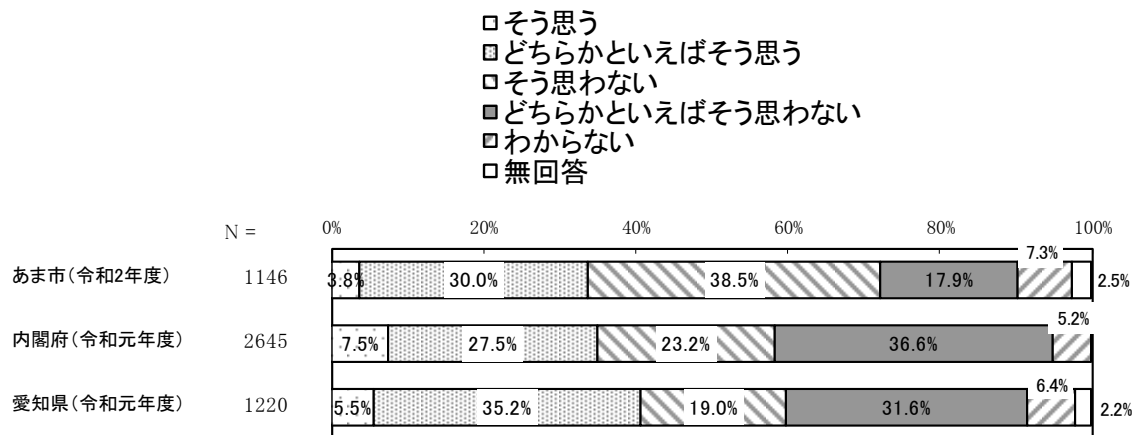
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が33.8%となっています。「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が56.4%となっています。

平成27年度調査と比較すると、“そう思わない”の割合が12.2ポイント増加しています。



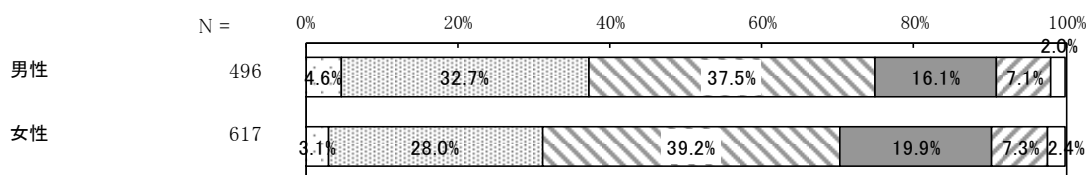
【参考／内閣府・愛知県との比較】

内閣府・愛知県調査と比較すると、内閣府、愛知県に比べ「そう思わない」の割合が高くなっています。



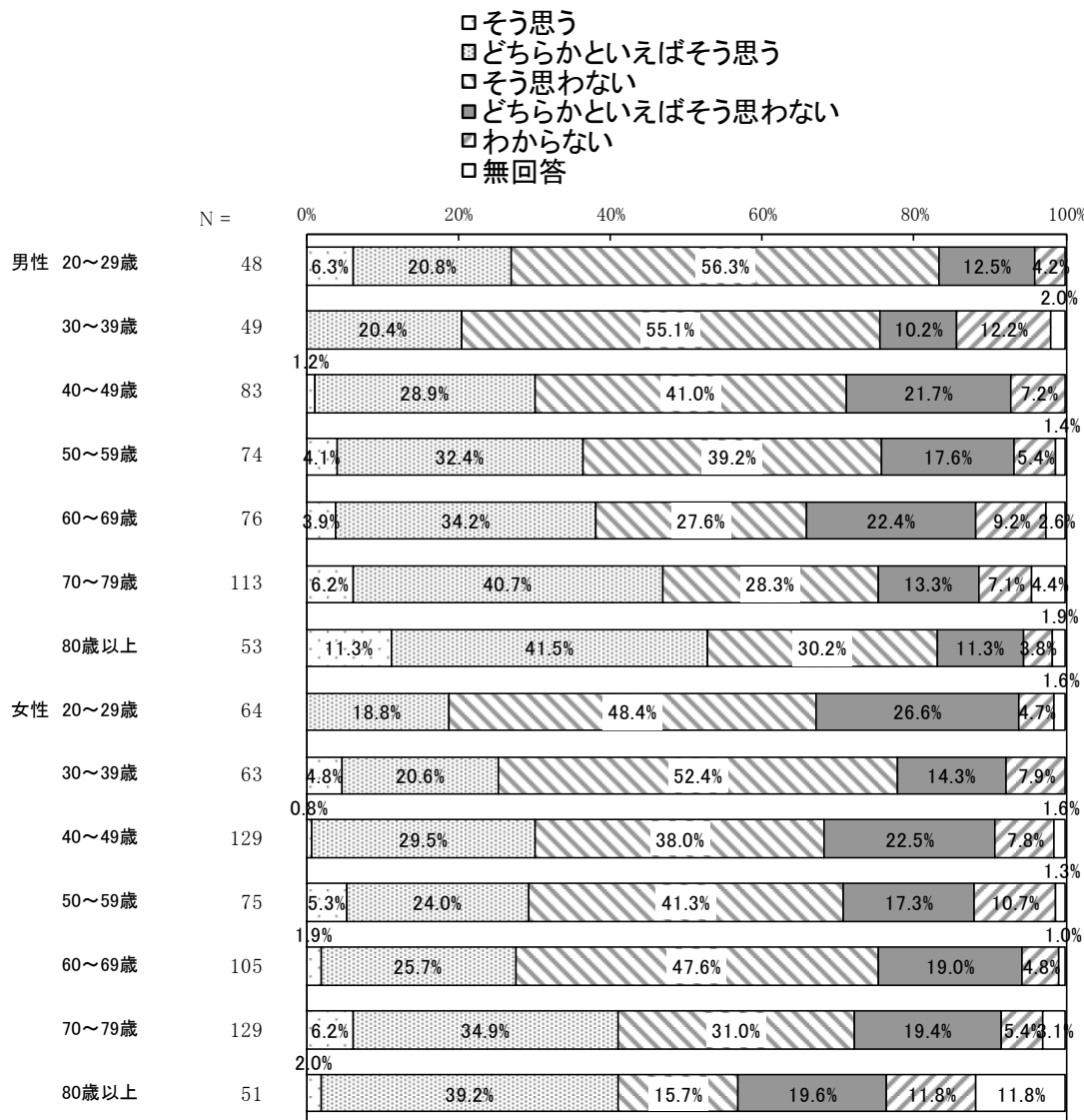
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で“そう思う”の割合が高くなっています。男性に比べ女性で“そう思わない”の割合が高くなっています。



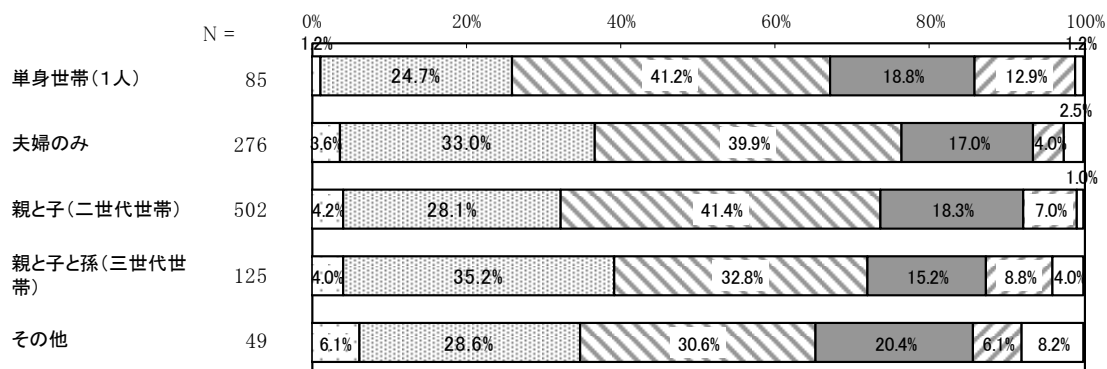
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の80歳以上で“そう思う”の割合が高くなっています。女性の20～29歳で“そう思わない”の割合が高くなっています。



【家族構成別】

家族構成別でみると、大きな差異はみられません。



問4. 家庭における夫婦の役割分担について、どう思いますか。

(1) 全ての方にお伺いします。①～⑥に示す場面で、夫婦のどちらが役割を担う方がいいと思いますか。(理想欄から○印①～⑥の項目ごとに1つずつ)

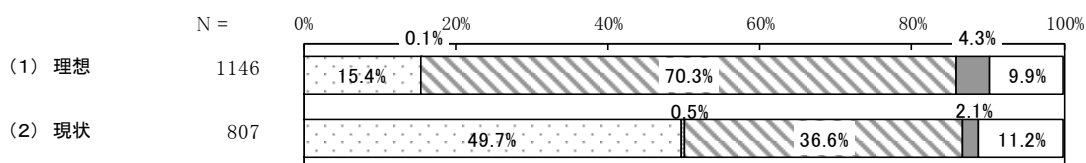
(2) 結婚している方にお伺いします。あなたの家庭では、①～⑥に示す各場面で、実際に夫婦のどちらが役割を担っていますか。(現状欄から○印①～⑥の項目ごとに1つずつ)

理想と現実を比較すると、①家事全般（食事、洗濯、掃除等）、②日常の買い物、③家計の管理では、現状で「主に女性が行う」の割合が最も高くなっていますが、理想としては、「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。

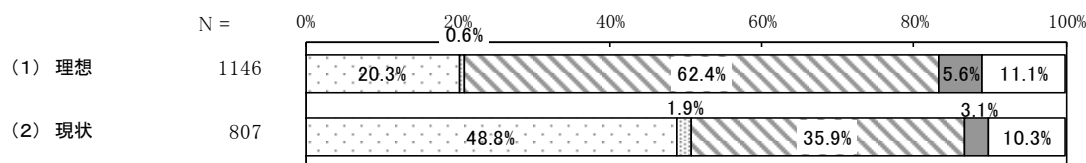
④子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）、⑤親等の介護、⑥地域活動への参加では、現状、理想とも「共同して分担する」「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。

- (1) 理想
- ☐ 主に女性が行うのがよい ☐ 主に男性が行うのがよい
- ☐ 共同して分担するのがよい ☐ その他
- ☐ 無回答
- (2) 現状
- ☐ 主に女性が行う ☐ 主に男性が行う ☐ 共同して分担する
- ☐ その他 ☐ 無回答

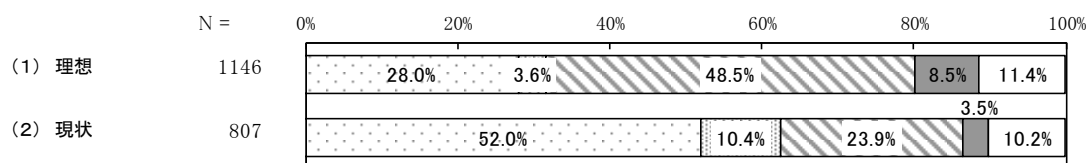
① 家事全般（食事、洗濯、掃除等）



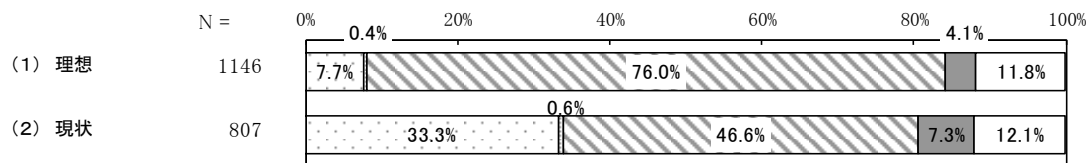
② 日常の買い物



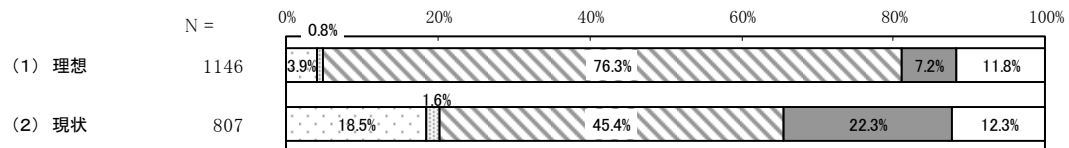
③ 家計の管理



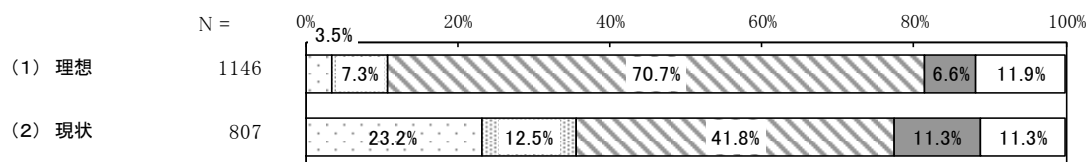
④ 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）



⑤ 親等の介護



⑥ 地域活動への参加

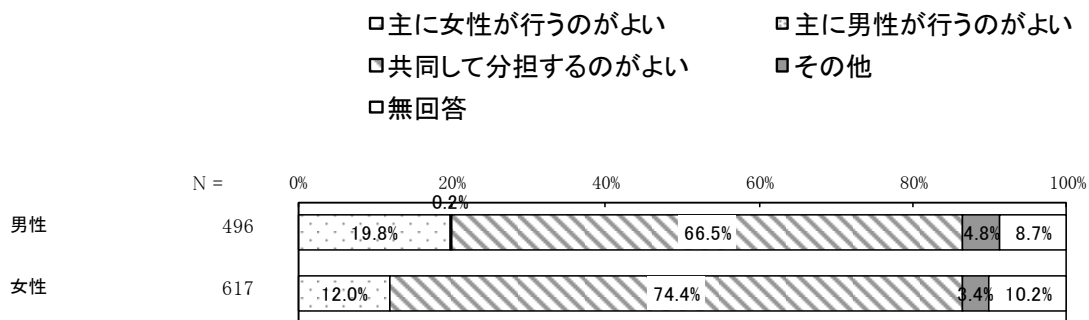


① 家事全般（食事、洗濯、掃除等）

（１）理想

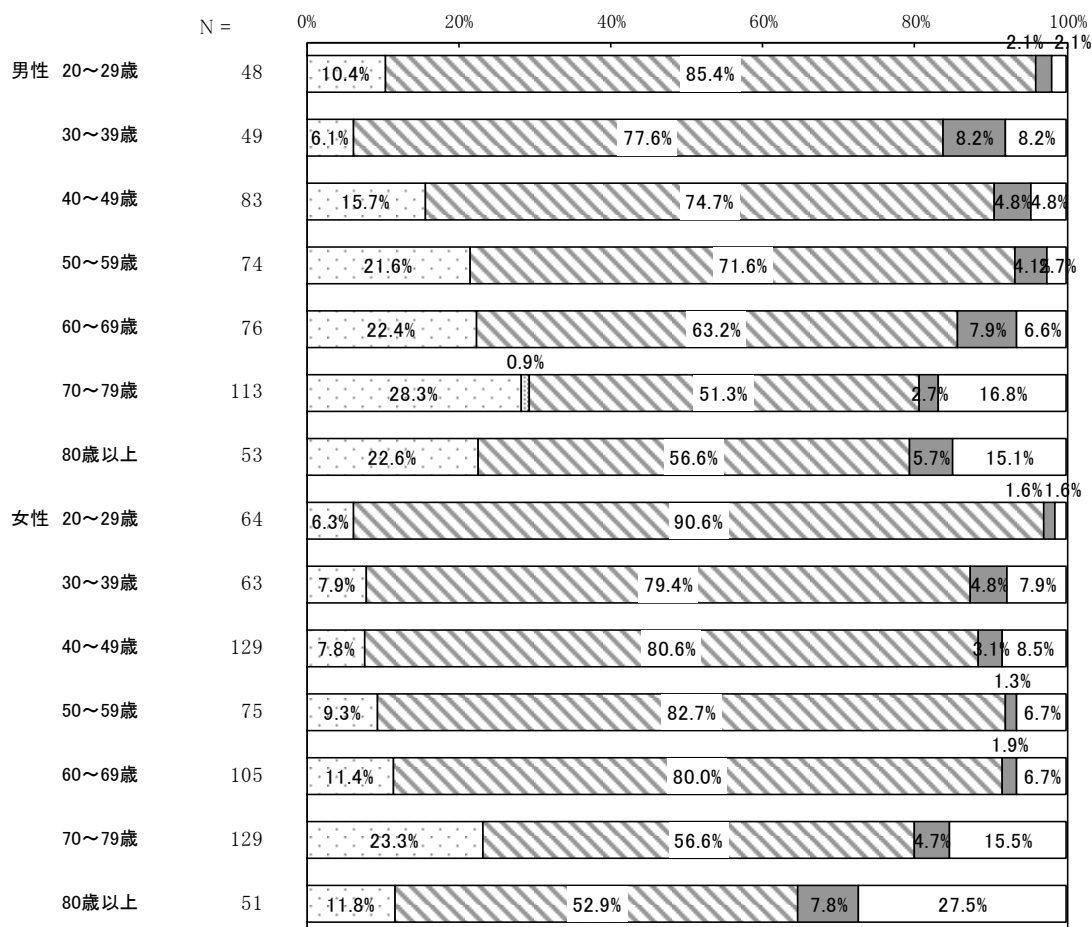
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「主に女性が行うのがよい」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

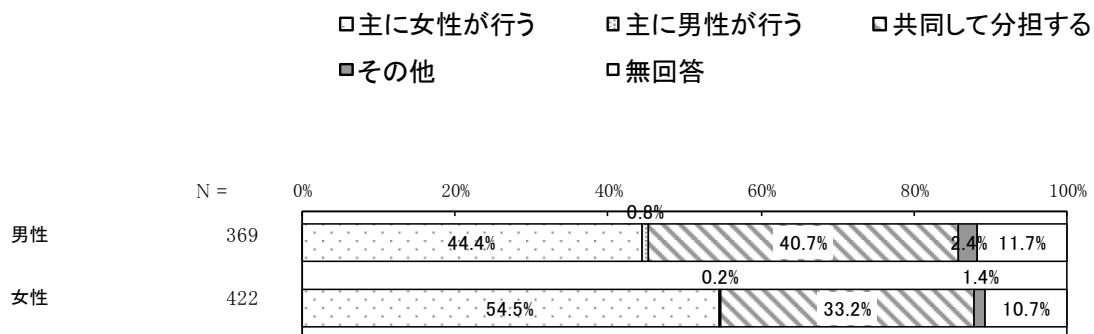
性・年齢別でみると、男性の 70～79 歳で「主に女性が行うのがよい」の割合が高くなっています。女性の 20～29 歳で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



（２）現状

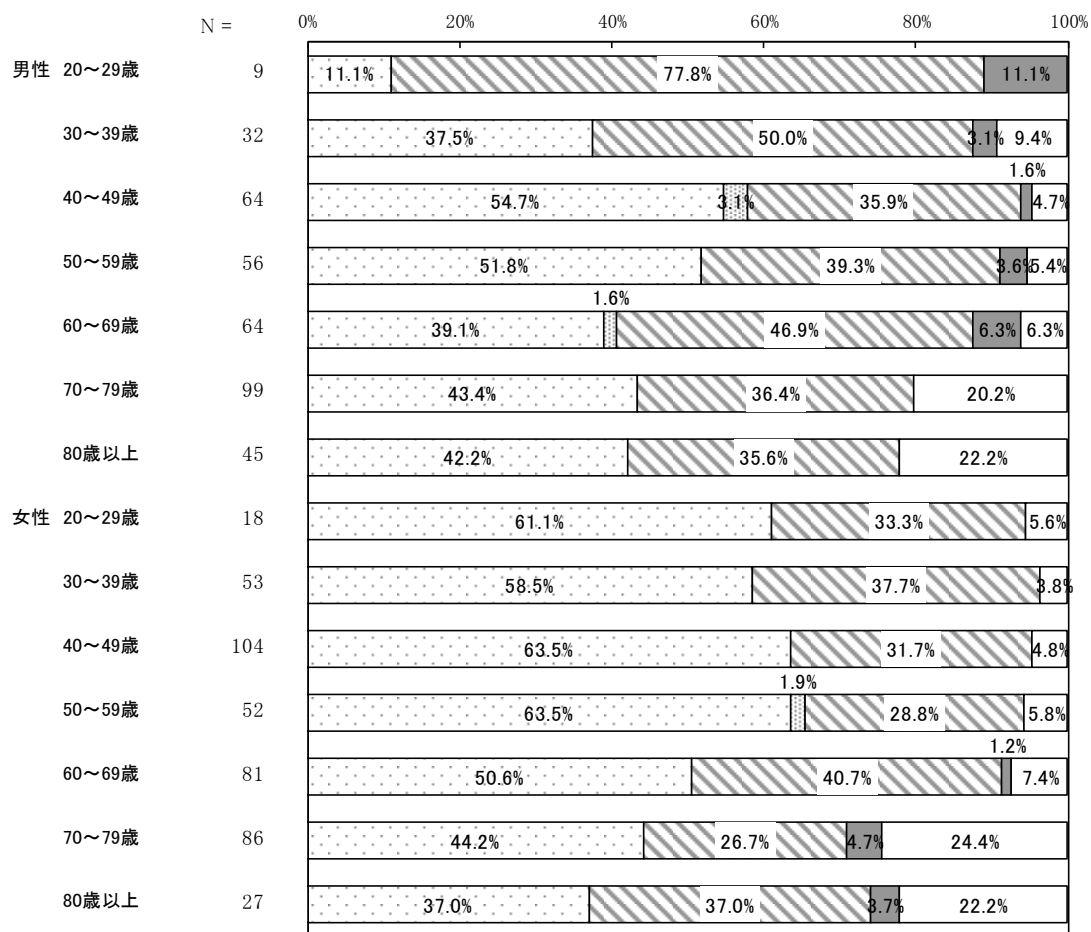
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「主に女性が行う」の割合が高くなっています。女性に比べ男性で「共同して分担する」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

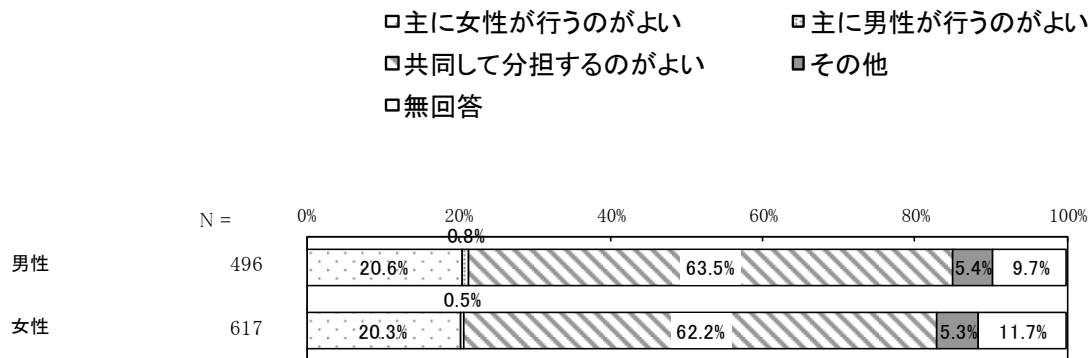


② 日常の買い物

(1) 理想

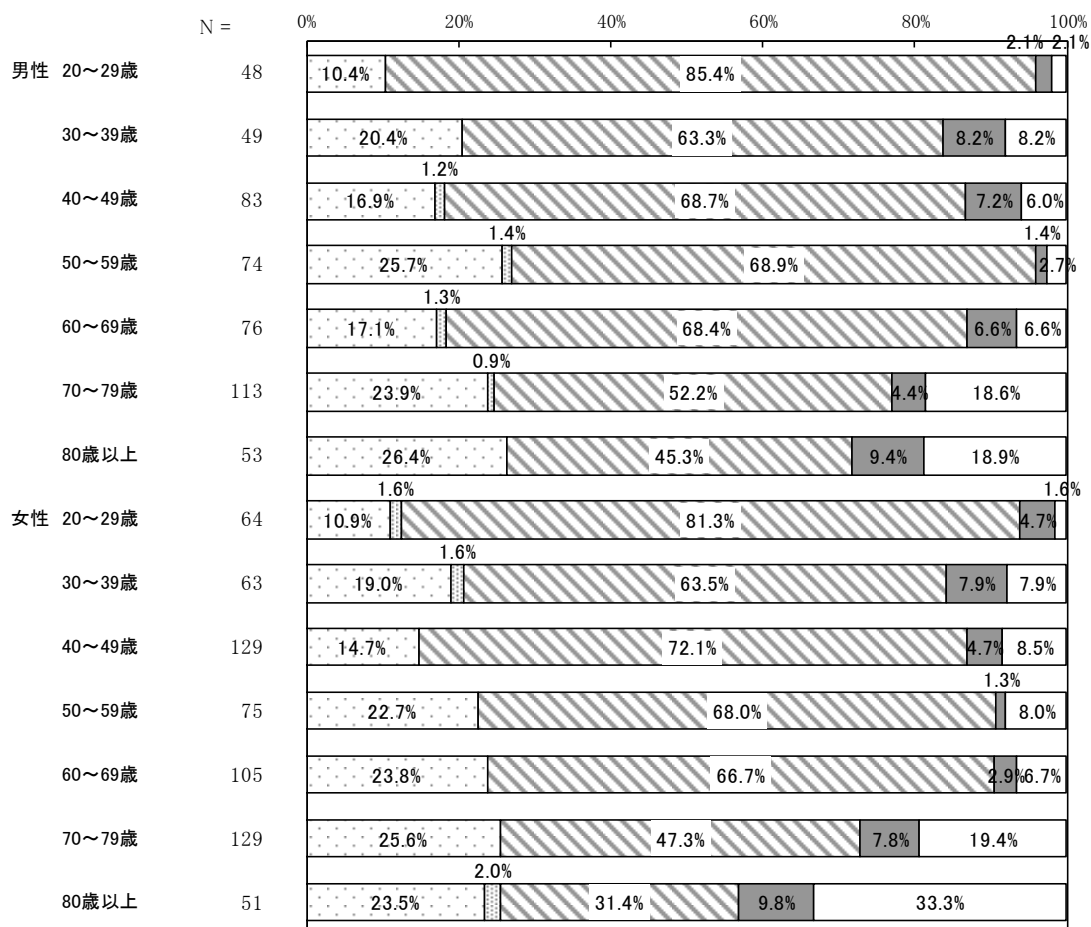
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

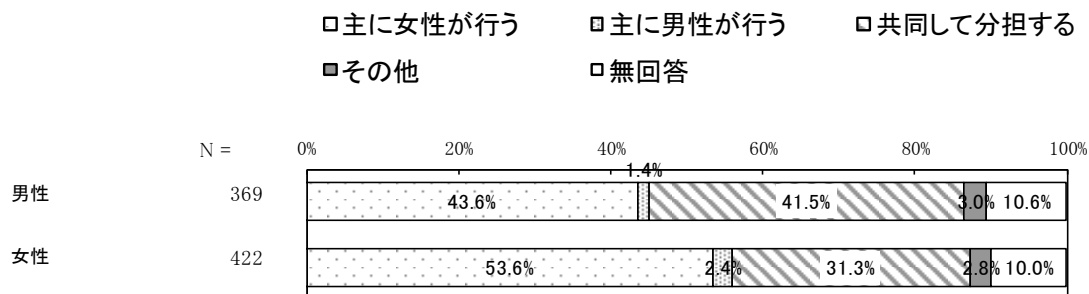
性・年齢別でみると、男性の20～29歳、女性の20～29歳で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



（２）現状

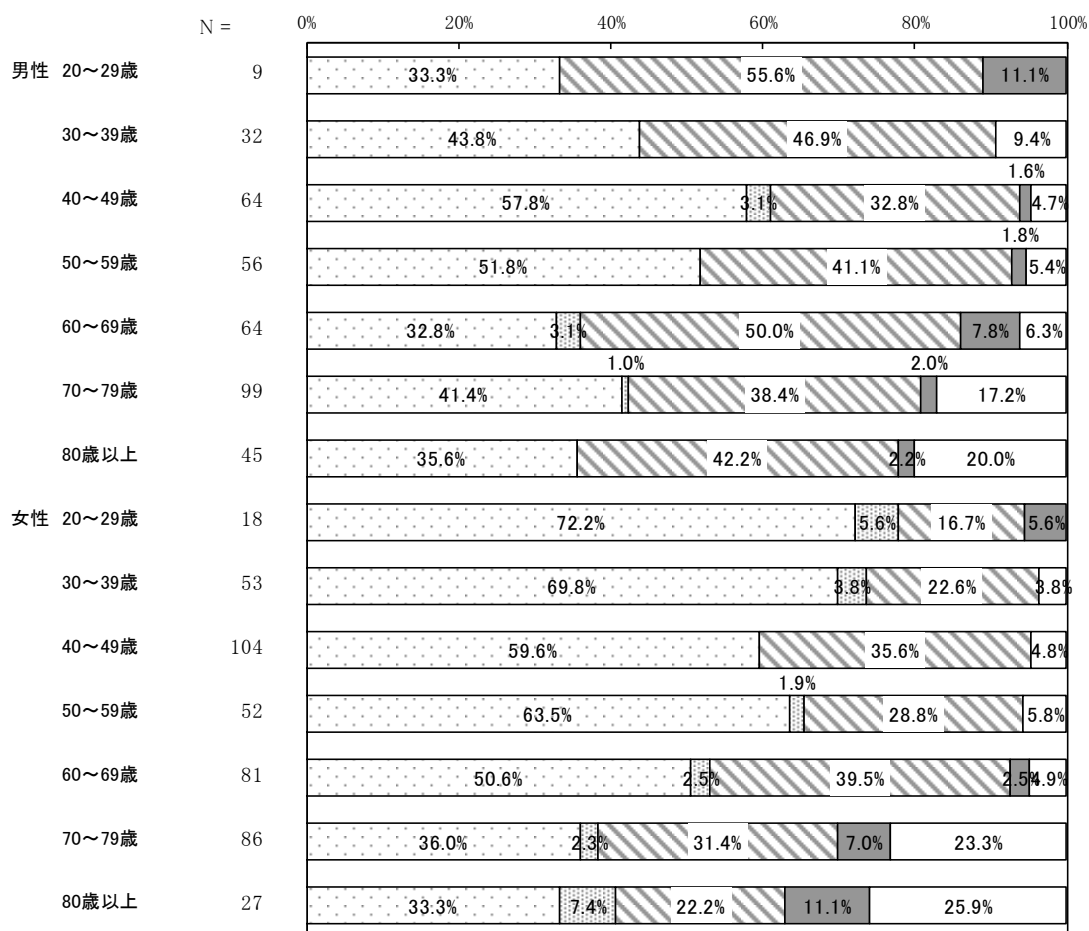
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「主に女性が行う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「共同して分担する」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の20～39歳で「主に女性が行う」の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

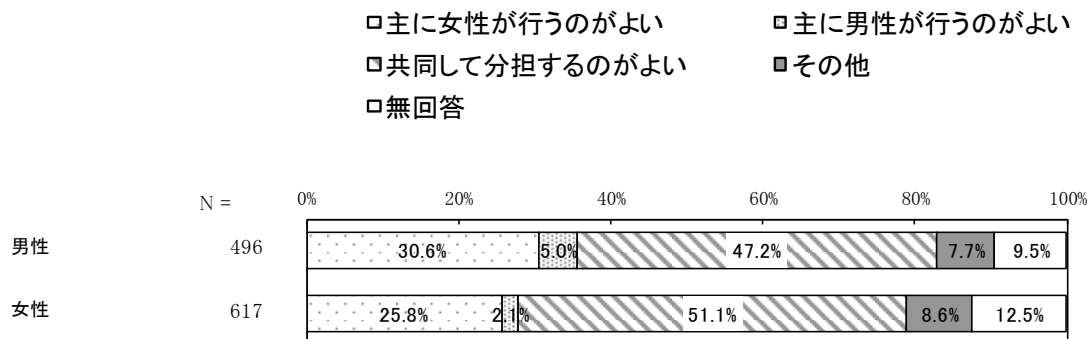


③ 家計の管理

(1) 理想

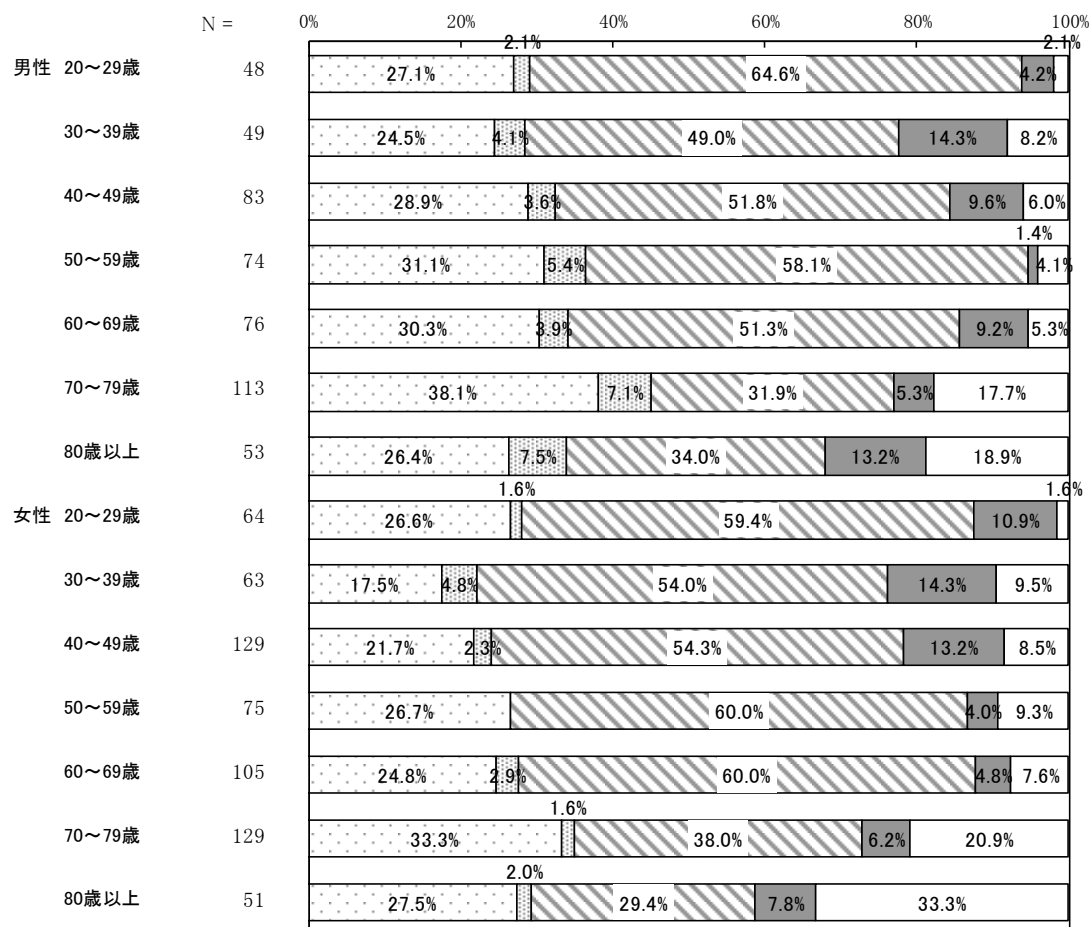
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

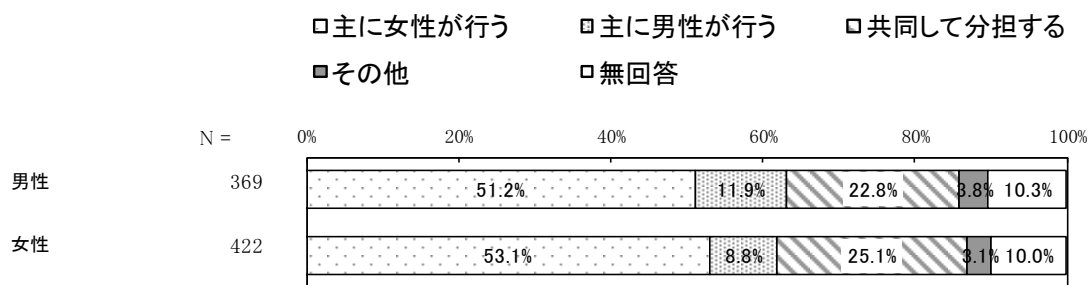
性・年齢別でみると、大きな差異はみられません。



（２）現状

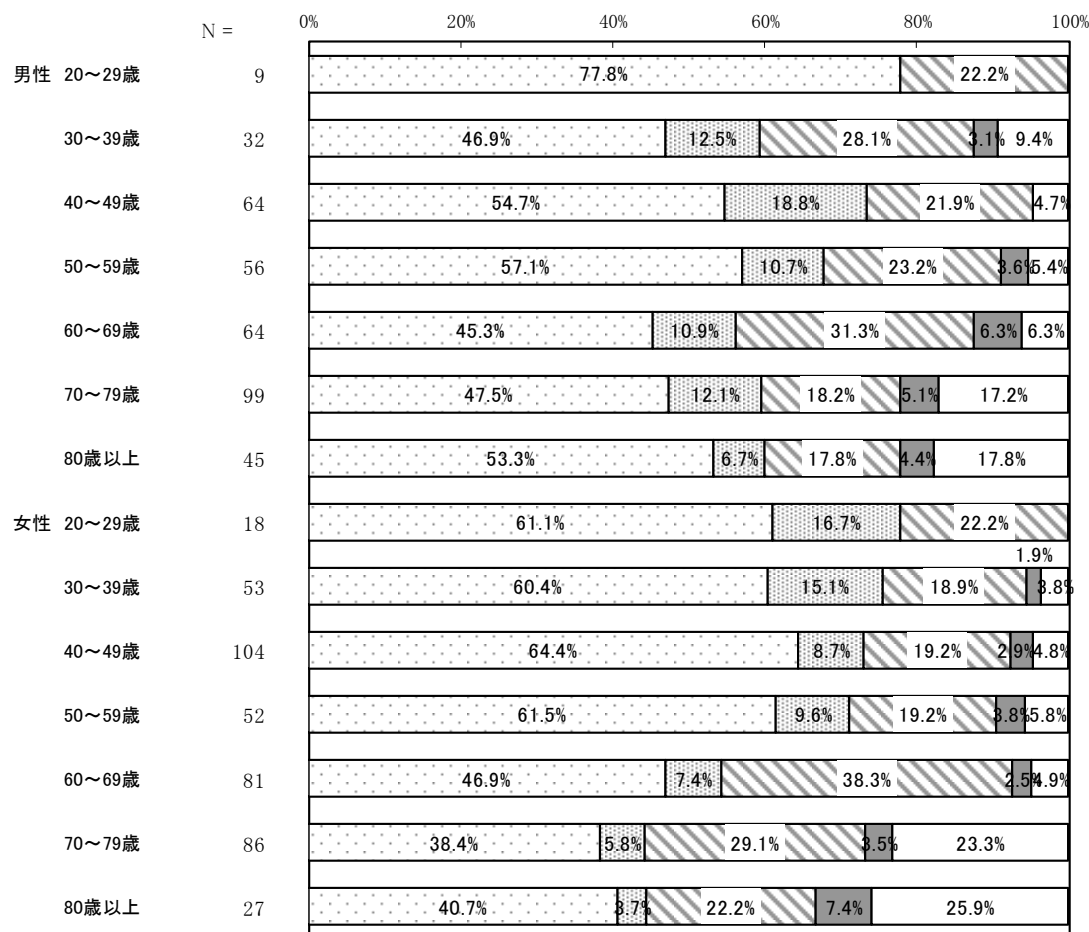
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳で「主に女性が行う」の割合が高くなっています。女性の60～69歳で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

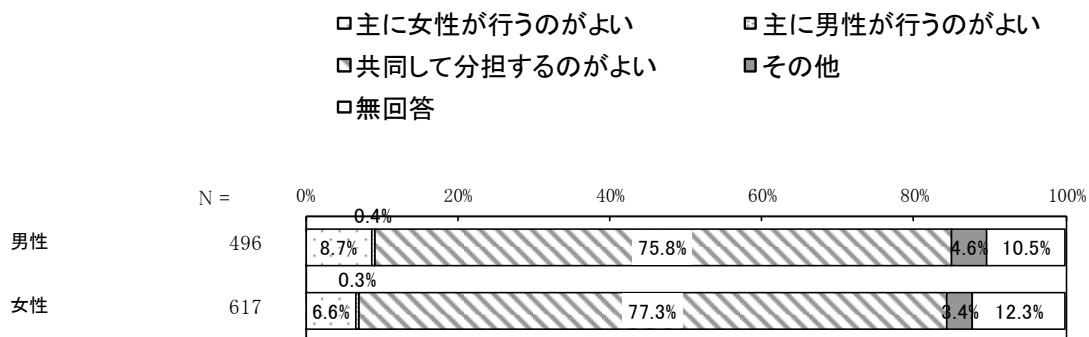


④ 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）

（１）理想

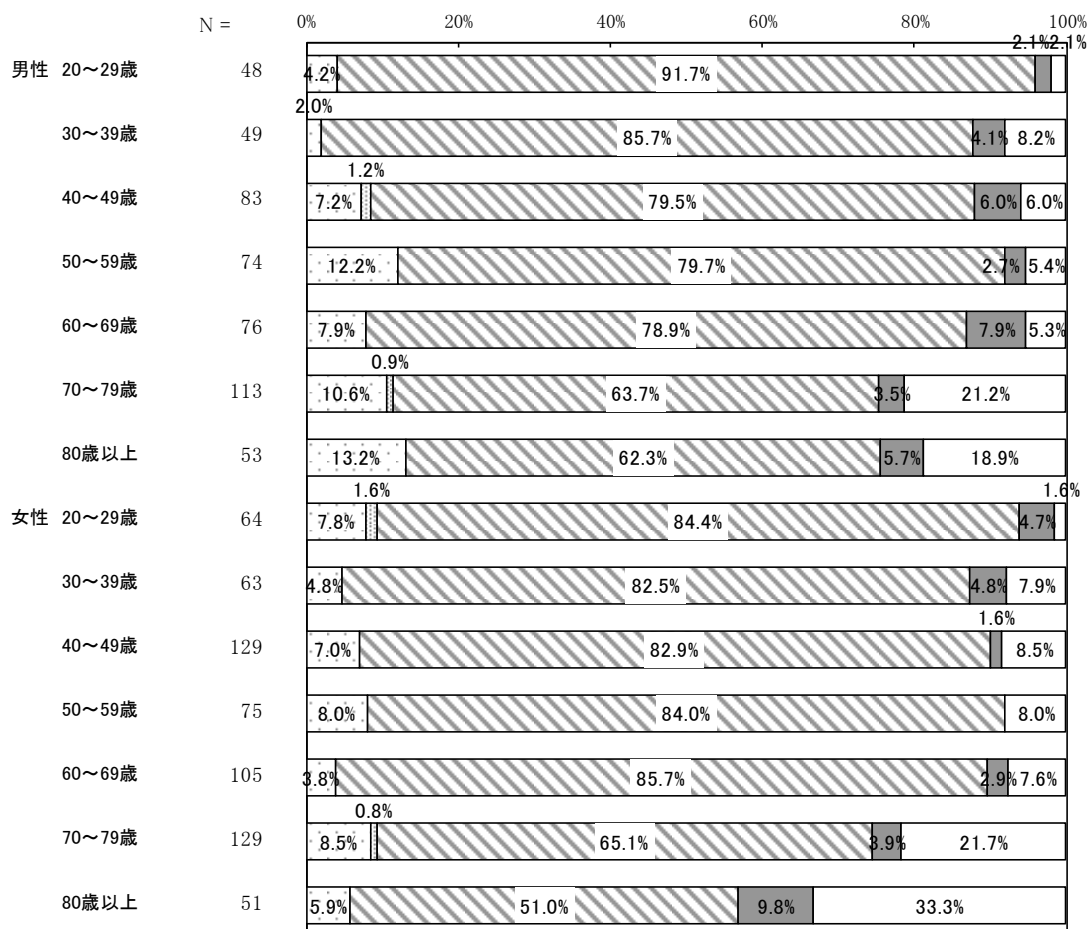
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

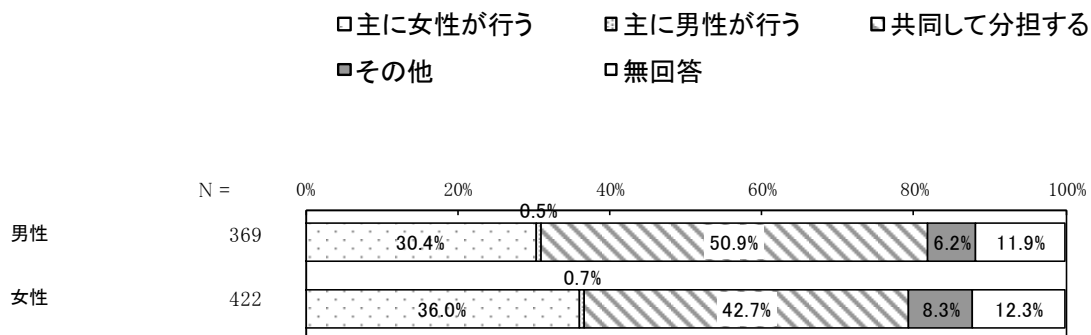
性・年齢別でみると、男性の20～39歳で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



（２）現状

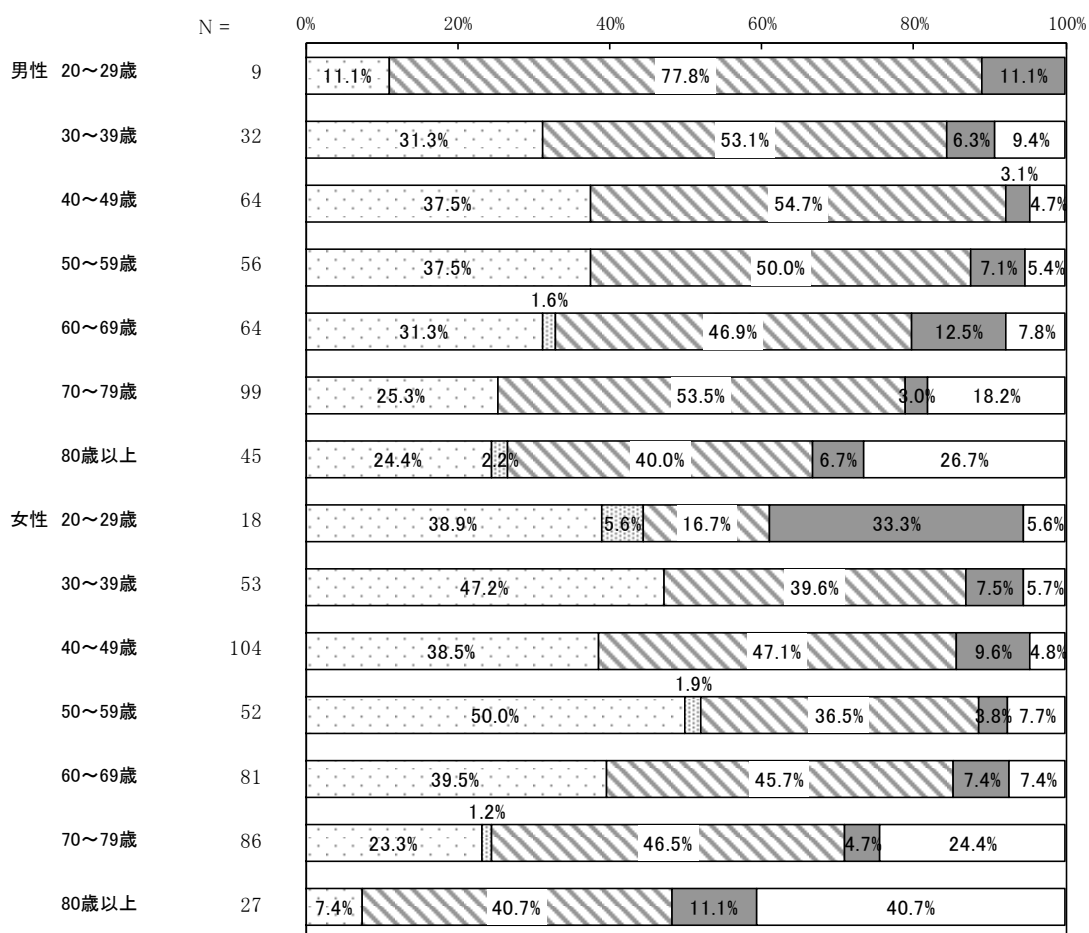
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「主に女性が行う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「共同して分担する」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の30～39歳、50～59歳で「主に女性が行う」の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

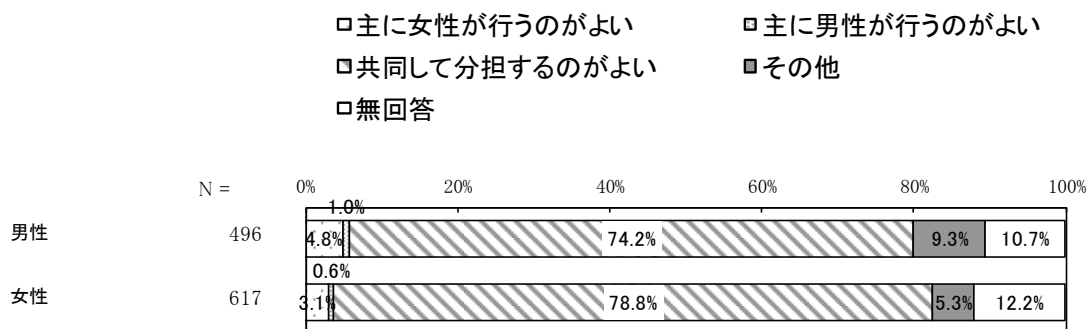


⑤ 親等の介護

(1) 理想

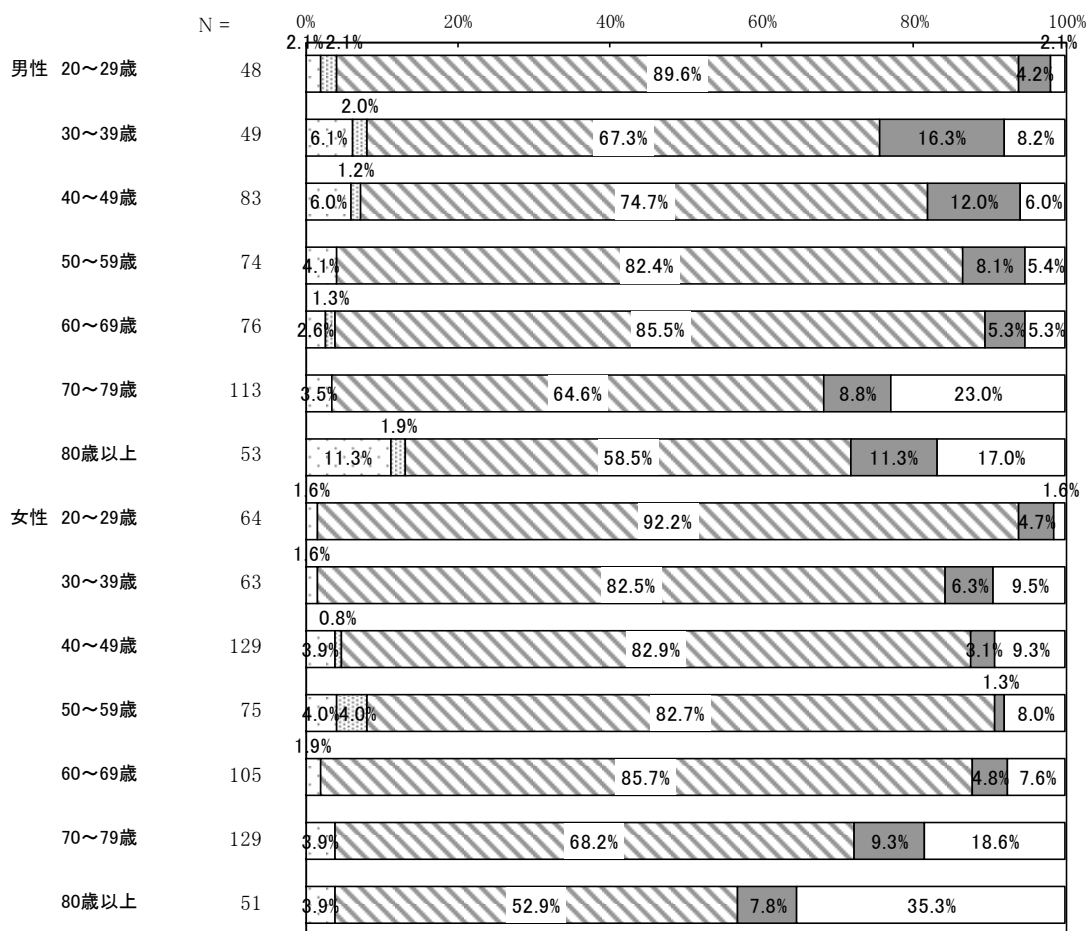
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

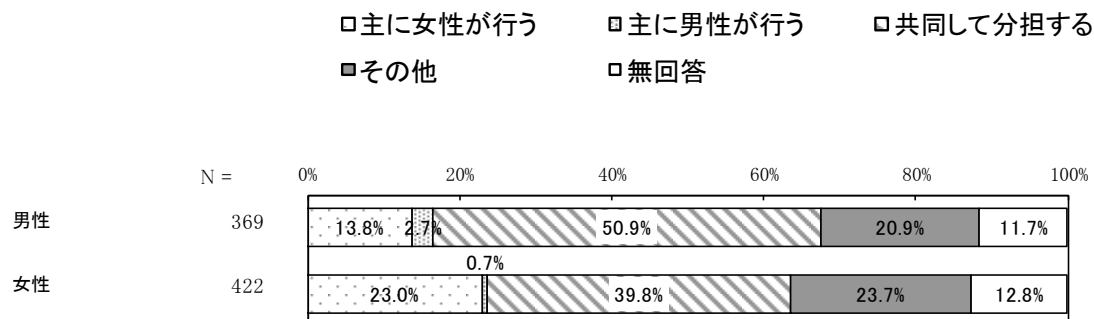
性・年齢別でみると、男性の80歳以上で「主に女性が行うのがよい」の割合が高くなっています。



（２）現状

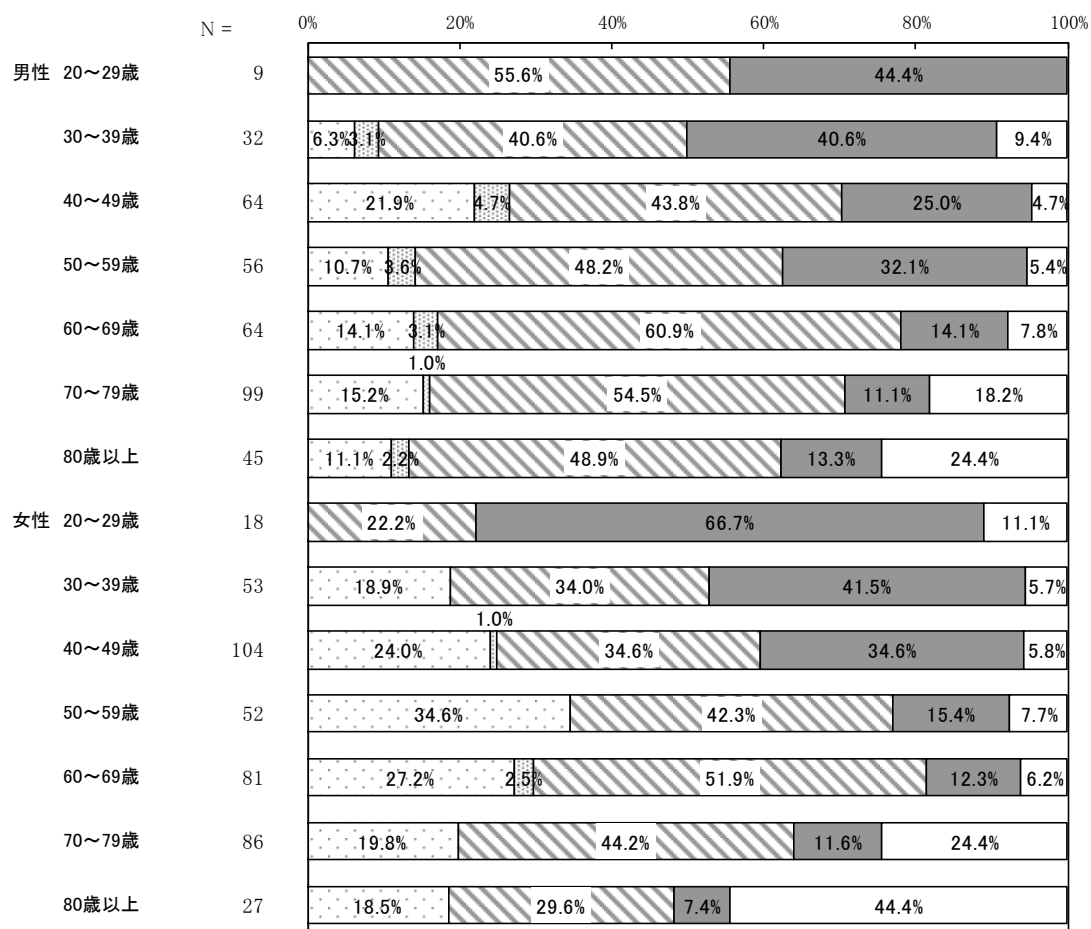
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「主に女性が行う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「共同して分担する」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の50～59歳で「主に女性が行う」の割合が高くなっています。男性の60～69歳で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

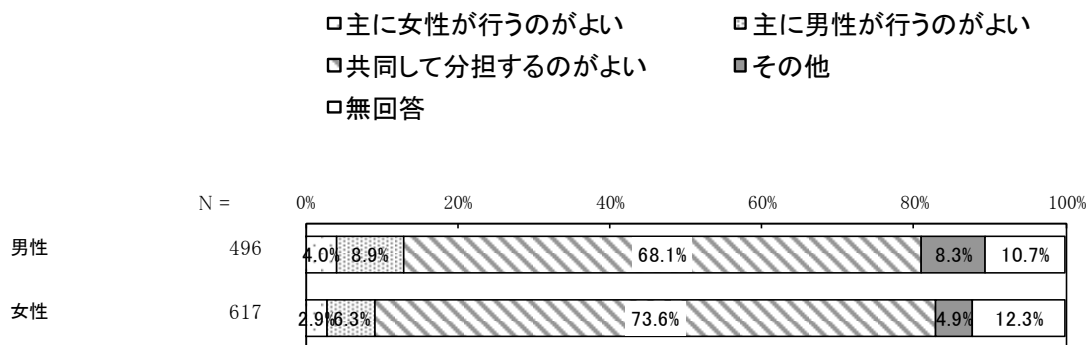


⑥ 地域活動への参加

(1) 理想

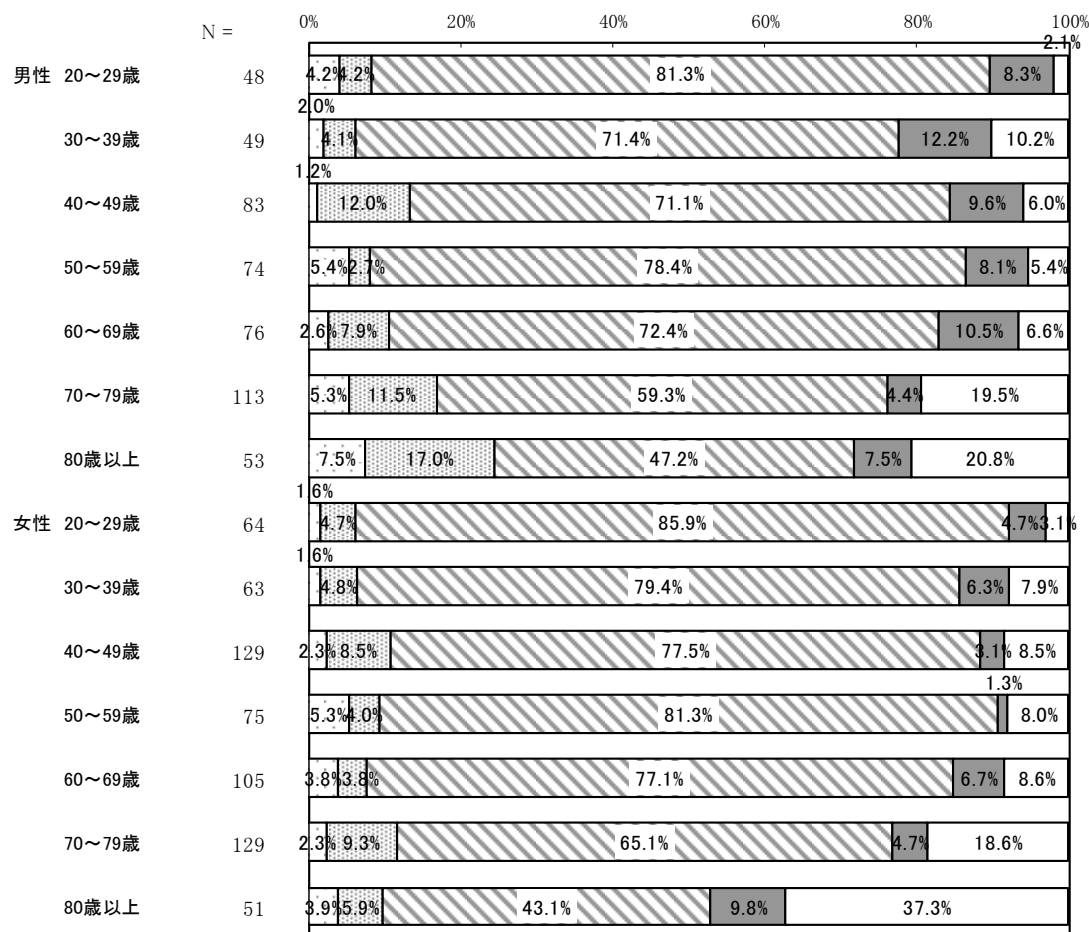
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

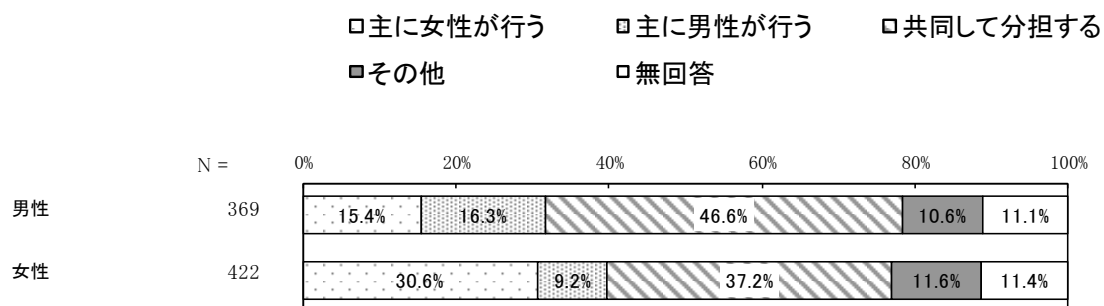
性・年齢別でみると、男性の80歳以上で「主に男性が行うのがよい」の割合が高くなっています。



（２）現状

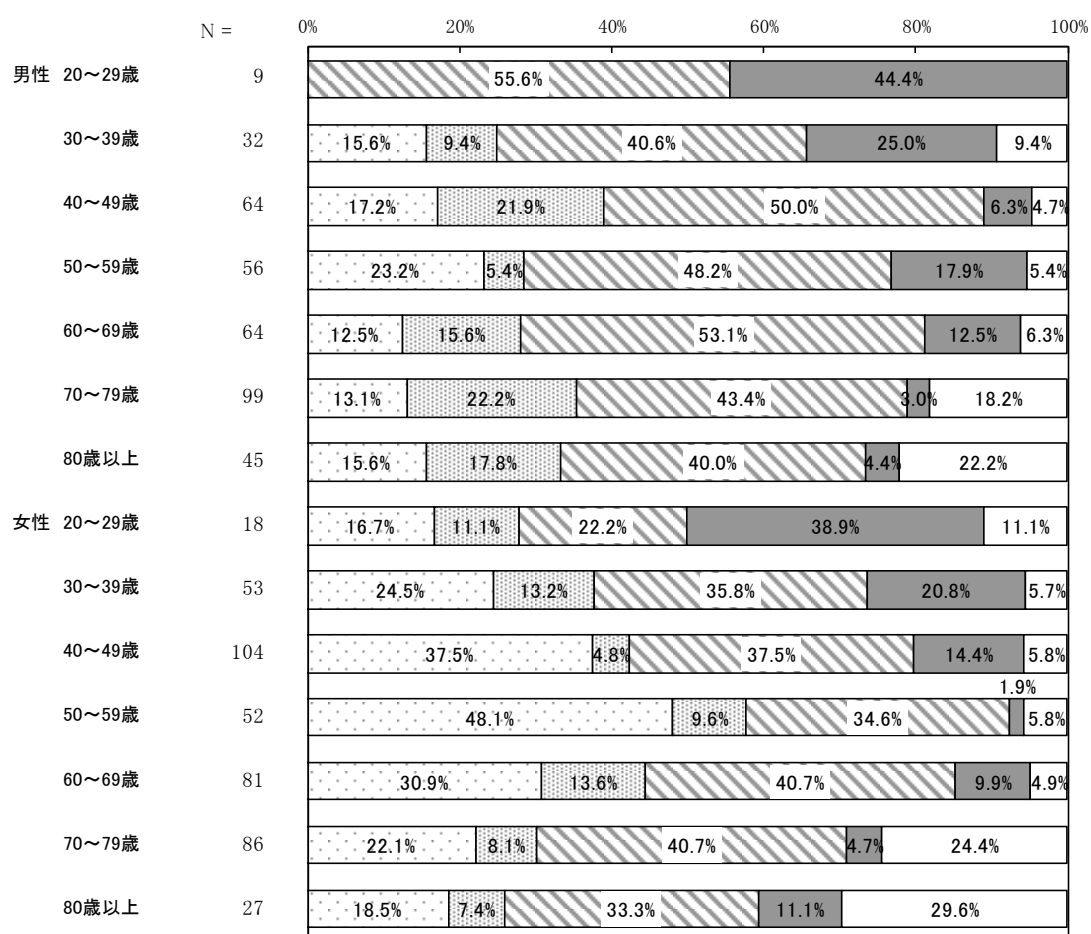
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「主に女性が行う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「主に男性が行う」「共同して分担する」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の50～59歳で「主に女性が行う」の割合が高くなっています。

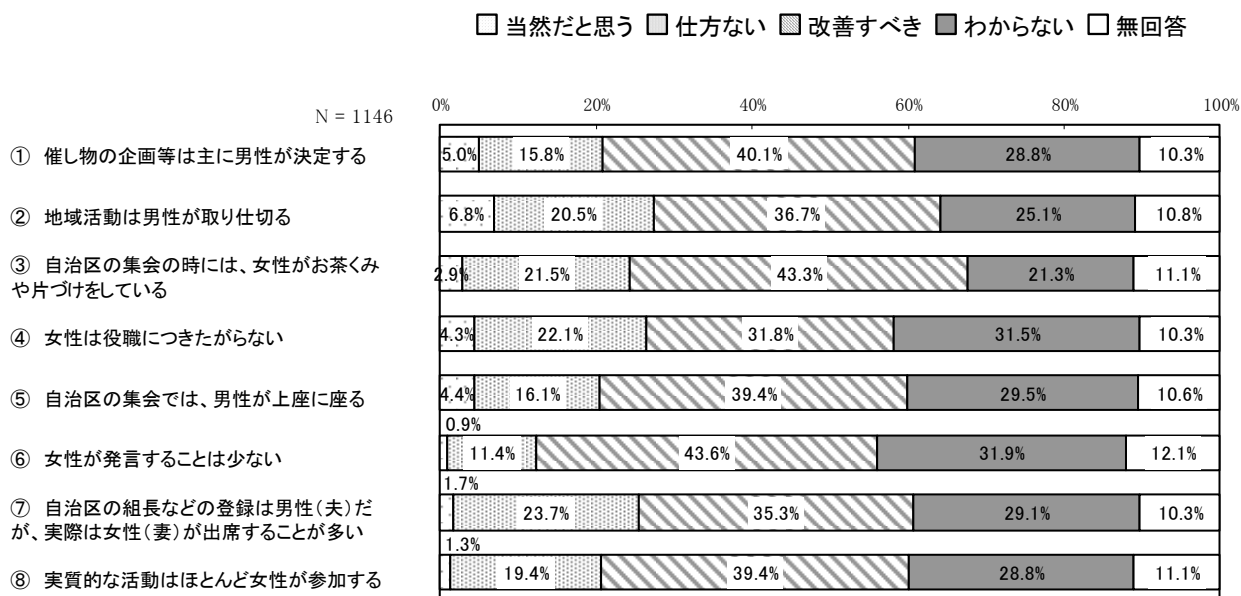


(3) 地域活動について

問5. あなたが参加している地域活動における男女の役割分担についてどう感じていますか。(〇印①～⑧の項目ごとに1つずつ)

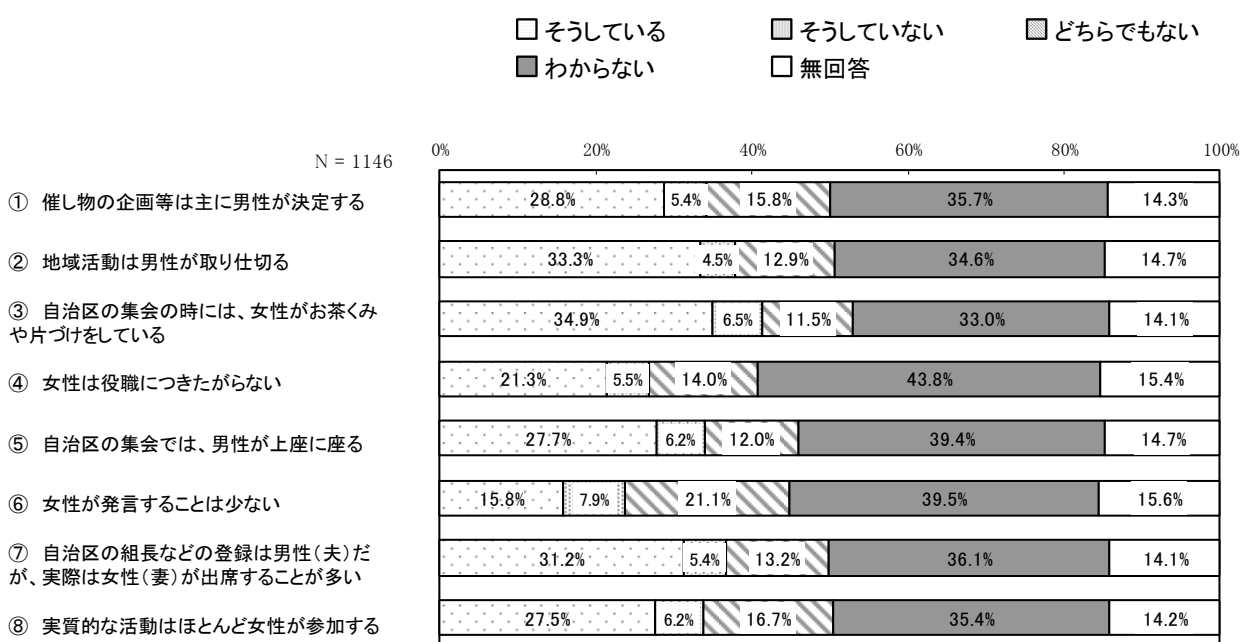
(1) 意識

すべての項目で「改善すべき」の割合が最も高くなっています。



(2) 現状

「そうしている」の割合が、②地域活動は男性が取り仕切るで33.3%、③自治区の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしているで34.9%、⑦自治区の組長などの登録は男性(夫)だが、実際は女性(妻)が出席することが多いで31.2%となっています。

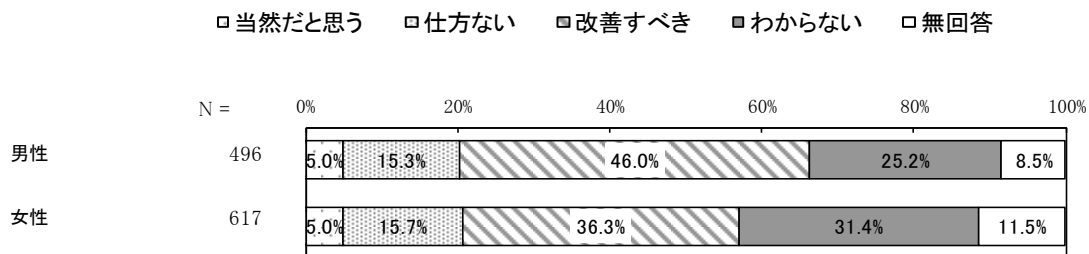


① 催し物の企画等は主に男性が決定する

(1) 意識

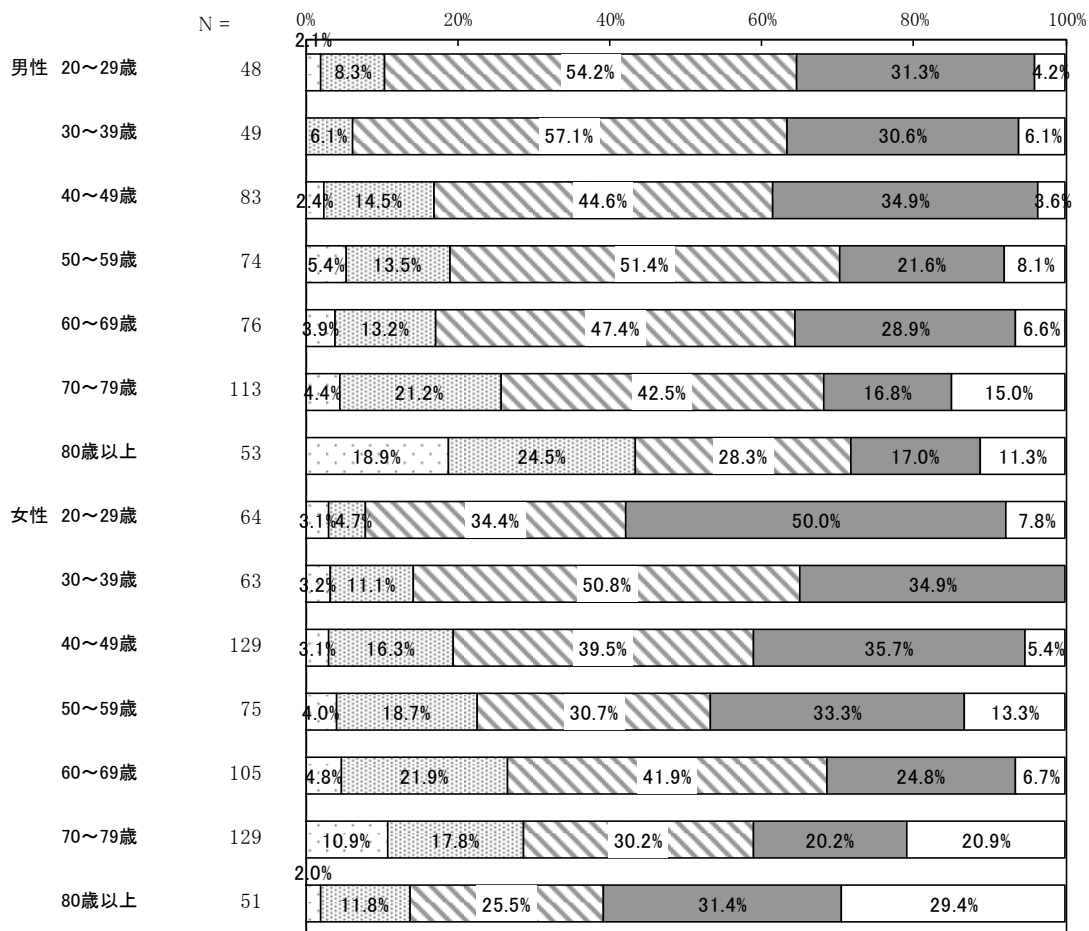
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の80歳以上、女性の70～79歳で「当然だと思う」の割合が高くなっています。

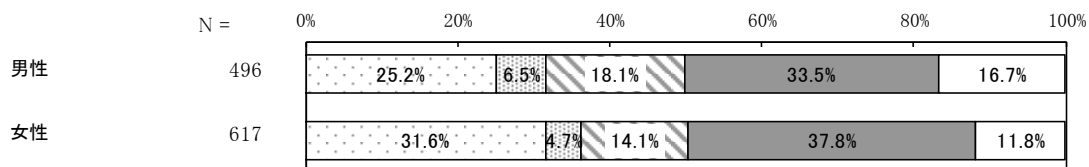


（２）現状

【性別】

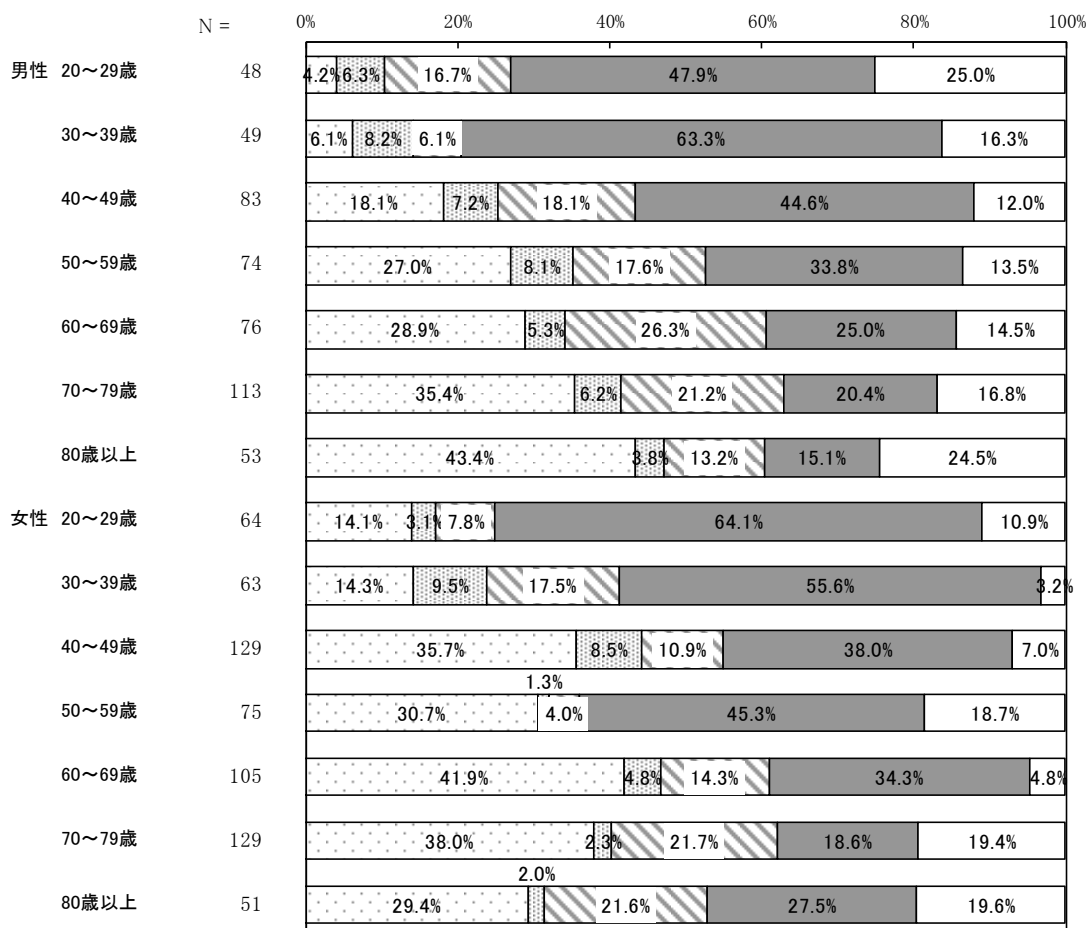
性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。

□そうしている □そうしていない □どちらでもない □わからない □無回答



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～39歳で「そうしている」の割合が低くなっています。

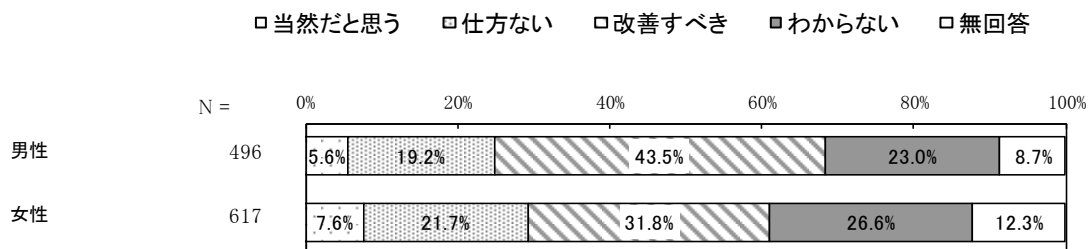


② 地域活動は男性が取り仕切る

(1) 意識

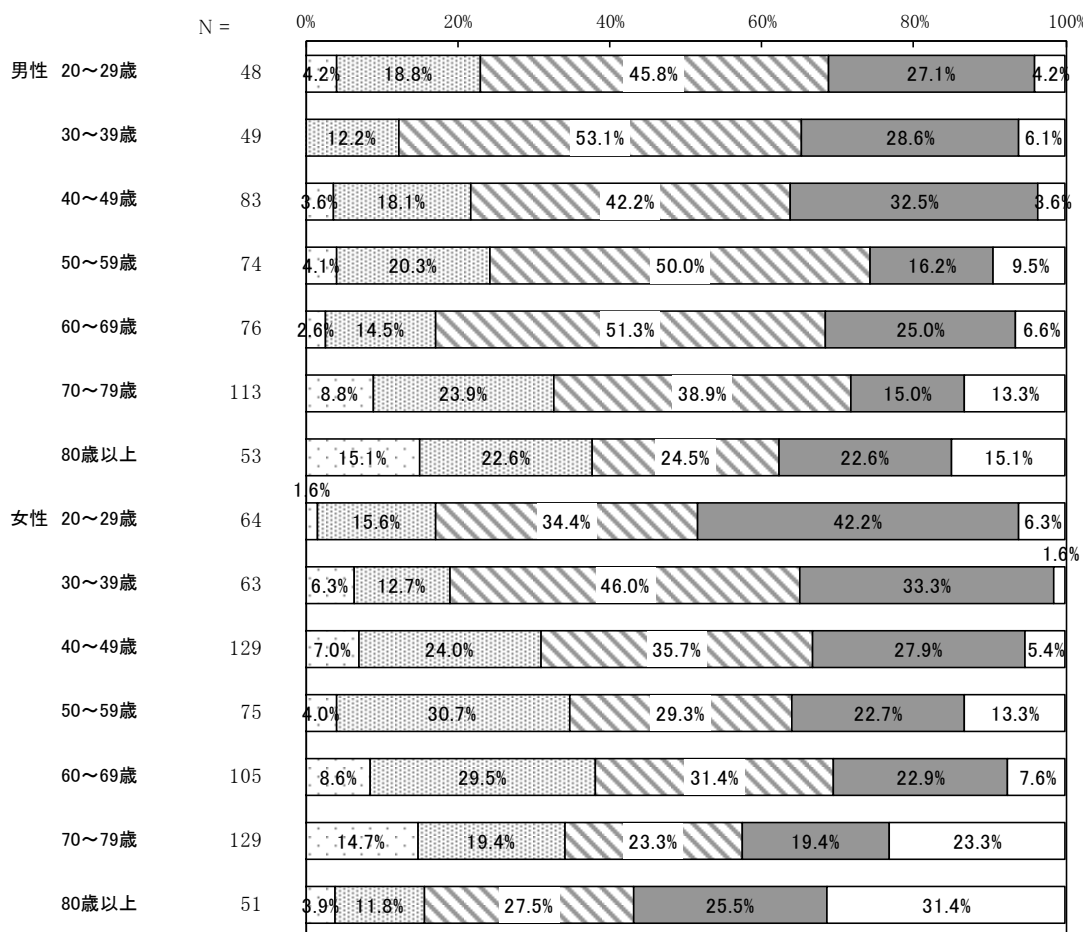
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の80歳以上、女性の70～79歳で「当然だと思う」の割合が高くなっています。女性の50～69歳で「仕方ない」の割合が高くなっています。

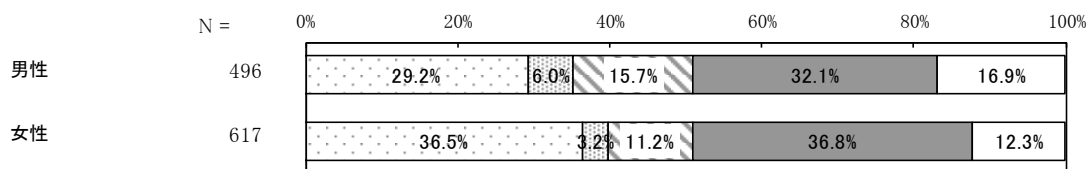


（２）現状

【性別】

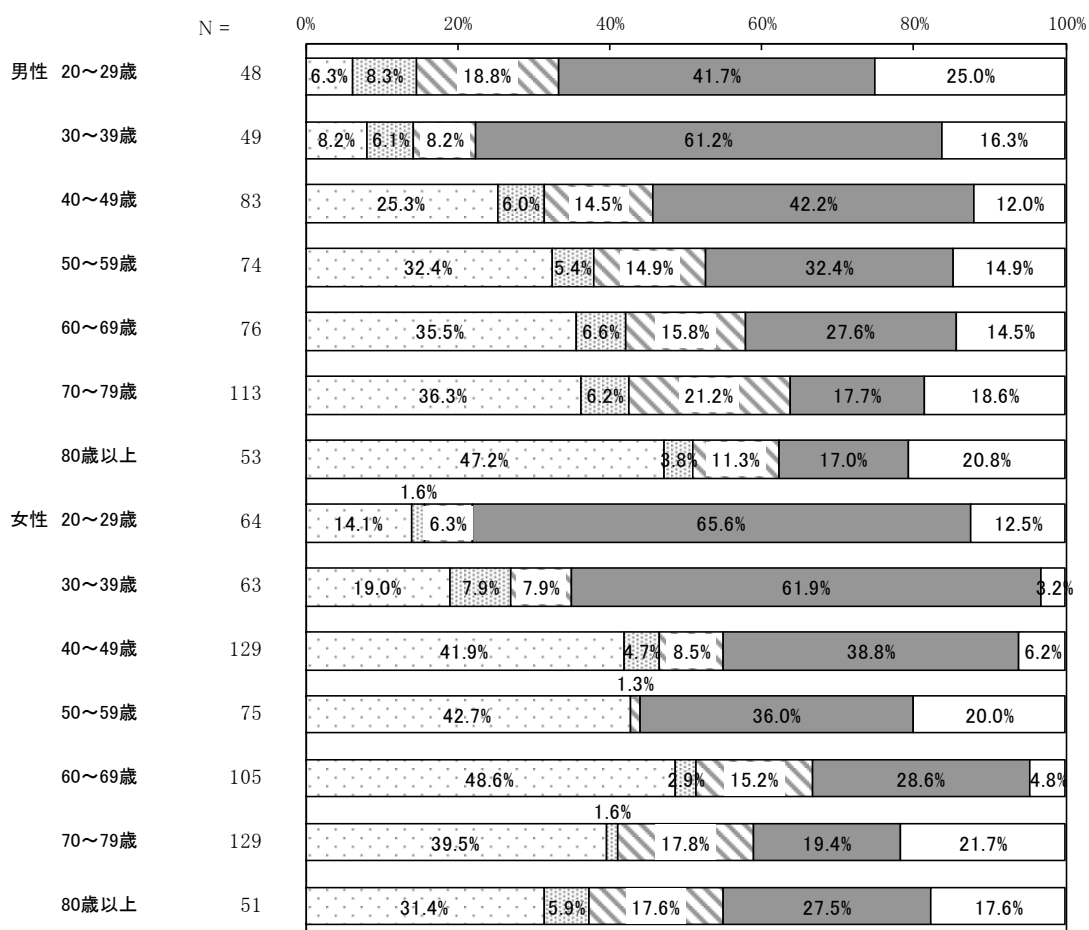
性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。

□そうしている □そうしていない □どちらでもない □わからない □無回答



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男女とも40歳以上で「そうしている」の割合が高くなっています。

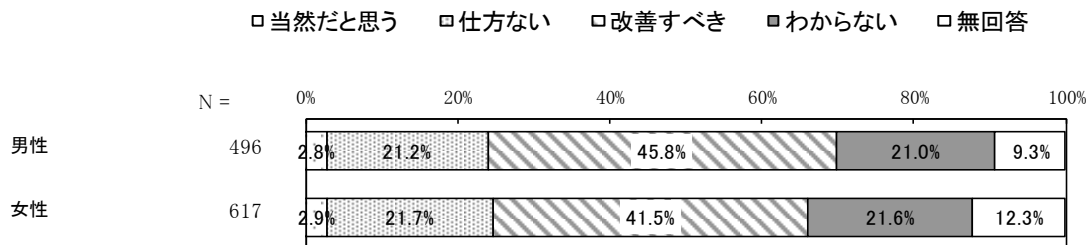


③ 自治区の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている

(1) 意識

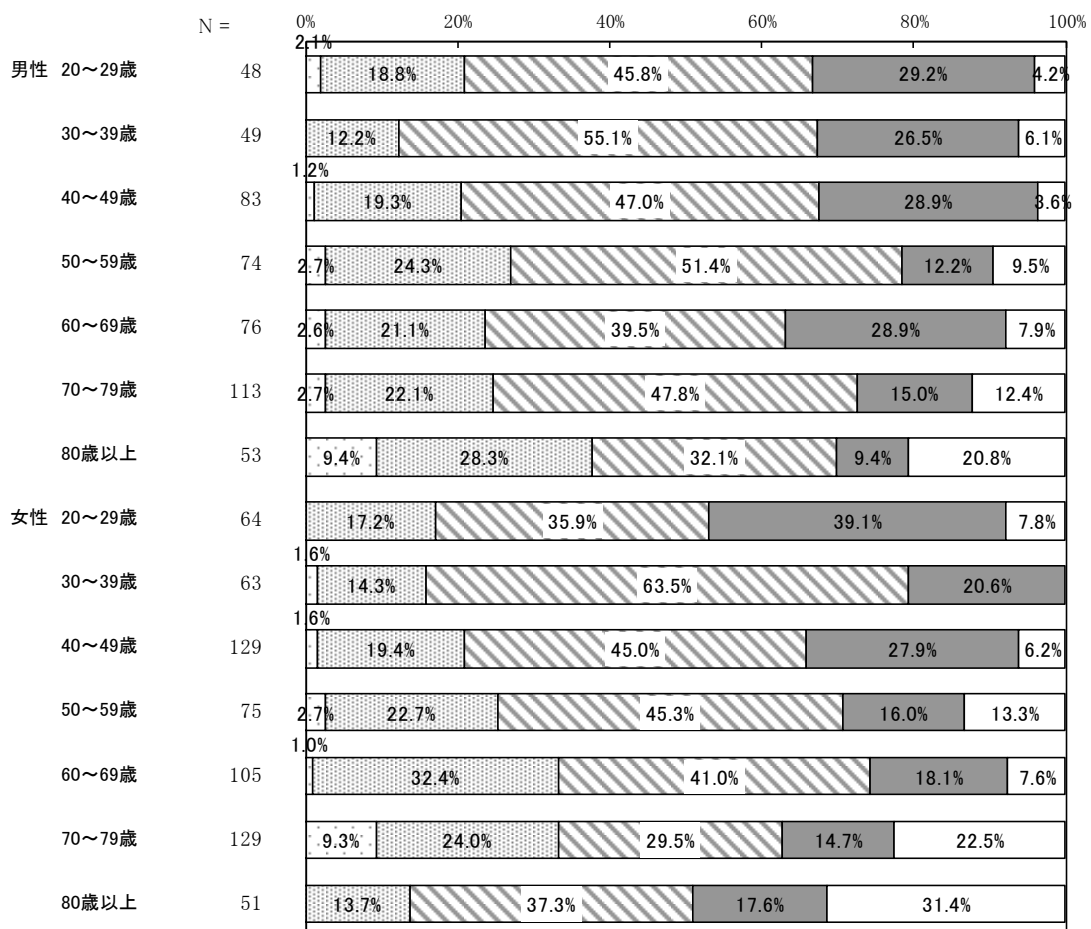
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の30～39歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



（２）現状

【性別】

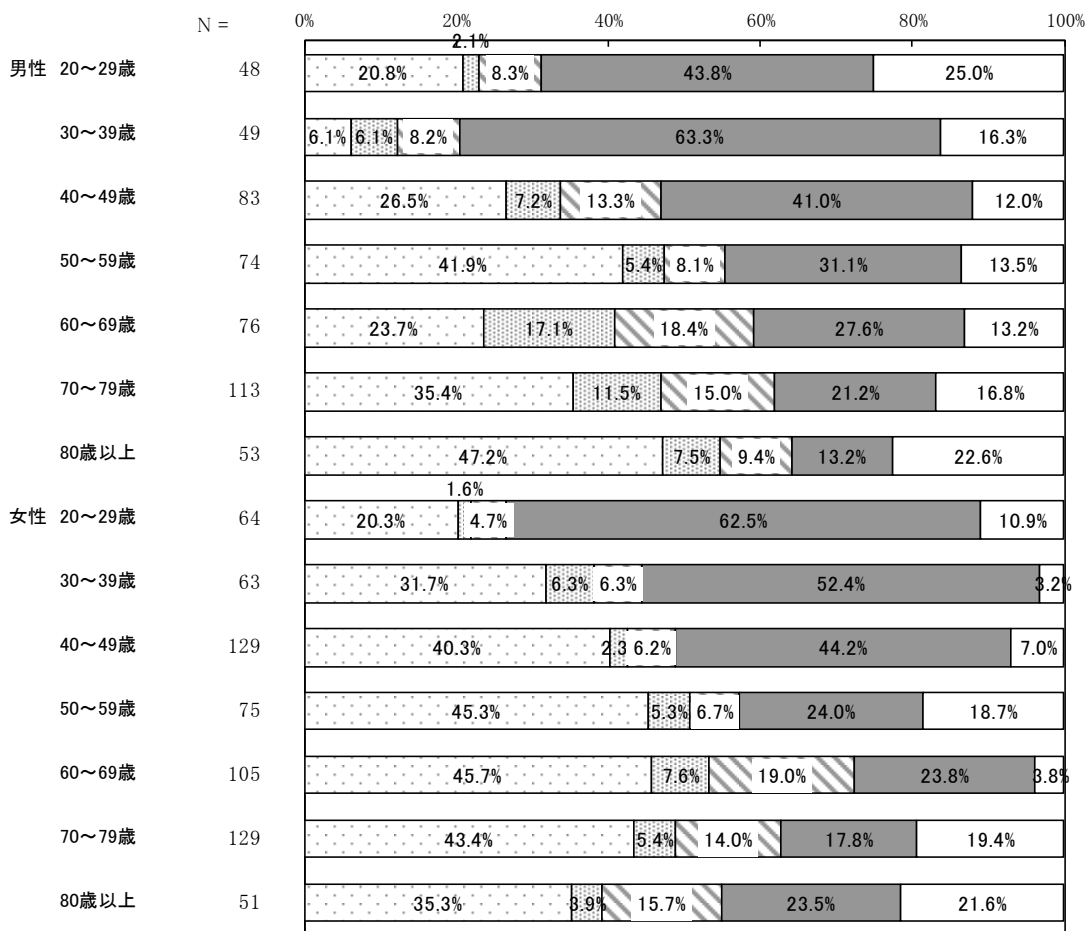
性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。

□そうしている □そうしていない □どちらでもない □わからない □無回答



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の50～59歳、80歳以上、女性の40～79歳で「そうしている」の割合が高くなっています。男性の60～69歳で「そうしていない」の割合が高くなっています。

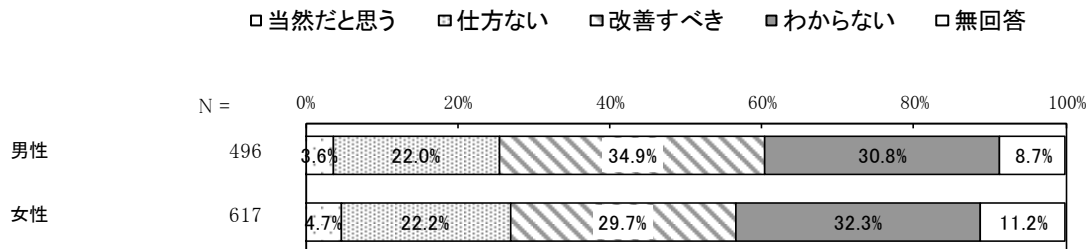


④ 女性は役職につきたがらない

(1) 意識

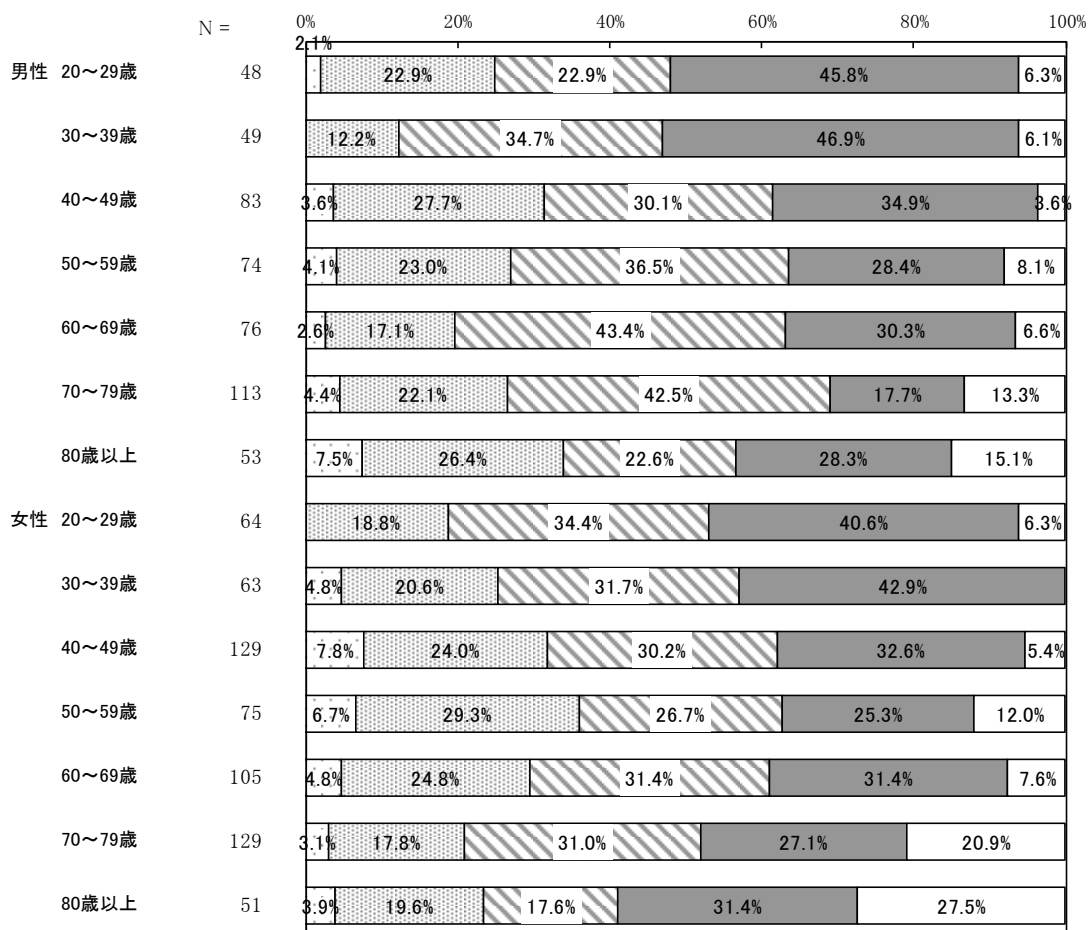
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

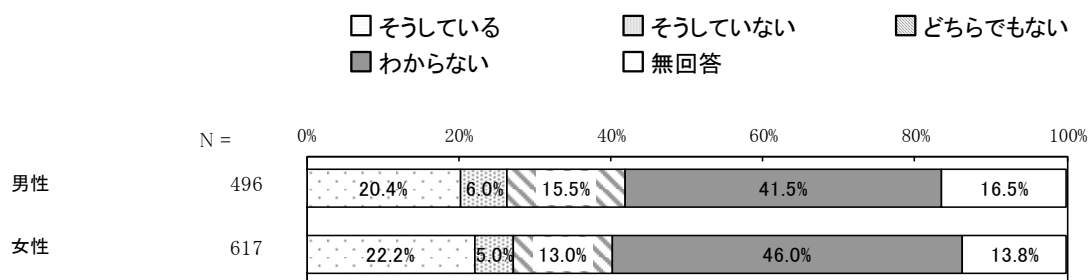
性・年齢別でみると、男性の60～79歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



（２）現状

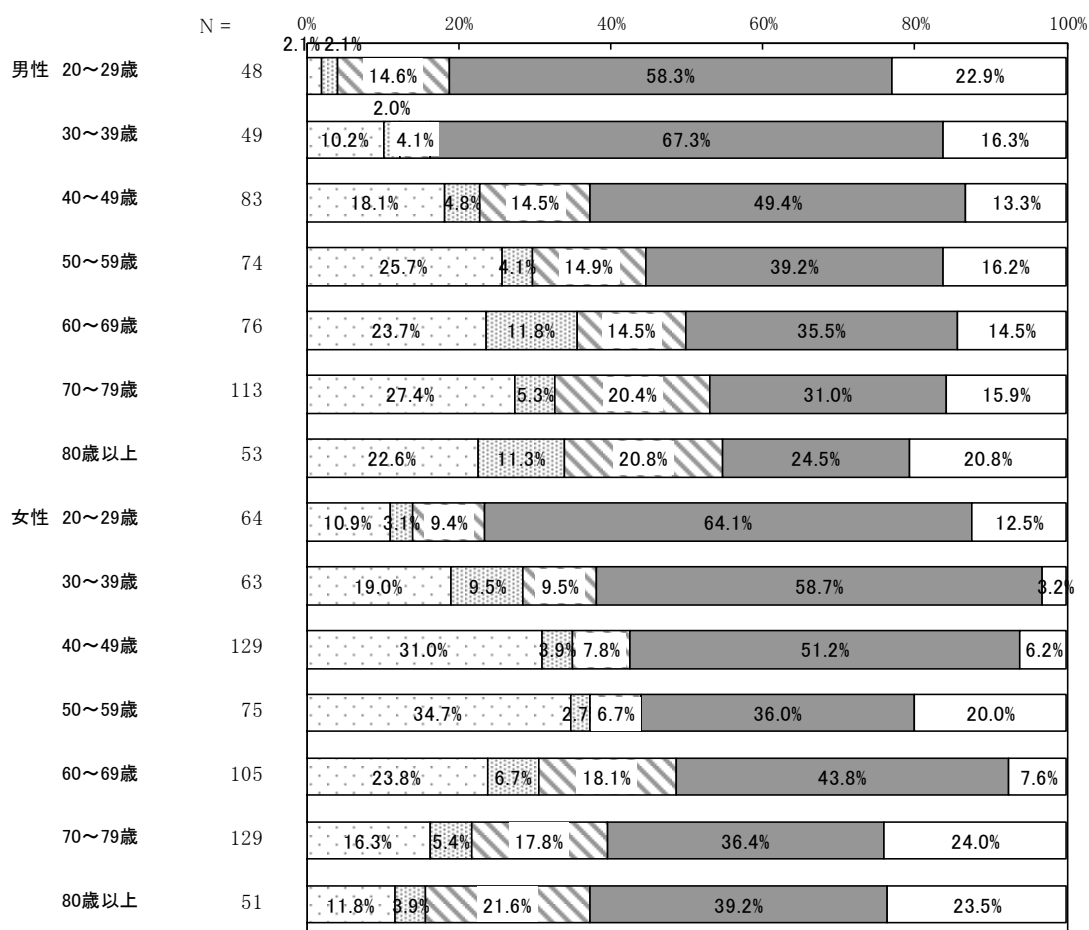
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳で「そうしている」の割合が低くなっています。

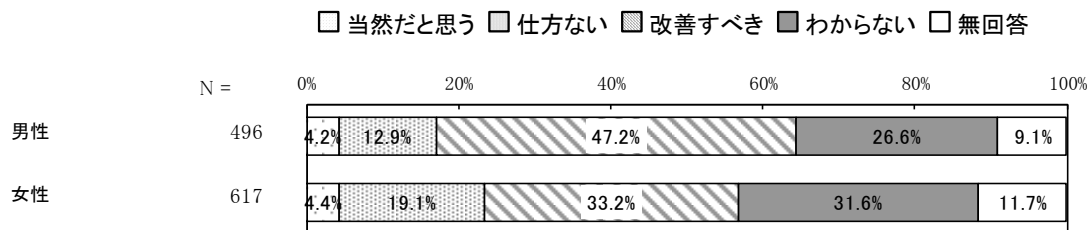


⑤ 自治区の集会では、男性が上座に座る

(1) 意識

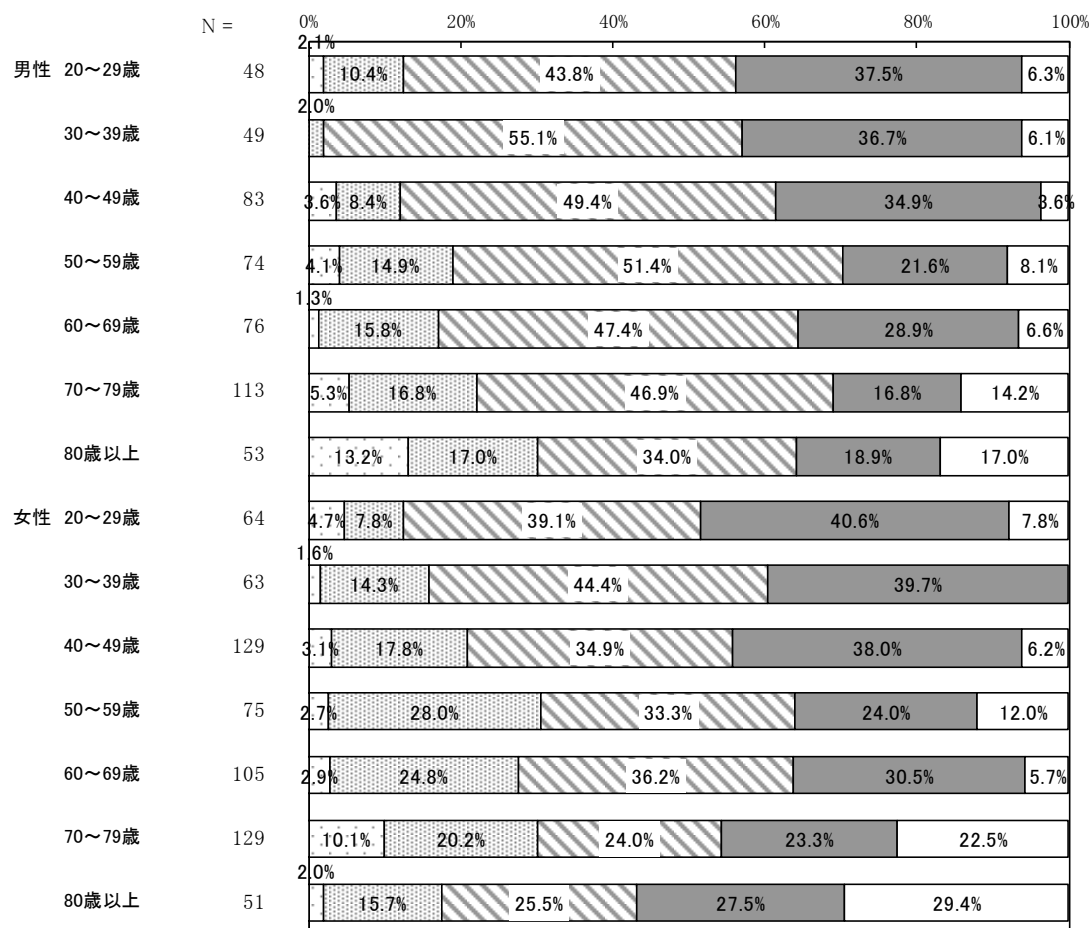
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

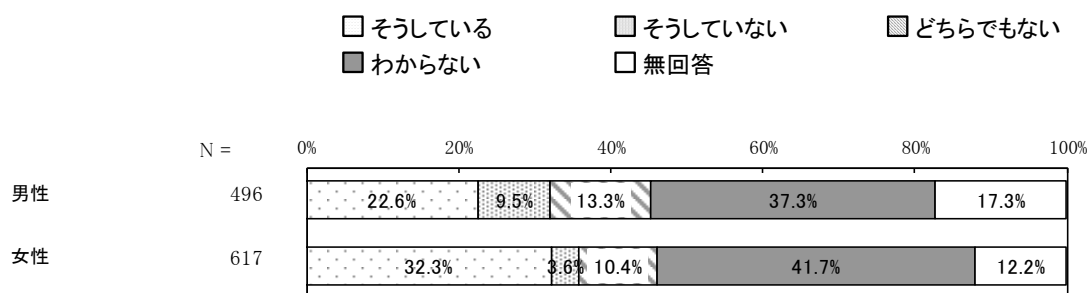
性・年齢別でみると、大きな差異はみられません。



（２）現状

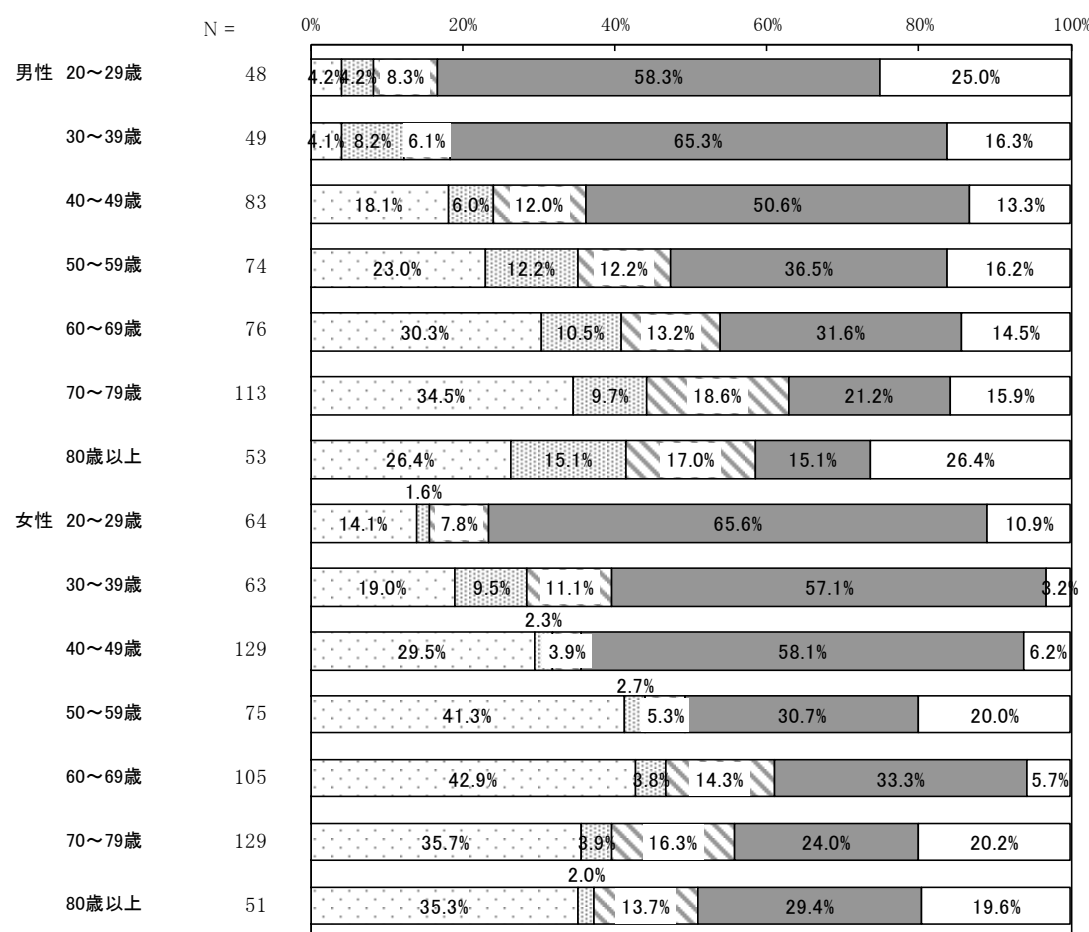
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の 50～69 歳で「そうしている」の割合が高くなっています。

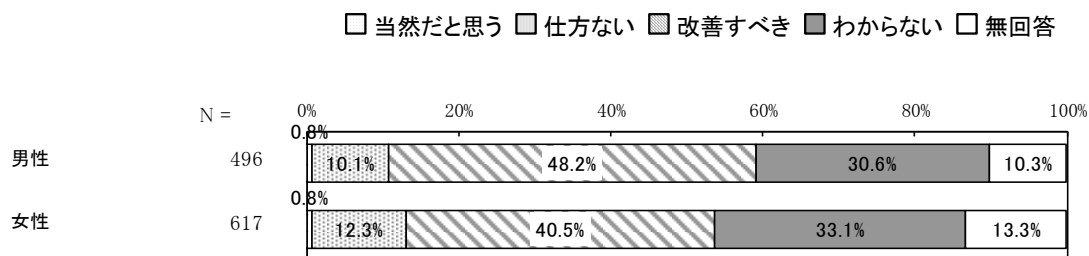


⑥ 女性が発言することは少ない

(1) 意識

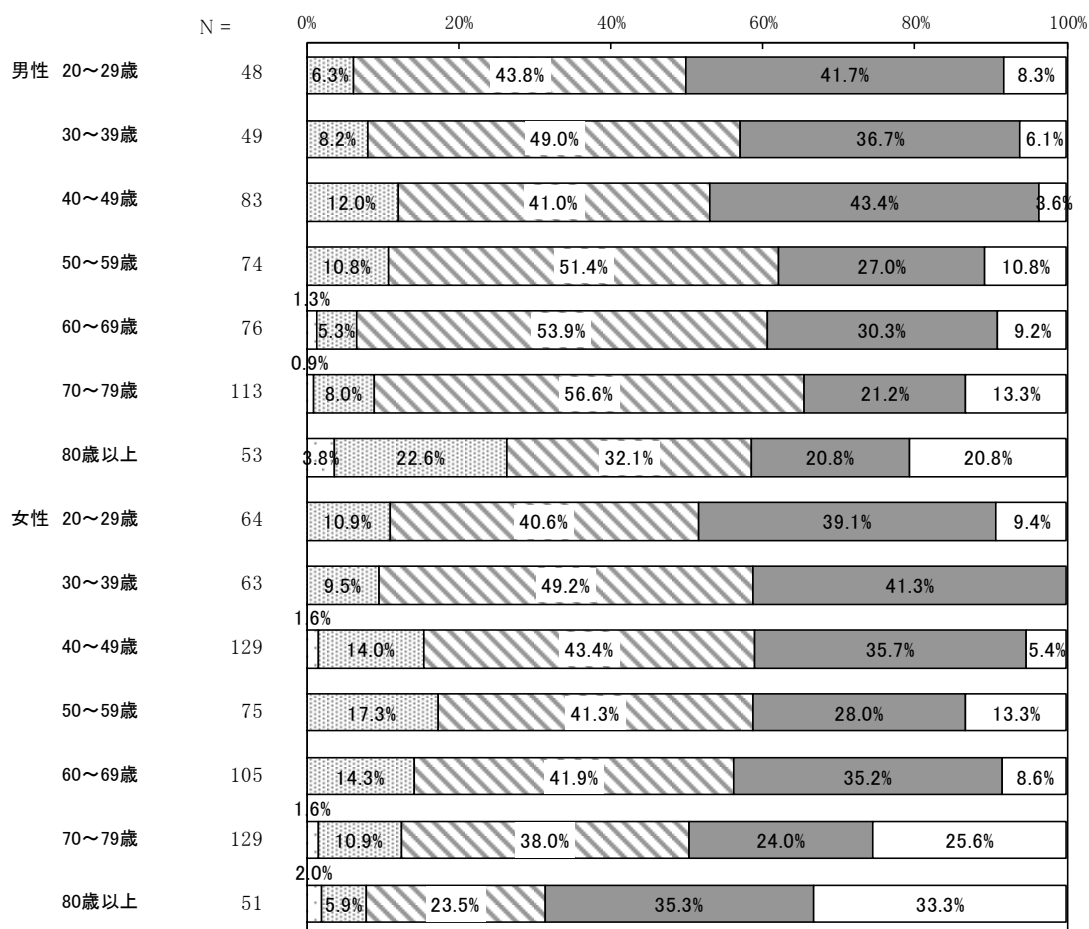
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

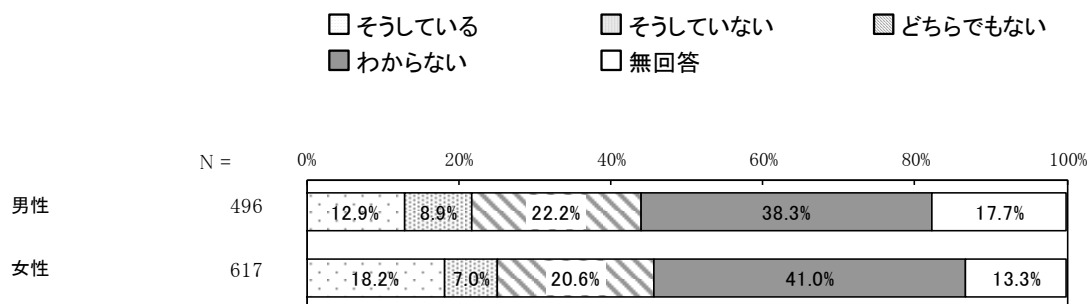
性・年齢別でみると、男性の80歳以上で「仕方がない」の割合が高くなっています。



（２）現状

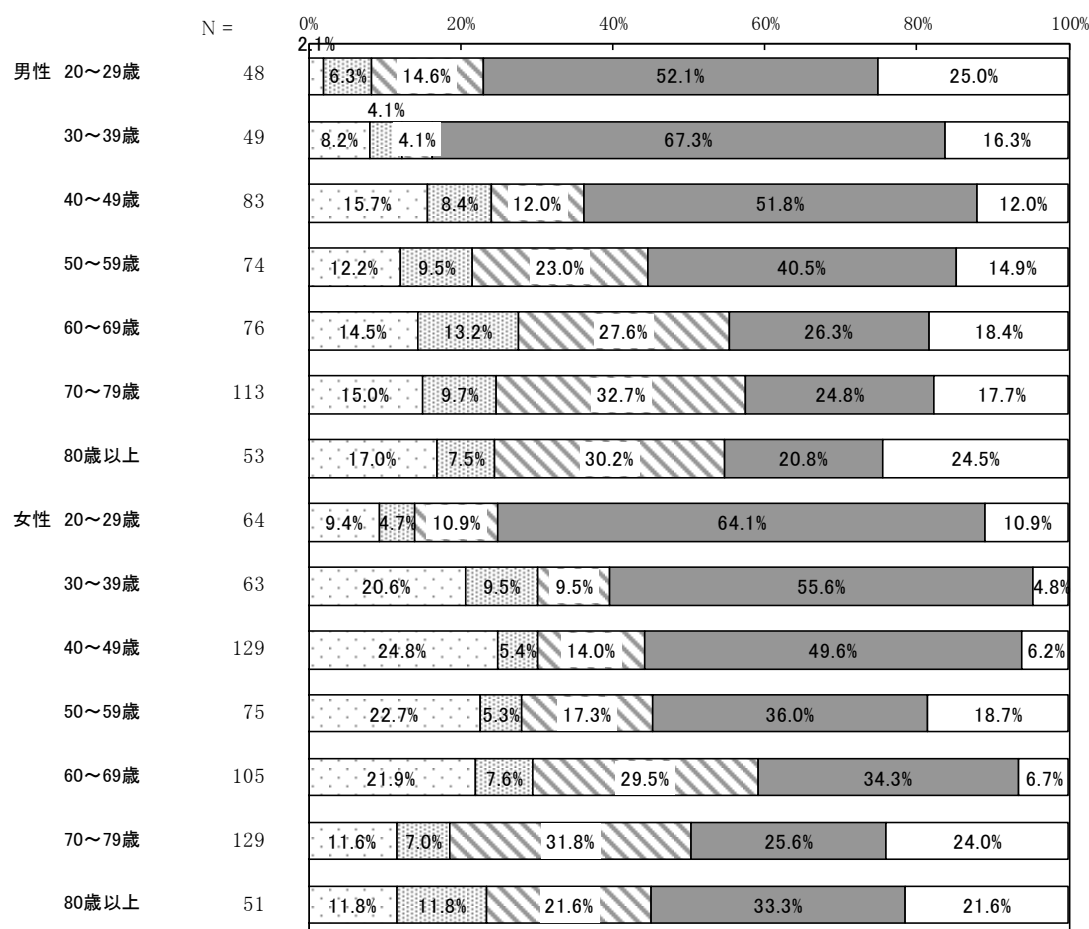
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、大きな差異はみられません。

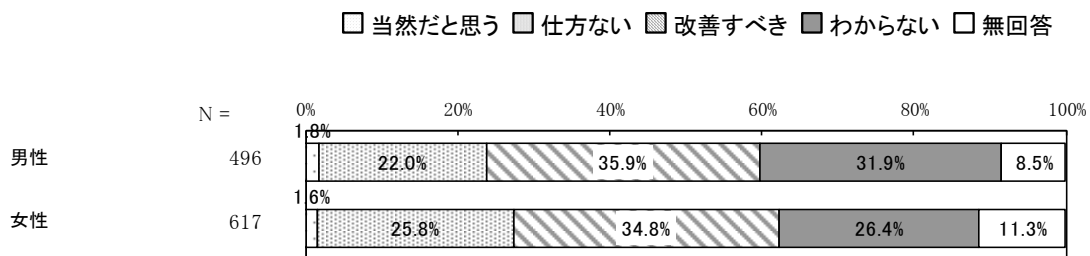


⑦ 自治区の組長などの登録は男性（夫）だが、実際は女性（妻）が出席することが多い

（１）意識

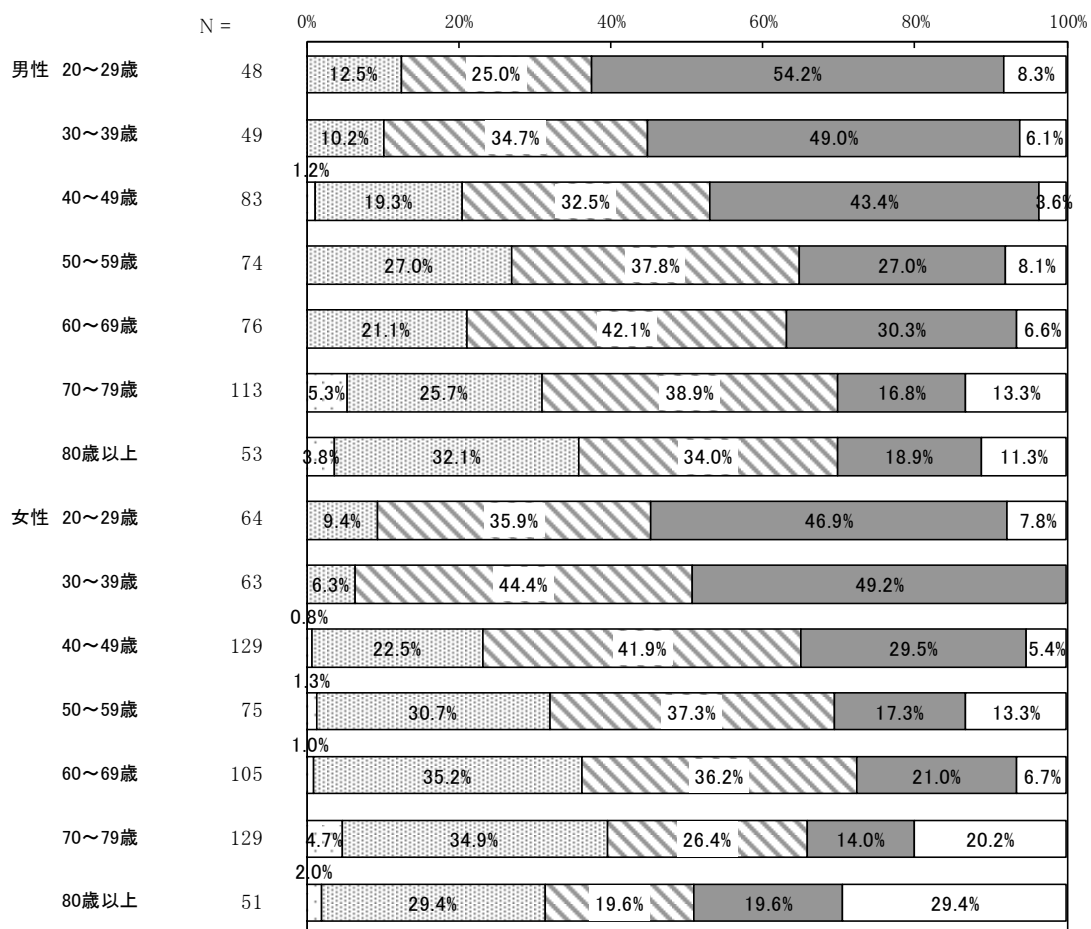
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

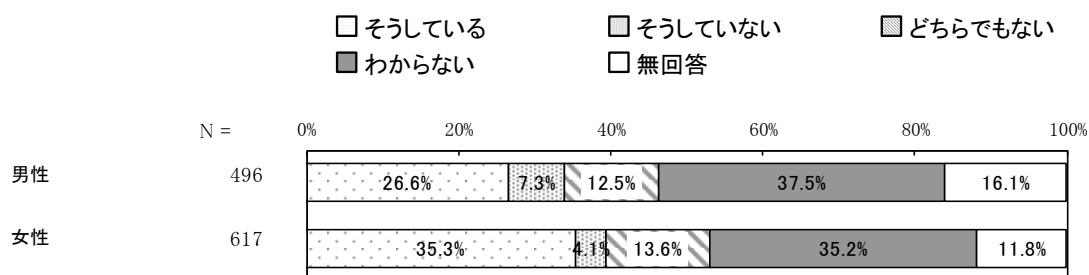
性・年齢別でみると、男女ともに 20～39 歳で「仕方がない」の割合が低くなっています。



（２）現状

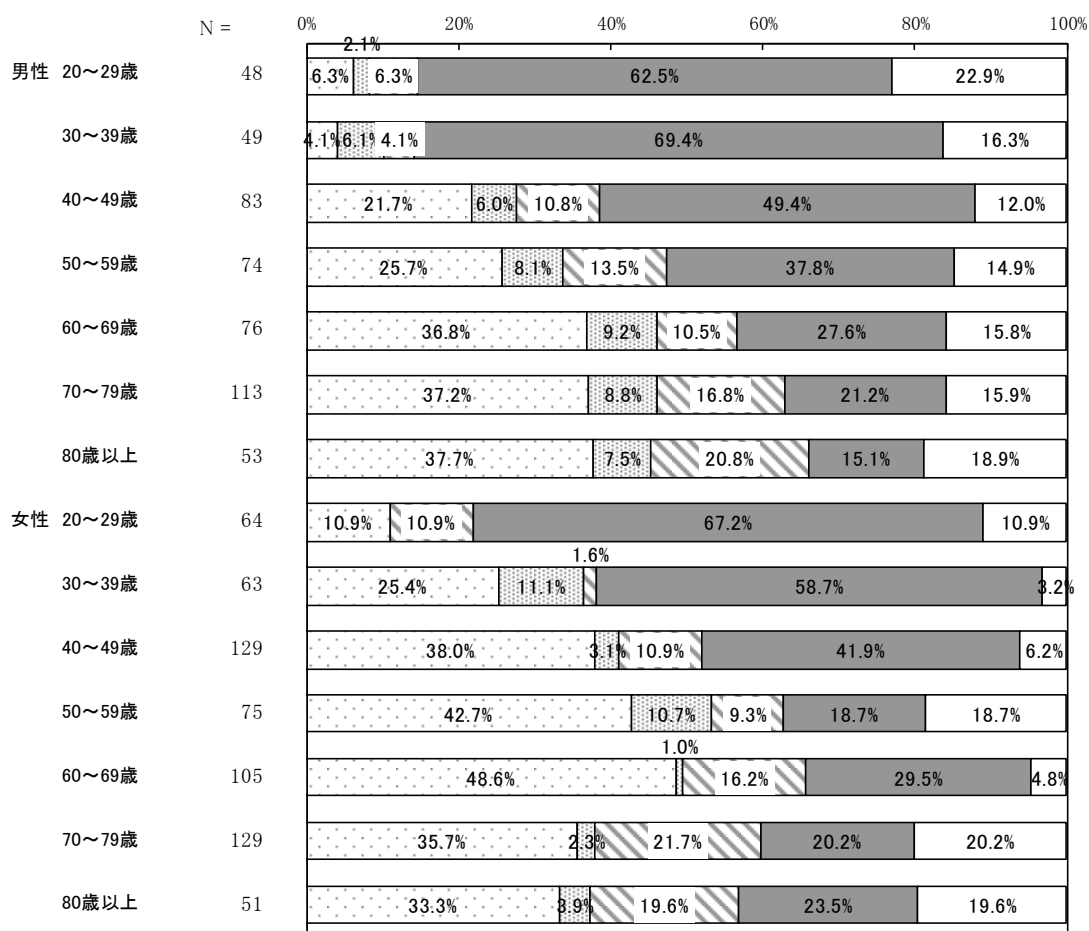
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の 60 歳以上、女性の 40 歳以上で「そうしている」の割合が高くなっています。

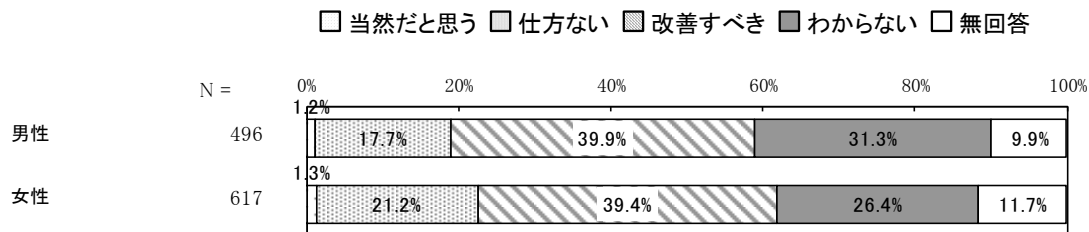


⑧ 実質的な活動はほとんど女性が参加する

(1) 意識

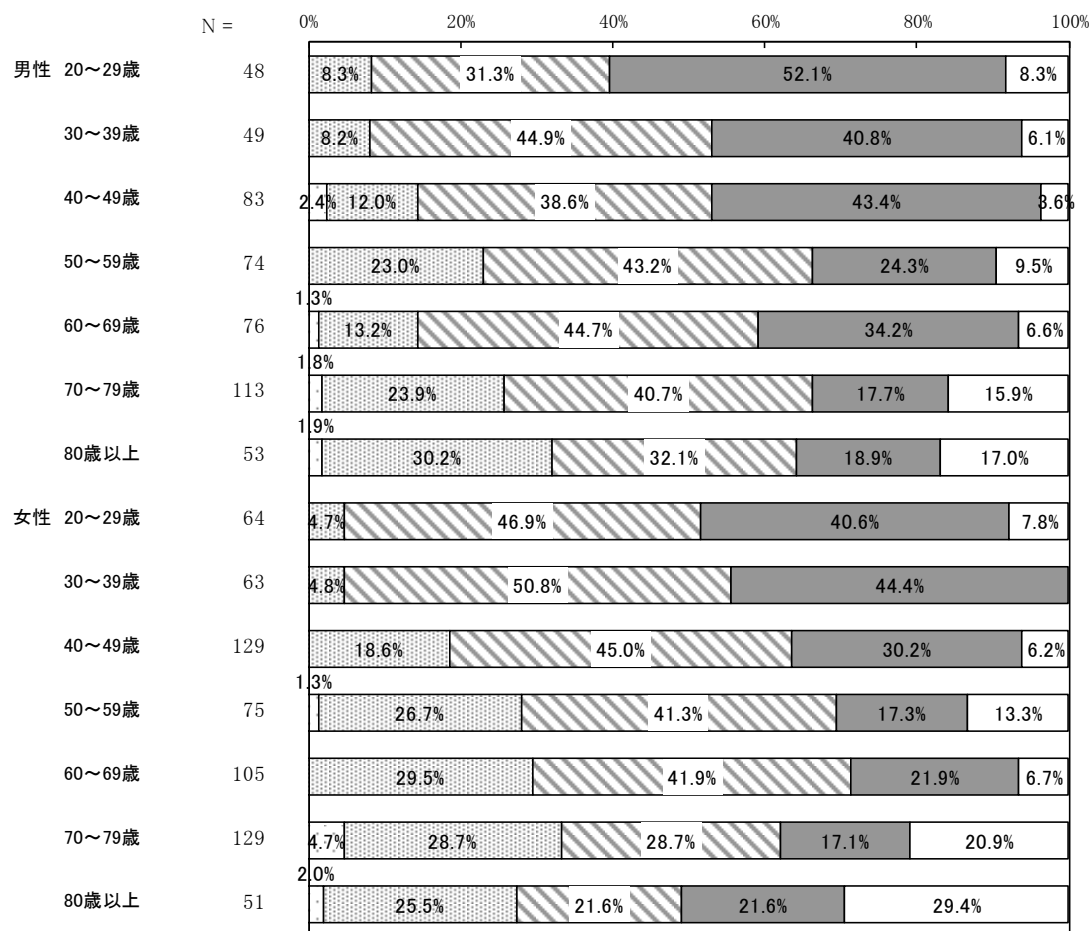
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

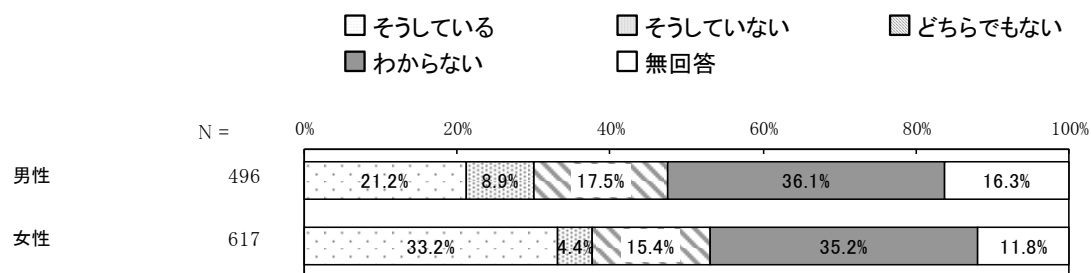
性・年齢別でみると、女性の80歳以上で「改善すべき」の割合が低くなっています。



（２） 現状

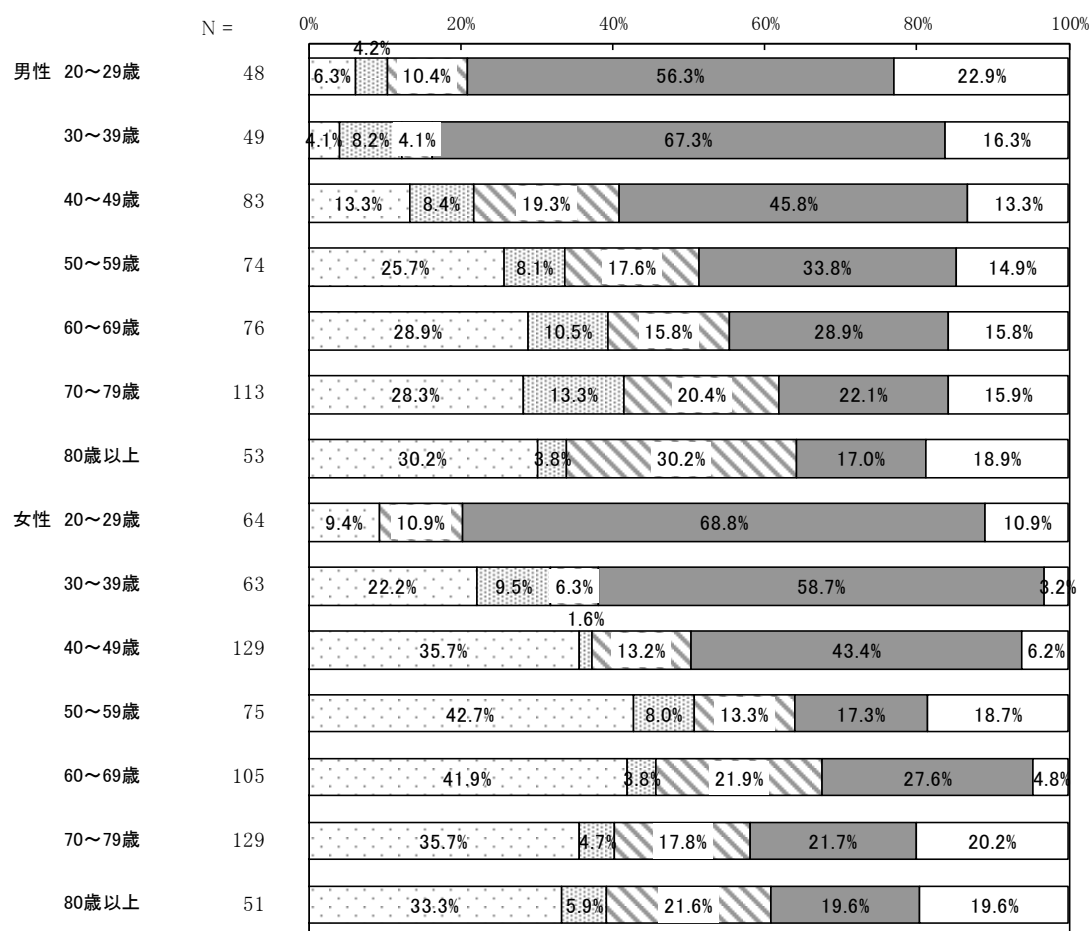
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

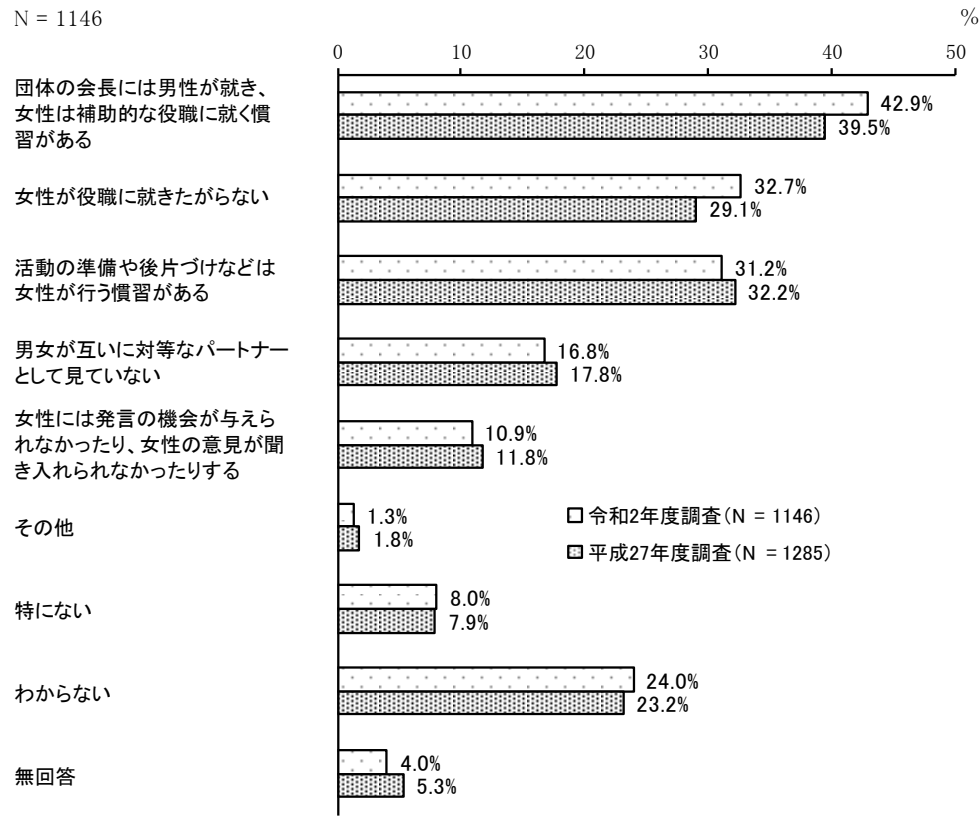
性・年齢別でみると、女性の 50～69 歳で「そうしている」の割合が高くなっています。男性の 80 歳以上で「どちらでもない」の割合が高くなっています。



問6. あなたが、地域活動における男女の役割分担などに差があると考えられることは何ですか。(〇印いくつでも)

「団体の会長には男性が就き、女性は補助的な役職に就く慣習がある」の割合が42.9%と最も高く、次いで「女性が役職に就きたがらない」の割合が32.7%「活動の準備や後片づけなどは女性が行う慣習がある」の割合が31.2%となっています。

平成27年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「活動の準備や後片づけなどは女性が行う慣習がある」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	男性が見て互いに対等なパートナーとして	女性に就きたがらない	女性に就きたがらない	補助的な役職に就く慣習がある	活動の準備や後片づけなどは女性が行う慣習がある	その他	特にない	わからない	無回答
男性	496	13.9%	7.7%	36.7%	40.3%	24.4%	0.4%	9.9%	24.0%	4.4%
女性	617	19.6%	13.5%	29.5%	45.9%	37.1%	1.6%	6.8%	23.7%	3.2%

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の70歳以上で「女性が役職に就きたがらない」の割合が高くなっています。男性の80歳以上、女性の30～59歳で「活動の準備や後片づけなどは女性が行う慣習がある」の割合が高くなっています。

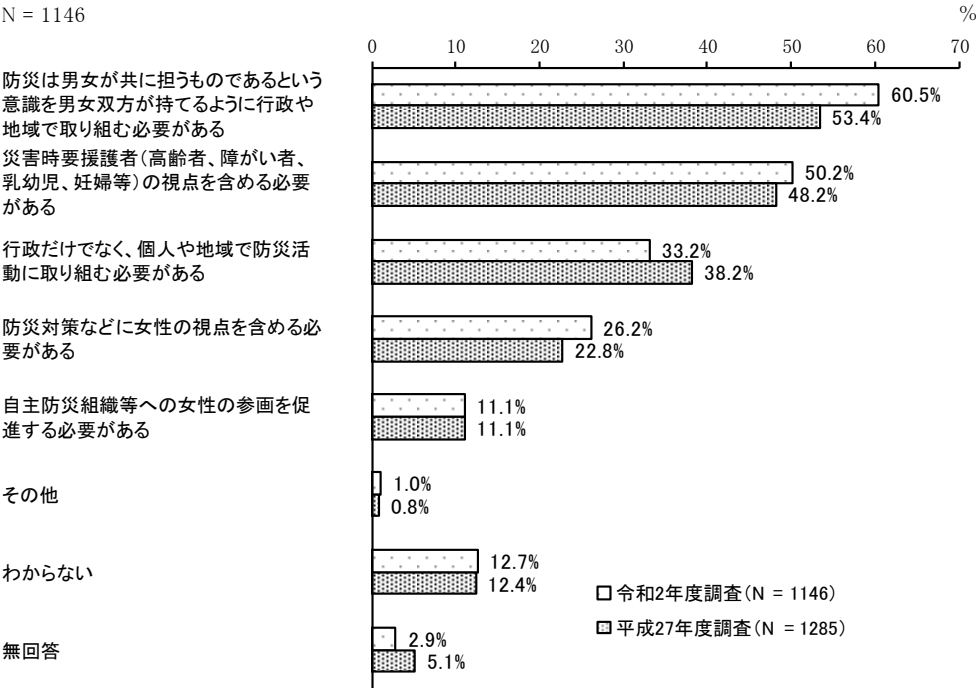
単位：％

区分	有効回答数（件）	男女が見ていない対等なパートナーとして	女性には発言の機会が与えられなかったり、女性の見解が聞き入れられない	女性が役職に就きたがらない	団体の会長には男性が就き、女性は補助的な役職に就く慣習がある	活動の準備や後片づけなどは女性が行う慣習がある	その他	特になし	わからない	無回答
男性 20～29歳	48	6.3%	8.3%	16.7%	37.5%	25.0%	－	8.3%	37.5%	－
30～39歳	49	20.4%	6.1%	26.5%	16.3%	16.3%	－	－	49.0%	2.0%
40～49歳	83	10.8%	12.0%	27.7%	33.7%	19.3%	－	10.8%	31.3%	2.4%
50～59歳	74	12.2%	6.8%	39.2%	41.9%	21.6%	1.4%	13.5%	20.3%	4.1%
60～69歳	76	11.8%	3.9%	39.5%	42.1%	23.7%	1.3%	10.5%	21.1%	5.3%
70～79歳	113	15.9%	8.8%	46.9%	48.7%	26.5%	－	11.5%	12.4%	7.1%
80歳以上	53	20.8%	5.7%	49.1%	52.8%	39.6%	－	9.4%	11.3%	7.5%
女性 20～29歳	64	28.1%	18.8%	18.8%	37.5%	31.3%	1.6%	4.7%	31.3%	－
30～39歳	63	23.8%	15.9%	15.9%	46.0%	42.9%	－	3.2%	28.6%	－
40～49歳	129	24.0%	20.9%	30.2%	39.5%	45.0%	3.9%	5.4%	24.0%	0.8%
50～59歳	75	28.0%	12.0%	29.3%	48.0%	44.0%	1.3%	2.7%	24.0%	2.7%
60～69歳	105	19.0%	9.5%	36.2%	57.1%	34.3%	1.0%	8.6%	21.0%	1.0%
70～79歳	129	8.5%	8.5%	35.7%	48.8%	32.6%	－	9.3%	18.6%	9.3%
80歳以上	51	9.8%	7.8%	29.4%	39.2%	25.5%	3.9%	13.7%	23.5%	7.8%

問 7. 地域の防災（災害対策）活動を推進するにあたり、あなたはどのようにお考えですか。（○印3つまで）

「防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」の割合が 60.5%と最も高く、次いで「災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある」の割合が 50.2%、「行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組む必要がある」の割合が 33.2%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、「防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」の割合が 7.1 ポイント増加しています。一方、「行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組む必要がある」の割合が 5 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」「自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	「防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」	「災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある」	「行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組む必要がある」	「自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある」	「防災対策などに女性の視点を含める必要がある」	その他	わからない	無回答
男性	496	64.3%	28.2%	46.4%	15.3%	32.3%	1.6%	11.1%	3.2%
女性	617	57.5%	25.0%	53.3%	7.8%	34.0%	0.5%	13.6%	2.4%

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、大きな差異はみられません。

単位：％

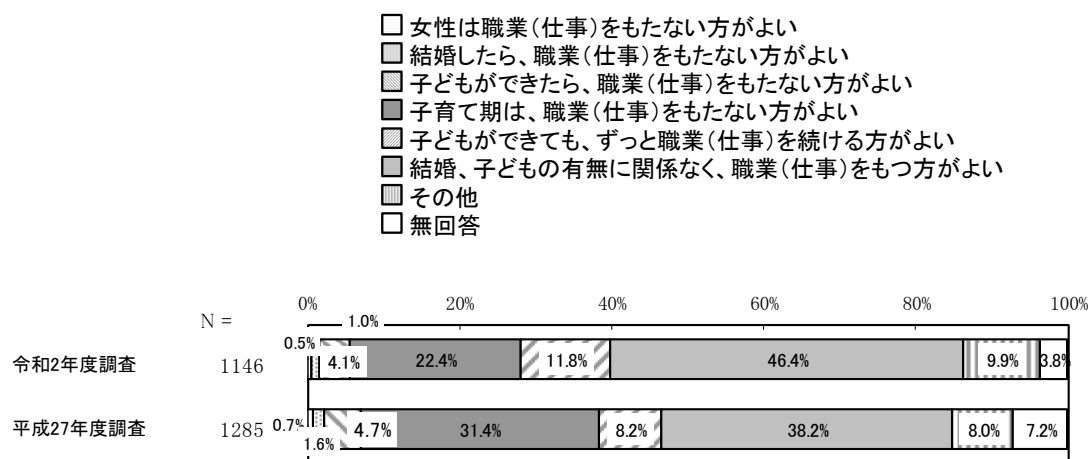
区分	有効回答数（件）	防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持つ必要があるに行政や地域で取り組む必要がある	防災対策などに女性の視点を含める必要がある	災害時要援護者（高齢者、障害者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある	自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある	活動だけでなく、個人や地域で防災行政だけに頼らず、必要がある	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	48	60.4%	18.8%	33.3%	8.3%	33.3%	2.1%	14.6%	2.1%
30～39歳	49	46.9%	30.6%	44.9%	2.0%	26.5%	－	28.6%	2.0%
40～49歳	83	65.1%	34.9%	51.8%	18.1%	25.3%	－	7.2%	2.4%
50～59歳	74	52.7%	39.2%	52.7%	6.8%	29.7%	4.1%	13.5%	1.4%
60～69歳	76	67.1%	25.0%	40.8%	15.8%	26.3%	5.3%	7.9%	3.9%
70～79歳	113	75.2%	25.7%	44.2%	23.9%	39.8%	－	5.3%	5.3%
80歳以上	53	71.7%	18.9%	54.7%	22.6%	43.4%	－	11.3%	3.8%
女性 20～29歳	64	57.8%	29.7%	54.7%	－	31.3%	－	12.5%	－
30～39歳	63	55.6%	23.8%	58.7%	4.8%	36.5%	－	14.3%	－
40～49歳	129	50.4%	30.2%	52.7%	7.8%	24.8%	1.6%	12.4%	2.3%
50～59歳	75	53.3%	28.0%	57.3%	2.7%	26.7%	1.3%	13.3%	2.7%
60～69歳	105	66.7%	22.9%	61.0%	5.7%	44.8%	－	7.6%	1.0%
70～79歳	129	64.3%	19.4%	45.7%	15.5%	38.8%	－	17.8%	3.9%
80歳以上	51	47.1%	21.6%	43.1%	13.7%	35.3%	－	19.6%	7.8%

（４）女性活躍推進について

問８．女性が職業（仕事）をもつことについて、どう思いますか。（○印１つ）

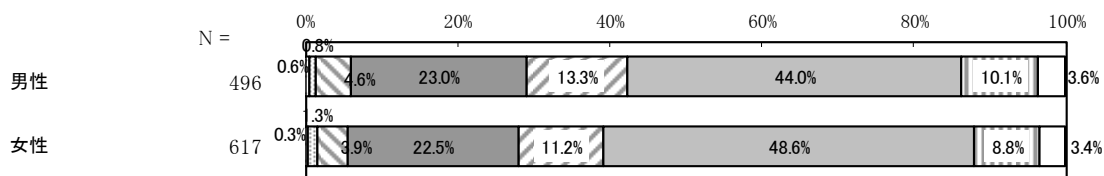
「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」の割合が 46.4%と最も高く、次いで「子育て期は、職業（仕事）をもたない方がよい」の割合が 22.4%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」の割合が 8.2 ポイント増加しています。一方、「子育て期は、職業（仕事）をもたない方がよい」の割合が 9.0 ポイント減少しています。



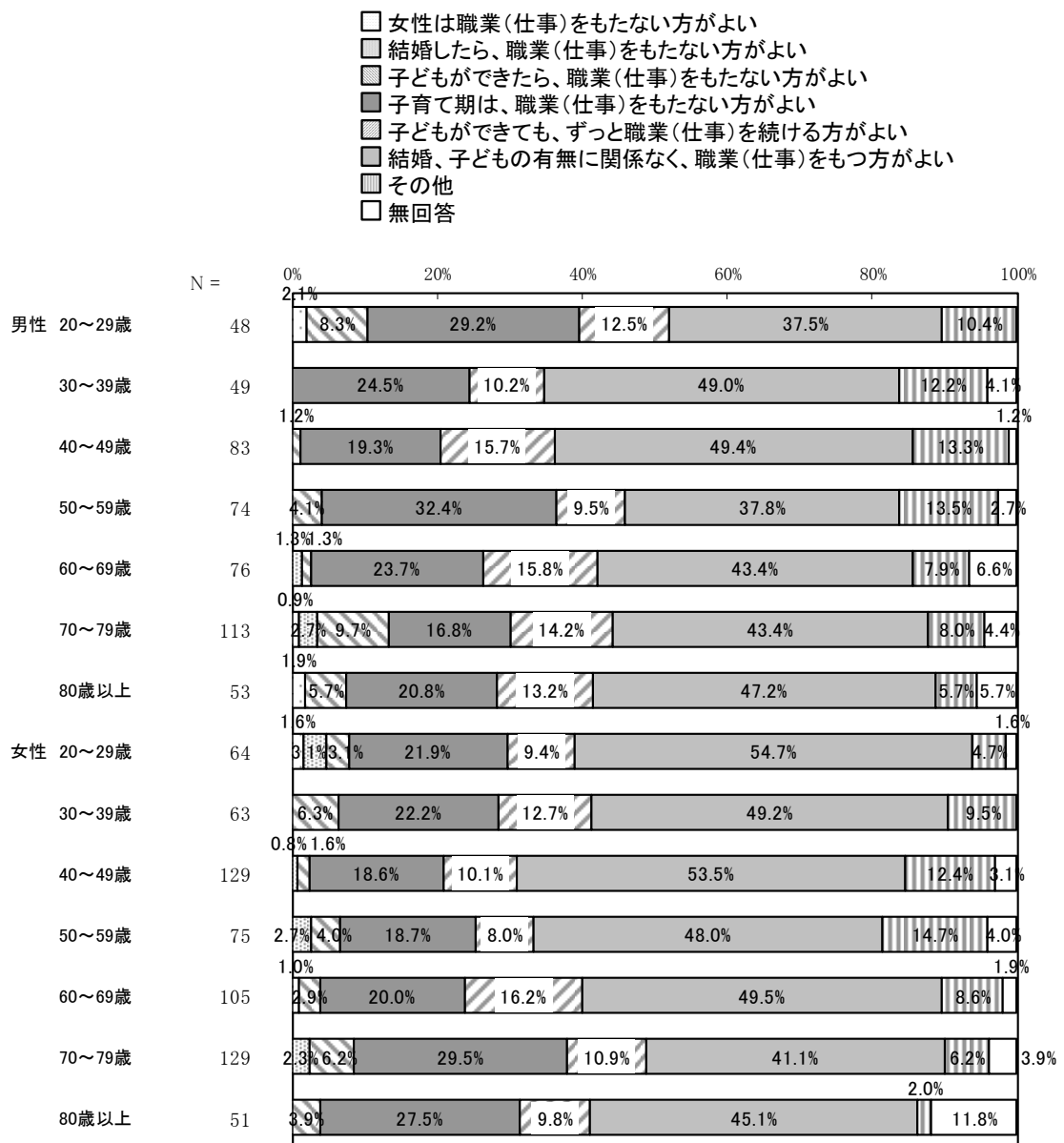
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

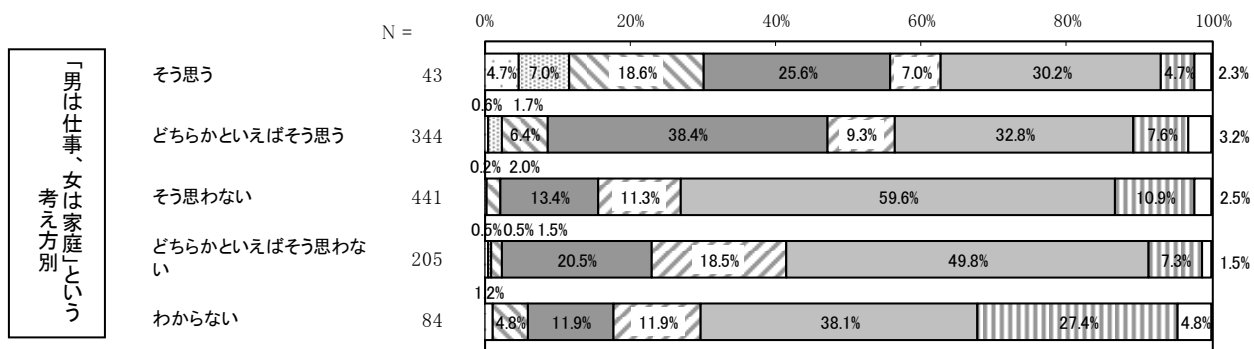
性・年齢別でみると、男女ともにすべての年齢で「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」の割合が高くなっています。



【性別役割分担意識別】

性別役割分担意識別でみると、どちらかといえばそう思うで「子育て期は、職業（仕事）をもたない方がよい」の割合が高くなっています。また、そう思わない、どちらかといえばそう思わないで「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」の割合が高くなっています。

- ☐ 女性は無職（仕事）をもたない方がよい
- ☐ 結婚したら、職業（仕事）をもたない方がよい
- ☐ 子どもができたら、職業（仕事）をもたない方がよい
- ☐ 子育て期は、職業（仕事）をもたない方がよい
- ☐ 子どもができて、ずっと職業（仕事）を続ける方がよい
- ☐ 結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい
- ☐ その他
- ☐ 無回答



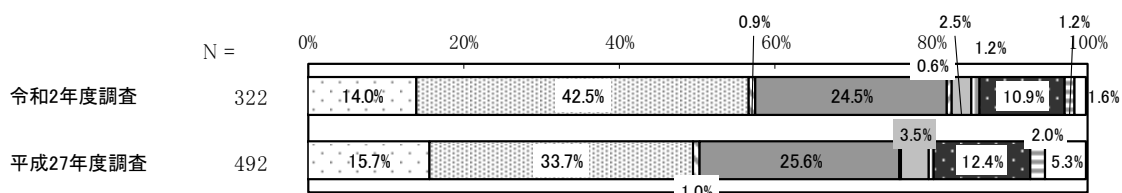
問9. (問8で1~4と回答した方に)

職業(仕事)をもたない方がよいと考える理由は何ですか。(○印1つ)

「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」の割合が42.5%と最も高く、次いで「子育て期は、会社負担をかけることが多いと思うから(保育園の送り迎え、子どもの病気、学校の行事など)」の割合が24.5%、「結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がいいと思うから」の割合が14.0%となっています。

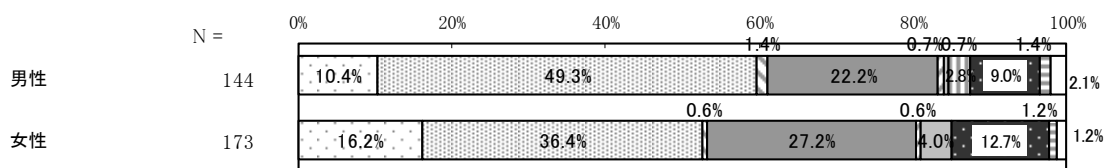
平成27年度調査と比較すると、「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」の割合が8.8ポイント増加しています。

- ☐ 結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がいいと思うから
- ☐ 結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから
- ☐ 仕事することについて家族の理解が得られないと思うから
- ☐ 子育て期は、会社負担をかけることが多いと思うから(保育園の送り迎え、子どもの病気、学校の行事など)
- ☐ 経済的に働く必要がない
- ☐ パートナーの勤務形態(夜勤・変則勤務)により、家庭と仕事を両立させるのは困難だと思うから
- ☐ 自分の親や周囲の人がそうしているから
- ☐ その他
- ☐ 特に考えたことはない
- ☐ 無回答



【性別】

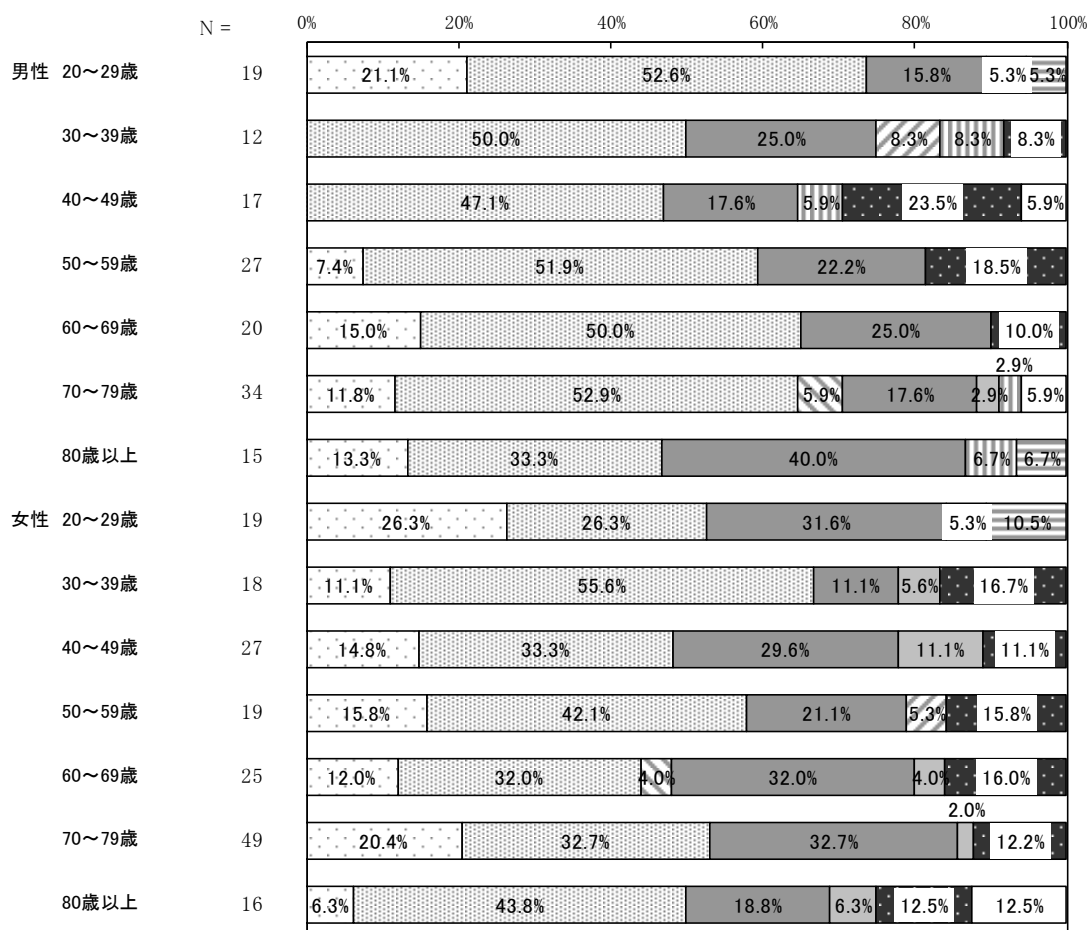
性別でみると、女性に比べ男性で「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がいいと思うから」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の20～29歳で「結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がいいと思うから」の割合が高くなっています。男性の20～79歳、女性の30～39歳で「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」の割合が高くなっています。男性の80歳以上、女性の20～29歳、40～49歳、60～79歳で「子育て期は、会社負担をかけることが多いと思うから（保育園の送り迎え、子どもの病気、学校の行事など）」の割合が高くなっています。

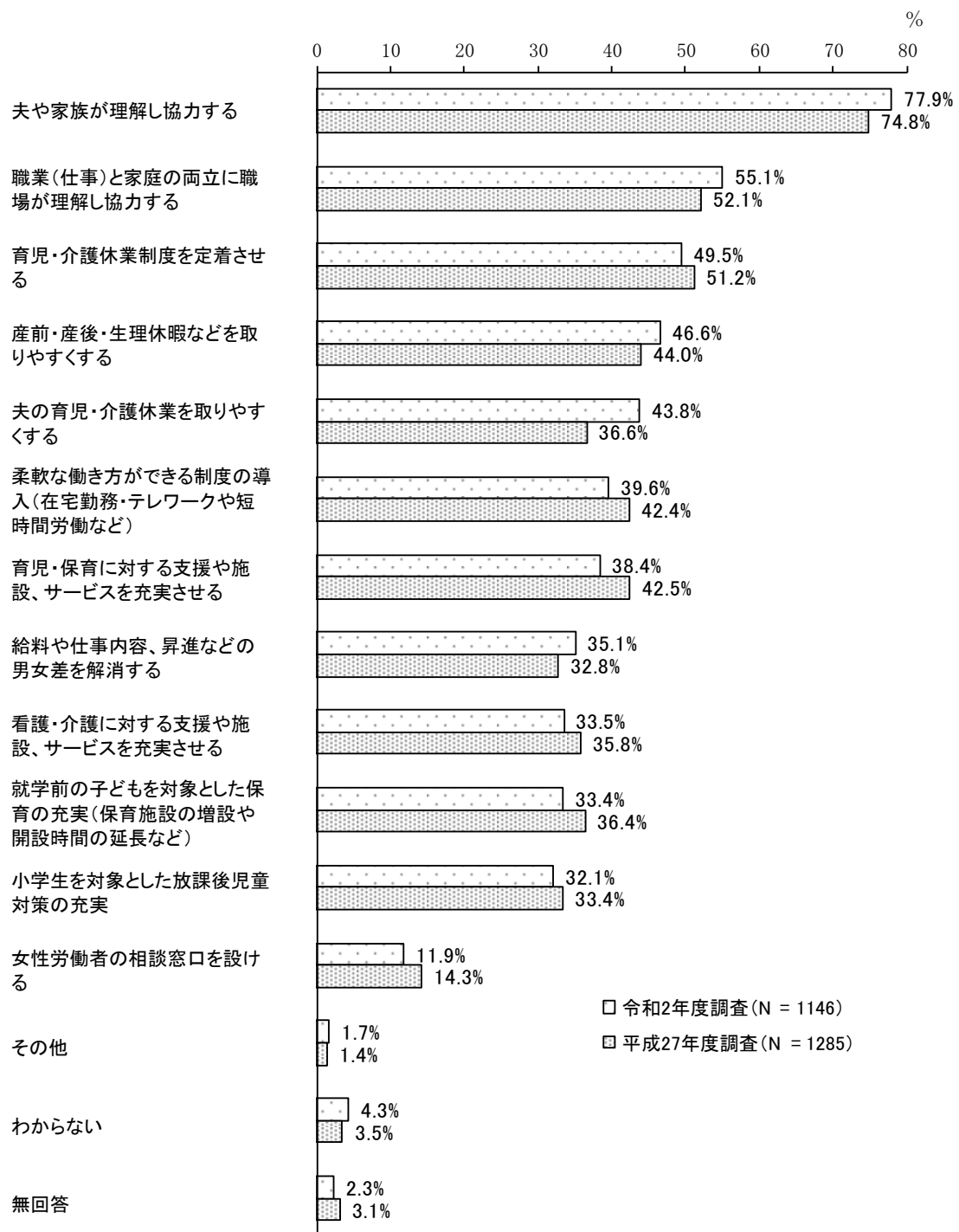
- ☐ 結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がいいと思うから
- ☐ 結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから
- ☐ 仕事することについて家族の理解が得られないと思うから
- ☐ 子育て期は、会社負担をかけることが多いと思うから（保育園の送り迎え、子どもの病気、学校の行事など）
- ☐ 経済的に働く必要性がない
- ☐ パートナーの勤務形態（夜勤・変則勤務）により、家庭と仕事を両立させるのは困難だと思うから
- ☐ 自分の親や周囲の人がそうしているから
- ☐ その他
- ☐ 特に考えたことはない
- ☐ 無回答



問 10. 女性が安心して働き続ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印いくつでも)

「夫や家族が理解し協力する」の割合が 77.9%と最も高く、次いで「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」の割合が 55.1%、「育児・介護休業制度を定着させる」の割合が 49.5%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、「夫の育児・介護休業を取りやすくする」の割合が 7.2 ポイント高くなっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「夫や家族が理解し協力する」「育児・介護休業制度を定着させる」「給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する」「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」「産前・産後・生理休暇などを取りやすくする」「夫の育児・介護休業を取りやすくする」「看護・介護に対する支援や施設、サービスを充実させる」「就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）」「小学生を対象とした放課後児童対策の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	夫や家族が理解し協力する	育児・介護休業制度を定着させる	給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する	職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する	産前・産後・生理休暇などを取りやすくする	夫の育児・介護休業を取りやすくする	育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる	看護・介護に対する支援や施設、サービスを充実させる	女性労働者の相談窓口を設ける	柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務・テレワークや短時間労働など）	就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）	小学生を対象とした放課後児童対策の充実	その他	わからない	無回答
男性	496	73.0%	46.0%	32.5%	52.4%	43.5%	40.7%	36.3%	28.0%	11.3%	38.1%	27.0%	22.8%	1.6%	4.6%	2.8%
女性	617	83.0%	53.0%	37.8%	57.9%	49.8%	47.0%	40.5%	38.1%	12.3%	41.5%	39.4%	40.0%	1.3%	3.7%	1.5%

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の20～29歳で「育児・介護休業制度を定着させる」「給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する」「産前・産後・生理休暇などを取りやすくする」「夫の育児・介護休業を取りやすくする」「育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる」の割合が高くなっています。女性の20～39歳で「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の20～29歳で「女性労働者の相談窓口を設ける」の割合が高くなっています。女性の20～49歳で「就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）」の割合が高くなっています。

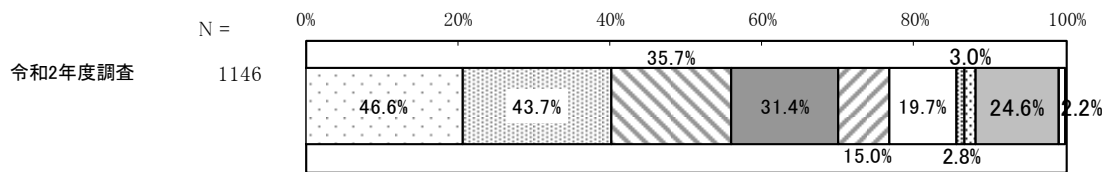
単位：％

区分	有効回答数（件）	夫や家族が理解し協力する	育児・介護休業制度を定着させる	給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する	職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する	産前・産後・生理休暇などを取りやすくする	夫の育児・介護休業を取りやすくする	育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる	看護・介護に対する支援や施設、サービスを充実させる	女性労働者の相談窓口を設ける	柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務・テレワークや短時間労働など）	（就学前の子どもを対象とした保育の充実） （保育施設の増設や開設時間の延長など）	小学生を対象とした放課後児童対策の充実	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	48	62.5%	45.8%	33.3%	58.3%	39.6%	45.8%	27.1%	10.4%	8.3%	39.6%	20.8%	16.7%	2.1%	6.3%	－
30～39歳	49	71.4%	51.0%	42.9%	63.3%	49.0%	49.0%	40.8%	26.5%	20.4%	51.0%	34.7%	34.7%	2.0%	6.1%	2.0%
40～49歳	83	69.9%	47.0%	33.7%	59.0%	42.2%	45.8%	37.3%	31.3%	13.3%	43.4%	37.3%	30.1%	2.4%	1.2%	2.4%
50～59歳	74	67.6%	58.1%	33.8%	52.7%	45.9%	44.6%	39.2%	32.4%	16.2%	44.6%	28.4%	27.0%	2.7%	5.4%	1.4%
60～69歳	76	75.0%	40.8%	28.9%	53.9%	42.1%	34.2%	34.2%	28.9%	3.9%	38.2%	21.1%	14.5%	2.6%	5.3%	2.6%
70～79歳	113	77.0%	38.1%	29.2%	40.7%	41.6%	30.1%	33.6%	24.8%	8.0%	24.8%	22.1%	15.0%	－	4.4%	4.4%
80歳以上	53	84.9%	47.2%	30.2%	49.1%	47.2%	47.2%	43.4%	39.6%	13.2%	35.8%	26.4%	28.3%	－	5.7%	5.7%
女性 20～29歳	64	78.1%	71.9%	57.8%	73.4%	65.6%	64.1%	50.0%	35.9%	20.3%	56.3%	48.4%	37.5%	1.6%	4.7%	－
30～39歳	63	85.7%	61.9%	44.4%	71.4%	58.7%	57.1%	39.7%	28.6%	14.3%	63.5%	50.8%	49.2%	－	1.6%	1.6%
40～49歳	129	88.4%	56.6%	41.9%	62.8%	48.8%	47.3%	41.9%	39.5%	11.6%	47.3%	47.3%	48.1%	0.8%	2.3%	1.6%
50～59歳	75	82.7%	57.3%	42.7%	50.7%	49.3%	46.7%	49.3%	50.7%	13.3%	45.3%	36.0%	37.3%	1.3%	－	4.0%
60～69歳	105	86.7%	58.1%	33.3%	60.0%	60.0%	56.2%	52.4%	48.6%	10.5%	44.8%	38.1%	43.8%	1.9%	2.9%	－
70～79歳	129	79.1%	39.5%	27.1%	45.0%	38.8%	36.4%	27.1%	29.5%	9.3%	23.3%	28.7%	30.2%	2.3%	6.2%	0.8%
80歳以上	51	74.5%	25.5%	21.6%	47.1%	27.5%	19.6%	21.6%	29.4%	9.8%	13.7%	27.5%	31.4%	－	9.8%	3.9%

問 11. 女性が増える方がよいと思う職業や役職は何ですか。(〇印いくつでも)

「国会議員や地方議員」の割合が 46.6%と最も高く、次いで「都道府県・市区町村の首長」の割合が 43.7%、「企業の経営者や管理職」の割合が 35.7%となっています。

- ☐ 国会議員や地方議員
- ☐ 都道府県・市区町村の首長
- ☐ 企業の経営者や管理職
- ☐ 弁護士・医師などの専門職
- ☐ 大学や企業の研究者
- ☐ 自治会やPTAなどの役員
- ☐ 増える必要がない
- ☐ その他
- ☐ わからない
- ☐ 無回答



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「弁護士・医師などの専門職」の割合が高くなっています。一方で、女性に比べ男性で「自治会やPTAなどの役員」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	国会議員や地方議員	都道府県・市区町村の首長	企業の経営者や管理職	弁護士・医師などの専門職	大学や企業の研究者	自治会やPTAなどの役員	増える必要がない	その他	わからない	無回答
男性	496	45.0%	44.0%	35.1%	27.8%	15.9%	25.8%	3.2%	3.4%	22.2%	2.4%
女性	617	48.0%	44.1%	37.0%	34.4%	14.6%	14.7%	2.6%	2.4%	26.3%	1.8%

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の 70 歳以上で「企業の経営者や管理職」の割合が高くなっています。女性の 30～49 歳で「弁護士・医師などの専門職」の割合が高くなっています。男性の 70 歳以上で「自治会や P T A などの役員」の割合が高くなっています。

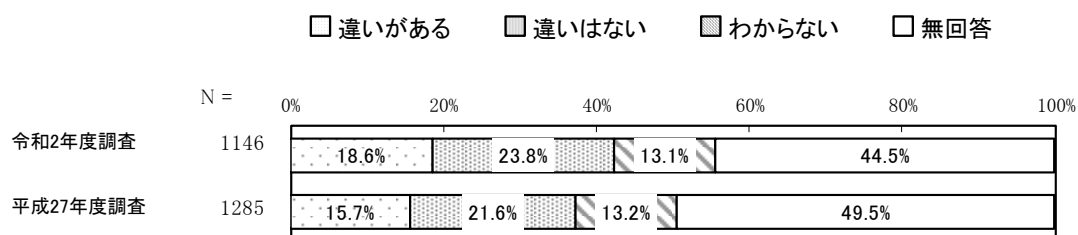
単位：％

区分	有効回答数（件）	国会議員や地方議員	首都府県・市区町村の首長	企業の経営者や管理職	門 弁護士・医師などの専門職	大学や企業の研究者	役員自治会や P T A などの役員	増える必要がない	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	48	41.7%	33.3%	29.2%	18.8%	16.7%	16.7%	6.3%	4.2%	27.1%	－
30～39歳	49	32.7%	40.8%	40.8%	12.2%	4.1%	14.3%	2.0%	4.1%	26.5%	2.0%
40～49歳	83	49.4%	49.4%	48.2%	34.9%	21.7%	26.5%	4.8%	3.6%	25.3%	1.2%
50～59歳	74	37.8%	39.2%	36.5%	36.5%	21.6%	23.0%	5.4%	8.1%	21.6%	1.4%
60～69歳	76	51.3%	47.4%	36.8%	27.6%	18.4%	28.9%	－	2.6%	18.4%	1.3%
70～79歳	113	46.0%	48.7%	25.7%	23.9%	10.6%	30.1%	0.9%	0.9%	23.0%	5.3%
80歳以上	53	50.9%	39.6%	30.2%	35.8%	17.0%	34.0%	5.7%	1.9%	13.2%	3.8%
女性 20～29歳	64	56.3%	46.9%	51.6%	35.9%	20.3%	9.4%	1.6%	1.6%	18.8%	－
30～39歳	63	52.4%	47.6%	47.6%	41.3%	19.0%	20.6%	4.8%	1.6%	20.6%	1.6%
40～49歳	129	53.5%	51.2%	44.2%	42.6%	19.4%	14.0%	0.8%	4.7%	20.9%	1.6%
50～59歳	75	48.0%	44.0%	36.0%	32.0%	10.7%	9.3%	2.7%	4.0%	25.3%	4.0%
60～69歳	105	51.4%	50.5%	42.9%	35.2%	16.2%	15.2%	1.9%	－	23.8%	－
70～79歳	129	36.4%	34.1%	20.2%	27.9%	7.8%	17.1%	4.7%	0.8%	35.7%	2.3%
80歳以上	51	41.2%	31.4%	19.6%	21.6%	9.8%	17.6%	2.0%	5.9%	37.3%	3.9%

問 12. 現在働いている方にお聞きします。それ以外の方は問 14 にお進みください。
あなたの職場では、職場の慣行や待遇、仕事の内容等で、性別による違いがあると思いますか。

「違いはない」の割合が 23.8%と最も高く、次いで「違いがある」の割合が 18.6%、「わからない」の割合が 13.1%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、大きな差異はありません。



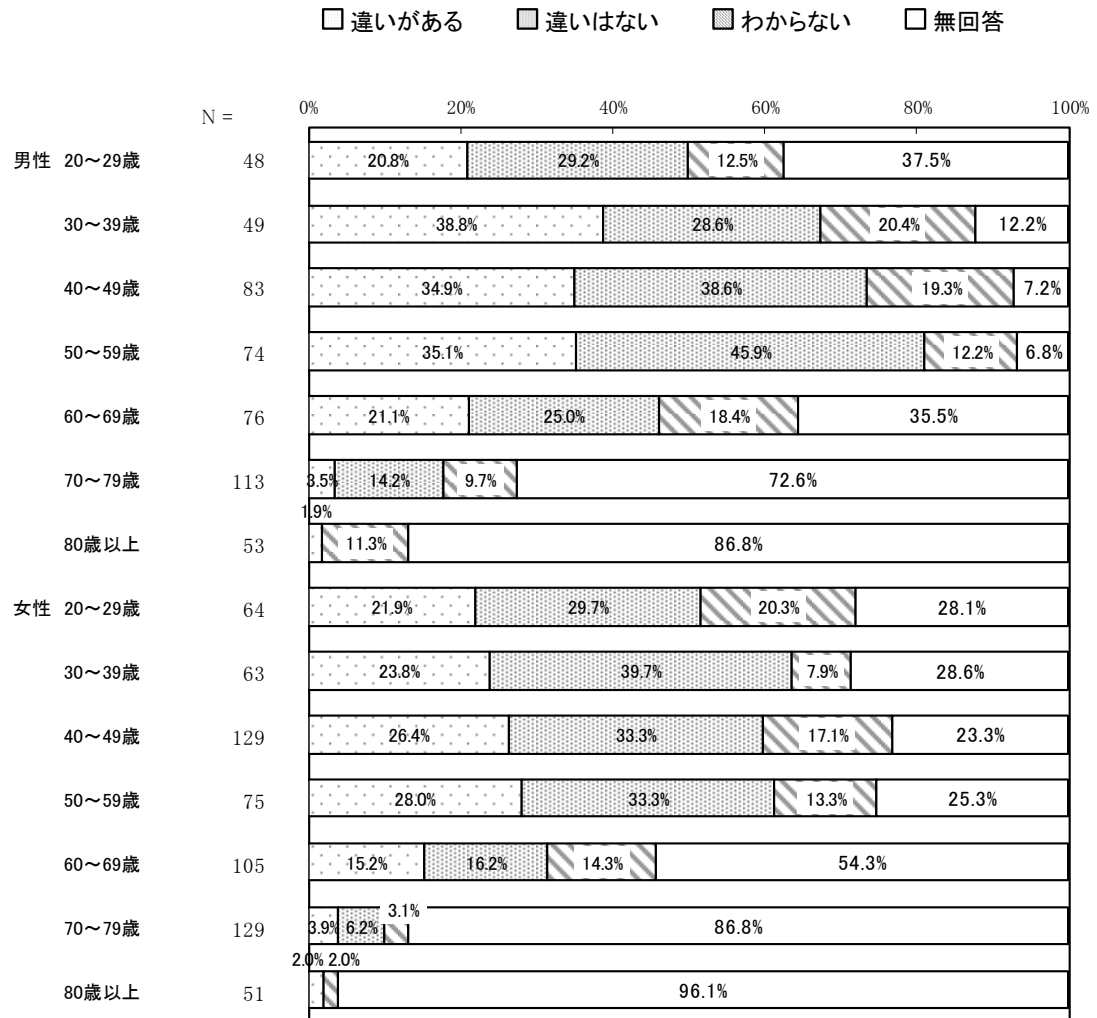
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

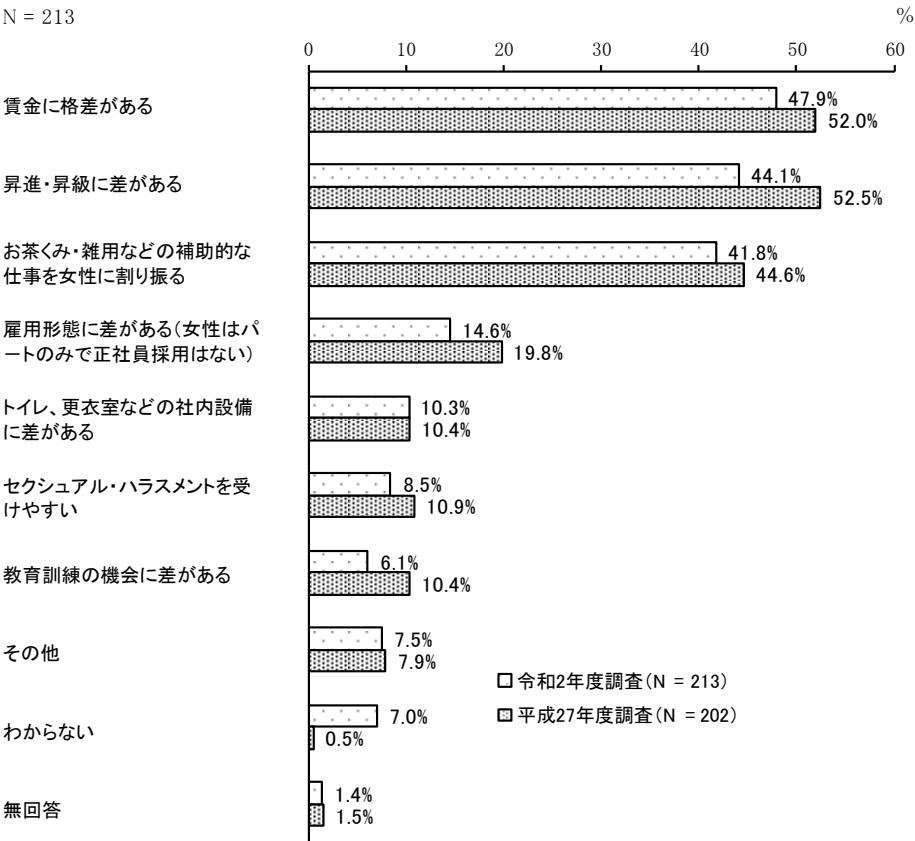
性・年齢別でみると、男性の30～59歳で「違いがある」の割合が高くなっています。男性の50～59歳で「違いはない」の割合が高くなっています。



問 13.（問 12 で「1. 違いがある」と回答した方に）
 どのような違いがあると思いますか。（〇印いくつでも）

「賃金に格差がある」の割合が 47.9%と最も高く、次いで「昇進・昇級に差がある」の割合が 44.1%、「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」の割合が 41.8%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、「昇進・昇級に差がある」の割合が 8.4 ポイント、「雇用形態に差がある（女性はパートのみで正社員採用はない）」の割合が 5.2 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「賃金に格差がある」「昇進・昇級に差がある」「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」「雇用形態に差がある（女性はパートのみで正社員採用はない）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	賃金に格差がある	昇進・昇級に差がある	補助的な仕事を女性に割り振る	お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る	トイレ、更衣室などの社内設備に差がある	セクシュアル・ハラスメントを受けやすい	教育訓練の機会に差がある	雇用形態に差がある（女性はパートのみで正社員採用はない）	その他	わからない	無回答
男性	105	38.1%	40.0%	35.2%	35.2%	12.4%	8.6%	5.7%	10.5%	9.5%	10.5%	1.9%
女性	106	57.5%	48.1%	48.1%	48.1%	8.5%	8.5%	6.6%	18.9%	4.7%	3.8%	0.9%

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男女ともに 60～69 歳で「賃金に格差がある」の割合が高くなっています。男性の 50～59 歳で「トイレ、更衣室などの社内設備に差がある」の割合が高くなっています。女性の 20～29 歳で「セクシュアル・ハラスメントを受けやすい」「雇用形態に差がある（女性はパートのみで正社員採用はない）」の割合が高くなっています。男性の 60～69 歳で「教育訓練の機会に差がある」の割合が高くなっています。

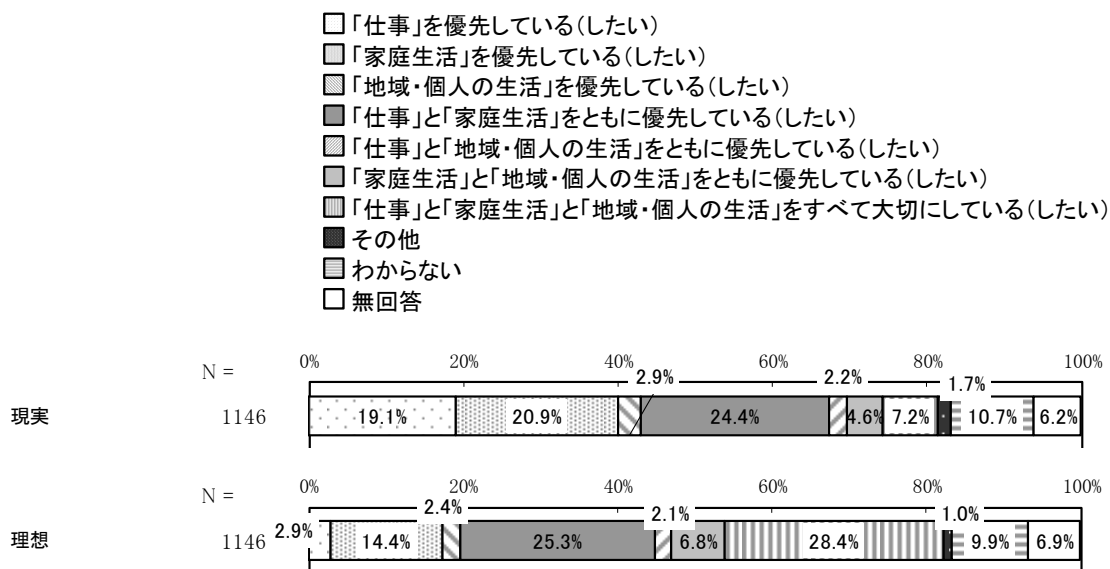
単位：％

区分	有効回答数（件）	賃金に格差がある	昇進・昇級に差がある	振助的お茶な仕事・雑用などの割り補	内設に、更衣室などの社	ントセクシュアル・ハラスメントを受けやすい	る教育訓練の機会に差がある	採用はパートの差がある（女性）	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	10	30.0%	10.0%	40.0%	－	10.0%	－	20.0%	10.0%	20.0%	－
30～39歳	19	36.8%	21.1%	47.4%	10.5%	5.3%	5.3%	5.3%	21.1%	5.3%	－
40～49歳	29	27.6%	51.7%	55.2%	13.8%	6.9%	－	10.3%	3.4%	3.4%	－
50～59歳	26	30.8%	42.3%	23.1%	19.2%	15.4%	3.8%	11.5%	15.4%	11.5%	3.8%
60～69歳	16	81.3%	62.5%	12.5%	12.5%	6.3%	25.0%	12.5%	－	－	－
70～79歳	4	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0%	25.0%
80歳以上	1	100.0%	100.0%	－	－	－	－	－	－	－	－
女性 20～29歳	14	42.9%	42.9%	50.0%	14.3%	21.4%	－	35.7%	7.1%	－	－
30～39歳	15	53.3%	60.0%	53.3%	13.3%	13.3%	13.3%	20.0%	6.7%	－	－
40～49歳	34	61.8%	61.8%	58.8%	5.9%	2.9%	－	11.8%	2.9%	－	－
50～59歳	21	61.9%	57.1%	42.9%	9.5%	9.5%	19.0%	14.3%	4.8%	4.8%	－
60～69歳	16	75.0%	12.5%	31.3%	－	6.3%	6.3%	25.0%	6.3%	6.3%	6.3%
70～79歳	5	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	－	－	20.0%	－	40.0%	－
80歳以上	1	－	－	100.0%	－	－	－	－	－	－	－

問 14. 現在、ワーク・ライフ・バランスが重要視されていますが、あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で何を優先しますか。
(○印①～②の項目ごとに1つずつ)

現実では、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している(したい)の割合が24.4%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先している(したい)の割合が20.9%、「仕事」を優先している(したい)の割合が19.1%となっています。

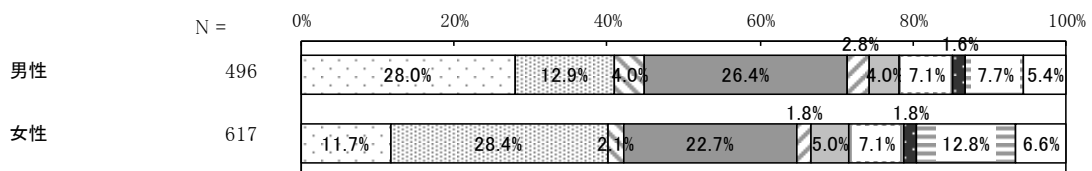
理想では、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしている(したい)の割合が28.4%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している(したい)の割合が25.3%、「家庭生活」を優先している(したい)の割合が14.4%となっています。



① 現実

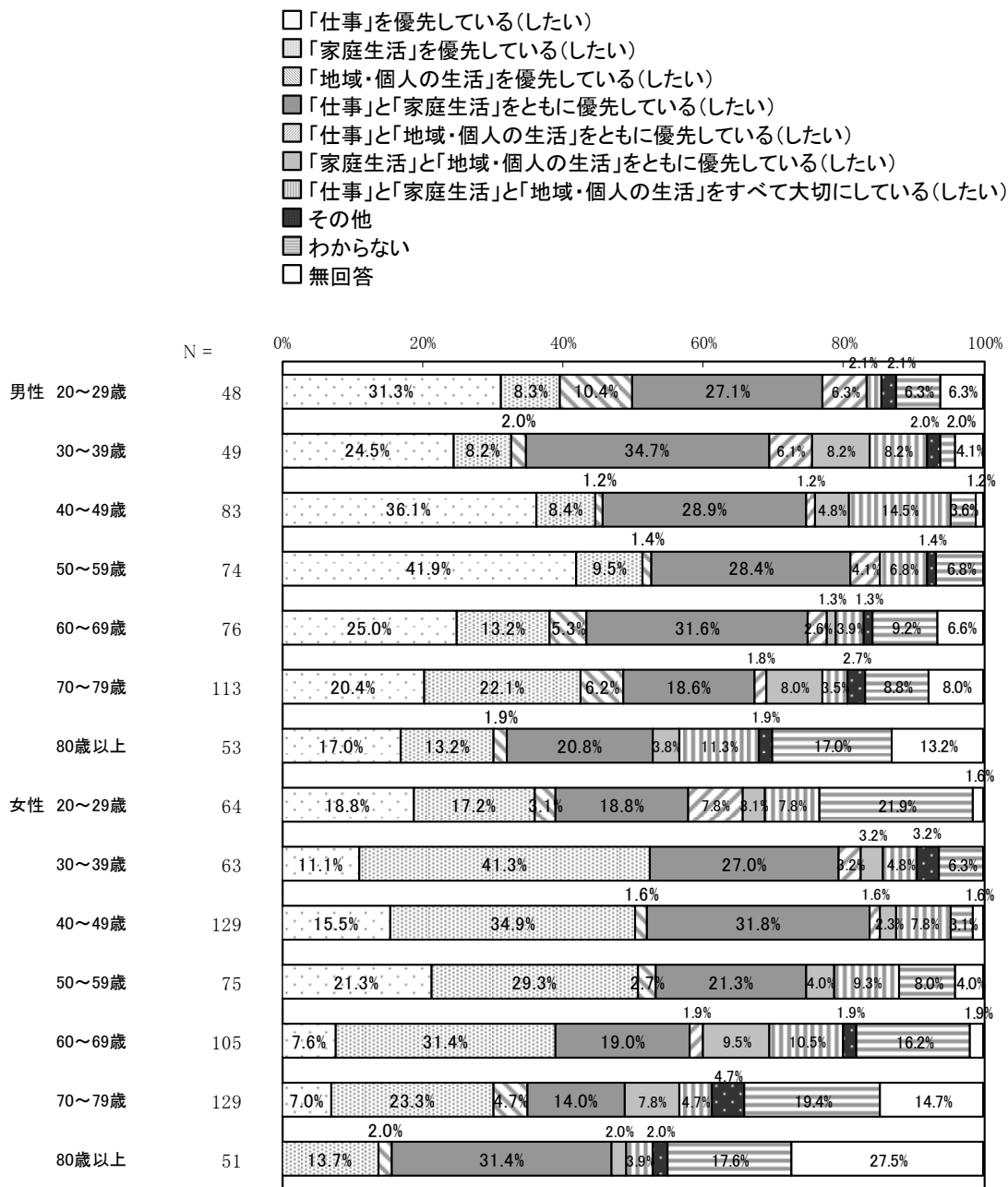
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「仕事」を優先している(したい)の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「家庭生活」を優先している(したい)の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

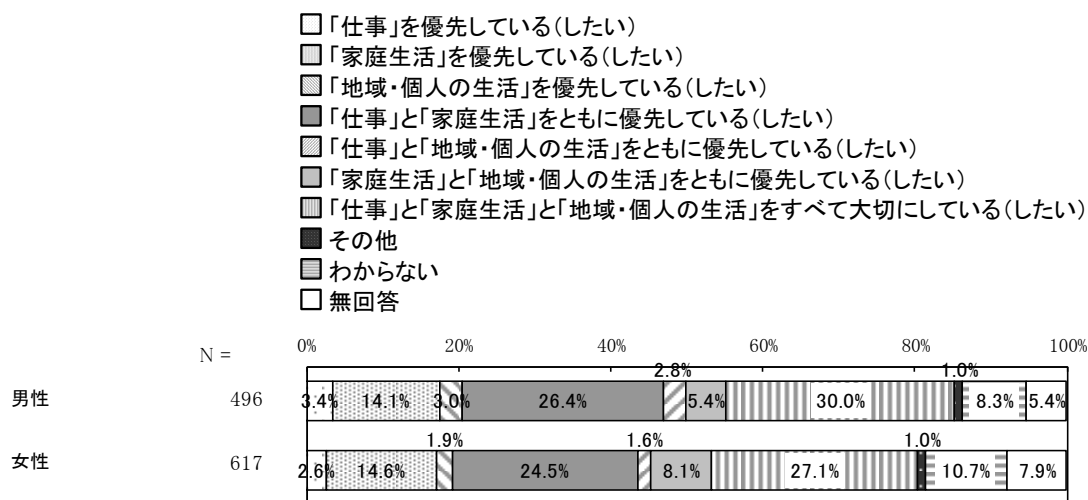
性・年齢別でみると、男性の50～59歳で「仕事」を優先している（したい）の割合が高くなっています。女性の30～39歳で「家庭生活」を優先している（したい）の割合が高くなっています。



② 理想

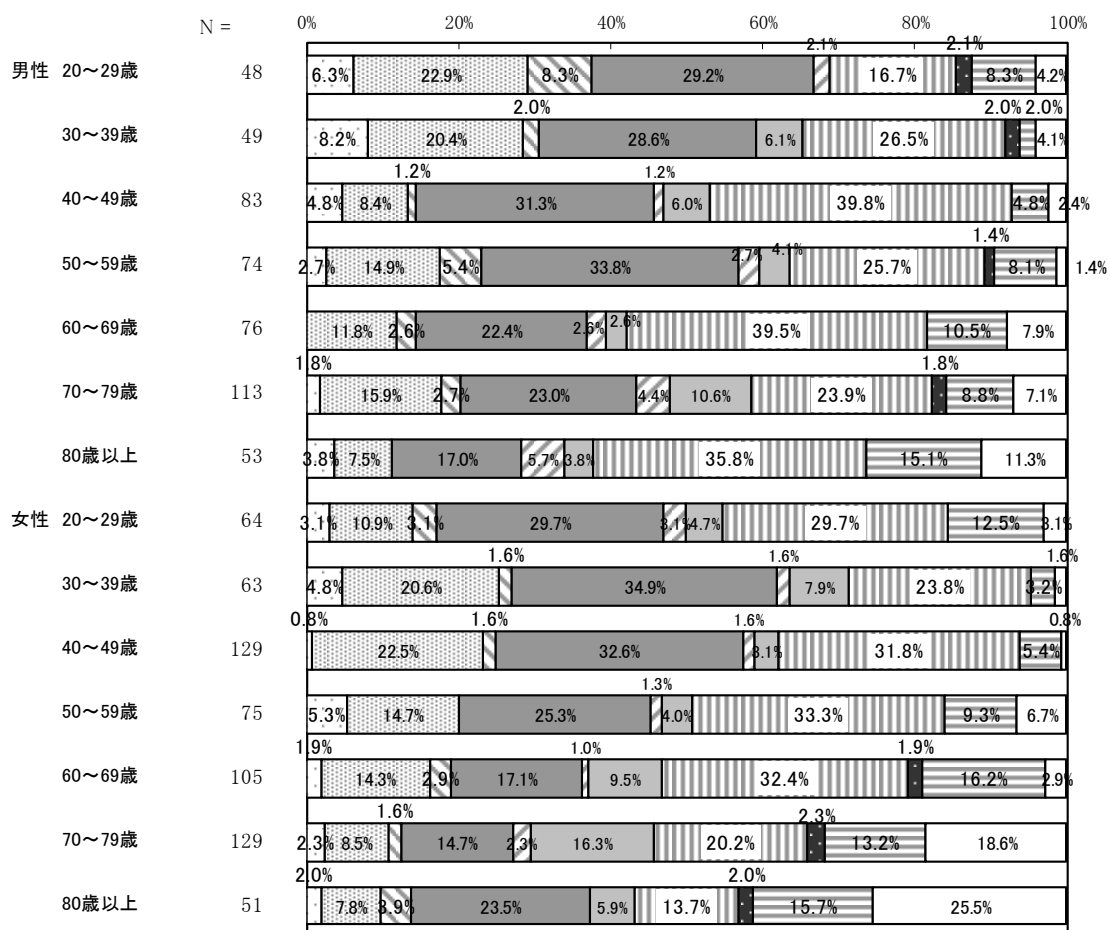
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

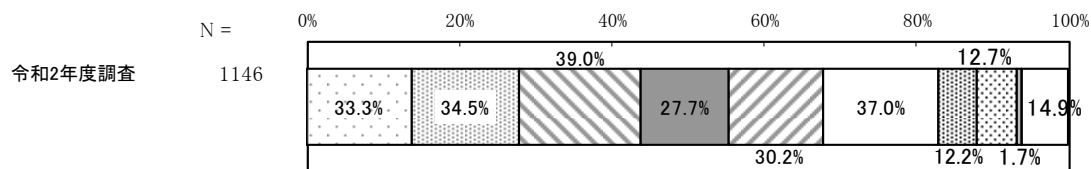
性・年齢別でみると、女性の70～79歳で「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している(したい)の割合が高くなっています。男性の40～49歳、60～69歳で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしている(したい)の割合が高くなっています。



問 15. ワーク・ライフ・バランスを実現するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印いくつでも)

「職場や組織全体の意識を変える」の割合が 39.0%と最も高く、次いで「夫婦、家族間でコミュニケーションをはかる」の割合が 37.0%、「職場や組織の管理者の意識を変える」の割合が 34.5%となっています。

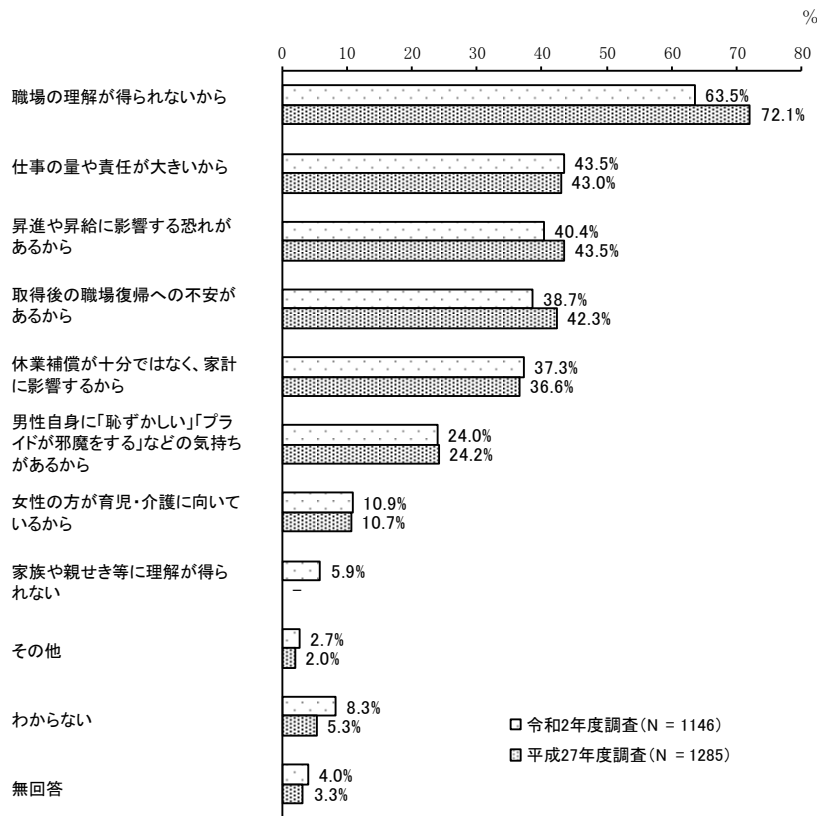
- ☐ 個人の意識を変える
- ☐ 職場や組織の管理者の意識を変える
- ☐ 職場や組織全体の意識を変える
- ☐ 在宅勤務・テレワークやフレックスなど柔軟な働き方を導入する
- ☐ 男性自身が家事、育児に対する抵抗感をなくす
- ☐ 夫婦、家族間でコミュニケーションをはかる
- ☐ 育児や家事などの相談や情報を共有できる仲間やネットワークを作る
- ☐ 地域の習慣を変える
- ☐ その他
- ☐ わからない
- ☐ 無回答



問 16. 育児や介護で休みをとる男性が少ない現状にあります、その理由は何だと思
いますか。(○印いくつでも)

「職場の理解が得られないから」の割合が 63.5%と最も高く、次いで「仕事の量や責任が大き
いから」の割合が 43.5%、「昇進や昇給に影響する恐れがあるから」の割合が 40.4%となってい
ます。

平成 27 年度調査と比較すると、「職場の理解が得られないから」の割合が 8.6%減少していま
す。



【性別】

性別でみると、女性に比べて男性で「仕事の量や責任が大き

いから」の割合が高くなっています。一方、男性に比べて女性で「職場の理解が得られないから」「昇進や昇給に影響する恐れがあるから」「取得後の職場復帰への不安があるから」「休業補償が十分ではなく、家計に影響するから」「男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから」「家族や親せき等に理解が得られない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	職場の理解が得られないから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰への不安があるから	仕事の量や責任が大き	休業補償が十分ではなく、家計に影響するから	女性の方が育児・介護に向いているから	男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから	家族や親せき等に理解が得られない	その他	わからない	無回答
男性	496	60.1%	36.5%	34.7%	47.8%	33.1%	9.9%	17.5%	2.8%	2.6%	7.1%	4.4%
女性	617	66.8%	43.6%	41.8%	39.2%	41.0%	11.7%	29.2%	8.3%	2.8%	9.1%	3.4%

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の 50～59 歳で「職場の理解が得られないから」の割合が高くなっています。

単位：％

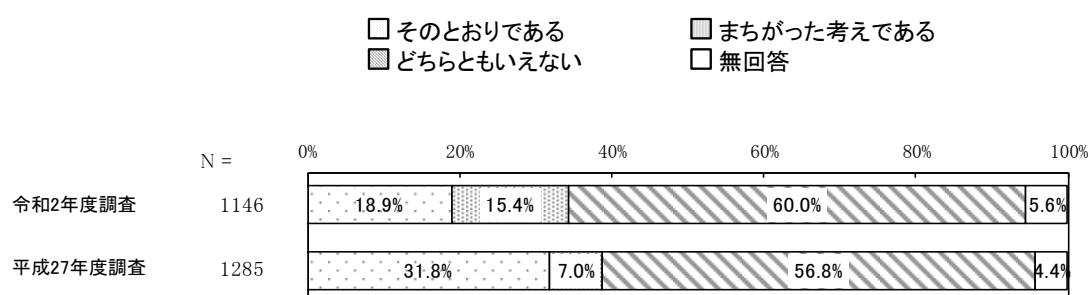
区分	有効回答数（件）	職場の理解が得られないから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰への不安があるから	仕事の量や責任が大きいか	休業補償が十分ではなく、家計に影響するから	女性の方が育児・介護に向いているから	男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をするから」などの気持ちがあるから	家族や親せき等に理解が得られない	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	48	70.8%	41.7%	35.4%	54.2%	33.3%	－	8.3%	4.2%	2.1%	6.3%	2.1%
30～39歳	49	69.4%	42.9%	34.7%	51.0%	32.7%	4.1%	14.3%	4.1%	8.2%	6.1%	2.0%
40～49歳	83	68.7%	28.9%	38.6%	59.0%	38.6%	9.6%	18.1%	4.8%	1.2%	3.6%	1.2%
50～59歳	74	48.6%	32.4%	41.9%	54.1%	43.2%	8.1%	16.2%	1.4%	2.7%	5.4%	4.1%
60～69歳	76	61.8%	42.1%	30.3%	38.2%	34.2%	7.9%	21.1%	1.3%	5.3%	6.6%	3.9%
70～79歳	113	54.0%	35.4%	27.4%	42.5%	23.0%	15.0%	12.4%	0.9%	0.9%	8.0%	8.0%
80歳以上	53	54.7%	37.7%	39.6%	37.7%	30.2%	18.9%	35.8%	5.7%	－	15.1%	7.5%
女性 20～29歳	64	75.0%	56.3%	43.8%	34.4%	51.6%	6.3%	29.7%	12.5%	7.8%	7.8%	－
30～39歳	63	69.8%	42.9%	42.9%	47.6%	44.4%	12.7%	39.7%	9.5%	4.8%	4.8%	－
40～49歳	129	72.9%	52.7%	46.5%	48.1%	44.2%	8.5%	32.6%	10.1%	4.7%	1.6%	0.8%
50～59歳	75	80.0%	49.3%	42.7%	36.0%	46.7%	13.3%	37.3%	9.3%	4.0%	1.3%	2.7%
60～69歳	105	68.6%	39.0%	45.7%	50.5%	42.9%	8.6%	24.8%	7.6%	－	7.6%	1.9%
70～79歳	129	57.4%	38.0%	38.8%	29.5%	31.8%	18.6%	20.9%	6.2%	－	20.2%	6.2%
80歳以上	51	37.3%	21.6%	23.5%	19.6%	25.5%	11.8%	25.5%	2.0%	－	21.6%	15.7%

（５）子育て・子どもの教育について

問 17. 子どもの育て方については「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」とお考えですか。（○印１つ）

「どちらともいえない」の割合が 60.0%と最も高く、次いで「そのとおりである」の割合が 18.9%となっています。

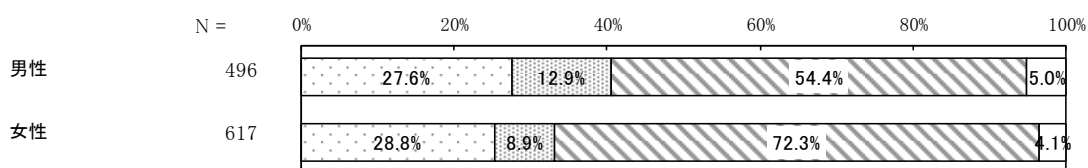
平成 27 年度調査と比較すると、「まちがった考えである」の割合が 8.4 ポイント増加しています。一方、「そのとおりである」の割合が 12.9 ポイント減少しています。



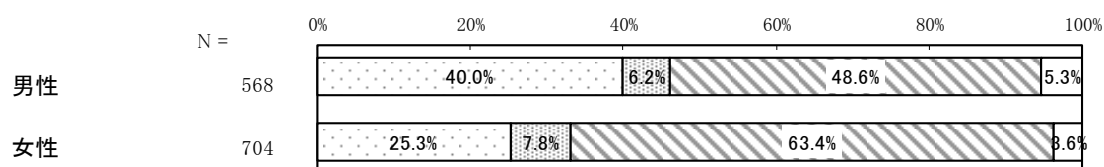
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「どちらともいえない」の割合が高くなっています。

平成 27 年度調査と比較すると、男性で「そのとおりである」の割合が 12.4 ポイント減少、「まちがった考えである」の割合が 6.7 ポイント増加しています。「どちらともいえない」の割合が男性で 5.8 ポイント、女性で 8.9 ポイント増加しています。

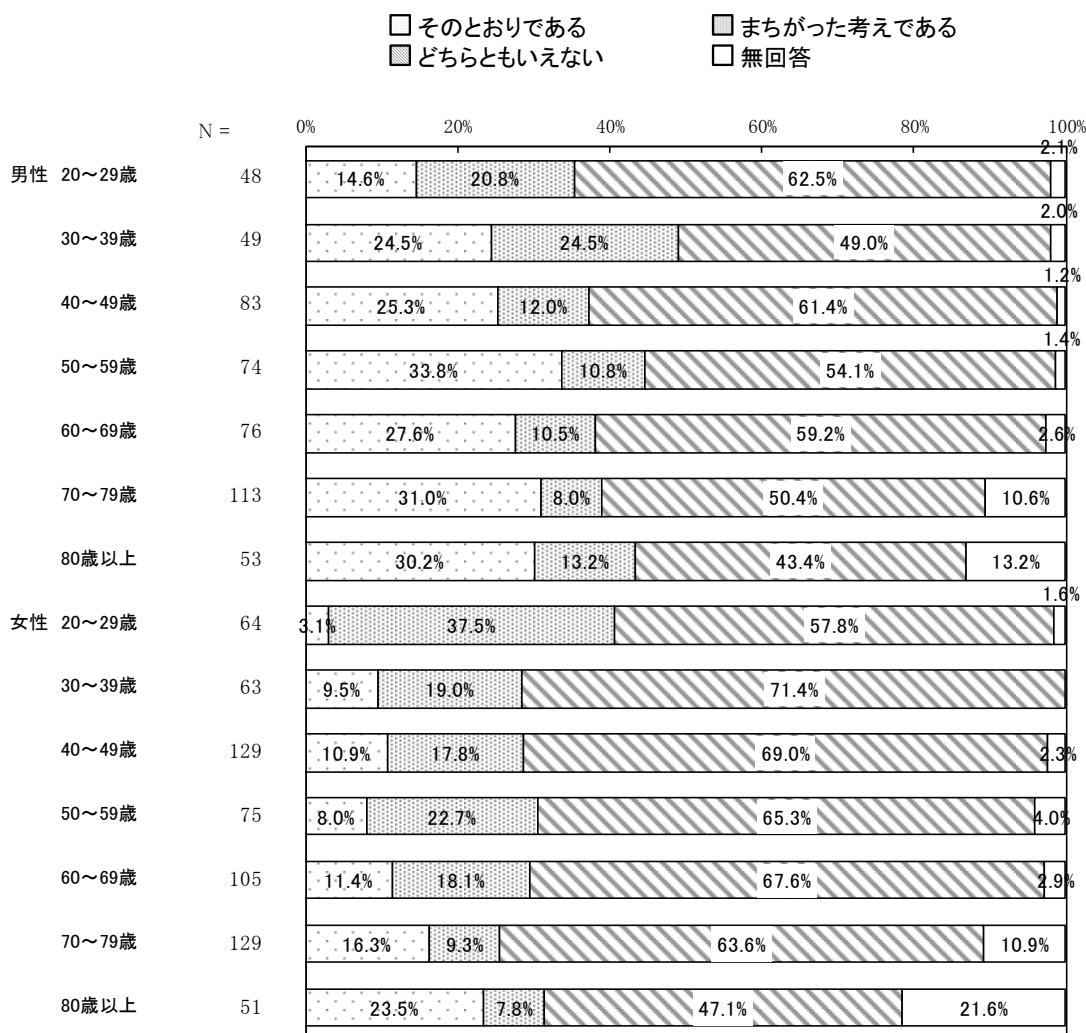


【性別（平成 27 年度調査）】



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の 20～29 歳で「まちがった考えである」の割合が高くなっています。



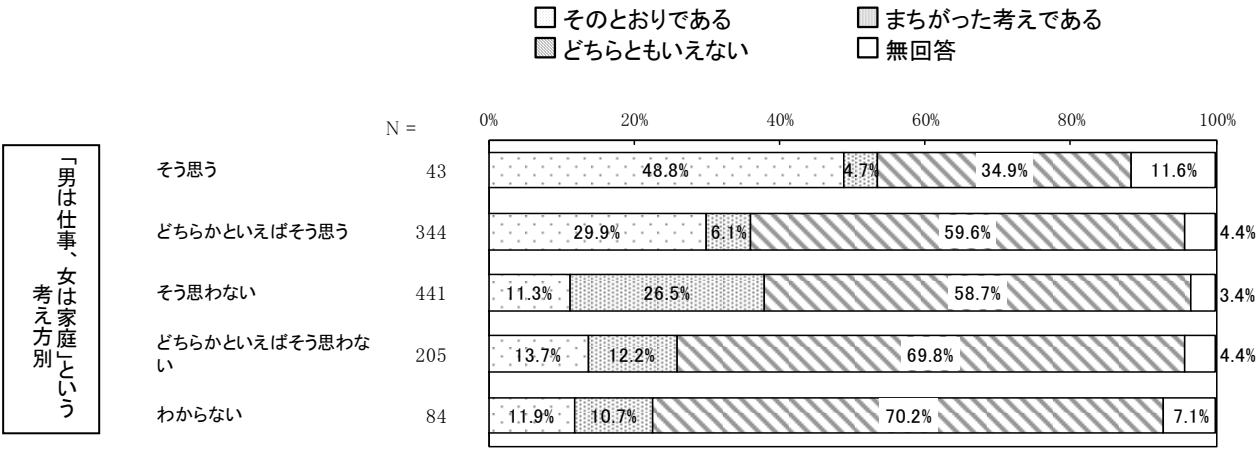
【末子学齢別】

末子学齢別でみると、就学前の子どもがいるで「まちがった考えである」の割合が高くなっています。



【性別役割分担意識別】

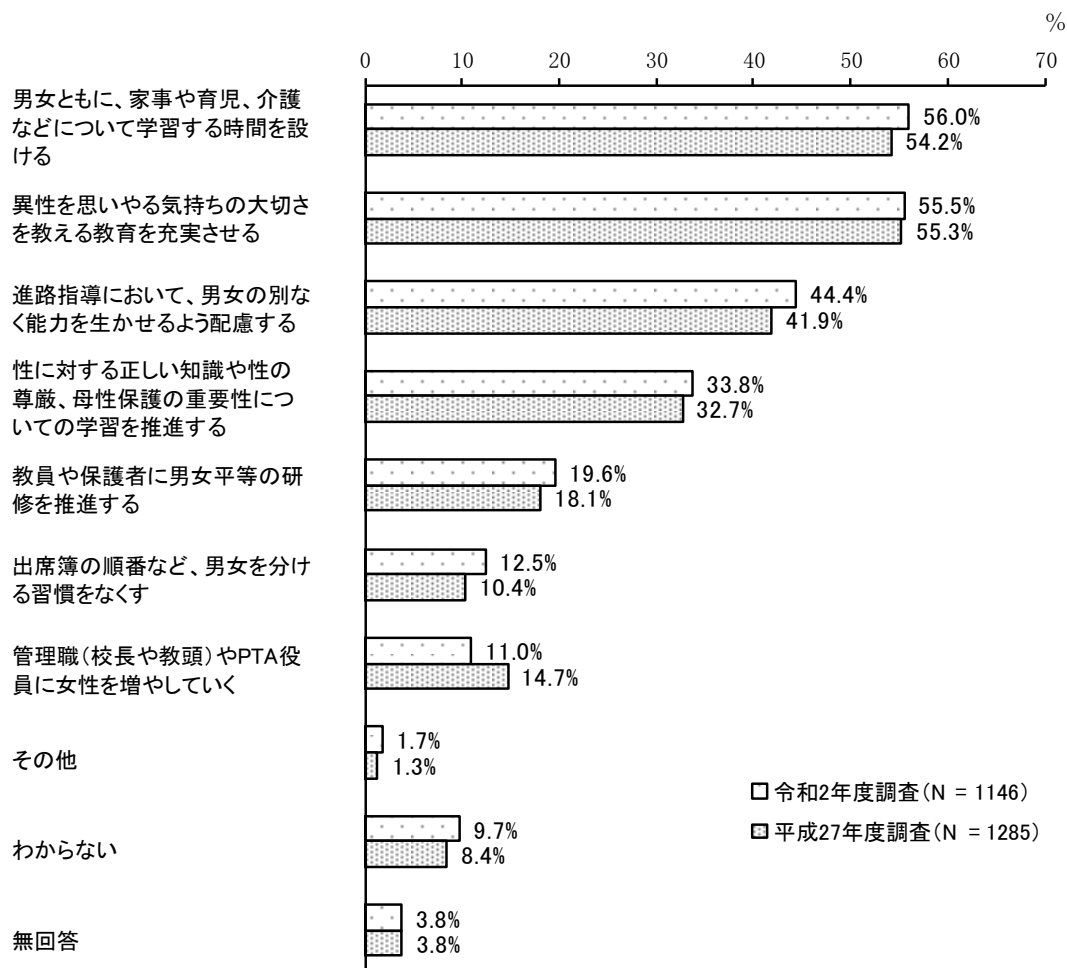
性別役割分担意識別でみると、そう思うで「そのとおりである」の割合が高くなっています。
そう思わないで「まちがった考えである」の割合が高くなっています。



問 18. 男女平等の意識を育てるために、学校教育ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（〇印いくつでも）

「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が 56.0%と最も高く、次いで「異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる」の割合が 55.5%、「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が 44.4%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」「性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる	男女ともに、家事や育児、介護を設ける	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する	教員や保護者に男女平等の研修を推進する	管理職（校長や教頭）やPTA役員に女性を増やしていく	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	その他	わからない	無回答
男性	496	55.6%	52.6%	40.1%	31.5%	20.0%	11.9%	12.7%	1.6%	10.1%	3.8%
女性	617	55.8%	59.8%	48.8%	36.6%	19.3%	10.2%	12.6%	1.1%	9.2%	3.4%

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の40～49歳、60～69歳、女性の20～49歳で「異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる」の割合が高くなっています。女性の50～59歳で「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が高くなっています。女性の20～29歳で「性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する」「教員や保護者に男女平等の研修を推進する」の割合が高くなっています。女性の20～39歳で「出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる	男女ともに、家事や育児時間を、介護などについて、学習する時間、を設ける	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する	教員や保護者に男女平等の研修を推進する	管理職（校長や教頭）やPTA役員に女性を増やしていく	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	48	47.9%	39.6%	29.2%	41.7%	16.7%	－	16.7%	2.1%	10.4%	2.1%
30～39歳	49	46.9%	67.3%	38.8%	32.7%	18.4%	10.2%	18.4%	2.0%	10.2%	2.0%
40～49歳	83	63.9%	51.8%	33.7%	31.3%	21.7%	14.5%	19.3%	－	10.8%	1.2%
50～59歳	74	56.8%	58.1%	41.9%	25.7%	23.0%	12.2%	13.5%	4.1%	9.5%	1.4%
60～69歳	76	61.8%	53.9%	40.8%	36.8%	18.4%	9.2%	9.2%	2.6%	7.9%	1.3%
70～79歳	113	52.2%	44.2%	43.4%	24.8%	20.4%	12.4%	6.2%	0.9%	8.8%	8.8%
80歳以上	53	54.7%	60.4%	50.9%	35.8%	18.9%	22.6%	11.3%	－	15.1%	7.5%
女性 20～29歳	64	65.6%	50.0%	50.0%	51.6%	34.4%	9.4%	26.6%	－	6.3%	－
30～39歳	63	69.8%	68.3%	52.4%	42.9%	25.4%	19.0%	31.7%	3.2%	4.8%	－
40～49歳	129	65.1%	70.5%	46.5%	45.0%	18.6%	11.6%	14.7%	1.6%	1.6%	0.8%
50～59歳	75	54.7%	62.7%	58.7%	36.0%	24.0%	10.7%	9.3%	－	9.3%	2.7%
60～69歳	105	56.2%	68.6%	50.5%	33.3%	17.1%	7.6%	7.6%	1.9%	6.7%	1.9%
70～79歳	129	47.3%	51.2%	46.5%	26.4%	12.4%	7.0%	3.1%	0.8%	16.3%	7.0%
80歳以上	51	25.5%	33.3%	37.3%	23.5%	9.8%	9.8%	5.9%	－	25.5%	13.7%

【末子学齢別】

末子学齢別でみると、就学前の子どもがいる、小学生の子どもがいるで「性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する」の割合が高くなっています。

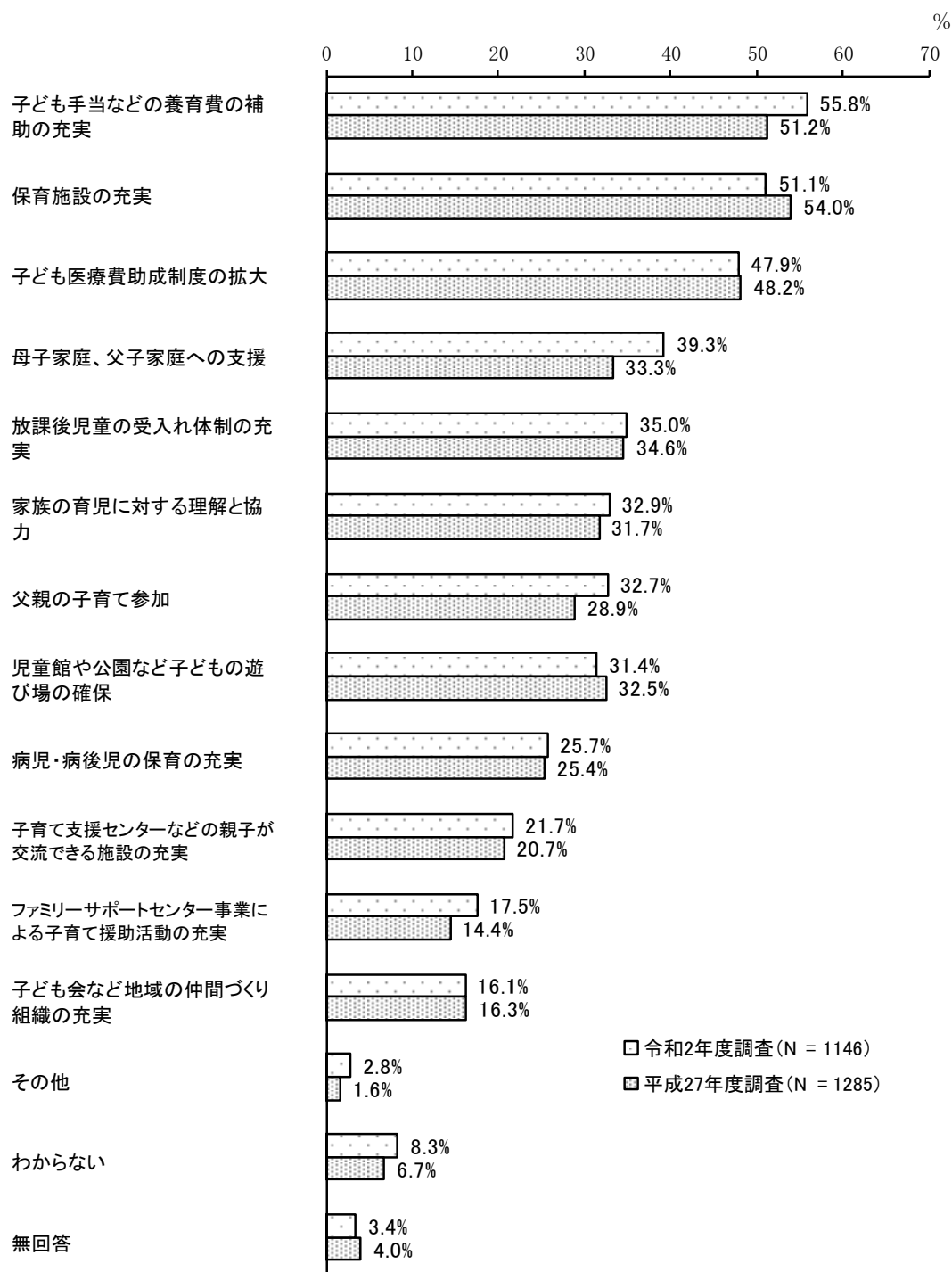
単位：％

区分	有効回答数（件）	異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる	男女ともに、家事や育児、時間を介護	男女ともに、家事や育児、時間を介護	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	性の学習を推進する	厳格な性に対する正しい知識や性の尊厳を推進する	教員や保護者に男女平等の研修を推進する	役員に女性を増やしていく	管理職（校長や教頭）やPTA	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	その他	わからない	無回答
就学前の子どもがいる	91	64.8%	57.1%	48.4%	44.0%	24.2%	15.4%	24.2%	2.2%	7.7%	—			
小学生の子どもがいる	91	71.4%	59.3%	46.2%	44.0%	19.8%	12.1%	17.6%	1.1%	3.3%	1.1%			
中学生の子どもがいる	45	66.7%	55.6%	37.8%	26.7%	20.0%	6.7%	17.8%	—	2.2%	4.4%			
高校生以上の子どもがいる	473	55.2%	61.3%	47.8%	31.3%	18.0%	10.1%	8.0%	1.3%	8.9%	2.7%			
子どもはいない	107	44.9%	44.9%	41.1%	29.0%	21.5%	15.9%	15.9%	2.8%	15.0%	9.3%			

問 19. 安心して子どもを生み育てるためにはどのようなことが必要だと思いますか。
(○印いくつでも)

「子ども手当などの養育費の補助の充実」の割合が 55.8%と最も高く、次いで「保育施設の充実」の割合が 51.1%、「子ども医療費助成制度の拡大」の割合が 47.9%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、「母子家庭、父子家庭への支援」の割合が 6.0 ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「児童館や公園など子どもの遊び場の確保」「父親の子育て参加」「家族の育児に対する理解と協力」「放課後児童の受入れ体制の充実」「病児・病後児の保育の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	子ども手当などの養育費の補助の充実	子ども医療費助成制度の拡大	保育施設の充実	児童館や公園など子どもの遊び場の確保	子ども会など地域の仲間づくり組織の充実	ファミリーサポートセンター事業による子育て援助活動の充実	子育て支援センターなどの親子が交流できる施設の充実	父親の子育て参加	家族の育児に対する理解と協力	母子家庭、父子家庭への支援	放課後児童の受入れ体制の充実	病児・病後児の保育の充実	その他	わからない	無回答
男性	496	62.1%	47.4%	51.2%	27.2%	19.4%	18.1%	20.2%	28.0%	25.0%	39.5%	29.2%	19.0%	2.8%	6.5%	3.8%
女性	617	51.9%	48.9%	51.7%	35.3%	13.9%	17.0%	23.0%	38.1%	39.9%	39.7%	40.4%	31.6%	2.3%	9.2%	2.9%

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳で「子ども手当などの養育費の補助の充実」の割合が高くなっています。男性の40～59歳、女性の20～69歳で「子ども医療費助成制度の拡大」の割合が高くなっています。女性の20～49歳で「児童館や公園など子どもの遊び場の確保」の割合が高くなっています。男性の80歳以上で「子育て支援センターなどの親子が交流できる施設の充実」の割合が高くなっています。女性の20～39歳で「父親の子育て参加」の割合が高くなっています。女性の20～49歳で「家族の育児に対する理解と協力」の割合が高くなっています。女性の40～49歳で「放課後児童の受入れ体制の充実」「病児・病後児の保育の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	子ども手当などの養育費の補助の充実	子ども医療費助成制度の拡大	保育施設の充実	児童館や公園など子どもの遊び場の確保	子ども会など地域の仲間づくり組織の充実	ファミリーサポートセンター事業による子育て援助活動の充実	子育て支援センターなどの親子が交流できる施設の充実	父親の子育て参加	家族の育児に対する理解と協力	母子家庭、父子家庭への支援	放課後児童の受入れ体制の充実	病児・病後児の保育の充実	その他	わからない	無回答
男性																
20～29歳	48	77.1%	47.9%	52.1%	22.9%	16.7%	18.8%	14.6%	41.7%	27.1%	27.1%	16.7%	12.5%	6.3%	2.1%	2.1%
30～39歳	49	65.3%	44.9%	55.1%	36.7%	16.3%	30.6%	28.6%	38.8%	36.7%	40.8%	26.5%	30.6%	8.2%	8.2%	2.0%
40～49歳	83	71.1%	61.4%	48.2%	36.1%	20.5%	15.7%	12.0%	32.5%	26.5%	44.6%	33.7%	24.1%	1.2%	3.6%	2.4%
50～59歳	74	64.9%	55.4%	56.8%	36.5%	21.6%	27.0%	21.6%	32.4%	32.4%	45.9%	33.8%	20.3%	4.1%	6.8%	1.4%
60～69歳	76	56.6%	44.7%	53.9%	18.4%	13.2%	14.5%	15.8%	21.1%	15.8%	38.2%	28.9%	19.7%	2.6%	6.6%	2.6%
70～79歳	113	54.9%	38.1%	46.9%	21.2%	20.4%	10.6%	19.5%	15.0%	17.7%	35.4%	24.8%	8.0%	0.9%	8.8%	7.1%
80歳以上	53	50.9%	39.6%	49.1%	20.8%	26.4%	18.9%	35.8%	30.2%	28.3%	43.4%	39.6%	26.4%	－	7.5%	7.5%
女性																
20～29歳	64	71.9%	56.3%	56.3%	45.3%	20.3%	17.2%	23.4%	56.3%	54.7%	51.6%	34.4%	35.9%	3.1%	4.7%	－
30～39歳	63	66.7%	57.1%	52.4%	47.6%	15.9%	22.2%	28.6%	55.6%	52.4%	34.9%	46.0%	36.5%	6.3%	6.3%	－
40～49歳	129	58.1%	54.3%	50.4%	41.9%	7.0%	15.5%	17.8%	45.0%	49.6%	41.1%	51.9%	41.9%	2.3%	7.8%	－
50～59歳	75	50.7%	52.0%	58.7%	28.0%	10.7%	25.3%	21.3%	38.7%	34.7%	42.7%	42.7%	34.7%	1.3%	2.7%	2.7%
60～69歳	105	55.2%	54.3%	56.2%	38.1%	12.4%	21.9%	25.7%	33.3%	39.0%	47.6%	43.8%	30.5%	1.9%	6.7%	1.0%
70～79歳	129	34.1%	39.5%	46.5%	24.0%	21.7%	10.9%	24.0%	24.0%	27.1%	31.8%	29.5%	20.2%	1.6%	14.0%	7.0%
80歳以上	51	31.4%	23.5%	41.2%	23.5%	7.8%	5.9%	21.6%	19.6%	21.6%	25.5%	27.5%	19.6%	－	25.5%	11.8%

【末子学齢別】

末子学齢別でみると、就学前の子どもがいるで「子ども手当などの養育費の補助の充実」「児童館や公園など子どもの遊び場の確保」「ファミリーサポートセンター事業による子育て援助活動の充実」「父親の子育て参加」の割合が高くなっています。また、小学生の子どもがいるで「放課後児童の受入れ体制の充実」「病児・病後児の保育の充実」の割合が高くなっています。

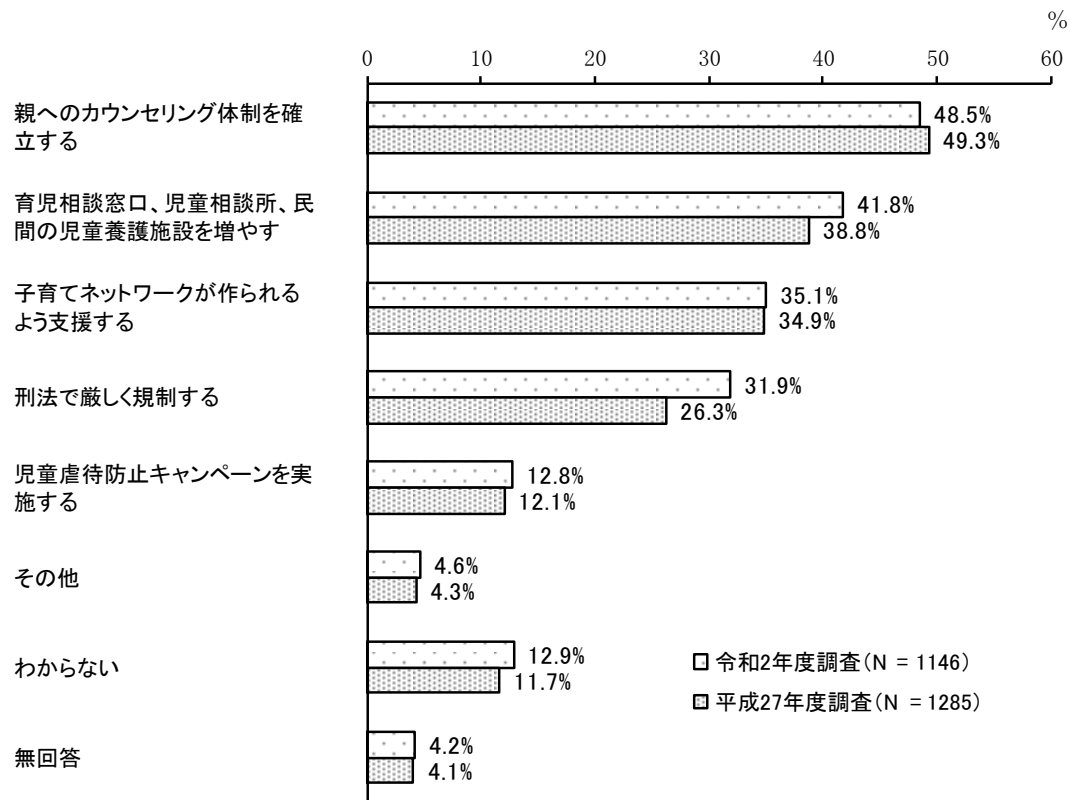
単位：％

区分	有効回答数（件）	子ども手当などの養育費の補助の充実	子ども医療費助成制度の拡大	保育施設の充実	児童館や公園など子どもの遊び場の確保	子ども会など地域の仲間づくり組織の充実	ファミリーサポートセンター事業による子育て援助活動の充実	子育て支援センターなどの親子が交流できる施設の充実	父親の子育て参加	家族の育児に対する理解と協力	母子家庭、父子家庭への支援	放課後児童の受入れ体制の充実	病児・病後児の保育の充実	その他	わからない	無回答
就学前の子どもがいる	91	75.8%	62.6%	56.0%	48.4%	17.6%	24.2%	26.4%	47.3%	45.1%	39.6%	36.3%	31.9%	5.5%	5.5%	－
小学生の子どもがいる	91	67.0%	58.2%	52.7%	40.7%	17.6%	12.1%	16.5%	40.7%	46.2%	38.5%	47.3%	39.6%	3.3%	5.5%	1.1%
中学生の子どもがいる	45	57.8%	51.1%	35.6%	35.6%	15.6%	11.1%	13.3%	33.3%	26.7%	37.8%	31.1%	17.8%	－	2.2%	4.4%
高校生以上の子どもがいる	473	52.2%	47.4%	57.3%	30.4%	16.9%	17.3%	25.2%	28.8%	31.1%	39.1%	37.4%	24.9%	1.7%	6.8%	2.5%
子どもはいない	107	47.7%	42.1%	43.0%	25.2%	13.1%	15.0%	20.6%	26.2%	25.2%	43.0%	32.7%	25.2%	2.8%	15.9%	6.5%

問 20. 子どもへの虐待を起こさないためにはどのようなことが必要だと思いますか。
(○印いくつでも)

「親へのカウンセリング体制を確立する」の割合が 48.5%と最も高く、次いで「育児相談窓口、児童相談所、民間の児童養護施設を増やす」の割合が 41.8%、「子育てネットワークが作られるよう支援する」の割合が 35.1%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、「刑法で厳しく規制する」の割合が 5.6 ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「子育てネットワークが作られるよう支援する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「刑法で厳しく規制する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	親へのカウンセリング体制を確立する	子育てネットワークが作られるよう支援する	児童相談所、民間の児童養護施設を増やす	育児相談窓口、児童相談所、民間の児童養護施設を増やす	刑法で厳しく規制する	児童虐待防止キャンペーンを実施する	その他	わからない	無回答
男性	496	47.4%	31.9%	43.1%	38.1%	14.7%	3.4%	12.3%	4.2%	
女性	617	51.2%	38.2%	40.8%	27.2%	11.2%	4.9%	12.8%	4.1%	

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の20～39歳、60～69歳で「子育てネットワークが作られるよう支援する」の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「刑法で厳しく規制する」の割合が高くなっています。男性の80歳以上で「児童虐待防止キャンペーンを実施する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	親へのカウンセリング体制を確立する	子育てネットワークが作られるよう支援する	施設を増やす	育児相談窓口、児童養護施設、民間の児童養護	刑法で厳しく規制する	児童虐待防止キャンペーンを実施する	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	48	31.3%	35.4%	37.5%	47.9%	10.4%	2.1%	8.3%	2.1%	
30～39歳	49	44.9%	34.7%	36.7%	42.9%	6.1%	8.2%	14.3%	2.0%	
40～49歳	83	53.0%	37.3%	43.4%	38.6%	15.7%	3.6%	6.0%	2.4%	
50～59歳	74	51.4%	29.7%	50.0%	43.2%	23.0%	2.7%	14.9%	1.4%	
60～69歳	76	50.0%	27.6%	42.1%	38.2%	9.2%	3.9%	11.8%	3.9%	
70～79歳	113	43.4%	27.4%	40.7%	30.1%	10.6%	1.8%	15.9%	8.0%	
80歳以上	53	54.7%	35.8%	50.9%	34.0%	30.2%	3.8%	13.2%	7.5%	
女性 20～29歳	64	59.4%	53.1%	39.1%	28.1%	7.8%	4.7%	7.8%	1.6%	
30～39歳	63	58.7%	52.4%	41.3%	25.4%	11.1%	7.9%	9.5%	1.6%	
40～49歳	129	62.8%	34.1%	40.3%	35.7%	4.7%	9.3%	7.0%	0.8%	
50～59歳	75	46.7%	33.3%	45.3%	36.0%	6.7%	6.7%	9.3%	2.7%	
60～69歳	105	52.4%	47.6%	45.7%	24.8%	10.5%	1.9%	12.4%	1.0%	
70～79歳	129	41.1%	27.9%	38.8%	20.2%	18.6%	2.3%	20.9%	8.5%	
80歳以上	51	31.4%	25.5%	33.3%	17.6%	21.6%	－	23.5%	15.7%	

【末子学齢別】

末子学齢別でみると、小学生の子どもがいる、中学生の子どもがいるで「親へのカウンセリング体制を確立する」の割合が高くなっています。

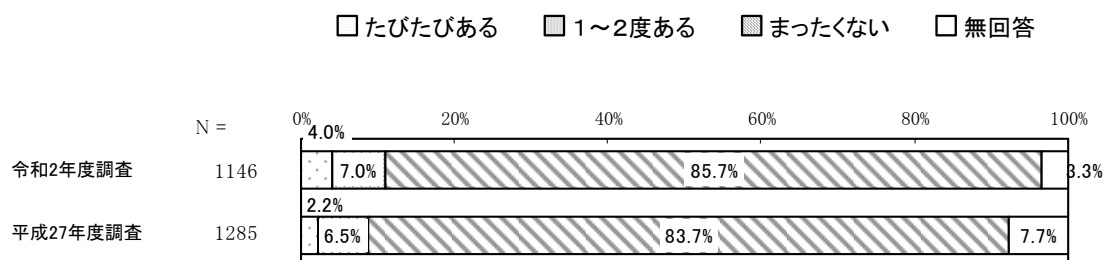
単位：％

区分	有効回答数 (件)	親へのカウンセリング 体制を確立する	子育てネットワークが 作られるよう支援するが	施設を増やす 児童相談所、民間の児童養護相 談窓口、児童養護相	刑法で厳しく規制する	児童虐待防止キャン ペーンを実施する	その他	わからない	無回答
就学前の子どもがいる	91	49.5%	44.0%	34.1%	31.9%	12.1%	9.9%	11.0%	－
小学生の子どもがいる	91	60.4%	39.6%	42.9%	33.0%	8.8%	7.7%	7.7%	1.1%
中学生の子どもがいる	45	55.6%	35.6%	28.9%	31.1%	11.1%	8.9%	8.9%	4.4%
高校生以上の子どもがい る	473	48.8%	34.9%	44.8%	29.8%	13.3%	3.8%	14.2%	3.0%
子どもはいない	107	45.8%	26.2%	38.3%	35.5%	12.1%	3.7%	14.0%	9.3%

（６）配偶者等からの暴力について

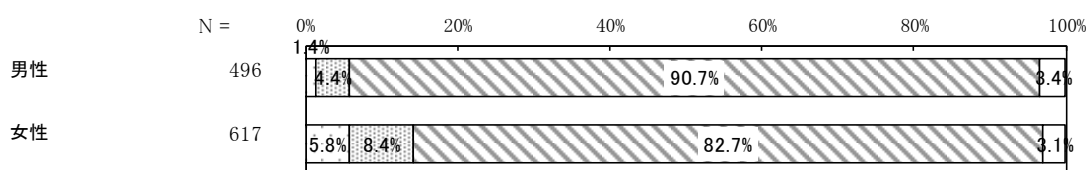
問 21. あなたはこれまでに、DVを受けたことがありますか。（○印 1 つ）

「たびたびある」と「１～２度ある」をあわせた“ある”の割合が 11.0%となっています。
平成 27 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



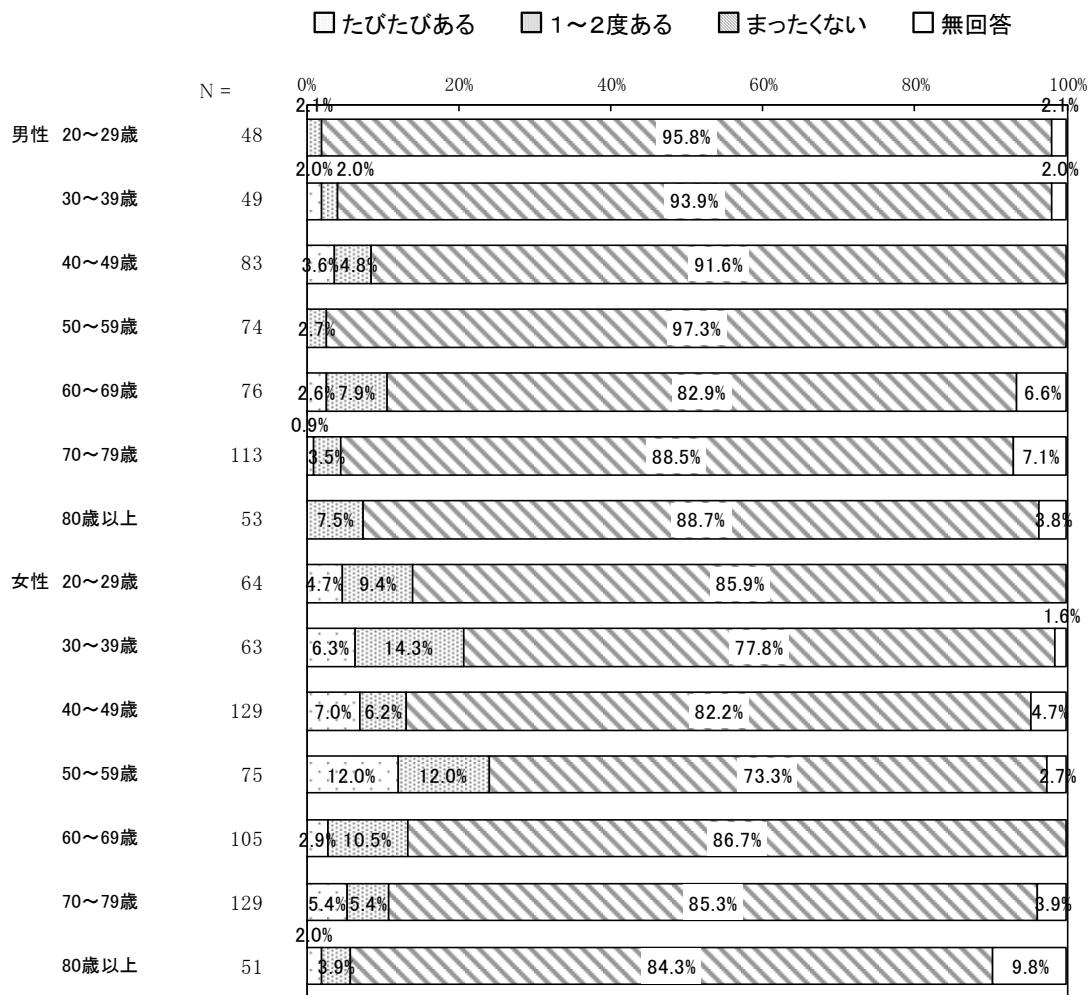
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で“ある”の割合が高くなっています。



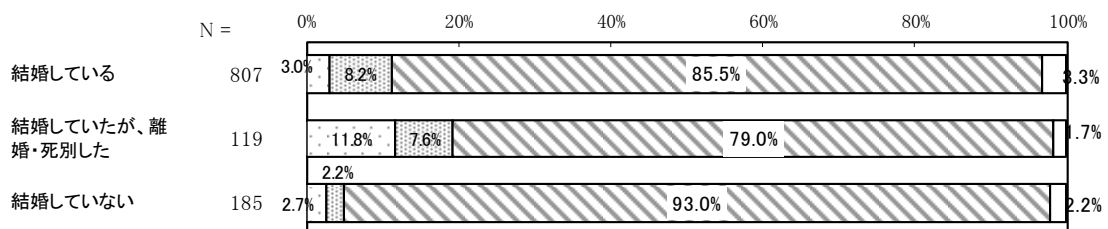
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の30～39歳、50～59歳で“ある”の割合が高くなっています。



【婚姻の有無別】

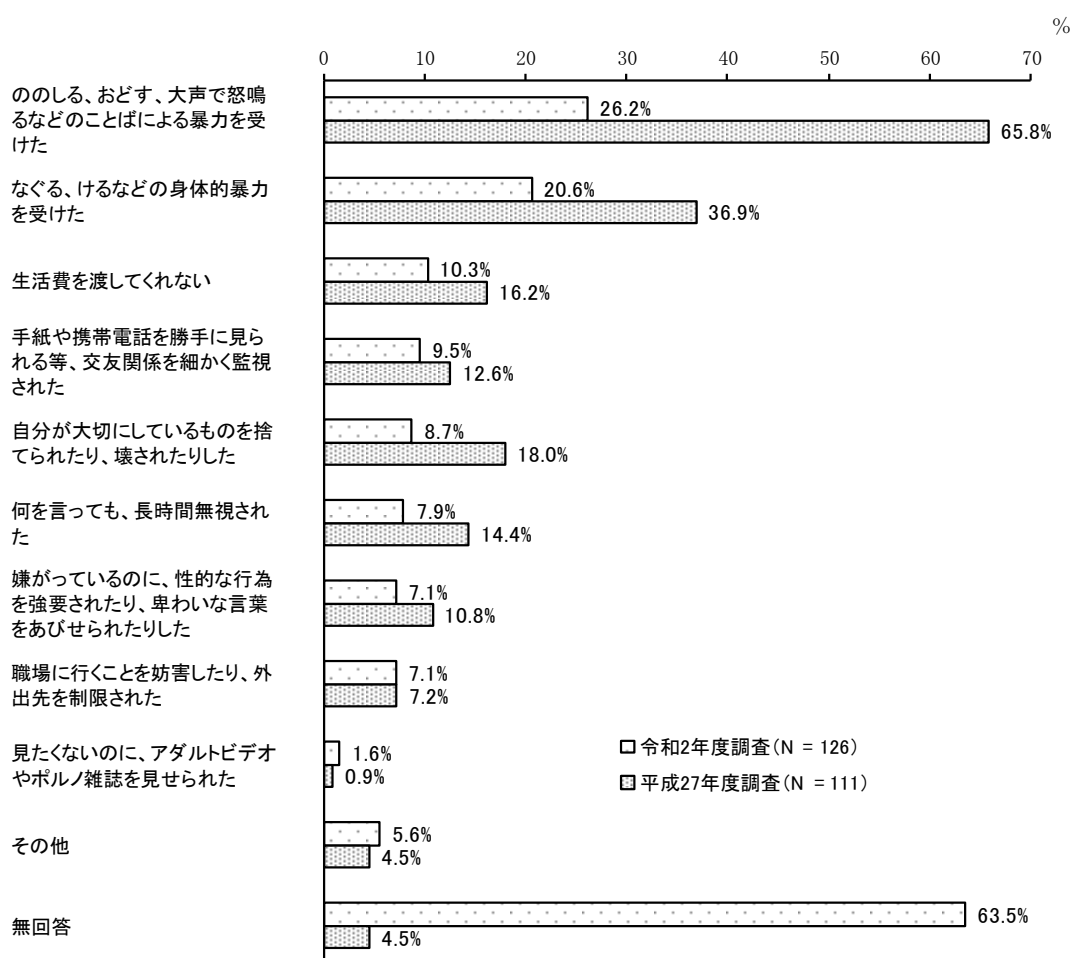
婚姻の有無別でみると、結婚していたが、離婚・死別したで“ある”の割合が高くなっています。



問 22. (問 21 で「1. たびたびある」「2. 1～2 度ある」と回答した方に)
どのようなDVを受けましたか。(O印いくつでも)

「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」の割合が 26.2%と最も高く、次いで「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」の割合が 20.6%、「生活費を渡してくれない」の割合が 10.3%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」の割合が 39.6 ポイント、「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」の割合が 16.3 ポイント、「自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした」の割合が 9.3 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」「生活費を渡してくれない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた	ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた	何を言っても、長時間無視された	手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された	嫌がっているのに、性的な行為を強要されたり、卑わいな言葉をあびせられたりした	見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せられた	生活費を渡してくれない	自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした	職場に行くことを妨害したり、外出先を制限された	その他	無回答
男性	29	17.2%	13.8%	6.9%	6.9%	3.4%	－	－	6.9%	3.4%	3.4%	75.9%
女性	88	22.7%	30.7%	9.1%	11.4%	9.1%	2.3%	14.8%	9.1%	9.1%	6.8%	59.1%

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の40～49歳で「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」の割合が高くなっています。女性の40～49歳、70～79歳で「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」の割合が高くなっています。女性の20～29歳で「何を言っても、長時間無視された」の割合が高くなっています。女性の40～49歳で「嫌がっているのに、性的な行為を強要されたり、卑わいな言葉をあびせられたりした」の割合が高くなっています。女性の50～59歳で「生活費を渡してくれない」の割合が高くなっています。女性の40～49歳で「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限された」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた	ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた	何を言っても、長時間無視された	手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された	嫌がっているのに、性的な行為を強要されたり、卑わいな言葉をあびせられたりした	見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せられた	生活費を渡してくれない	自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした	職場に行くことを妨害したり、外出先を制限された	その他	無回答
男性 20～29歳	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0%
30～39歳	2	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	－	－	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%
40～49歳	7	28.6%	28.6%	－	14.3%	－	－	－	14.3%	－	－	57.1%
50～59歳	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0%
60～69歳	8	25.0%	－	－	－	－	－	－	－	－	－	75.0%
70～79歳	5	－	20.0%	20.0%	－	－	－	－	－	－	－	80.0%
80歳以上	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0%
女性 20～29歳	9	11.1%	22.2%	33.3%	22.2%	11.1%	－	11.1%	11.1%	－	11.1%	66.7%
30～39歳	13	23.1%	30.8%	－	23.1%	－	－	7.7%	15.4%	15.4%	－	69.2%
40～49歳	17	41.2%	41.2%	11.8%	17.6%	23.5%	11.8%	11.8%	17.6%	23.5%	5.9%	47.1%
50～59歳	18	27.8%	33.3%	11.1%	5.6%	5.6%	－	27.8%	－	5.6%	11.1%	50.0%
60～69歳	14	7.1%	14.3%	－	－	－	－	14.3%	7.1%	－	－	78.6%
70～79歳	14	21.4%	42.9%	7.1%	7.1%	14.3%	－	14.3%	7.1%	7.1%	7.1%	50.0%
80歳以上	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	33.3%	66.7%

【婚姻の有無別】

婚姻の有無別でみると結婚していたが、離婚・死別したで「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」「手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された」「嫌がっているのに、性的な行為を強要されたり、卑わいな言葉をあびせられたりした」「自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした」の割合が高くなっています。結婚していないで「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」の割合が高くなっています。

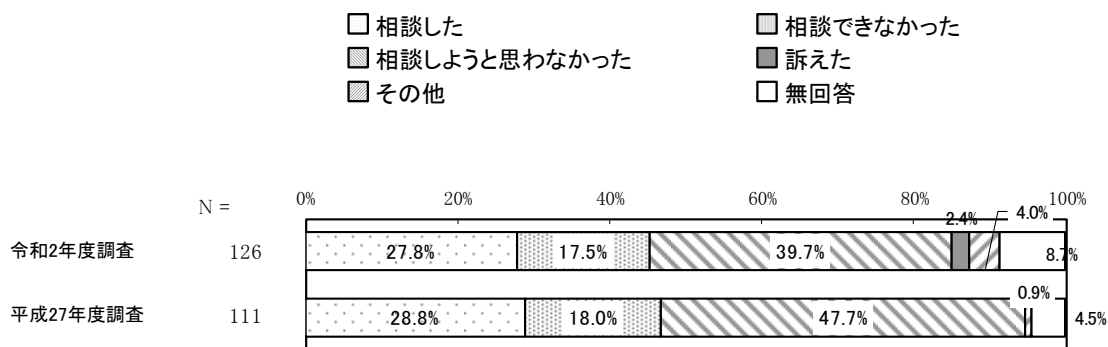
単位：％

区分	有効回答数（件）	なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた	ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた	何を言っても、長時間無視された	手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された	嫌がっているのに、性的な行為を強要されたり、卑わいな言葉をあびせられたりした	見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せられた	生活費を渡してくれない	自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした	職場に行くことを妨害したり、外出先を制限された	その他	無回答
結婚している	90	14.4%	20.0%	5.6%	8.9%	2.2%	－	5.6%	5.6%	6.7%	3.3%	73.3%
結婚していたが、離婚・死別した	23	30.4%	43.5%	13.0%	17.4%	26.1%	4.3%	17.4%	26.1%	8.7%	17.4%	39.1%
結婚していない	9	55.6%	22.2%	11.1%	－	11.1%	11.1%	22.2%	－	11.1%	－	44.4%

問 23. (問 21 で「1. たびたびある」「2. 1～2 度ある」と回答した方に)
DV を受けた場合に誰かに打ち明けたりしましたか。(○印 1 つ)

「相談しようと思わなかった」の割合が 39.7%と最も高く、次いで「相談した」の割合が 27.8%、「相談できなかった」の割合が 17.5%となっています。

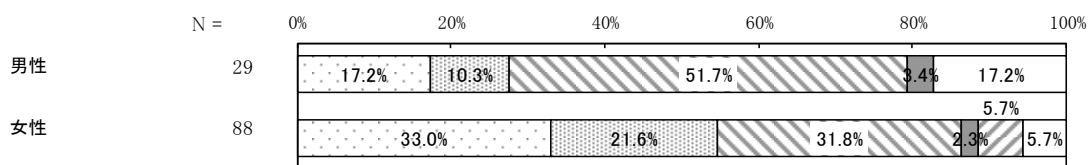
平成 27 年度調査と比較すると、「相談しようと思わなかった」の割合が 8.0 ポイント減少しています。



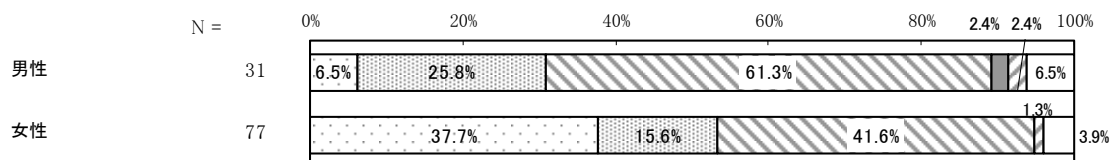
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「相談しようと思わなかった」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「相談した」「相談できなかった」の割合が高くなっています。

平成 27 年度調査と比較すると、男性で「相談できなかった」の割合が 15.5 ポイント減少しています。

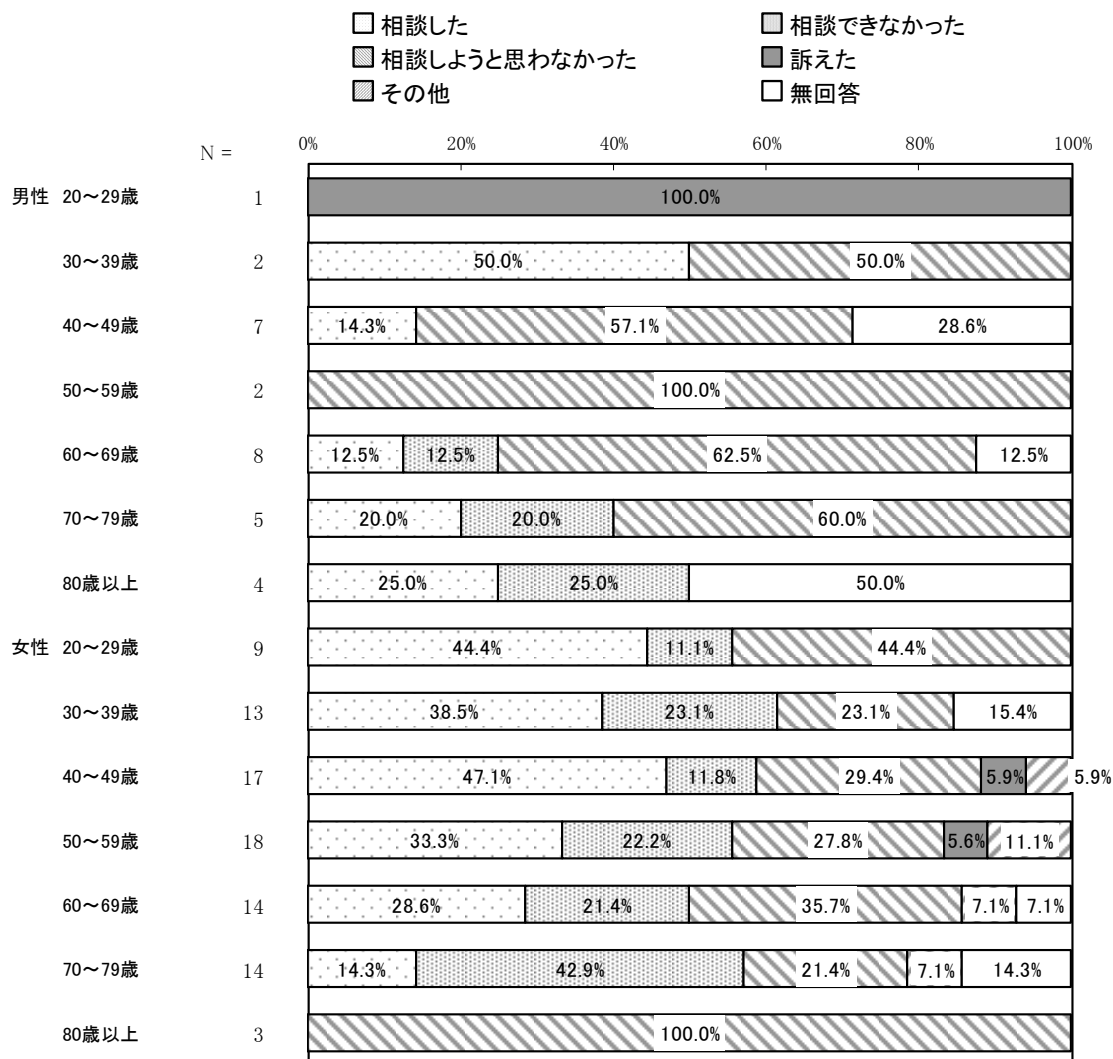


【性別（平成 27 年度調査）】



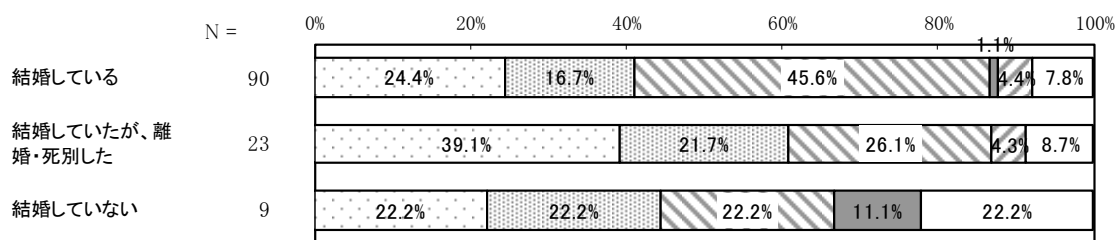
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の20～29歳、40～49歳で「相談した」の割合が高くなっています。
女性の70～79歳で「相談できなかった」の割合が高くなっています。



【婚姻の有無別】

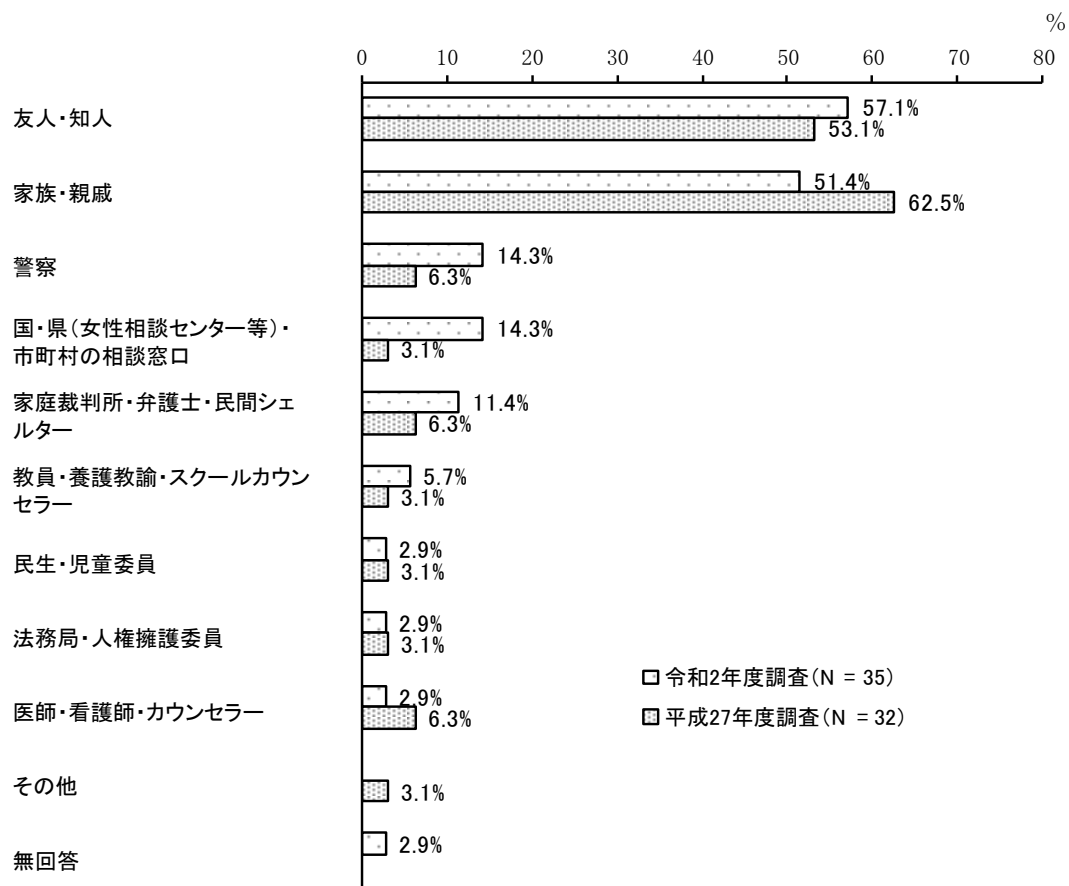
婚姻の有無別でみると、結婚していたが、離婚・死別したで「相談した」の割合が高くなっています。一方、結婚しているで「相談しようと思わなかった」の割合が高くなっています。



問 24. (問 23 で「1. 相談した」と回答した方に)
誰 (どこ) に相談しましたか。(〇印いくつでも)

「友人・知人」の割合が 57.1%と最も高く、次いで「家族・親戚」の割合が 51.4%となっています。

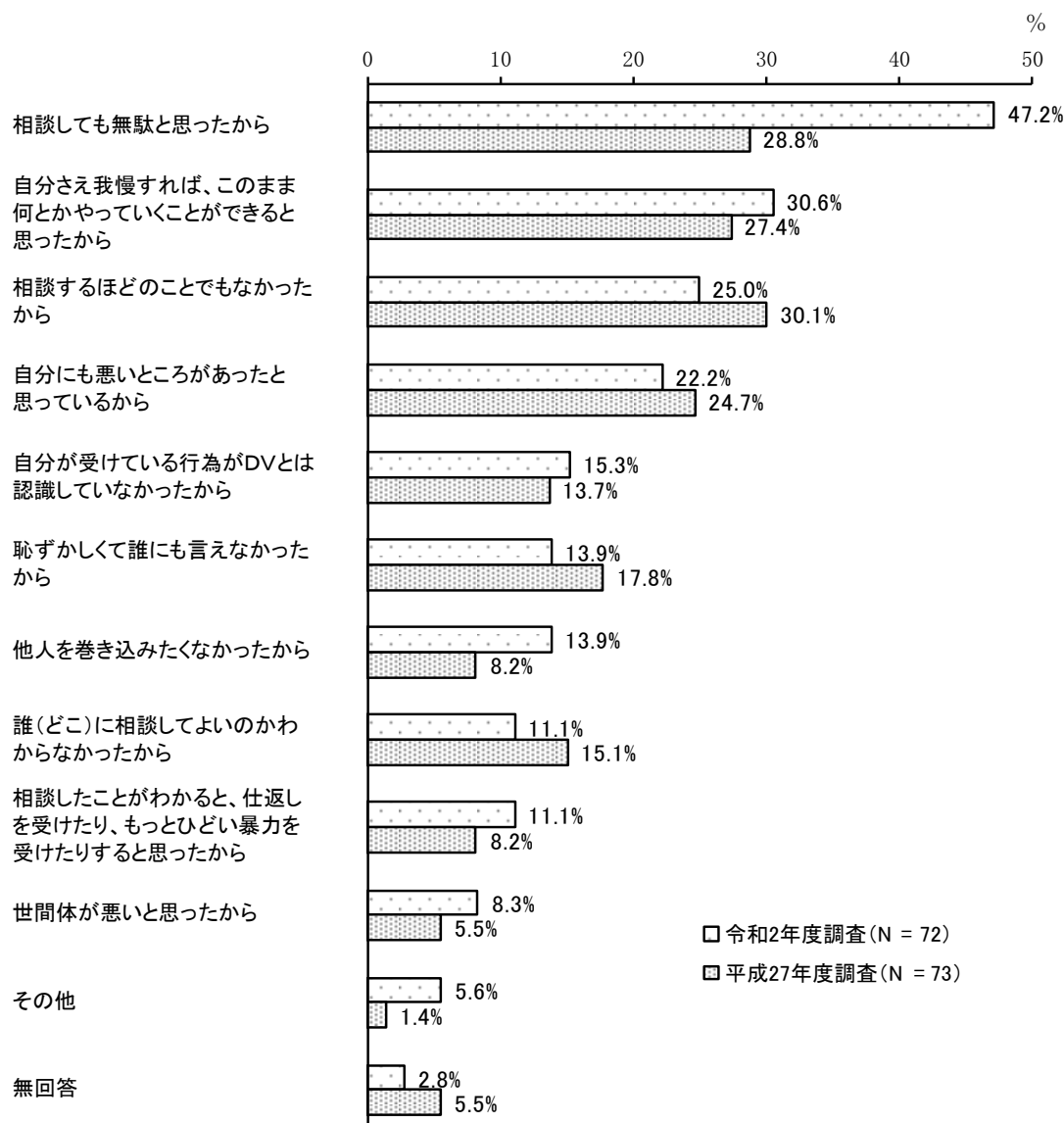
平成 27 年度調査と比較すると、「国・県(女性相談センター等)・市町村の相談窓口」の割合が 11.2 ポイント、「警察」の割合が 8.0 ポイント増加しています。一方で「家族・親戚」の割合が 11.1 ポイント減少しています。



問 25. (問 23 で「2. 相談できなかった」「3. 相談しようと思わなかった」と回答した方に) その理由はなぜですか。(〇印いくつでも)

「相談しても無駄と思ったから」の割合が 47.2%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」の割合が 30.6%、「相談するほどのことでもなかったから」の割合が 25.0%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、「相談しても無駄だと思ったから」の割合が 18.4 ポイント、「他人を巻き込みたくなかった」の割合が 5.7 ポイント増加しています。一方、「相談するほどのことでもなかったから」の割合が 5.1 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「相談しても無駄と思ったから」「自分にも悪いところがあったと思っているから」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから」「相談するほどのことでもなかったから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	誰（どこ）に相談してよいのかわからなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談しても無駄と思ったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから	自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから	世間体が悪いと思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	自分にも悪いところがあったと思っているから	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	相談するほどのことでもなかったから	その他	無回答
男性	18	11.1%	16.7%	50.0%	—	27.8%	5.6%	11.1%	33.3%	16.7%	16.7%	—	—
女性	47	12.8%	12.8%	42.6%	17.0%	31.9%	8.5%	14.9%	21.3%	17.0%	29.8%	6.4%	4.3%

【婚姻の有無別】

婚姻の有無別でみると、結婚していたが、離婚・死別したで「世間体が悪いと思ったから」「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」の割合が高くなっています。

単位：％

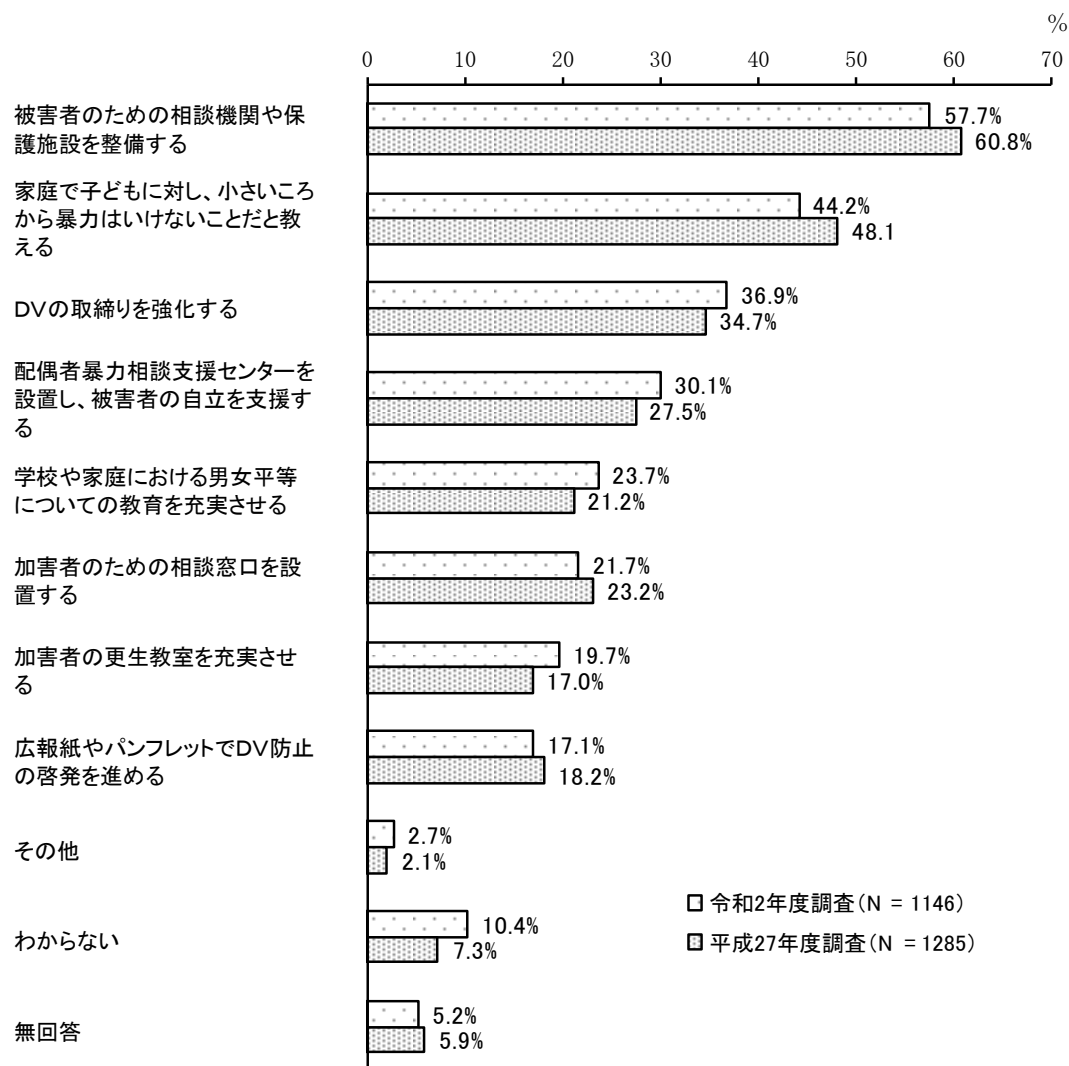
区分	有効回答数（件）	誰（どこ）に相談してよいのかわからなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談しても無駄と思ったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたたり、もつとひどい暴力を受けたりすると思ったから	自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思っただから	世間体が悪いと思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	自分にも悪いところがあつたと思っっているから	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	相談するほどのことでもなかったから	その他	無回答
結婚している	56	12.5%	14.3%	46.4%	12.5%	26.8%	7.1%	8.9%	25.0%	14.3%	26.8%	3.6%	1.8%
結婚していたが、離婚・死別した	11	9.1%	18.2%	54.5%	9.1%	45.5%	18.2%	27.3%	9.1%	27.3%	9.1%	9.1%	9.1%
結婚していない	4	－	－	50.0%	－	50.0%	－	50.0%	25.0%	－	50.0%	－	－

問 26. すべての方にお聞きします。

DVを防止するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印いくつでも)

「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」の割合が 57.7%と最も高く、次いで「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」の割合が 44.2%、「DVの取締りを強化する」の割合が 36.9%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「広報紙やパンフレットでDV防止の啓発を進める」「DVの取締りを強化する」の割合が高くなっています。一方、男性に比べて女性で「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」「配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する」「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」「加害者の更生教室を充実させる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	広報紙やパンフレットでDV防止の啓発を進める	DVの取締りを強化する	被害者のための相談機関や保護施設を整備する	加害者のための相談窓口を設置する	配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する	学校や家庭における男女平等についての教育を充実させる	家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える	加害者の更生教室を充実させる	その他	わからない	無回答
男性	496	21.2%	40.5%	55.0%	21.2%	26.6%	24.4%	39.5%	16.3%	2.8%	11.1%	3.8%
女性	617	14.1%	34.5%	60.8%	23.0%	33.2%	23.7%	49.4%	23.0%	2.3%	9.4%	6.2%

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の 80 歳以上で「広報紙やパンフレットでDV防止の啓発を進める」の割合が高くなっています。男性の 20～39 歳で「DVの取締りを強化する」の割合が高くなっています。男性の 20～29 歳、40～59 歳、女性の 20～69 歳で「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」の割合が高くなっています。女性の 40～49 歳で「配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する」の割合が高くなっています。男性の 80 歳以上、女性の 30～39 歳で「学校や家庭における男女平等についての教育を充実させる」の割合が高くなっています。女性の 20～49 歳で「加害者の更生教室を充実させる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	啓発 広報紙やパンフレットでDV防止の啓発を進める	DV の取締りを強化する	被害者のための相談機関や保護施設を整備する	加害者のための相談窓口を設置する	配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する	学校や家庭における男女平等についての教育を充実させる	家庭では子どもに對し、小さい頃から暴力はいけないことだと教える	加害者の更生教室を充実させる	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	48	16.7%	62.5%	66.7%	14.6%	12.5%	18.8%	22.9%	16.7%	4.2%	6.3%	－
30～39歳	49	12.2%	59.2%	51.0%	26.5%	26.5%	18.4%	30.6%	12.2%	8.2%	14.3%	2.0%
40～49歳	83	12.0%	38.6%	61.4%	20.5%	34.9%	20.5%	39.8%	25.3%	2.4%	10.8%	－
50～59歳	74	17.6%	43.2%	66.2%	28.4%	31.1%	27.0%	40.5%	17.6%	5.4%	8.1%	4.1%
60～69歳	76	18.4%	30.3%	55.3%	18.4%	23.7%	26.3%	47.4%	11.8%	2.6%	7.9%	7.9%
70～79歳	113	30.1%	31.9%	46.0%	18.6%	25.7%	24.8%	40.7%	14.2%	－	15.0%	5.3%
80歳以上	53	37.7%	35.8%	41.5%	22.6%	26.4%	34.0%	47.2%	15.1%	－	13.2%	5.7%
女性 20～29歳	64	23.4%	50.0%	73.4%	31.3%	31.3%	29.7%	43.8%	32.8%	－	6.3%	1.6%
30～39歳	63	14.3%	54.0%	69.8%	25.4%	39.7%	34.9%	55.6%	33.3%	4.8%	4.8%	－
40～49歳	129	8.5%	40.3%	76.0%	31.8%	48.1%	24.8%	42.6%	33.3%	3.9%	3.1%	3.1%
50～59歳	75	12.0%	37.3%	69.3%	16.0%	30.7%	20.0%	50.7%	26.7%	1.3%	8.0%	5.3%
60～69歳	105	12.4%	24.8%	61.9%	24.8%	39.0%	23.8%	54.3%	21.0%	2.9%	4.8%	5.7%
70～79歳	129	15.5%	23.3%	40.3%	14.0%	22.5%	18.6%	52.7%	8.5%	0.8%	16.3%	12.4%
80歳以上	51	19.6%	21.6%	33.3%	17.6%	9.8%	15.7%	45.1%	7.8%	2.0%	27.5%	13.7%

【婚姻の有無別】

婚姻の有無別でみると、結婚しているで「配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する」の割合が高くなっています。結婚していたが、離婚・死別したで「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」の割合が高くなっています。結婚していないで「DVの取締りを強化する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	広報紙やパンフレットでDV防止の啓発を進める	DVの取締りを強化する	被害者のための相談機関や保護施設を整備する	加害者のための相談窓口を設置する	配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する	学校や家庭における男女平等についての教育を充実させる	家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える	加害者の更生教室を充実させる	その他	わからない	無回答
結婚している	807	18.3%	35.3%	59.6%	22.9%	32.0%	24.7%	44.4%	20.2%	2.9%	9.0%	4.1%
結婚していたが、離婚・死別した	119	13.4%	33.6%	43.7%	13.4%	21.0%	21.0%	50.4%	14.3%	0.8%	15.1%	9.2%
結婚していない	185	13.0%	46.5%	61.1%	24.3%	26.5%	21.6%	39.5%	23.8%	3.8%	11.9%	4.3%

(7) セクシュアル・ハラスメントについて

問 27. あなたは職場・地域・学校などで、セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを受けたり、あるいはしたり、身近で見聞きしたことがありますか。
(○印①～⑮の項目ごとに1つずつ)

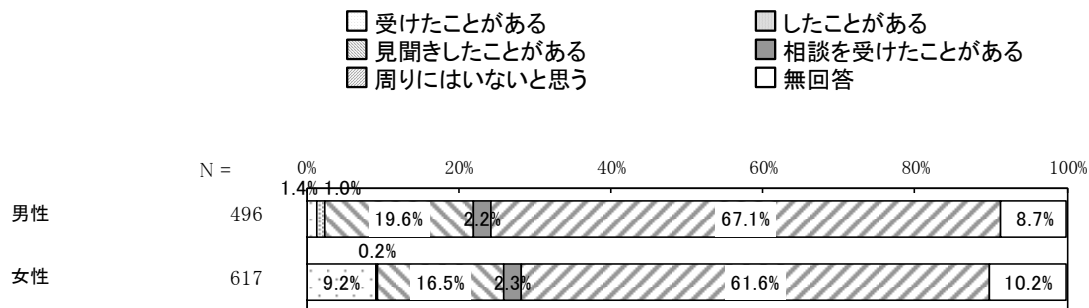
「受けたことがある」で「② 「女（男）だから」、「女（男）のくせに」と差別的な発言をする」の割合が1割を超えています。「見聞きしたことがある」で「② 「女（男）だから」、「女（男）のくせに」と差別的な発言をする」「④ 宴会でお酌やデュエットを強要する」の割合が2割を超えています。



① 嫌がっているのに、性に関する話を聞かせる

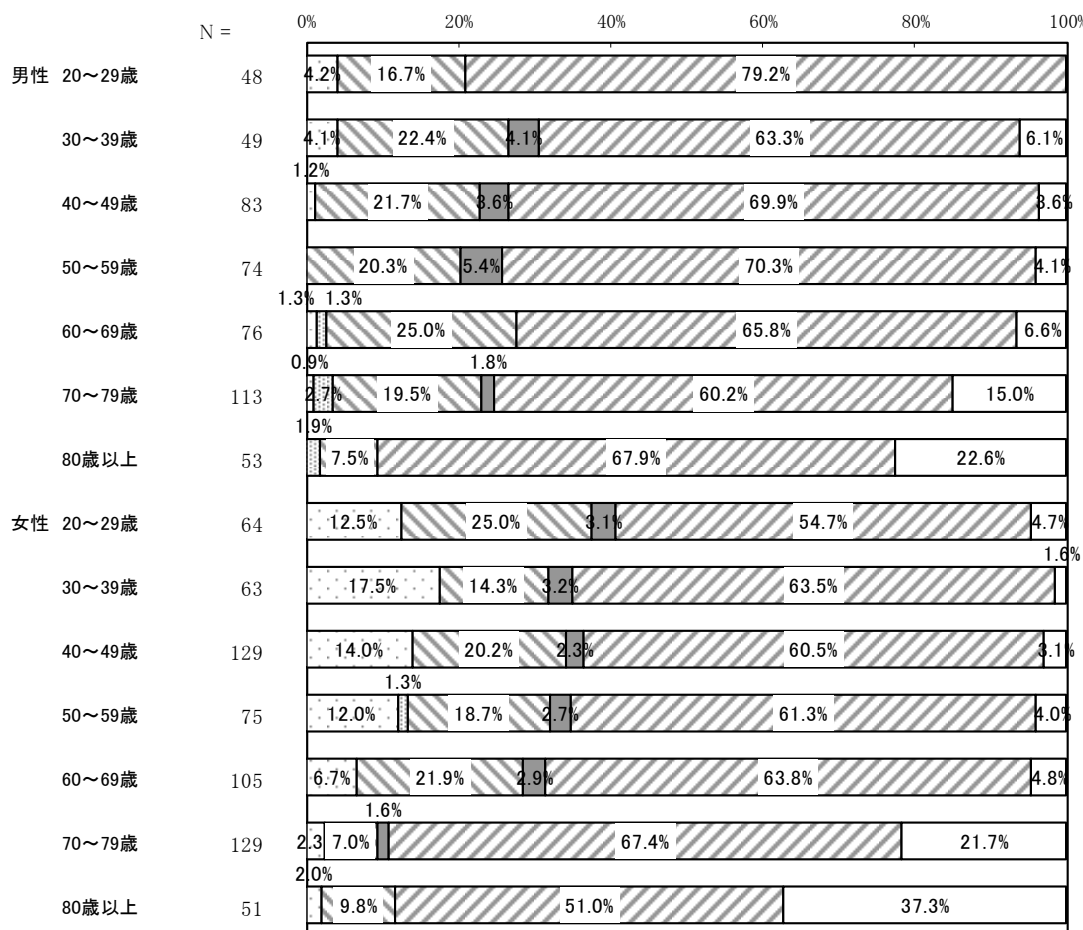
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

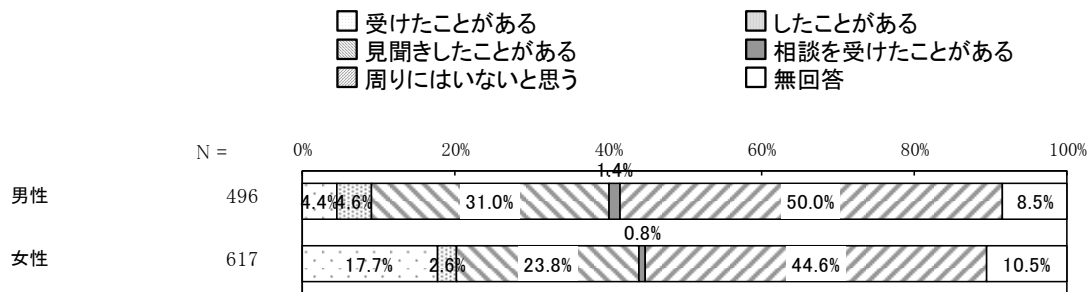
性・年齢別でみると、女性の20～59歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



② 「女（男）だから」、「女（男）のくせに」と差別的な発言をする

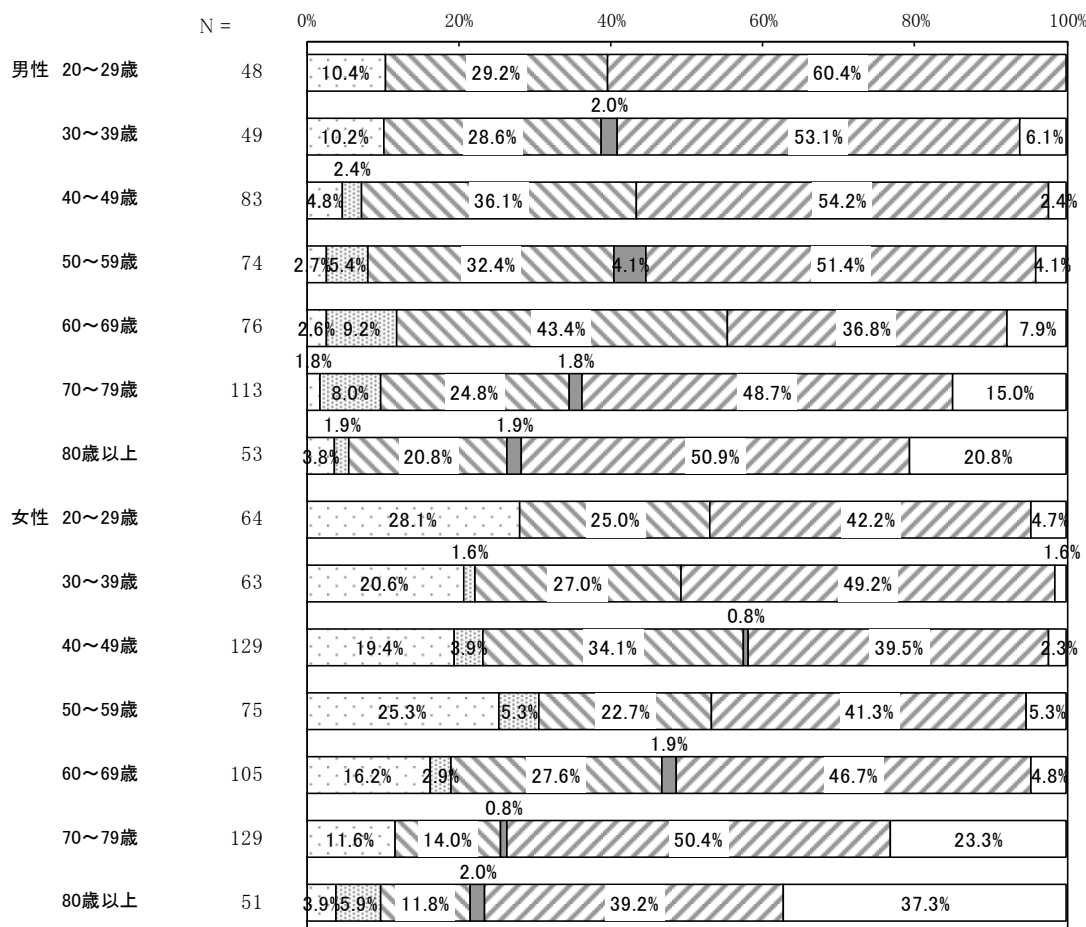
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

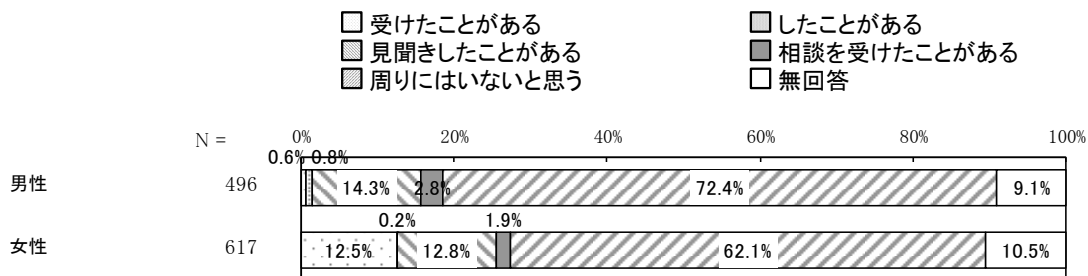
性・年齢別でみると、男性の 60～69 歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の 20～29 歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



③ 仕事中に異性の身体を触る

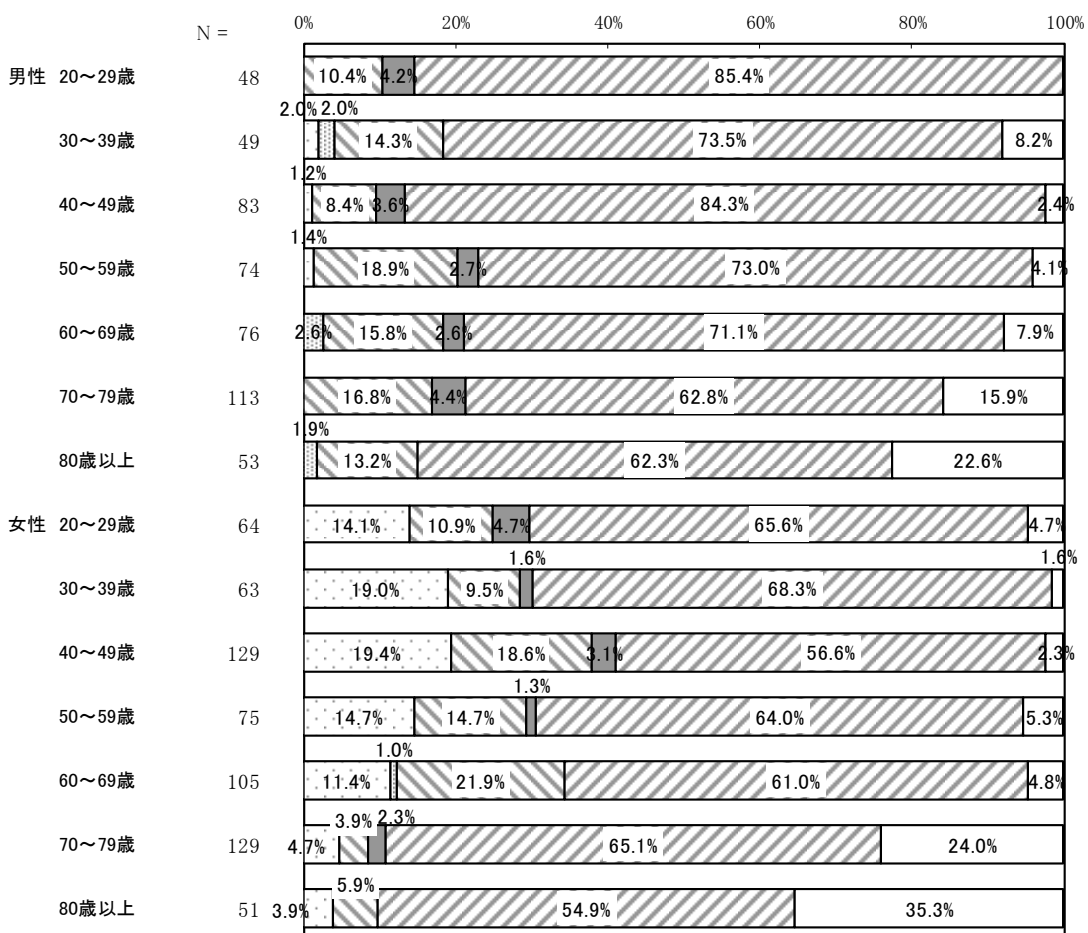
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

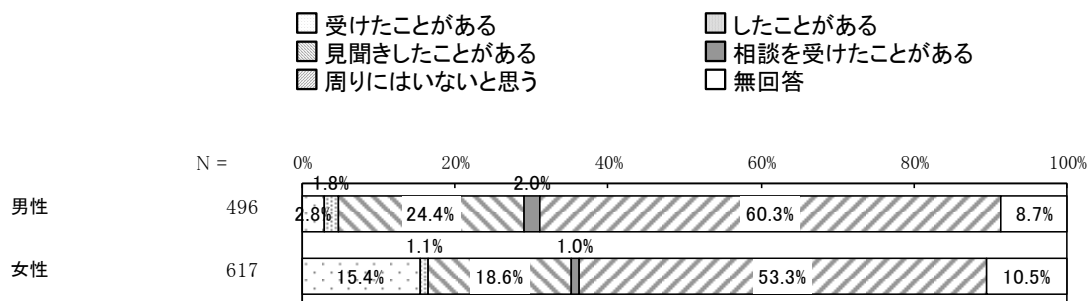
性・年齢別でみると、女性の20～69歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、40～49歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



④ 宴会でお酌やデュエットを強要する

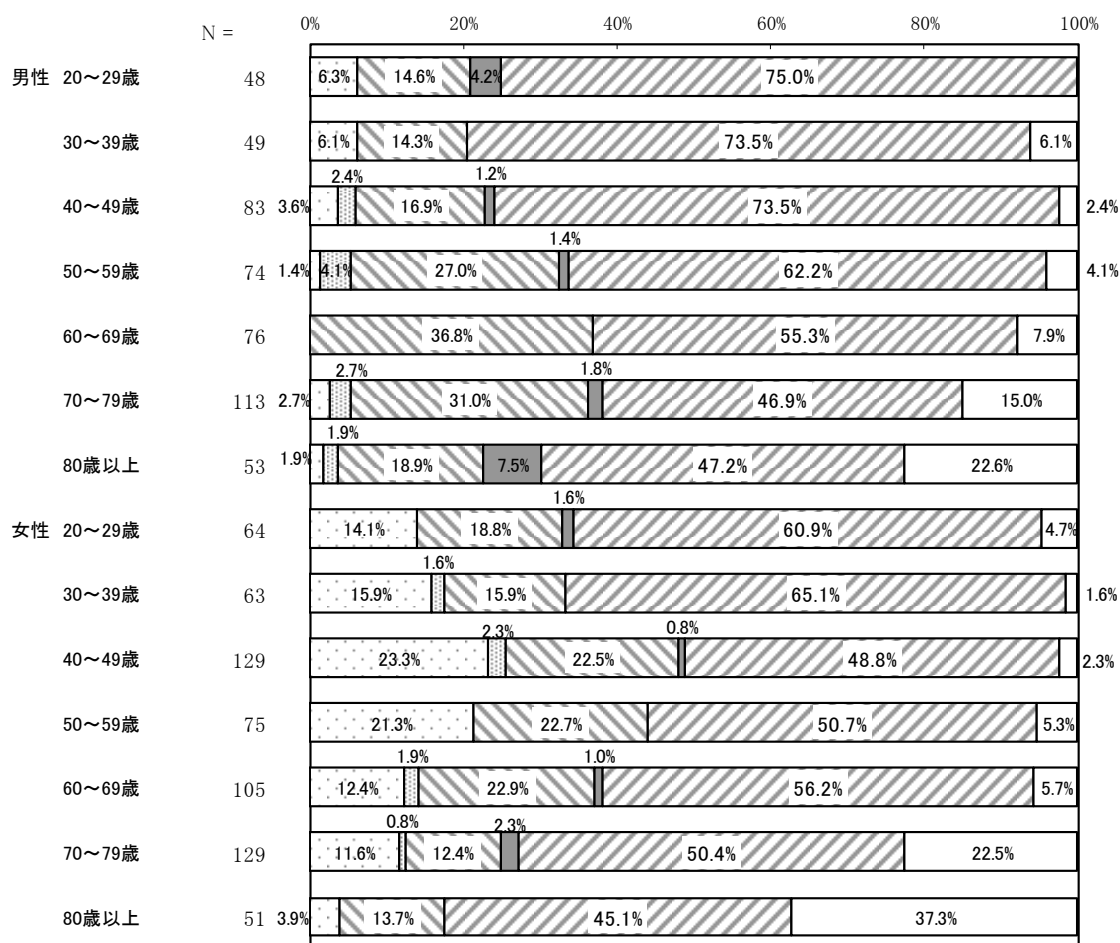
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「見聞きしたことがある」「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

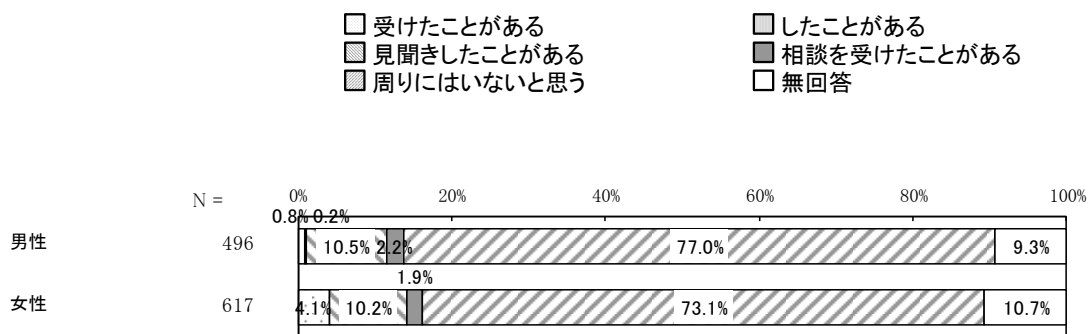
性・年齢別でみると、女性の40～59歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の60～69歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～49歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑤ 上司が地位を利用した性的誘いをする

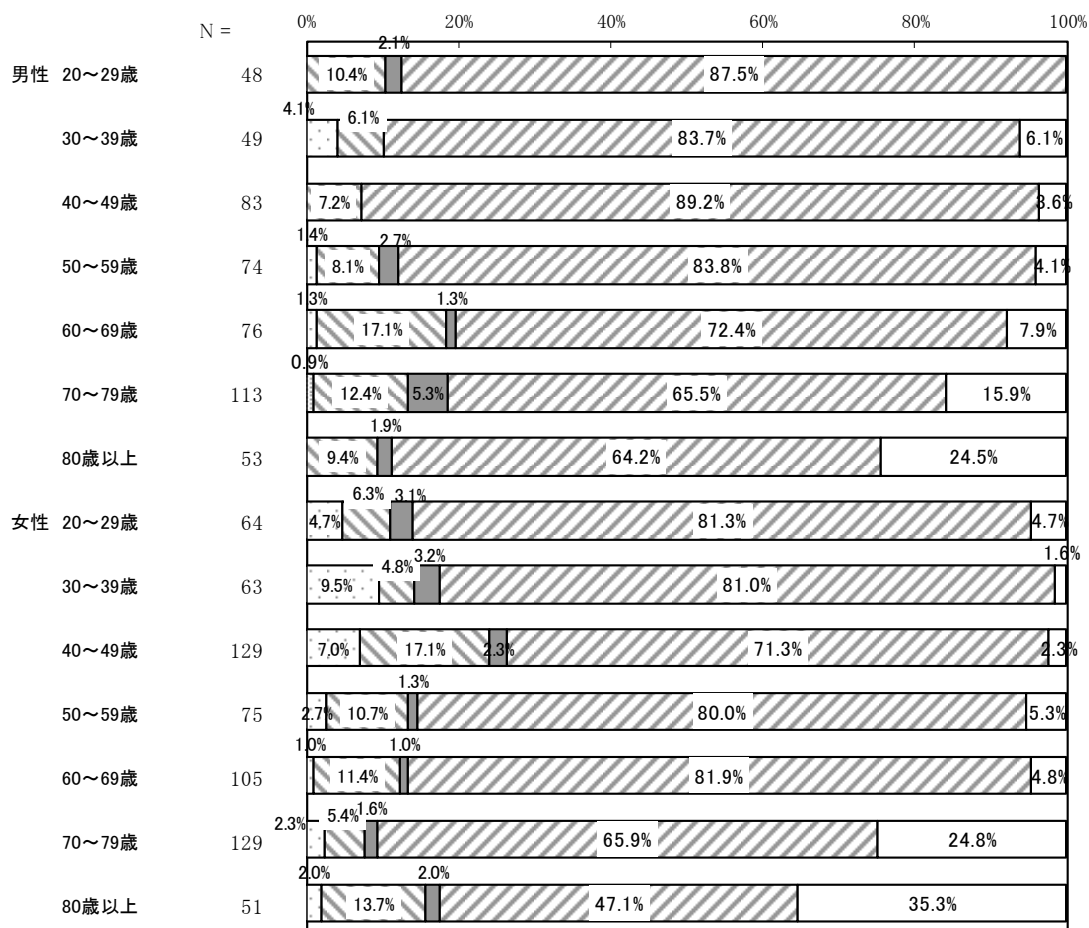
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

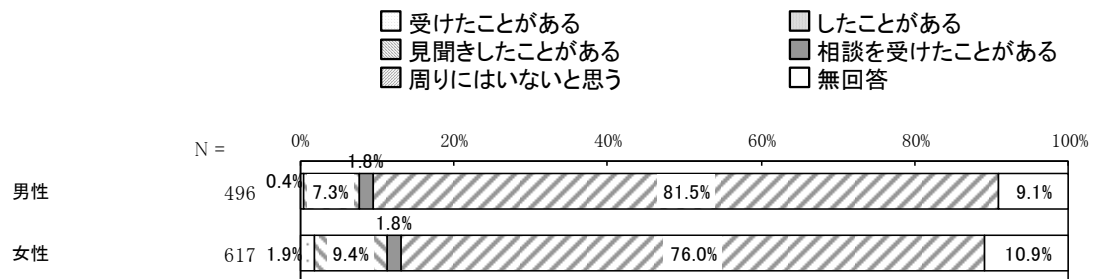
性・年齢別でみると、男性の20～59歳、女性の20～39歳、50～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑥ 性的な噂話などによって、職場に居づらくする

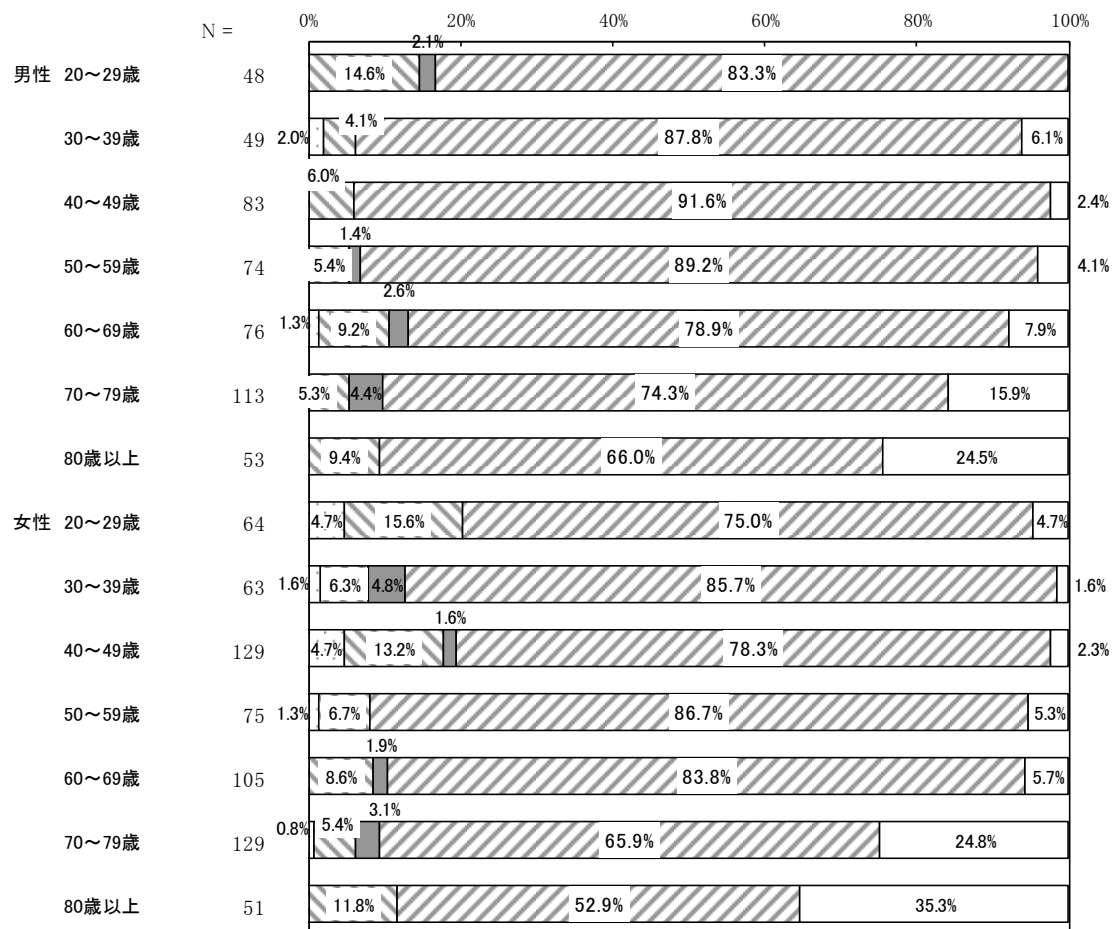
【性別】

性別でみると、女性に比べて男性で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

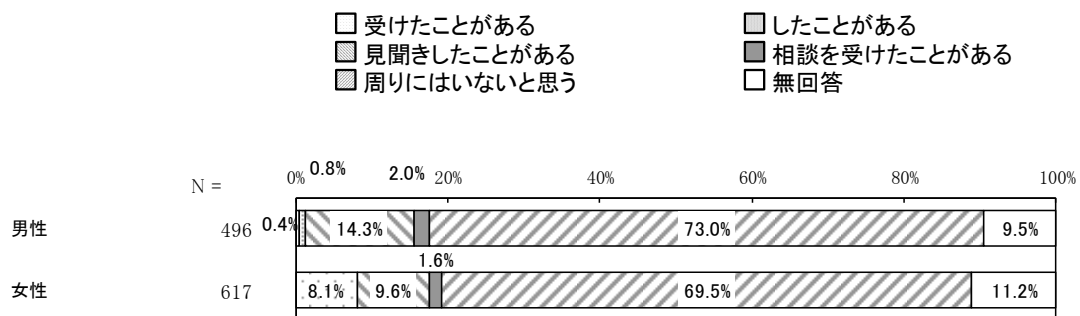
性・年齢別でみると、大きな差異はみられません。



⑦ 仕事に関係のない食事にたびたび誘う

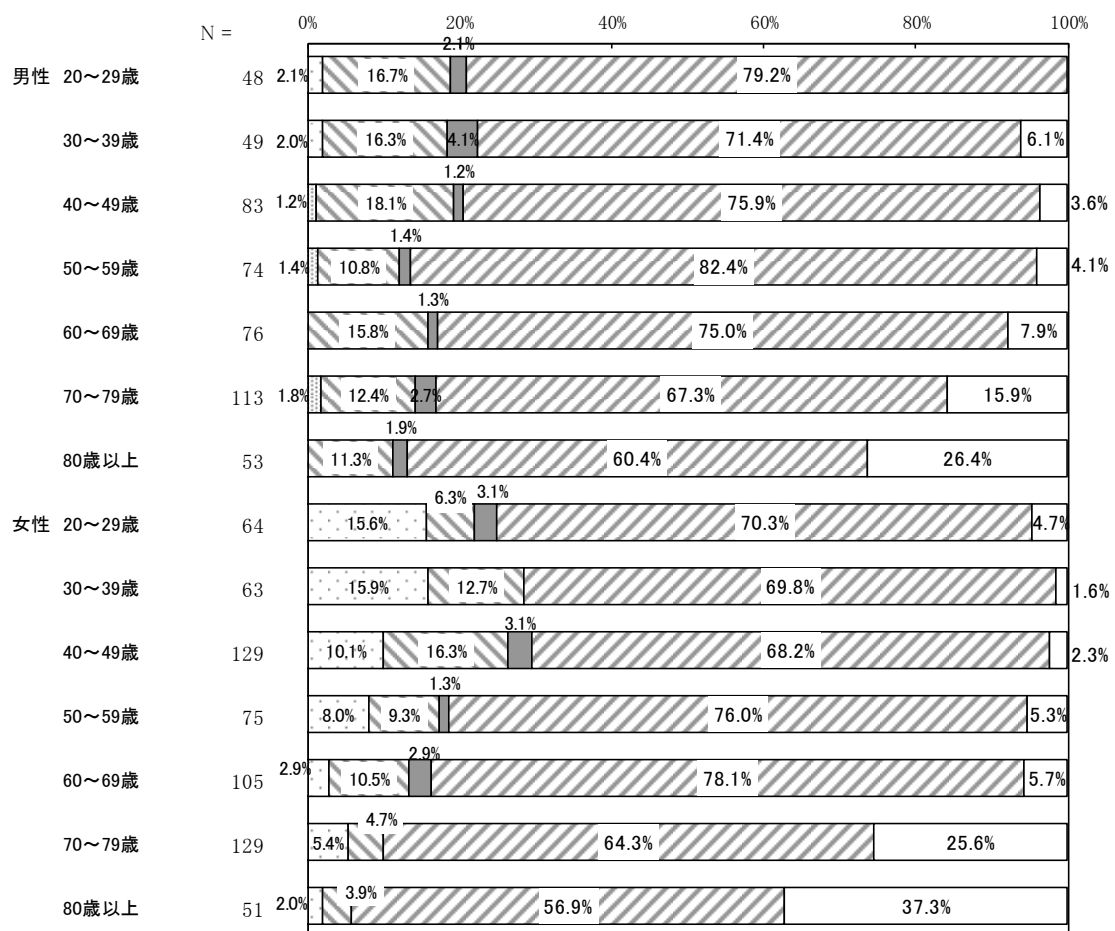
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

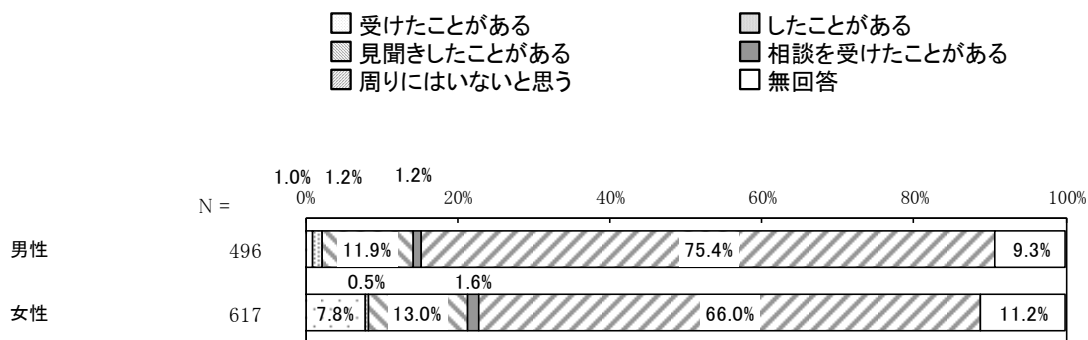
性・年齢別でみると、女性の20～39歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。



⑧ 結婚の予定や出産予定をたびたび聞く

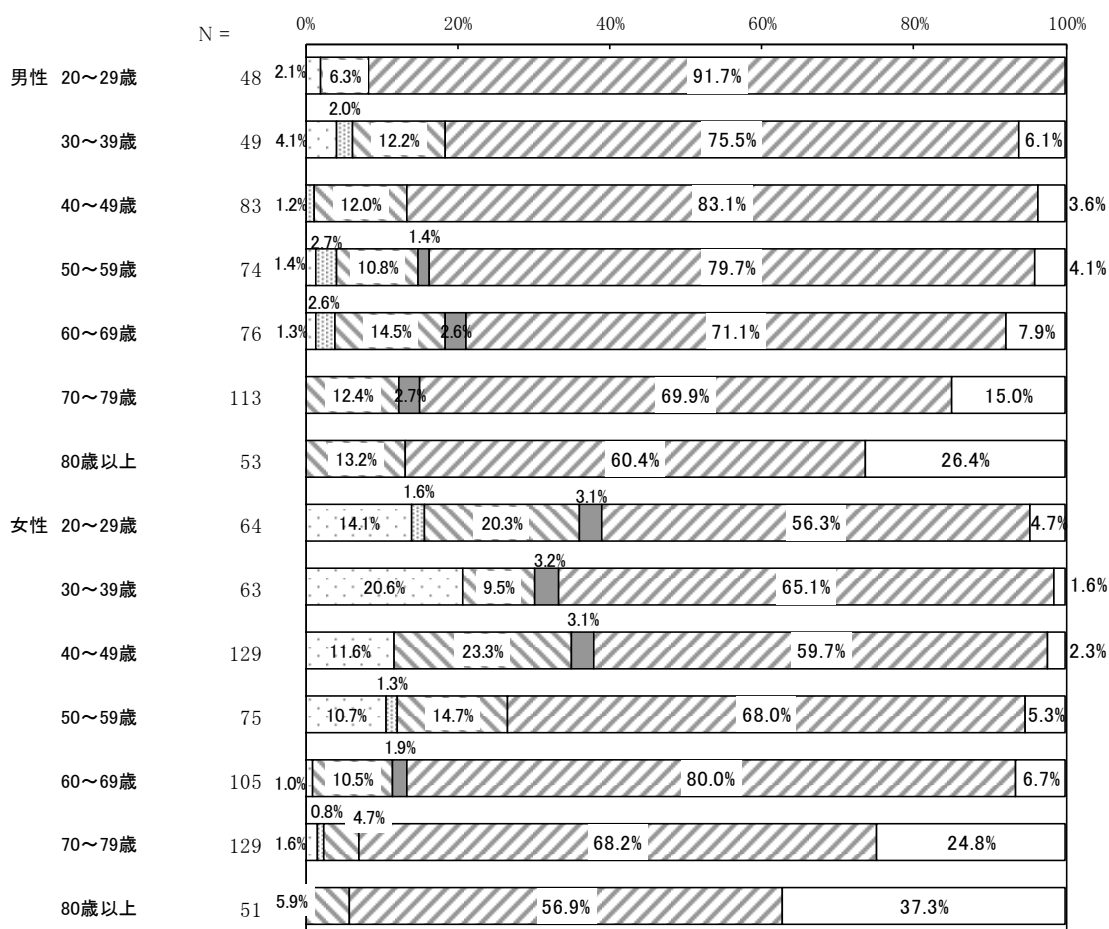
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。女性に比べ男性で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

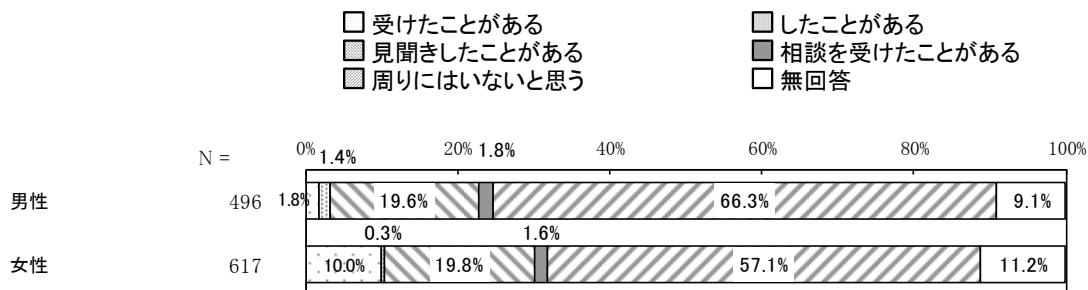
性・年齢別でみると、女性の30～39歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。女性の20～29歳、40～49歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑨ 容姿について繰り返し言う

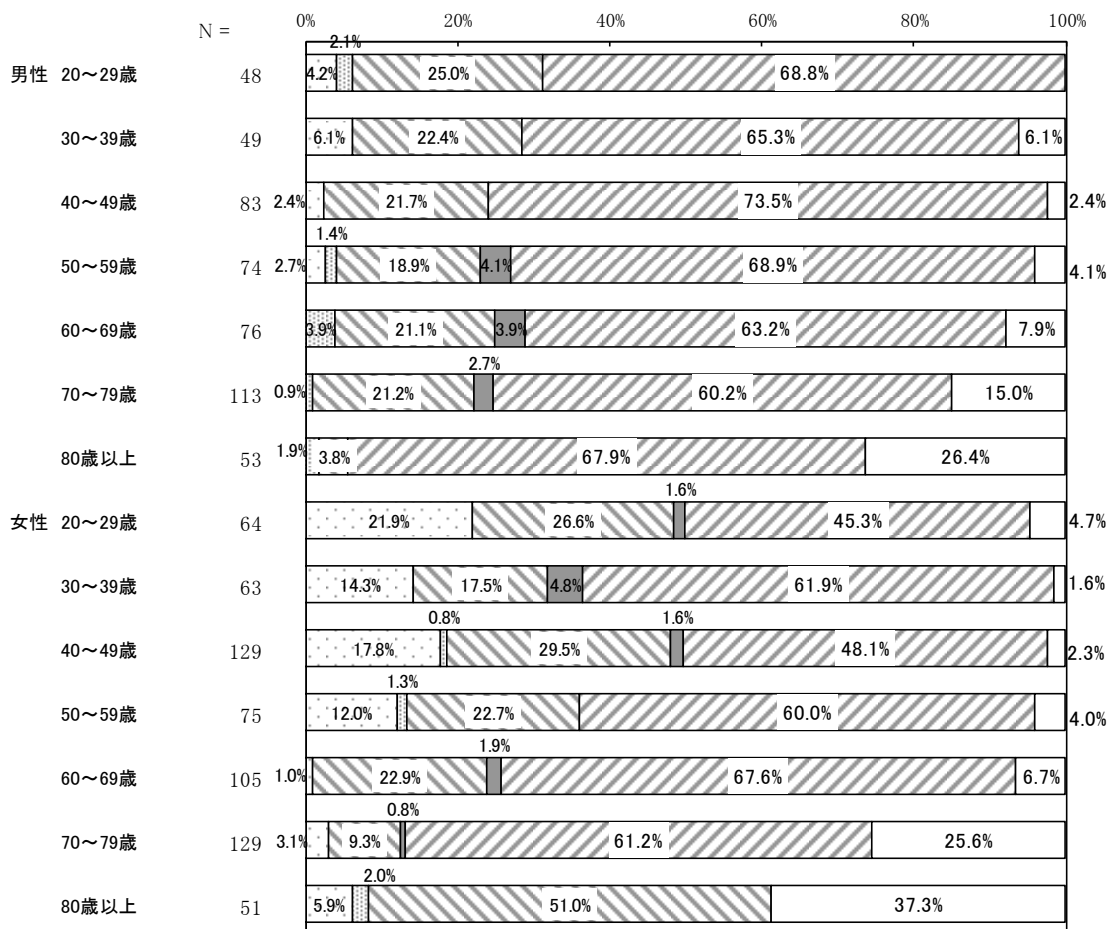
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

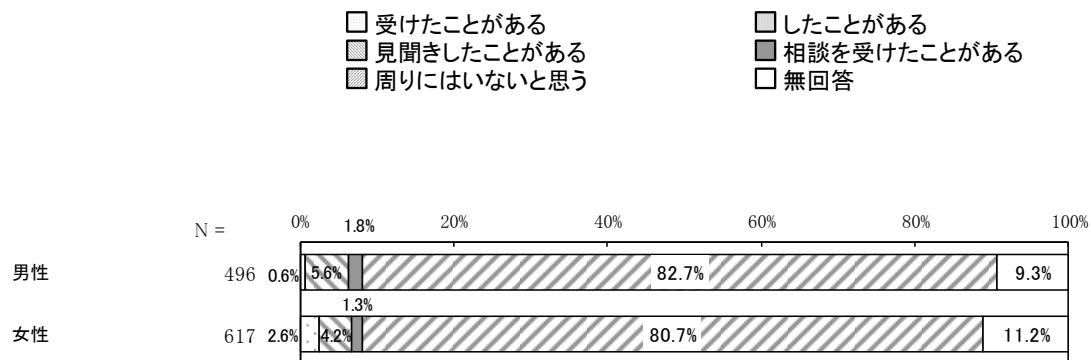
性・年齢別でみると、女性の20～59歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。



⑩ 性的な内容の手紙・メール・電話をする

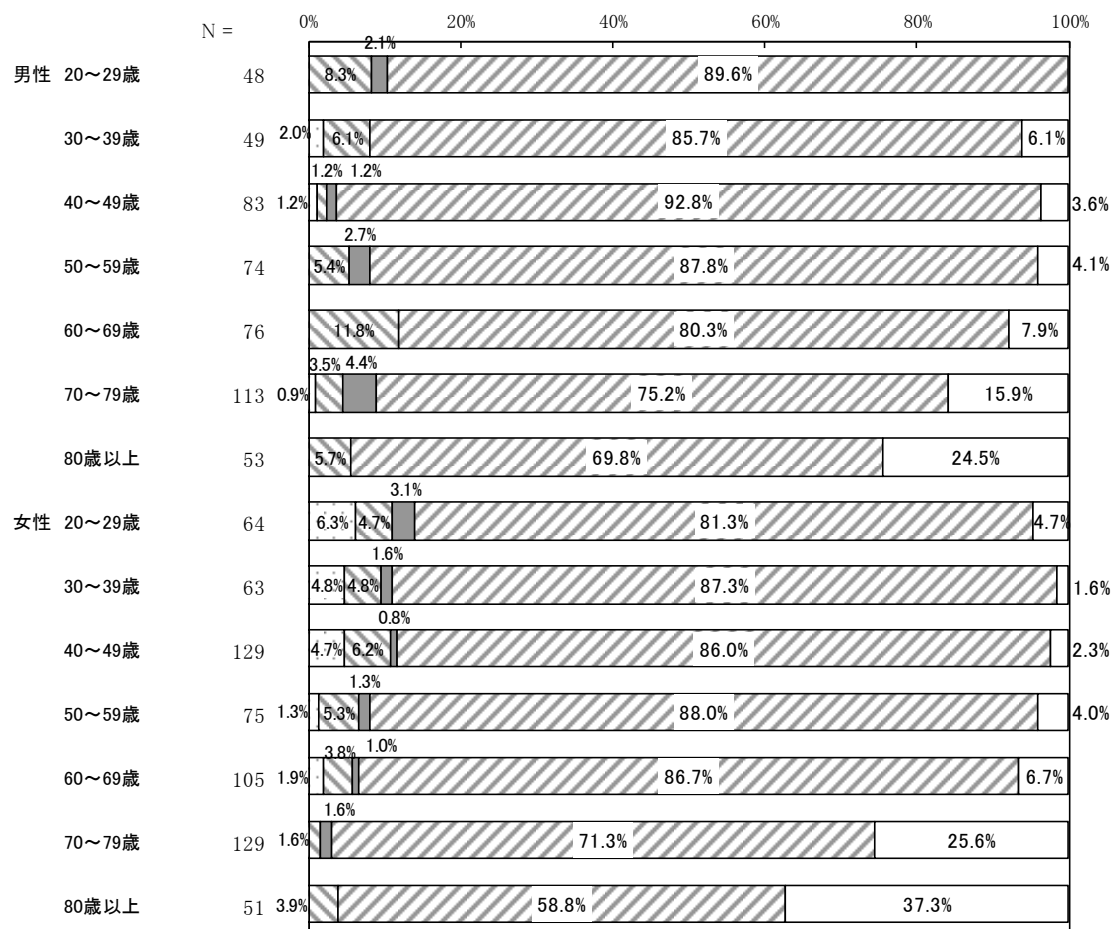
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

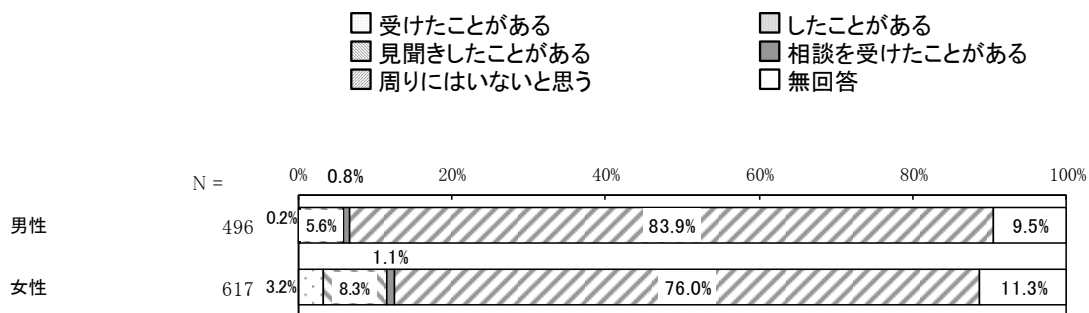
性・年齢別でみると、大きな差異はみられません。



⑪ 妊娠や育児のことで、悪口や嫌がらせをされる

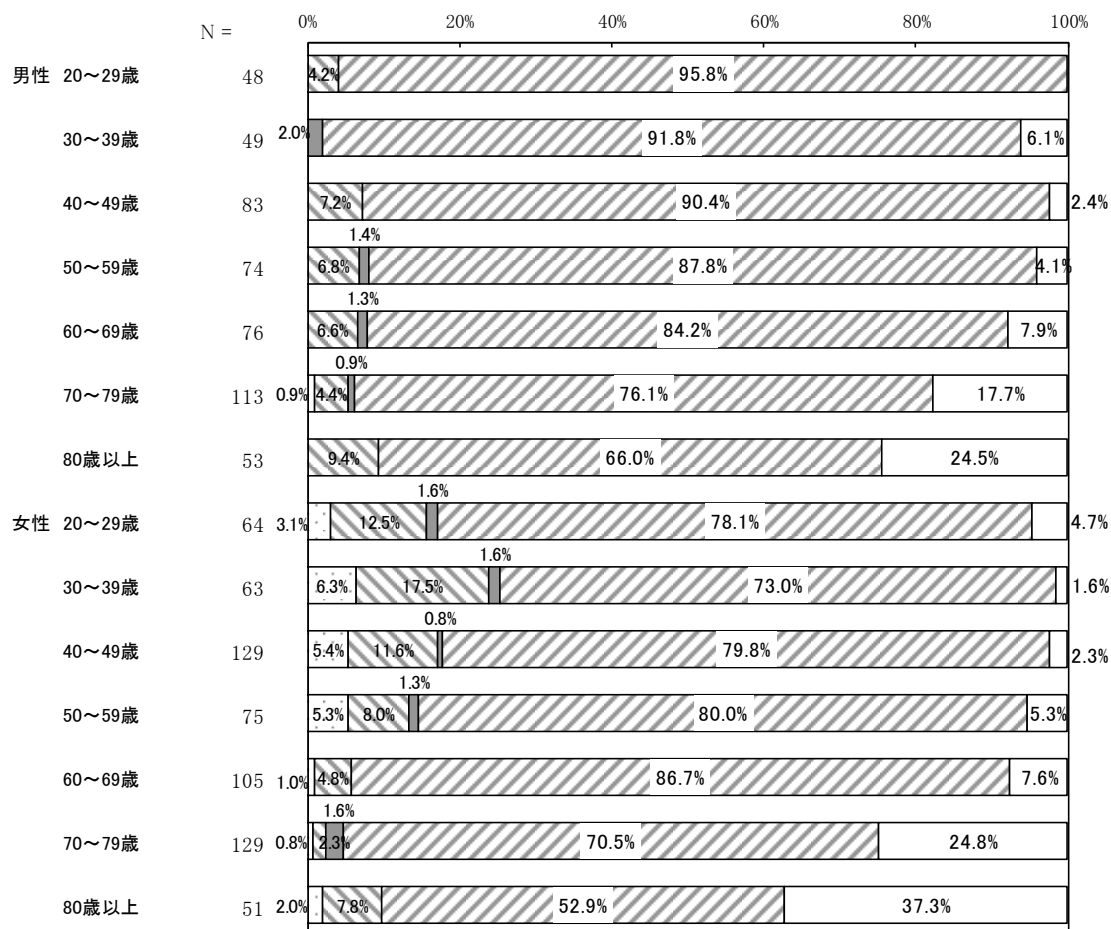
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

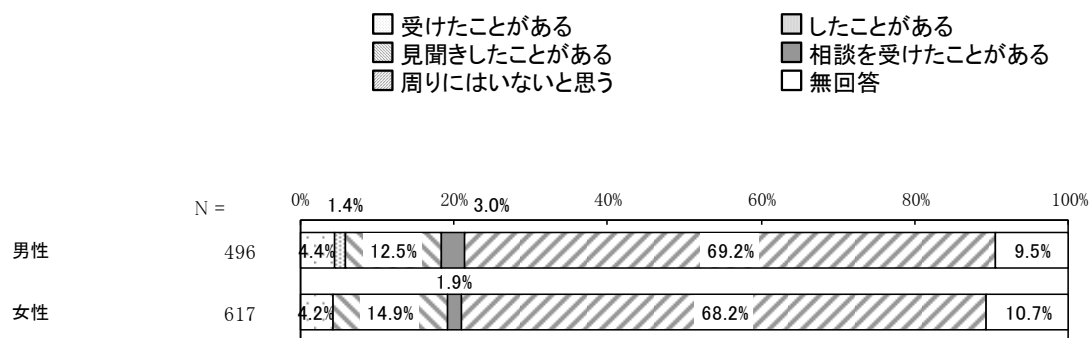
性・年齢別でみると、女性の 30～39 歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。



⑫ 「お前の仕事のできは最悪だ」「クビを覚悟しろ」と頭ごなしに罵倒される

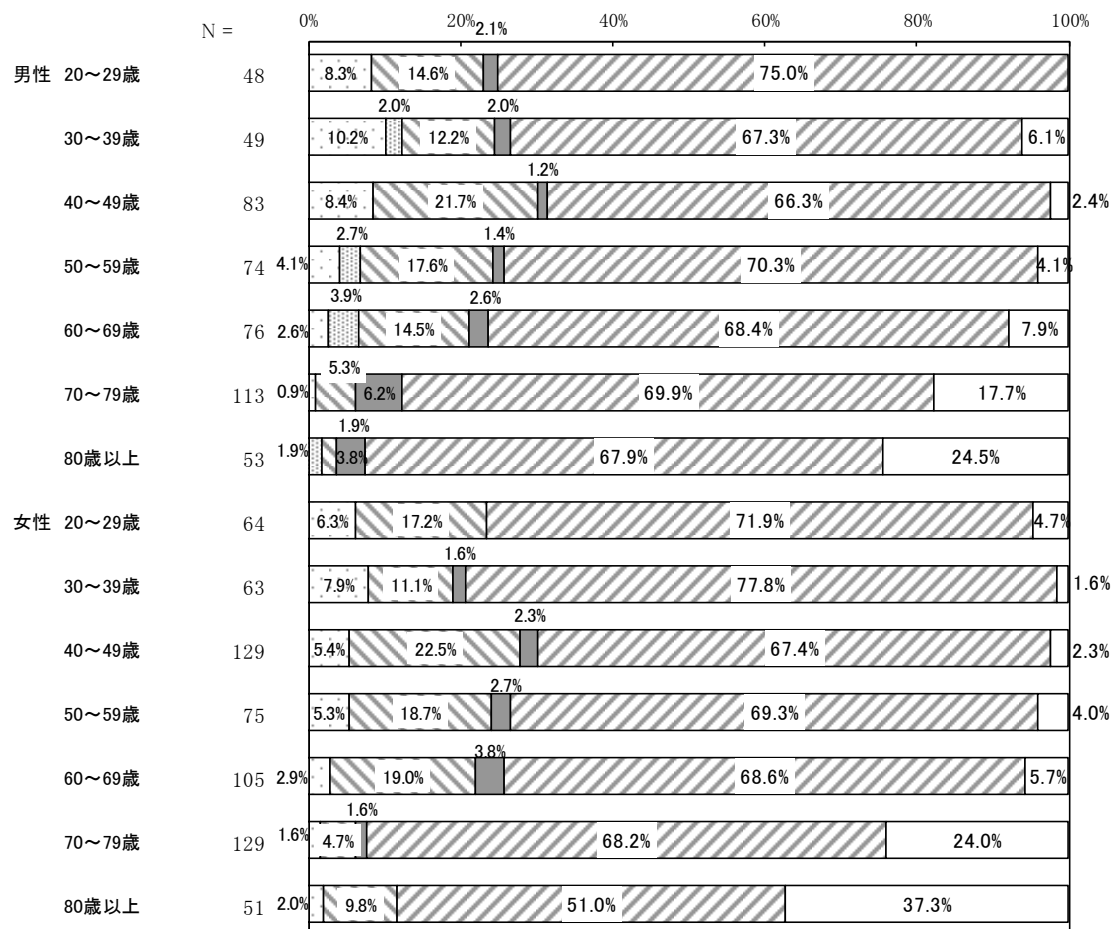
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

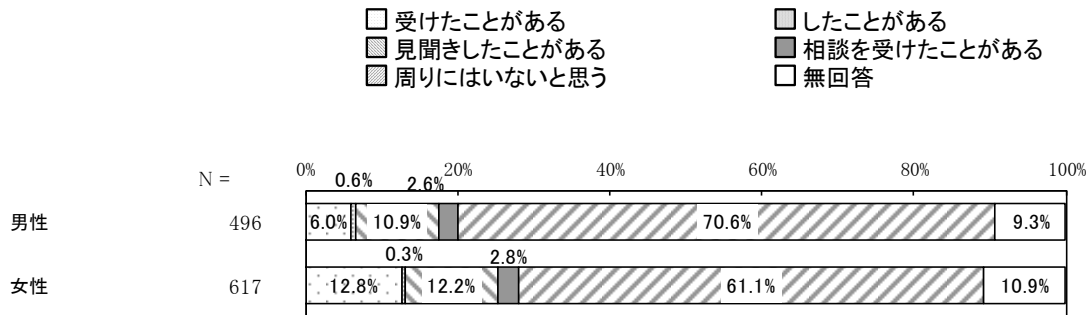
性・年齢別でみると、大きな差異はみられません。



⑬ あいさつをしても、自分だけ無視される

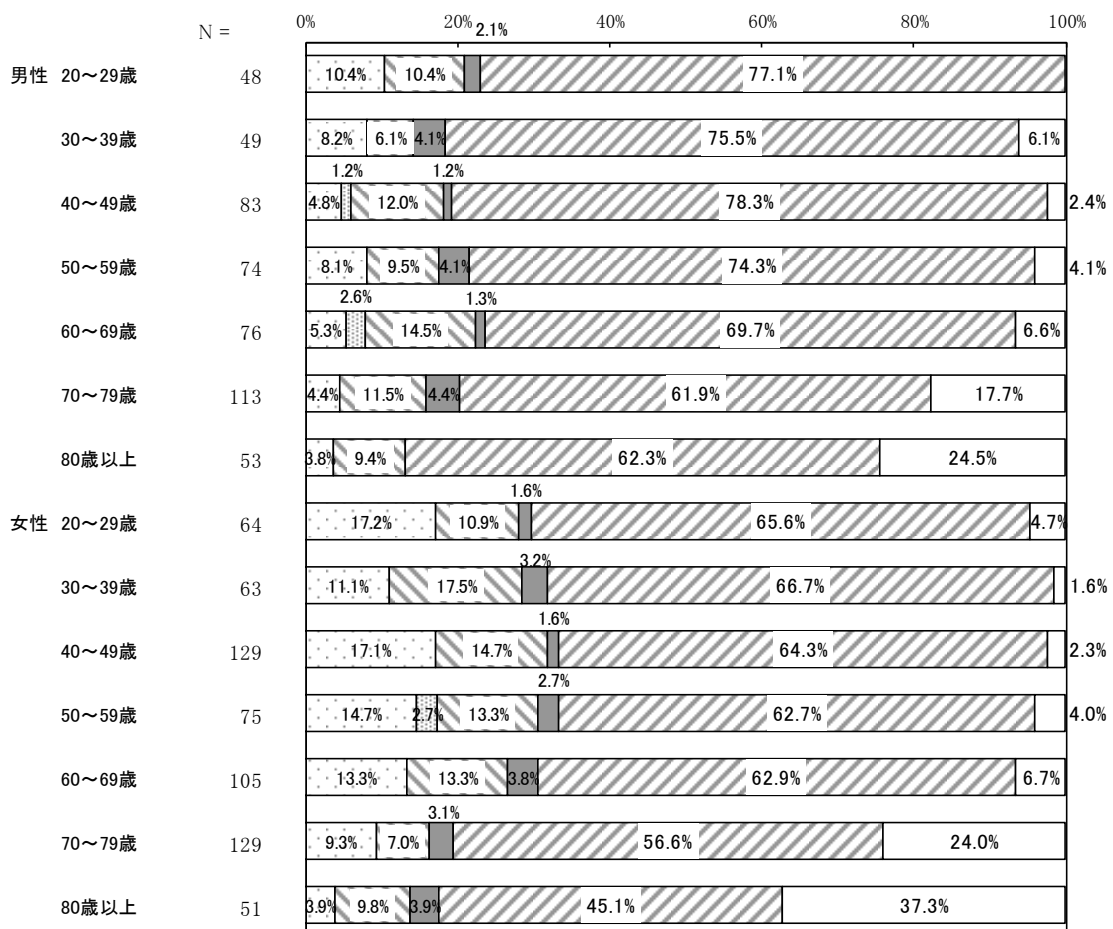
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

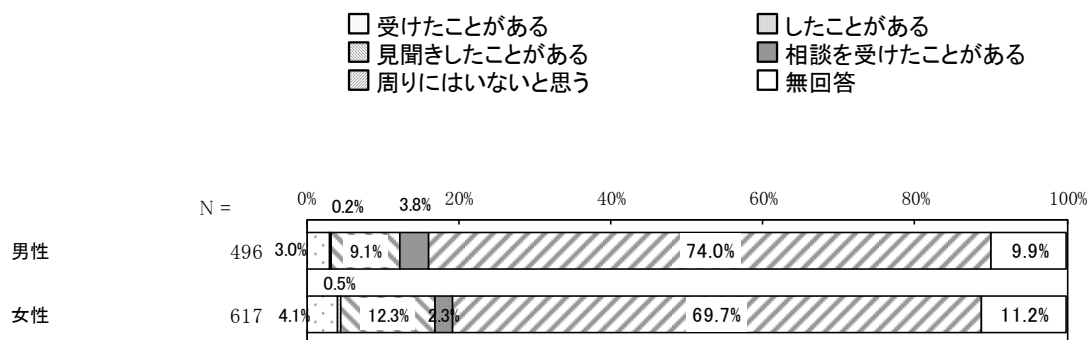
性・年齢別でみると、大きな差異はみられません。



⑭ きちんと仕事を与えてもらえない

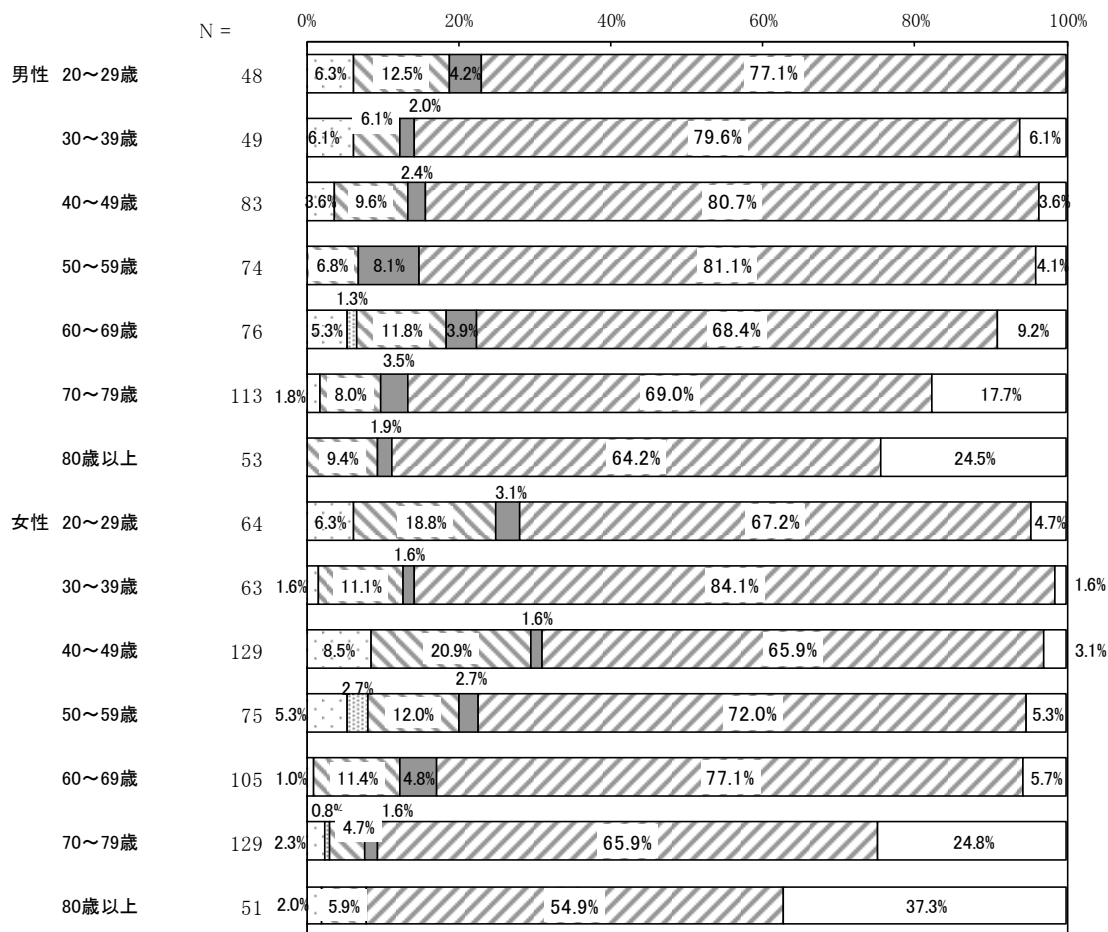
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

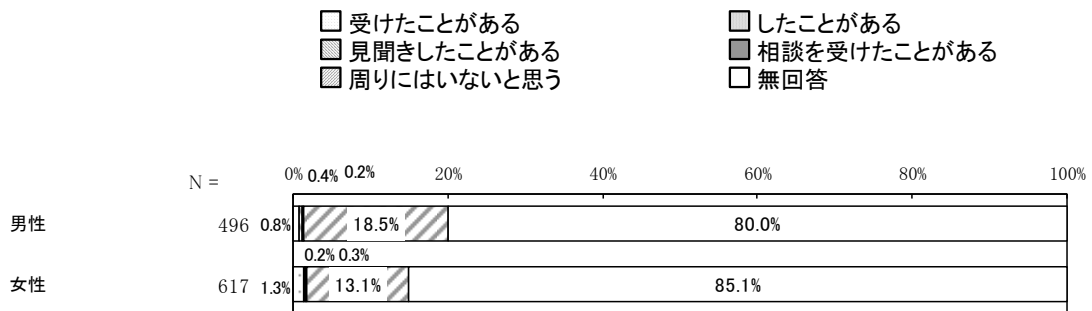
性・年齢別でみると、女性の20～29歳、40～49歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～59歳、女性の30～39歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑮ その他

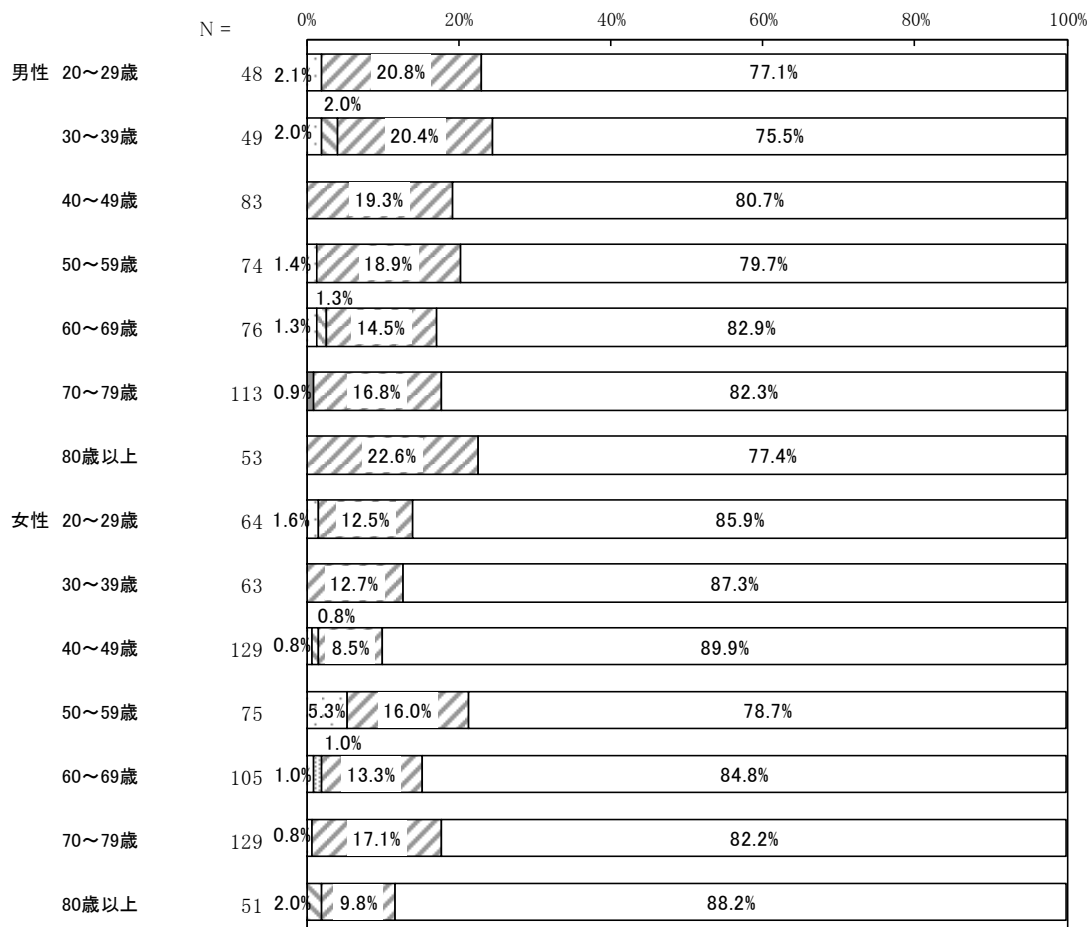
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、大きな差異はみられません。

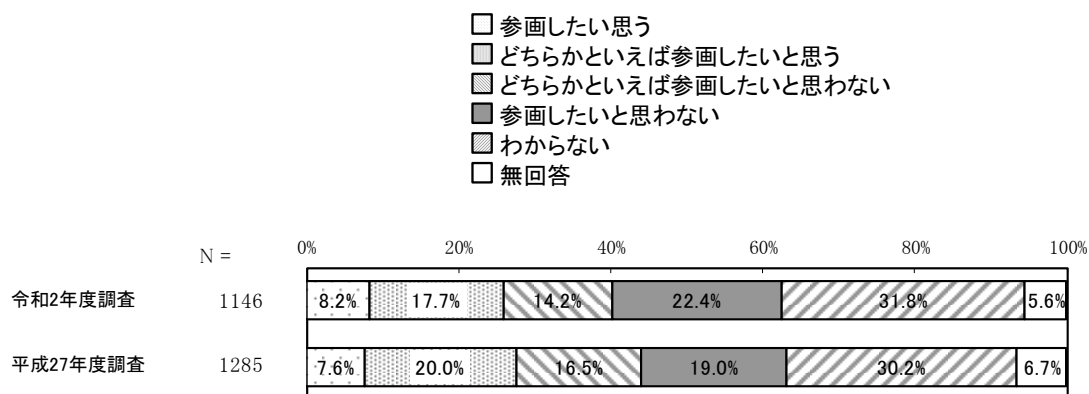


（８）男女共同参画について

問 28. あなたは、地域・職場などにおいて、方針決定の場へ参画したいと思いますか。
(○印は１つ)

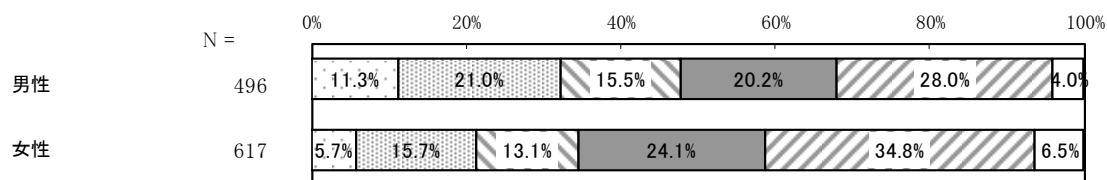
「わからない」の割合が 31.8%と最も高く、次いで「参画したいと思わない」の割合が 22.4%、
「どちらかといえば参画したいと思う」の割合が 17.7%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



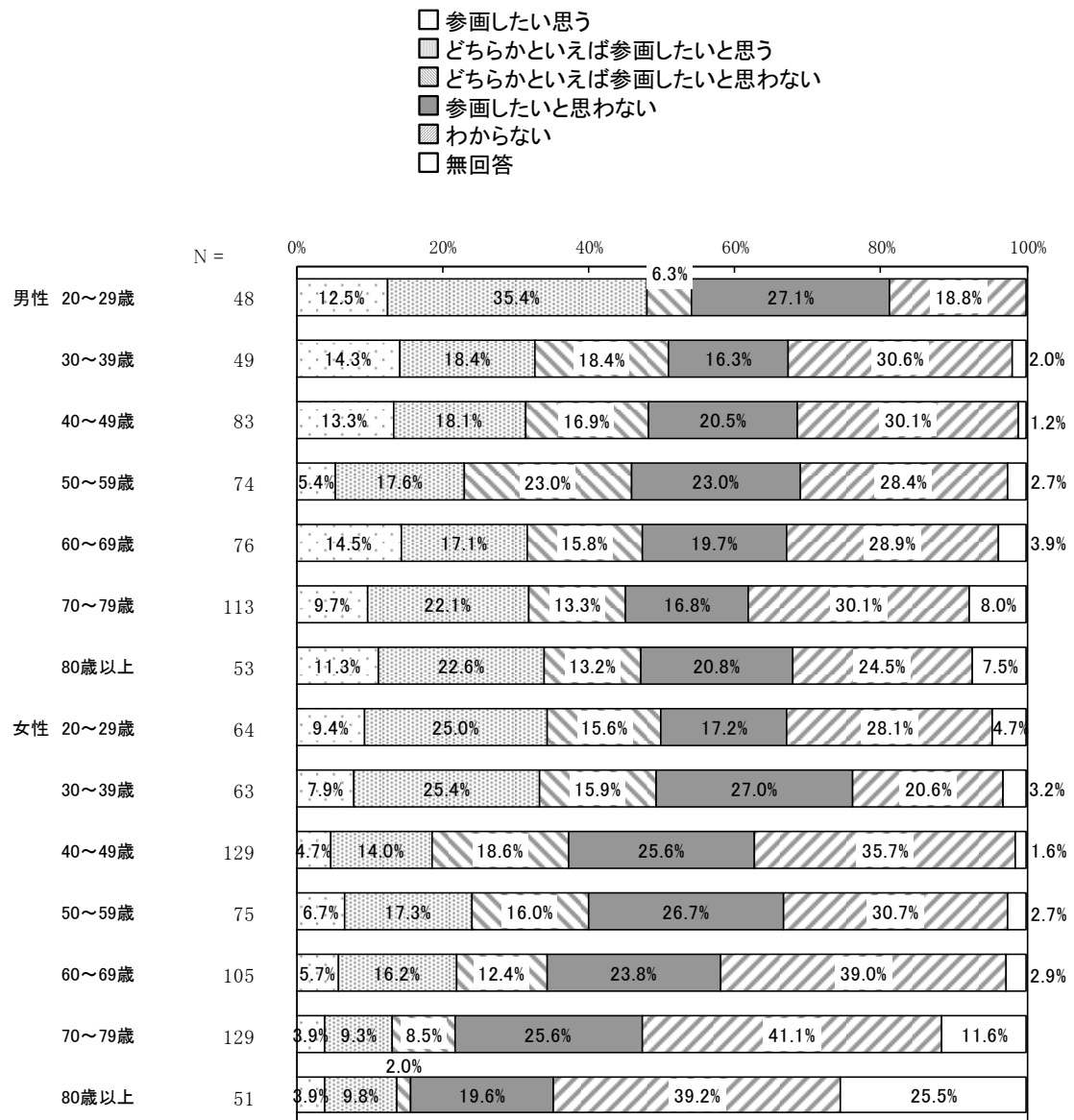
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「参画したいと思う」「どちらかといえば参画したいと思う」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「わからない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

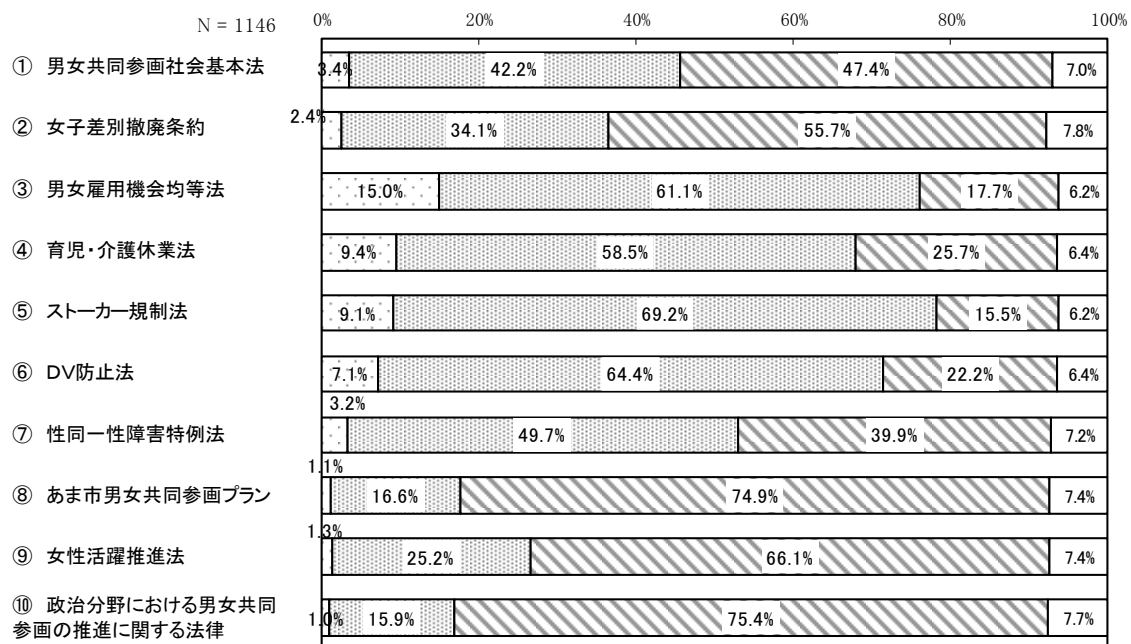
性・年齢別でみると、男性の20～29歳で「どちらかといえば参画したいと思う」の割合が高くなっています。



問 29. 現在、男女共同参画社会の実現に向けて、法律や制度等の整備が進んでいます。
あなたは、次のような法律等についてご存じですか。
(○印①～⑩の項目ごとに1つずつ)

「知らない」の割合が、②女子差別撤廃条約で 55.7%、⑧あま市男女共同参画プランで 74.9%、
⑨女性活躍推進法で 66.1%、⑩政治分野における男女共同参画の推進に関する法律で 75.4%と
なっています。

☐ 内容までよく知っている ☐ 聞いたことはある ☐ 知らない ☐ 無回答

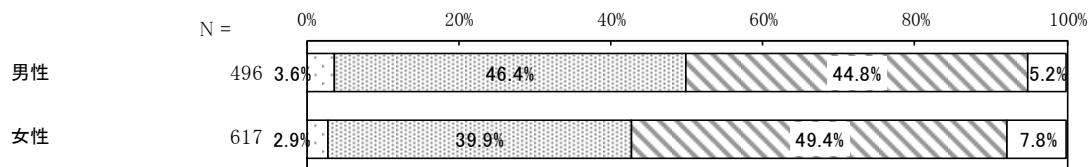


① 男女共同参画社会基本法

【性別】

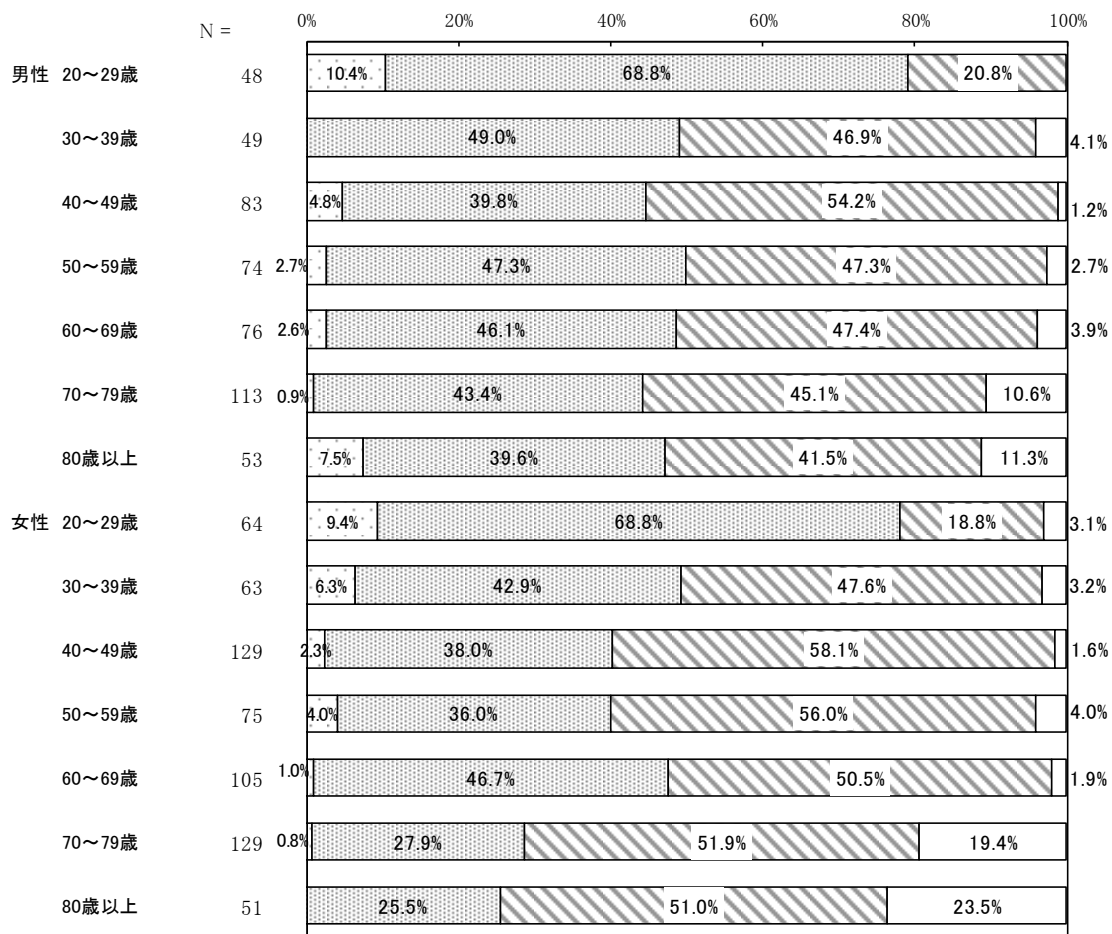
性別でみると、女性に比べ男性で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。

□ 内容までよく知っている □ 聞いたことはある □ 知らない □ 無回答



【性・年齢別】

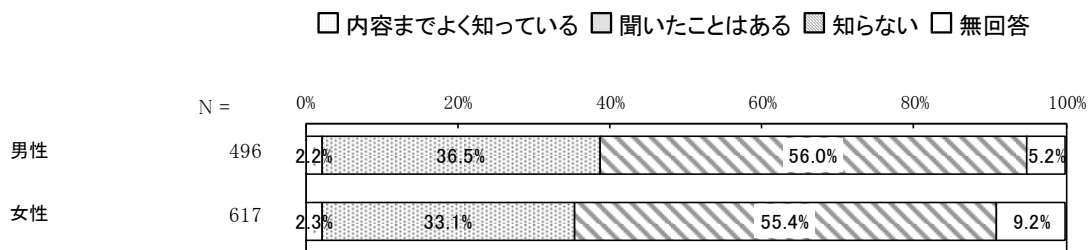
性・年齢別でみると、男女ともに 20～29 歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。



② 女子差別撤廃条約

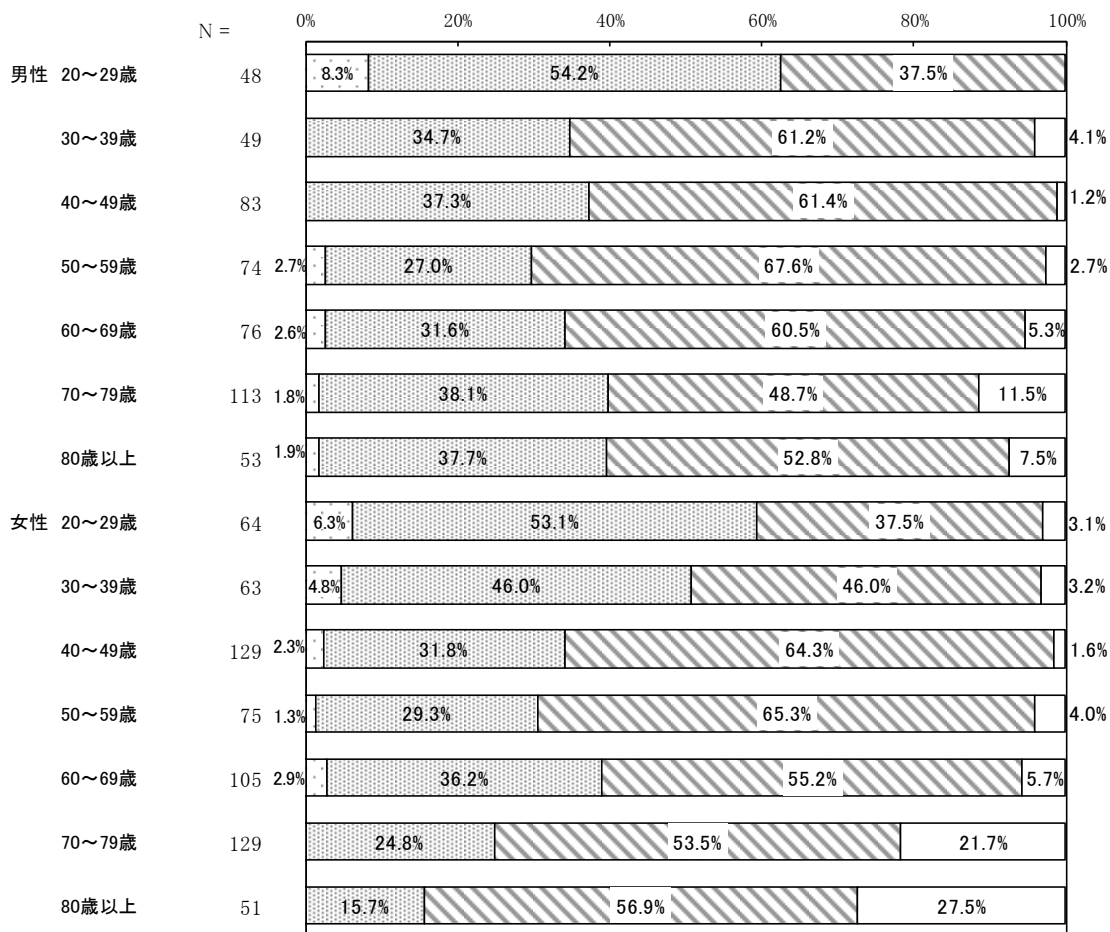
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

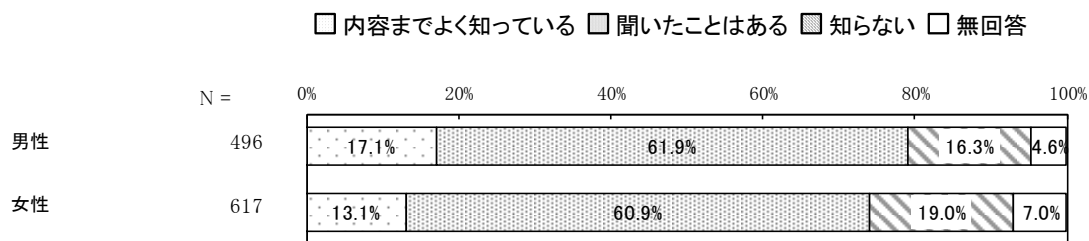
性・年齢別でみると、男性の20～29歳、女性の20～39歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。



③ 男女雇用機会均等法

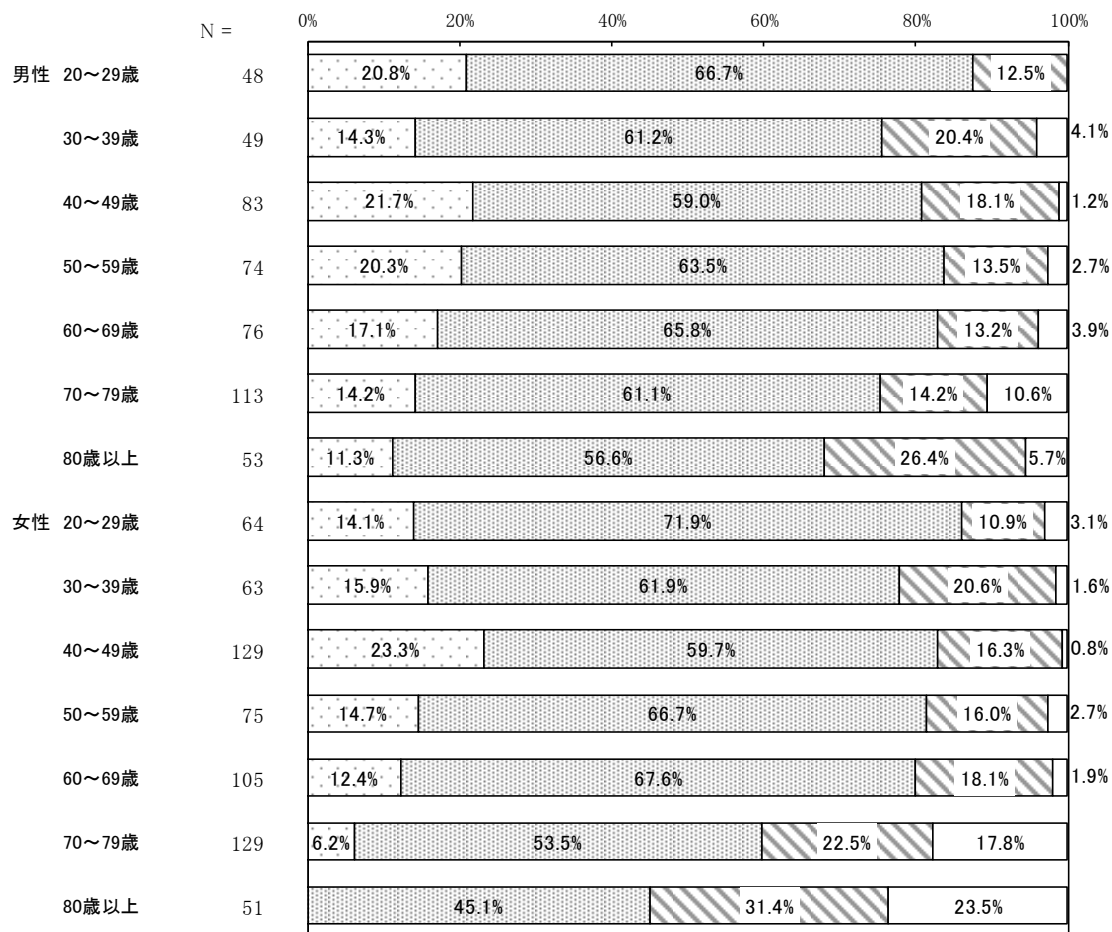
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

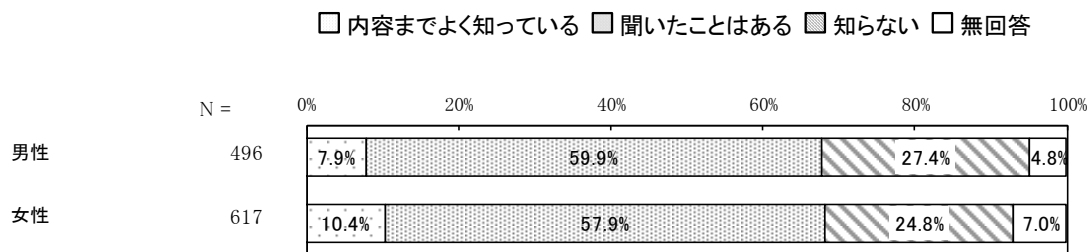
性・年齢別でみると、大きな差異はみられません。



④ 育児・介護休業法

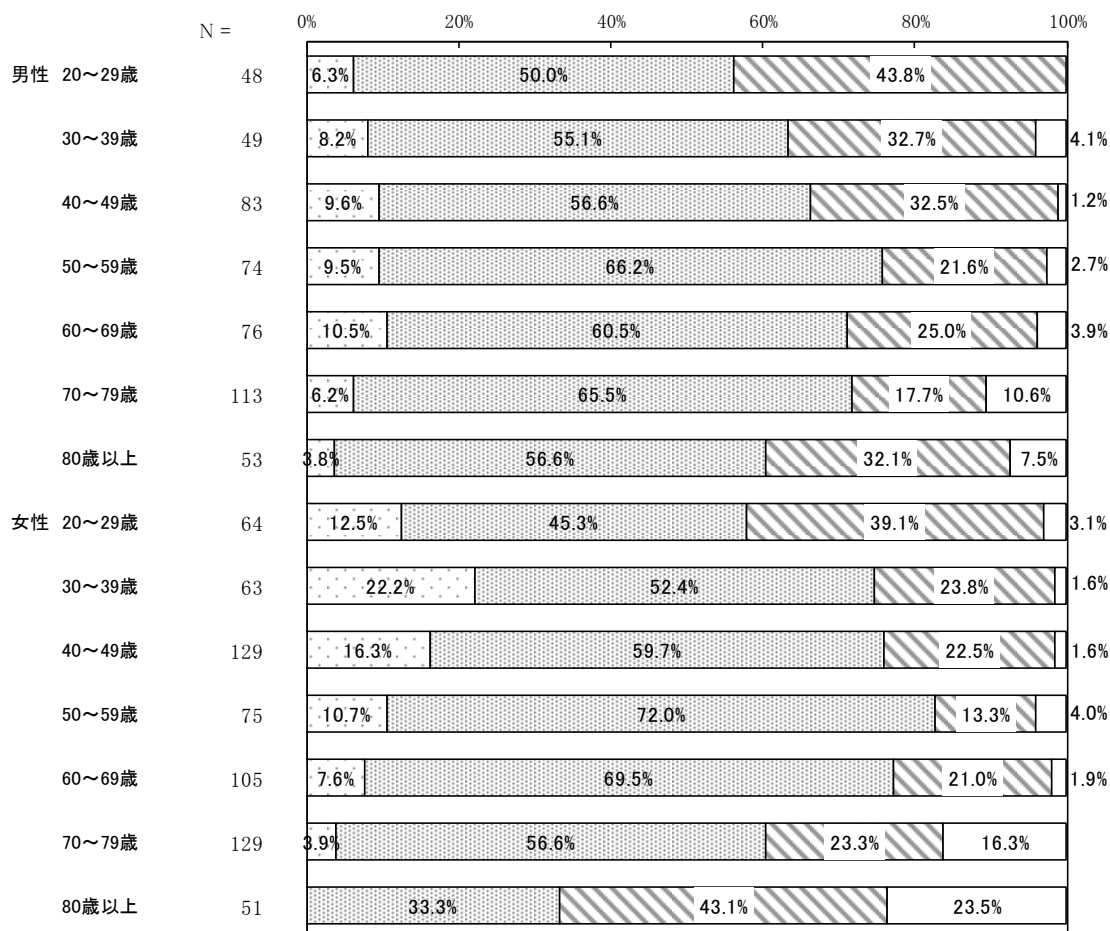
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

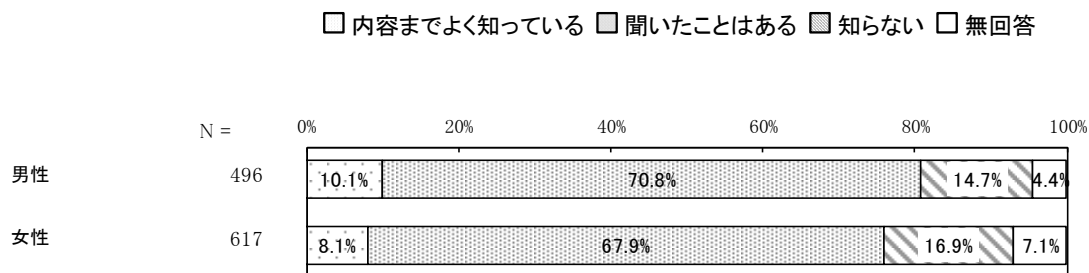
性・年齢別でみると、女性の30～39歳で「内容までよく知っている」の割合が高くなっています。男性の50～59歳、70～79歳、女性の50～69歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男女ともに20～29歳、女性の80歳以上で「知らない」の割合が高くなっています。



⑤ ストーカー規制法

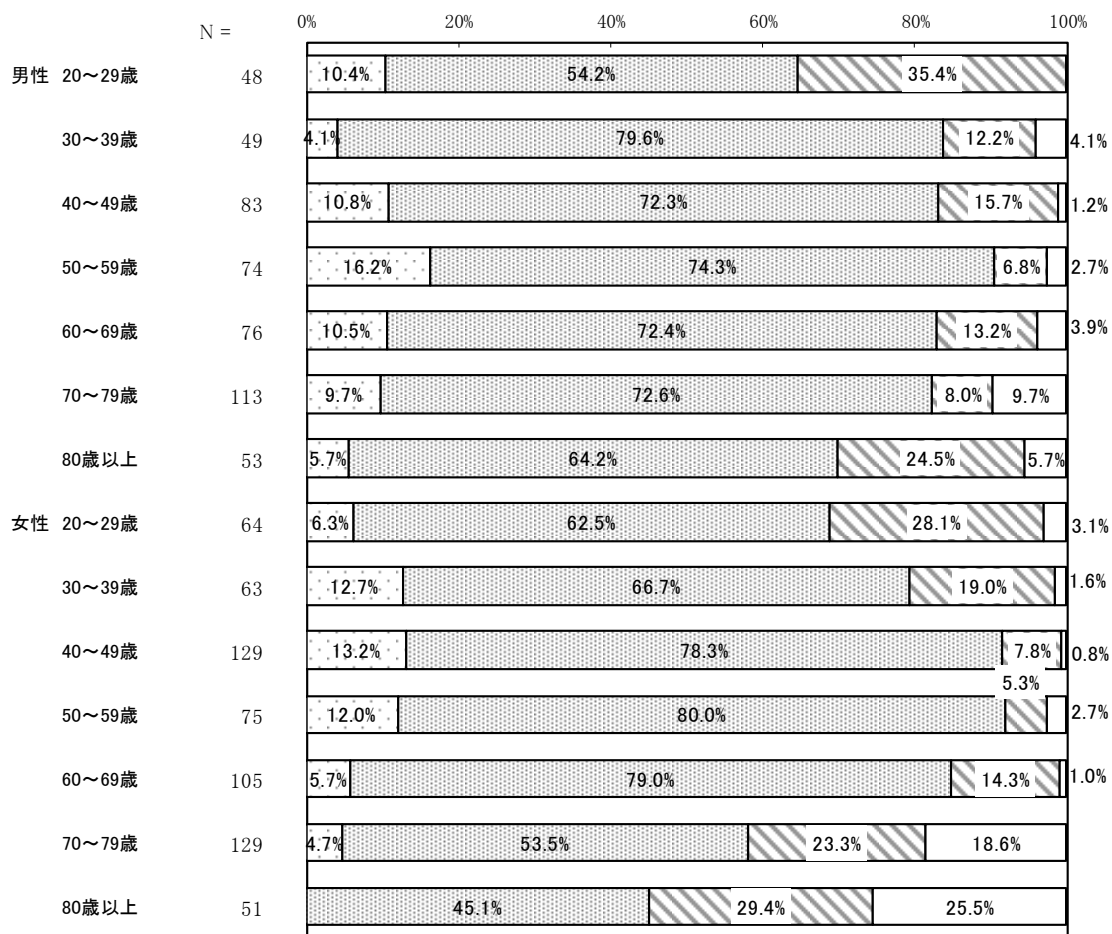
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳で「知らない」の割合が高くなっています。



⑥ DV防止法

【性別】

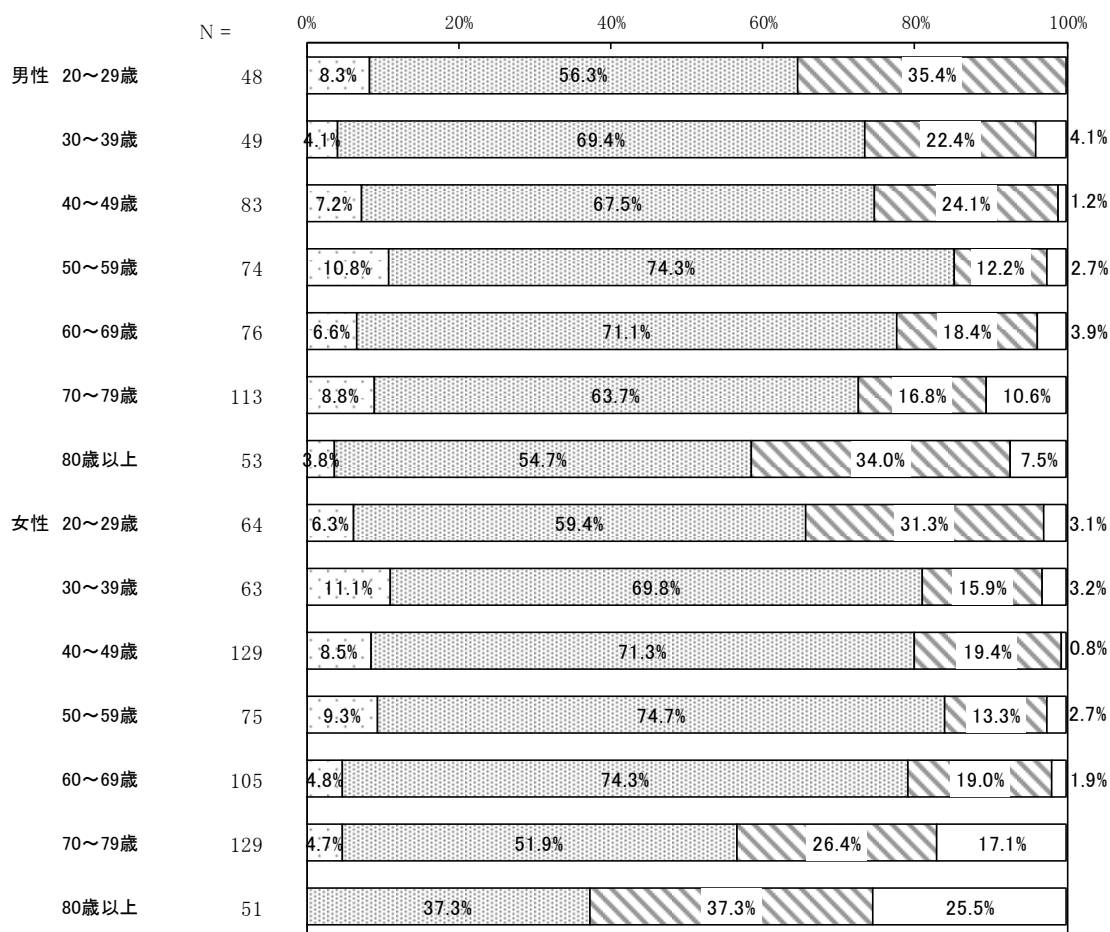
性別でみると、大きな差異はみられません。

□ 内容までよく知っている □ 聞いたことはある ■ 知らない □ 無回答



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、大きな差異はみられません。

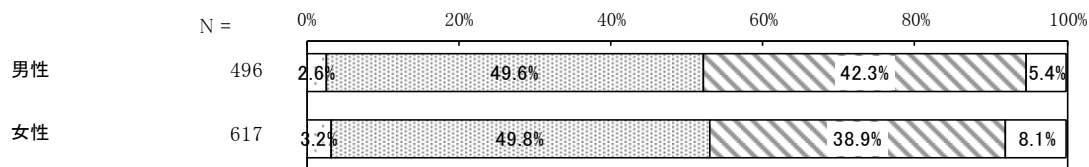


⑦ 性同一性障害特例法

【性別】

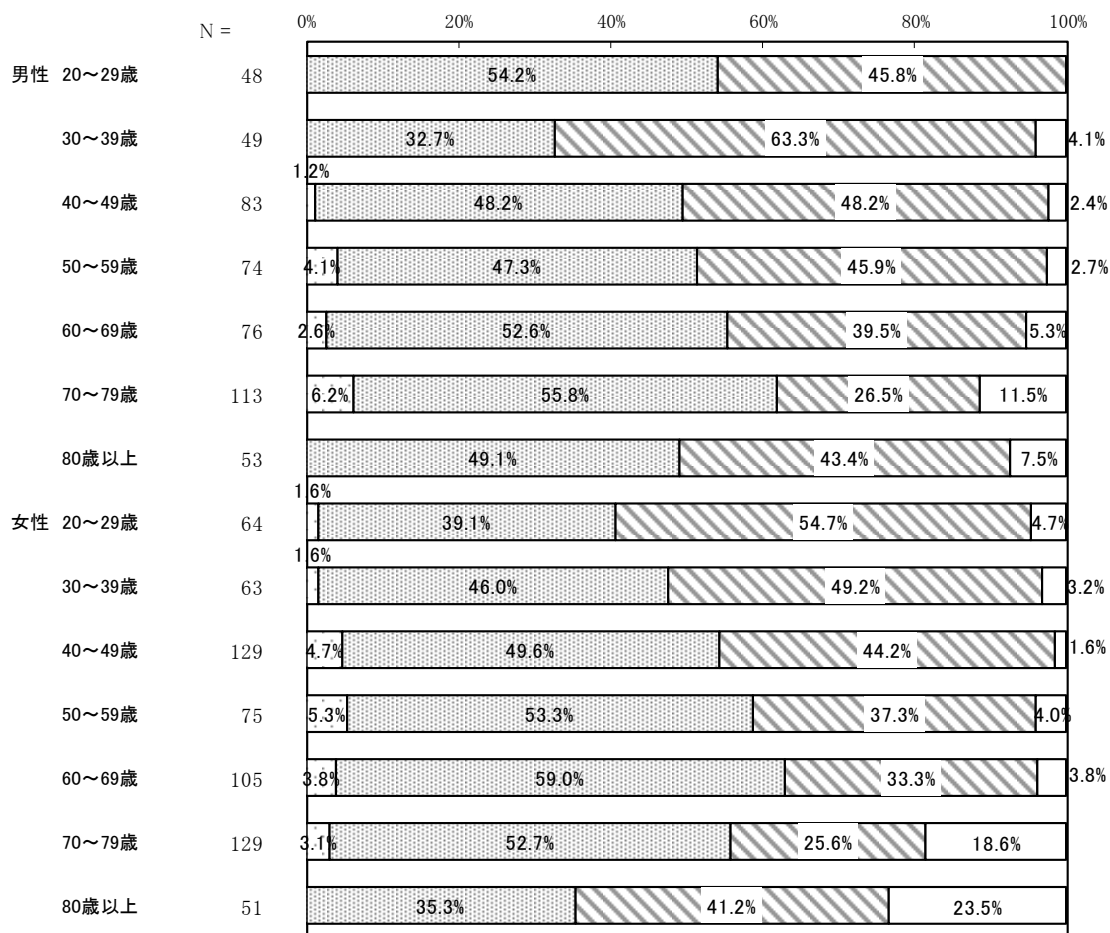
性別でみると、大きな差異はみられません。

□ 内容までよく知っている □ 聞いたことはある ■ 知らない □ 無回答



【性・年齢別】

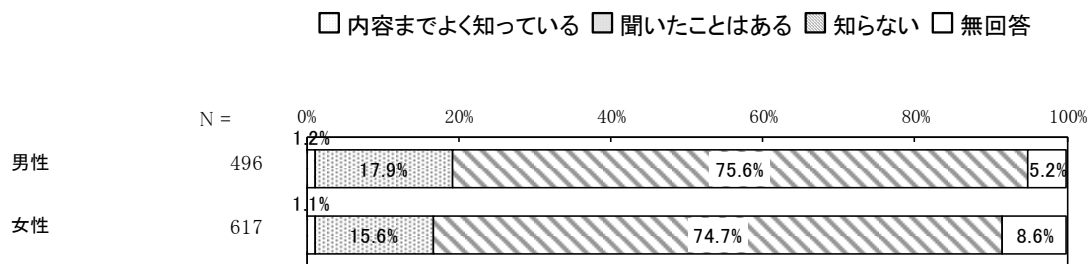
性・年齢別でみると、男性の30～39歳、女性の20～29歳で「知らない」の割合が高くなっています。



⑧ あま市男女共同参画プラン

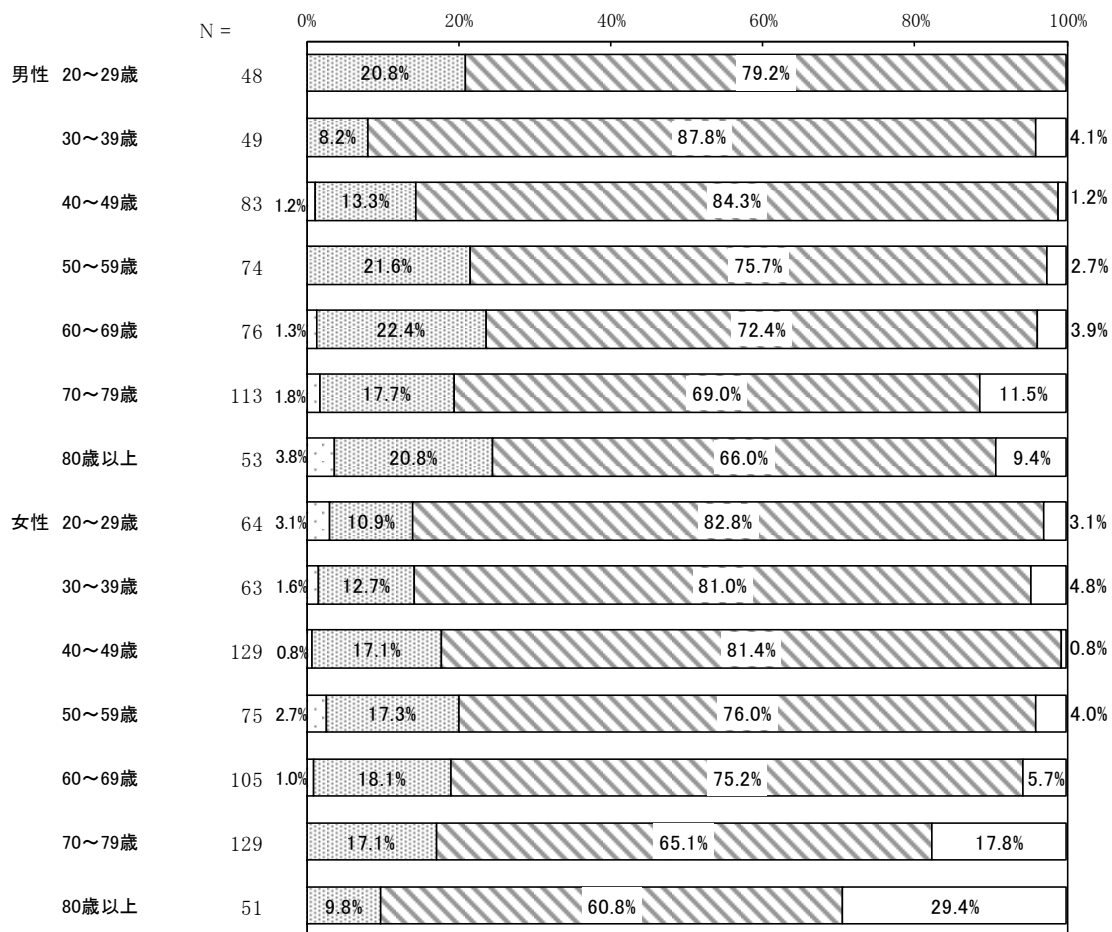
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

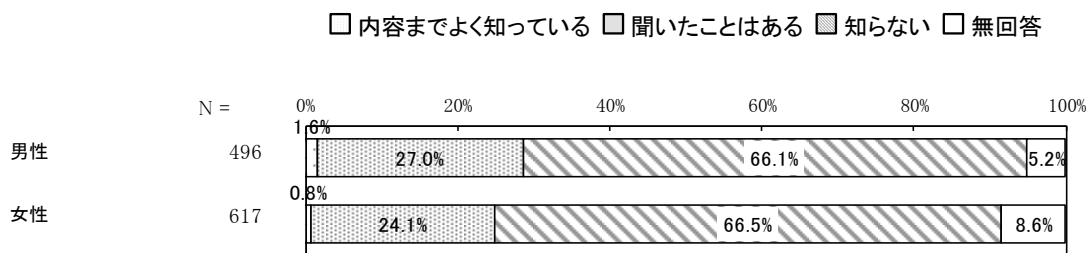
性・年齢別でみると、大きな差異はみられません。



⑨ 女性活躍推進法

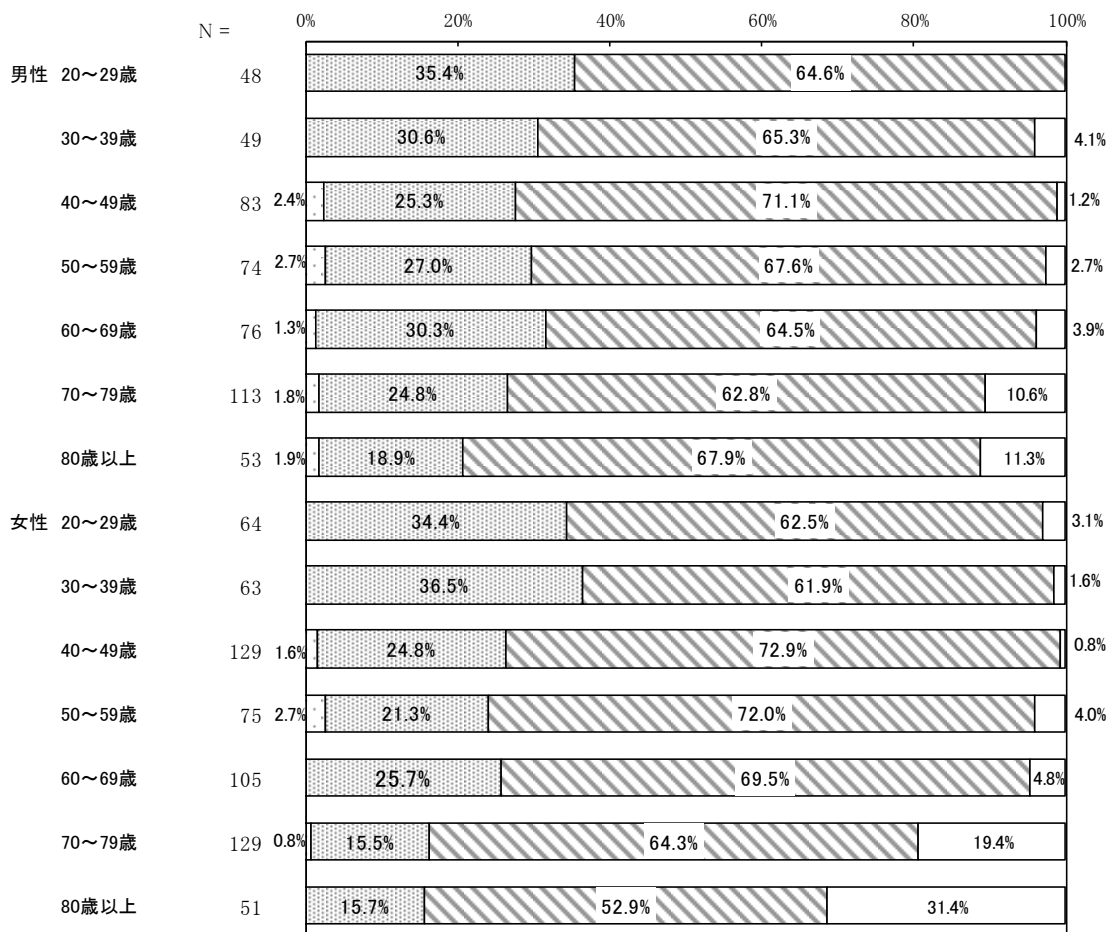
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

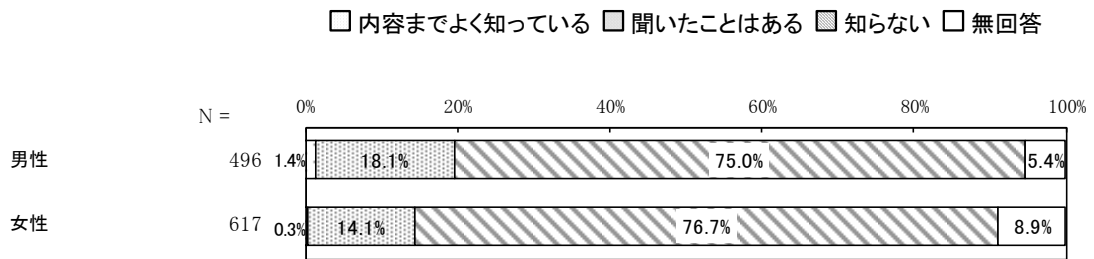
性・年齢別でみると、大きな差異はみられません。



⑩ 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律

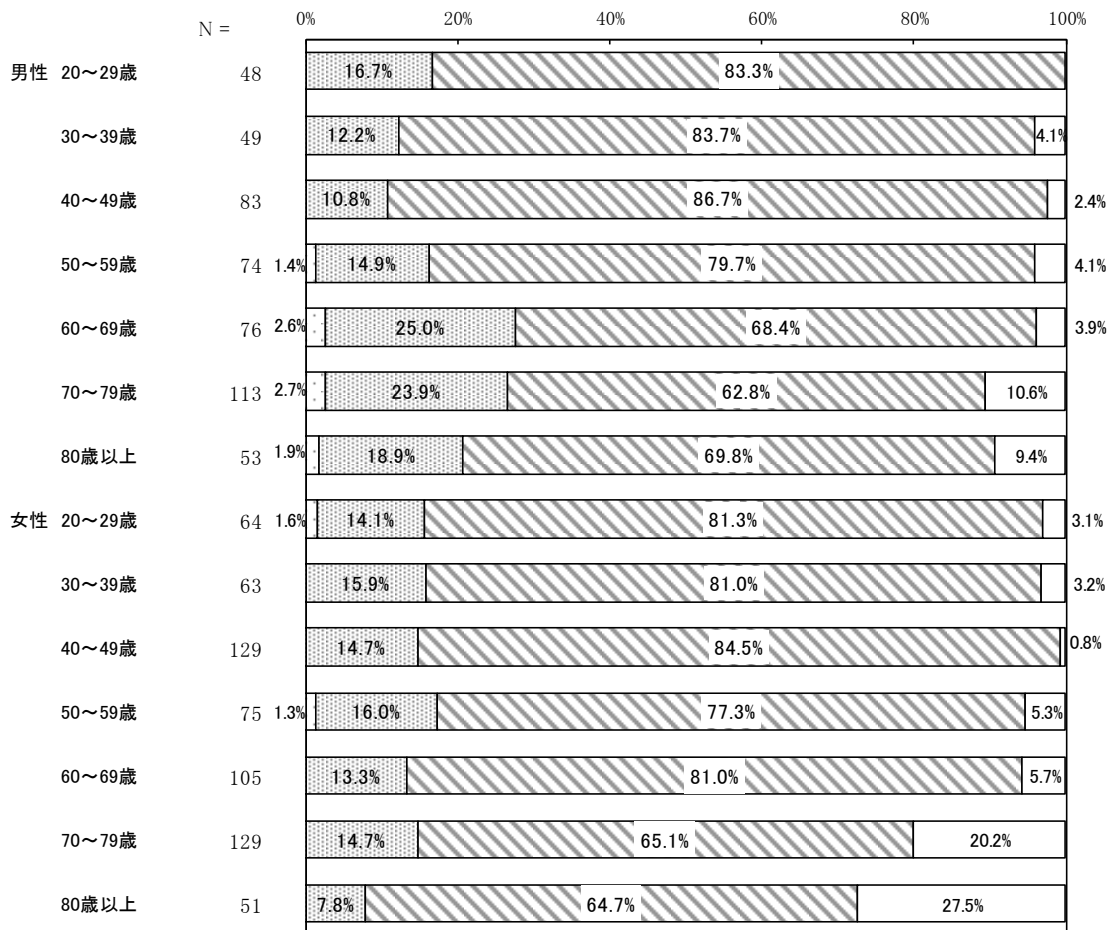
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

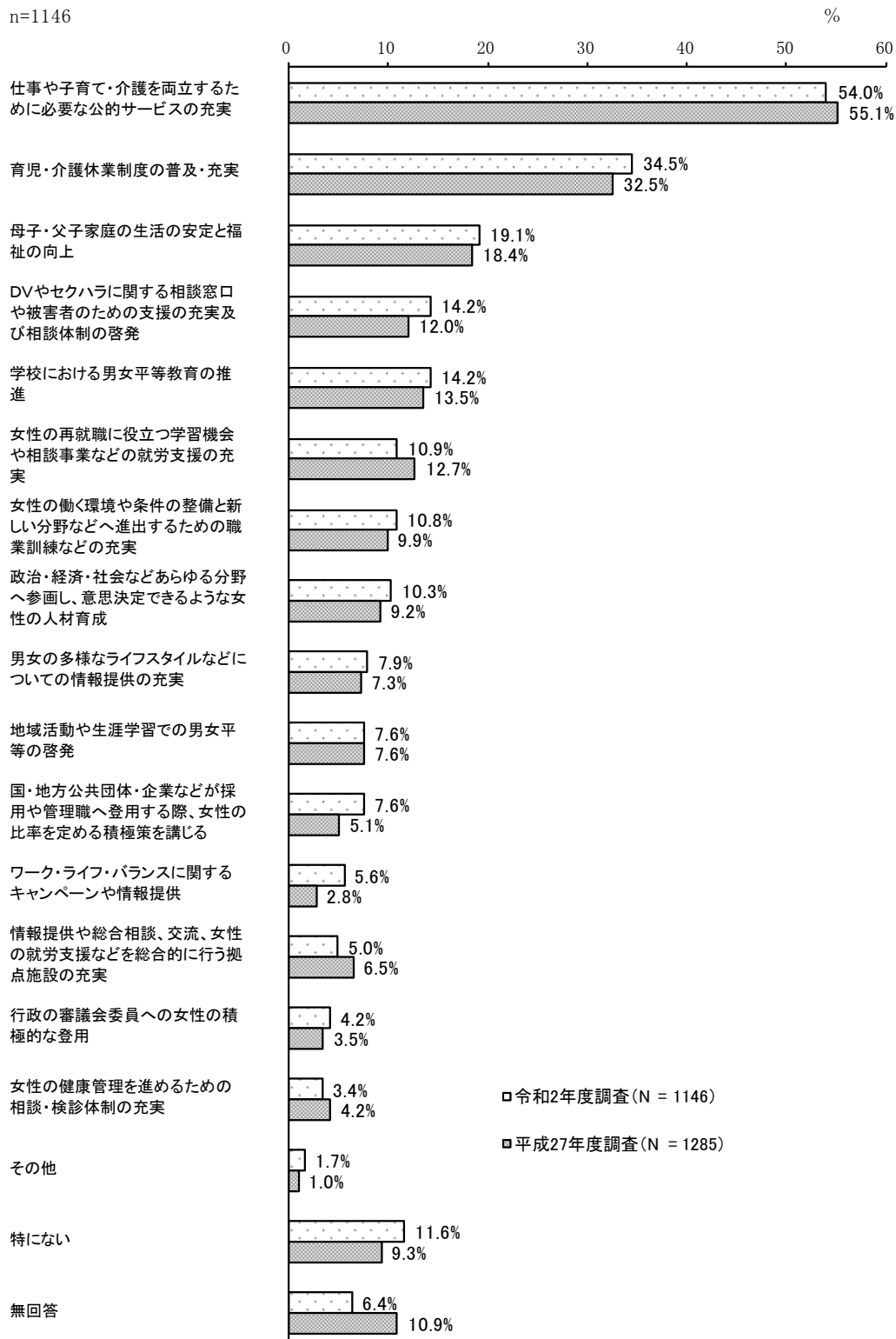
性・年齢別でみると、男性の60～79歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。



問 30. 「男女共同参画社会」を実現するために、今後行政ではどのような取り組みが必要だと思いますか。（〇印3つまで）

「仕事や子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実」の割合が 54.0%と最も高く、次いで「育児・介護休業制度の普及・充実」の割合が 34.5%、「母子・父子家庭の生活の安定と福祉の向上」の割合が 19.1%となっています。

平成 27 年度と比較すると大きな差異はみられません。



【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「ワーク・ライフ・バランスに関するキャンペーンや情報提供」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「仕事や子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実」「育児・介護休業制度の普及・充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	仕事や子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実	育児・介護休業制度の普及・充実	DVやセクハラに関する相談窓口や被害者のための支援の充実及び相談体制の啓発	母子・父子家庭の生活の安定と福祉の向上	地域活動や生涯学習での男女平等の啓発	女性の再就職に役立つ学習機会や相談事業などの就労支援の充実	ワーク・ライフ・バランスに関するキャンペーンや情報提供	女性の働く環境や条件の整備と新しい分野などへ進出するための職業訓練などの充実	国・地方公共団体・企業などが採用や管理職へ登用する際、女性の比率を定める積極策を講じる	政治・経済・社会などあらゆる分野へ参画し、意思決定できるような女性の人材育成	行政の審議会委員への女性の積極的な登用	学校における男女平等教育の推進	女性の健康管理を進めるための相談・検診体制の充実	男女の多様なライフスタイルなどについての情報提供の充実	情報提供や総合相談、交流、女性の就労支援などを総合的に行う拠点施設の充実	その他	特になし	無回答
男性	496	50.4%	31.5%	14.7%	21.2%	9.7%	9.1%	8.9%	9.1%	9.9%	12.7%	4.6%	15.1%	1.6%	9.3%	4.6%	1.8%	11.1%	5.4%
女性	617	57.5%	37.9%	13.6%	17.5%	6.3%	12.2%	3.1%	12.3%	5.7%	8.3%	3.7%	13.6%	4.5%	7.1%	5.3%	0.8%	12.0%	6.6%

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の20～69歳で「仕事や子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実」の割合が高くなっています。女性の20～39歳で「育児・介護休業制度の普及・充実」の割合が高くなっています。女性の30～39歳で「女性の働く環境や条件の整備と新しい分野などへ進出するための職業訓練などの充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	仕事や子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実	育児・介護休業制度の普及・充実	DVやセクハラに関する相談窓口や被害者のための支援の充実及び相談体制の啓発	母子・父子家庭の生活の安定と福祉の向上	地域活動や生涯学習での男女平等の啓発	女性の再就職に役立つ学習機会や相談事業などの就労支援の充実	ワーク・ライフ・バランスに関するキャンペーンや情報提供	女性の働く環境や条件の整備と新しい分野などへ進出するための職業訓練などの充実	国・地方公共団体・企業などが採用や管理職へ登用する際、女性の比率を定める積極策を講じる	政治・経済・社会などあらゆる分野へ参画し、意思決定できるような女性の人材育成	行政の審議会委員への女性の積極的な登用	学校における男女平等教育の推進	女性の健康管理を進めるための相談・検診体制の充実	男女の多様なライフスタイルなどについての情報提供の充実	情報提供や総合相談、交流、女性の就労支援などを総合的に行う拠点施設の充実	その他	特になし	無回答
男性																			
20～29歳	48	54.2%	39.6%	12.5%	16.7%	4.2%	12.5%	18.8%	4.2%	10.4%	10.4%	-	20.8%	2.1%	16.7%	4.2%	2.1%	10.4%	-
30～39歳	49	53.1%	36.7%	22.4%	18.4%	4.1%	14.3%	18.4%	6.1%	6.1%	6.1%	4.1%	10.2%	-	12.2%	4.1%	2.0%	18.4%	4.1%
40～49歳	83	53.0%	39.8%	13.3%	24.1%	7.2%	10.8%	12.0%	6.0%	3.6%	10.8%	6.0%	14.5%	-	9.6%	6.0%	2.4%	12.0%	-
50～59歳	74	50.0%	37.8%	17.6%	14.9%	9.5%	8.1%	10.8%	10.8%	4.1%	8.1%	2.7%	10.8%	2.7%	10.8%	2.7%	2.7%	12.2%	4.1%
60～69歳	76	46.1%	36.8%	18.4%	21.1%	13.2%	5.3%	5.3%	9.2%	11.8%	14.5%	6.6%	18.4%	1.3%	10.5%	1.3%	2.6%	3.9%	9.2%
70～79歳	113	54.0%	19.5%	12.4%	23.0%	15.9%	6.2%	3.5%	9.7%	18.6%	16.8%	4.4%	14.2%	1.8%	3.5%	4.4%	-	12.4%	8.0%
80歳以上	53	39.6%	15.1%	7.5%	28.3%	5.7%	11.3%	1.9%	17.0%	9.4%	18.9%	7.5%	18.9%	3.8%	7.5%	11.3%	1.9%	11.3%	11.3%
女性																			
20～29歳	64	67.2%	57.8%	18.8%	18.8%	4.7%	18.8%	6.3%	7.8%	4.7%	7.8%	4.7%	9.4%	3.1%	6.3%	1.6%	1.6%	7.8%	3.1%
30～39歳	63	68.3%	50.8%	14.3%	14.3%	7.9%	9.5%	6.3%	22.2%	-	6.3%	1.6%	11.1%	6.3%	19.0%	4.8%	-	6.3%	3.2%
40～49歳	129	62.8%	41.1%	19.4%	16.3%	7.0%	18.6%	4.7%	15.5%	6.2%	7.0%	1.6%	17.8%	3.1%	7.8%	7.8%	0.8%	7.8%	0.8%
50～59歳	75	61.3%	42.7%	18.7%	21.3%	8.0%	9.3%	4.0%	12.0%	8.0%	9.3%	2.7%	16.0%	5.3%	8.0%	2.7%	-	8.0%	1.3%
60～69歳	105	64.8%	35.2%	11.4%	19.0%	6.7%	14.3%	-	8.6%	7.6%	5.7%	3.8%	18.1%	3.8%	4.8%	4.8%	1.0%	12.4%	6.7%
70～79歳	129	44.2%	26.4%	7.0%	17.1%	6.2%	4.7%	1.6%	12.4%	3.9%	10.9%	7.0%	10.1%	5.4%	3.9%	7.8%	1.6%	17.8%	14.0%
80歳以上	51	31.4%	17.6%	5.9%	15.7%	2.0%	7.8%	-	5.9%	9.8%	11.8%	3.9%	5.9%	5.9%	3.9%	3.9%	-	25.5%	19.6%

